

岡崎市の子ども・子育てに関する アンケート調査報告書

平成 31 年 3 月

岡 崎 市

目 次

I. 調査の概要

1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方.....	2
4. 現在家庭類型・潜在家庭類型の考え方	2
5. 現在家庭類型・潜在家庭類型の算定	3

II. 調査結果の総括

1. 就学前児童・小学生児童調査.....	5
2. 保育園・幼稚園・認定こども園職員調査	10
3. 事業所調査.....	11

III. 調査結果（就学前児童・小学生児童）

1. お住まいの地域についてうかがいます	14
2. お子さんご家族の状況についてうかがいます	15
3. 子どもの育ちをめぐる環境についてうかがいます	17
4. お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます	20
5. お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます	29
6. お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況についてうかがいます	40
7. お子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望 についてうかがいます	43
8. 子育て支援サービスの認知度についてうかがいます	47
9. お子さんの病気の際の対応についてうかがいます （平日の教育・保育を利用する方のみ）	51
10. お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用 についてうかがいます	55
11. 放課後の過ごし方（就学前児童の場合は、5歳以上）について	62
12. すべての方に、育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度 についてうかがいます	74
13. 子育て全般についてうかがいます	80
14. 就学前児童の自由回答.....	85
15. 小学生児童の自由回答.....	89

IV. 調査結果（保育園・幼稚園・認定こども園職員）

1. あなたご自身についてうかがいます	94
2. 仕事や職場の環境についてうかがいます	96
3. 保護者などの状況についてうかがいます	110
4. ワーク・ライフ・バランスについてうかがいます	112
5. 保育園・幼稚園・認定こども園職員の自由回答.....	113

V. 調査結果（事業所）

1. 貴事業所についてうかがいます	116
2. 貴事業所の管理職の状況についてうかがいます	119
3. 貴事業所の退職・離職・再雇用の状況についてうかがいます.....	121
4. 仕事や職場の環境についてうかがいます	123
5. 子育て支援についてうかがいます	127
6. ワーク・ライフ・バランスの推進についてうかがいます	131
7. 事業所の自由回答	136

VI. 資料編

1. 就学前児童用調査票	138
2. 小学生児童用調査票	148
3. 保育園・幼稚園・認定こども園職員用調査票.....	156
4. 事業所用調査票.....	159

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の皆様の子育てに関する状況や岡崎市の子育て支援サービスに対するご要望・ご意見、保育ニーズ、子育て世帯の生活状況等について把握し、2020年から2024年を期間とする子ども・子育て支援事業計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査概要

■調査地域：岡崎市全域

■調査対象者：岡崎市内在住の就学前のお子さんをお持ちの世帯・保護者（就学前児童保護者）
岡崎市内在住の小学生のお子さんをお持ちの世帯・保護者（小学生児童保護者）
岡崎市内の保育園・幼稚園・認定こども園の職員
岡崎市内の事業所

■抽出方法：無作為抽出及び悉皆

■調査期間：平成30年10月25日（木）～平成30年11月8日（木）

■調査方法：郵送配布・郵送回収による調査方法

調査票	配布数	回収数	回収率
就学前児童保護者	5,000 件	3,324 件	66.5%
小学生児童保護者	3,000 件	1,890 件	63.0%
保育園・幼稚園・ 認定こども園職員	896 件	768 件	85.7%
事業所	446 件	161 件	36.1%
合計	9,342 件	6,143 件	65.8%

3. 報告書の見方

報告書の見方は、以下のとおりです。

- ①図表内の「N」は、設問に対する回答の合計数です。
- ②単数回答の設問は帯グラフ、複数回答の設問は棒グラフとします。
- ③集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、比率の合計が100.0%とならない場合があります。
- ④複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超えることがあります。
- ⑤図表内の「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ⑥クロス集計表では性別や年齢について無回答の人を除いているため、回答者総数と数が合わないことがあります。
- ⑦本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化しています。
- ⑧就学前児童保護者調査は「就学前児童」、小学生児童保護者調査は「小学生児童」と省略しています。
- ⑨経年比較を行っているものは、前回調査を「平成25年度」と表記しています。
- ⑩就学前児童の結果については、「現在家庭類型」「潜在家庭類型」を調査結果より抽出し、クロス集計を一部で行っています。

4. 現在家庭類型・潜在家庭類型の考え方

アンケート調査結果を活用し、対象となる子どもの父母の有無、就労状況から「家庭類型」を求めたうえで、家庭類型の種別を、タイプAからタイプFの8種類に構成します。

「家庭類型」は、現況の『現在家庭類型』と、母親の就労希望を反映させた『潜在家庭類型』の2種類となります。

タイプ	父母の有無と就労状況
タイプA	ひとり親家庭
タイプB	フルタイム×フルタイム
タイプC	フルタイム×パートタイム
タイプC'	フルタイム×パートタイム（就労時間短家庭）
タイプD	専業主婦（夫）
タイプE	パートタイム×パートタイム
タイプE'	パートタイム×パートタイム（就労時間短家庭）
タイプF	無業×無業

5. 現在家庭類型・潜在家庭類型の算定

「現在家庭類型」ならびに「潜在家庭類型」を算定するにあたり、以下の設問を利用しています。

項目	設問番号
父母の有無	問5、問6 ※問5で「3.その他」と回答→集計対象から除く。 ※問5で「1.母親」あるいは「2.父親」と回答、かつ問6で「2.配偶者はいない」と回答→「ひとり親家庭」となる。
母親の就労状況	問10①、問10-1①
父親の就労状況	問10②、問10-1②
母親の就労意向	問11①（パートタイムからフルタイムへの意向） 問12（1）（無業から就労への意向）
子どもの年齢	問3

注）上記対象設問のいずれかが無回答のサンプルは、集計対象から除く。（ひとり親家庭で問10①、②のいずれかが無回答であるものを除く。）

ひとり親家庭を算定後、以下に示す家庭類型をタイプBからFまで算定します。その後、就労意向等の状況から潜在家庭類型を算定します。

母親		父親	1. フルタイム就労 2. 育休・介護休業中	3. パートタイム就労 4. 育休・介護休業中			5. 現在は就労していない 6. 就労したことがない
				120時間以上	120時間未満 下限時間以上	下限時間未満	
1. フルタイム就労 2. 育休・介護休業中			タイプB	タイプC	タイプC'		
3. パートタイム就労 4. 育休・介護休業中	120時間以上		タイプC	タイプE			タイプD
	120時間未満 下限時間以上						
	下限時間未満		タイプC'		タイプE'		
5. 現在は就労していない 6. 就労したことがない				タイプD			タイプF

■家庭類型分類結果

上段：度数 下段：%		潜在家族類型								
		合計	Aひとり 親家庭	Bフルタ イム×フ ルタイム	Cフルタ イム× パートタ イム	C'フル タイム× パートタ イム (短)	D専業主 婦（夫）	Eパート ×パート	E'パー ト×パー ト（短）	F無業× 無業
現在家族類型	全体	2789 100.0	160 5.7	840 30.1	753 27.0	226 8.1	804 28.8	1 0.0	0 0.0	5 0.2
	Aひとり親家庭	160 100.0	160 100.0							
	Bフルタイム×フルタイム	765 100.0		765 100.0						
	Cフルタイム×パートタイム	765 100.0		56 7.3	680 88.9		29 3.8			
	C'フルタイム×パートタイム（短）	120 100.0		6 5.0		109 90.8	5 4.2			
	D専業主婦（夫）	974 100.0		13 1.3	73 7.5	117 12.0	770 79.1			1 0.1
	Eパート×パート	1 100.0						1 100.0		
	E'パート×パート（短）	0 0.0							0 0.0	
	F無業×無業	4 100.0								4 100.0

Ⅱ. 調査結果の総括

1. 就学前児童・小学生児童調査

① 子どもの育ちをめぐる環境について

- ・ 子育て（教育を含む）を主に行っているのは「父母ともに」が就学前児童4割半ば、小学生児童で5割強となっています。就学前児童では「主に母親」と回答する割合が過半数となっています。
- ・ 子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時又は用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が就学前児童で6割程度、小学生児童で5割強となっており、「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」は就学前児童、小学生児童ともに3割程度となっています。
- ・ 小学生児童の子どもをみてもらっている状況については、祖父母などにみてもらっている人で「身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人が7割強となっています。一方で、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」と感じている人は、祖父母などにみてもらっている人で2割強、友人・知人にみてもらっている人で3割強となっています。
- ・ 就学前児童を持つ保護者の子育てを通じた悩みでは「子どもの育て方やしつけ方」が5割強と最も多く、次いで「子どもの生活習慣」が4割強となっています。

② 保護者の就労状況について

- ・ 母親は就学前児童で6割程度、小学生児童で8割程度が就労しており、前回調査よりも増えている傾向にあります。父親は就学前児童、小学生児童ともに9割程度が就労しています。
- ・ 年齢別にみると0～2歳児ではD専業主婦〔夫〕が4割半ばと多く、3～5歳児では3割以下となります。
- ・ Bフルタイム×フルタイムでは0歳児が最も多く4割弱となっています。
- ・ 母親のフルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が就学前児童で5割半ば、小学生児童で6割強となっており、多くの母親が就労形態としてパート・アルバイトを選択しています。
- ・ 現在、無業の母親の就労意向については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた人は就学前児童で2割半ば、小学生児童で3割強となっています。また、就労を希望する子どもの年齢は就学前児童で3歳や7歳が多いことから、就園や小学校就学のタイミングで就労を希望することがうかがえます。希望する就労形態は、「パートタイム、アルバイトなど」が就学前児童及び小学生児童で9割強となっています。

③ 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

【現在の利用状況】

- ・ 幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」については、「利用している」が6割強であり、年齢別でみると0歳で1割半ば、1歳で3割強、2歳で5割程度、3歳以上で9割以上が利用しており、前回調査時に比べ、やや増加傾向にあります。

- ・ 利用している教育・保育の事業は、「認可保育所」が5割弱、「幼稚園」4割弱となっています。
- ・ 利用している教育・保育の事業を年齢別にみると、0～2歳では「認可保育所」が多く、3～5歳では「幼稚園」が多くなっています。
- ・ 現在家庭類型別にみると B フルタイム×フルタイムが「認可保育所」を8割強利用しており、「幼稚園」を C' フルタイム×パートタイムが10割弱、D 専業主婦〔夫〕が8割半ば利用しています。

【利用したい事業（希望）】

- ・ 定期的に利用したいと考える事業については、「認可保育所」が5割弱、「幼稚園」が5割強となっています。
- ・ 「認可保育所」の利用の中心が A ひとり親家庭、B フルタイム×フルタイム、C フルタイム×パートタイムとなっています。「幼稚園」の利用の中心が C' フルタイム×パートタイム、D 専業主婦〔夫〕となっています。
- ・ 「幼稚園」と各種保育事業の両方を利用したいと回答した方のうち、幼稚園の利用希望を強く望む割合は C' フルタイム×パートタイムが8割半ば、D 専業主婦〔夫〕が7割弱となっています。就労時間が短く幼稚園の預かり保育時間で対応できる方は、幼稚園の利用希望が強い傾向にあります。

【利用日数・利用時間】

- ・ 教育・保育事業の現在の利用状況は「5日」が9割強で、希望する利用頻度も「5日」が6割強となっています。
- ・ 教育・保育事業の現在の利用時間についてみると、幼稚園、幼稚園の預かり保育では現状は「6時間」の利用が最も多いのに対し、希望する利用時間は「8時間」が最も多くなっています。幼稚園の預かり保育の充実など、ライフスタイルや就労環境の変化に対応していくことが求められます。
- ・ 家庭類型別にみても、ひとり親家庭や就労が長時間の共働き世帯（家庭）では、現状として利用時間は「8時間」が最も多いのに対し、希望する利用時間が延伸している傾向にあります。あわせて、利用したい時間の延伸から、通園時間及び退園時間についても、現状と希望に違いが見受けられます。幼稚園の退園時間では現状として「15時」が回答として最も多いのに対し、希望では「16時」の回答が最も多くなっています。

④ 地域の子育て支援事業の利用状況について

- ・ 地域子育て支援拠点事業の利用については、「利用していない」が7割程度となっています。
- ・ 未就園児の今後の利用希望については、「利用していないが、今後利用したい」「今後利用日数を増やしたい」を合わせると4割強となっています。

⑤ 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

- ・ 土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、利用したい人は、土曜日で3割弱、日曜日・祝日で2割弱となっています。なかでも、土曜日は A ひとり親家庭で4割強、B フルタイム×フルタイムで3割強となっています。

- ・ 幼稚園を利用している人において、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望についてみると、休みの期間中に利用したいとする人は、7割程度となっており、平日の就労の受け皿として求められていることがうかがえます。また、前回調査時に比べ、休暇時の利用希望が増えている傾向にあります。

⑥ 子育て支援サービスの認知度について

- ・ 小学生児童における子育て支援サービスの認知度では、「知っている」が「運動場・体育館などの開放（子ども会・クラブ活動）」では8割弱、「学校が主催する活動（講演会、PTA活動）」「学区こどもの家」では9割強となっています。
- ・ 認知度に比例して、これまでの利用についても「運動場・体育館などの開放（子ども会・クラブ活動）」では6割程度、「学校が主催する活動（講演会、PTA活動）」「学区こどもの家」では7割強となっています。
- ・ 今後の利用意向としても「運動場・体育館などの開放（子ども会・クラブ活動）」「学校が主催する活動（講演会、PTA活動）」「学区こどもの家」は6割強と多い傾向にあります。
- ・ 利用における満足度においては、「子育て短期支援事業（ショートスティ）」で7割弱、「ファミリー・サポート・センター」で6割強、「学区こどもの家」で6割強と満足度が高くなっています。

⑦ 病気の際の対応について

- ・ 病気やケガで通常の事業が利用できなかったことや学校を休んだことがあるかについては、「あった」が就学前児童で8割弱、小学生児童が7割弱となっており、行った対処方法としては「母親が休んだ」が就学前児童で7割強、小学生児童で6割強となっています。
- ・ 病児・病後児のための保育施設などを利用したいかについてみると、「利用したいとは思わない」が就学前児童で7割弱、小学生児童で8割半ばとなっています。施設を利用せず、休んで子どもを看たいとする親の想いが見受けられます。
- ・ また、就学前児童で病児・病後児保育施設を利用したいと回答した方で、希望する施設の条件については、「自宅の近い場所に設置されていること」が8割弱と最も多く、次いで「利用手続きの手間や時間を要しないこと」となっています。
- ・ 病児・病後児保育施設の利用料金は「1,000 円～2,000 円未満」が最も多く4割程度、「1,000 円未満」が3割強となっています。

⑧ 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

- ・ 私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用している事業は、就学前児童、小学生児童ともに「利用していない」が9割弱となっています。
- ・ 不定期の教育・保育事業について、今後の利用希望として就学前児童で4割弱、小学生児童で1割強が「利用したい」となっています。
- ・ 利用目的としては、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事など）、リフレッシュ目的」の割合が就学前児童で7割弱となっており、小学生児童を持つ保護者より多くなっています。

- ・ 保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、泊りがけで家族以外にみてもらうことの有無について、「あった」が就学前児童2割弱、小学生児童で1割弱となっています。対処方法としては、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が就学前児童、小学生児童で8割強となっています。

⑨ 放課後の過ごし方について

- ・ 小学生児童の放課後（平日の小学校終了後）の活動では、「自宅」が8割程度、「習い事」が6割強となっています。「放課後児童クラブ」「学区こどもの家」の利用者は1割強となっています。
- ・ 小学校低学年のうちの希望として、就学前児童、小学生児童ともに「自宅」が最も多く、次いで「習い事」となっています。「放課後児童クラブ」は就学前児童で3割弱、小学生児童で2割弱、「学区こどもの家」は就学前児童で2割強、小学生児童で2割弱となっています。
- ・ 小学校高学年のうちの希望としては、低学年時と比べて、就学前児童、小学生児童ともに「放課後児童クラブ」「学区こどもの家」の回答割合が少なくなり、「部活動」が多くなっています。
- ・ 小学生の子どもが家で1人又はきょうだいで過ごすことに不安を感じるかについて、小学生児童保護者の8割弱が「不安を感じる」となっています。
- ・ 小学生児童の土曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望について、土曜・祝日ともに「利用する必要はない」が8割弱となっています。一方で、長期休暇（夏休み・冬休みなど）時の放課後児童クラブの利用希望については、「全学年（1～6年生）利用したい」が2割強となっています。

【放課後児童クラブについて】

- ・ 放課後児童クラブを利用する理由については、「安心して預けられるから」「家で子どもだけにできないから」が8割弱となっています。
- ・ 他の学区の放課後児童クラブを利用したいと思うかについては、「近隣学区であれば利用したい」が平日の場合は2割弱であり、土曜・祝日・長期休暇の場合は3割弱となっています。土曜・祝日・長期休暇の「他の学区ならば利用しない」割合が2割弱と平日に比べ少ない傾向にあります。土曜・祝日・長期休暇の場合は保護者が送迎することもあり、他の学区であっても利用したい意向がうかがえます。

【学区こどもの家について】

- ・ 学区こどもの家を利用する理由については、「無料で利用できるから」が6割弱、「友だちが利用しているから」が5割弱となっており、「本当は児童クラブを利用したいが、学区内に放課後児童クラブがないから」「本当は児童クラブを利用したいが、定員超過で利用できなかったから」の理由は1割弱となっています。
- ・ 学区こどもの家の機能としては、「空調設備がほしい」「宿題をやらせてほしい」「学校から直接こどもの家へ下校したい」「現状のままで満足」が2割弱となっています。

⑩ 育児休業など職場の両立支援制度について

- ・ 育児休業の取得状況としては、「取得した（取得中である）」が母親で3割強、父親はごく僅かとなっています。前回調査時に比べ、母親については1割の増加、父親についても微増傾向にあります。
- ・ 取得していない理由については、母親で「子育てや家事に専念するため退職した」が5割弱と最も多く、父親で「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえる」が4割弱となっています。一方で、「仕事が忙しかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」とする回答も3割強となっており、男性の育児休業の取得が進むよう、企業などへの働きかけが求められます。
- ・ 育児休業取得後の職場復帰についてみると、母親が7割弱、父親が9割強職場に復帰しています。
- ・ 職場復帰のタイミングについては、母親が「年度初めに合わせた」が5割半ばである一方、父親は「それ以外だった」が9割弱となっています。
- ・ 早く復帰した母親の理由としては、「希望する保育所に入るため」が4割弱となっています。一方で、遅く復帰した母親の理由では、「希望する保育所に入れなかったため」とする回答が1割半ばとなっています。保育所へ入園できるかどうか、職場復帰のタイミングを左右することがうかがえます。
- ・ お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が9割強となっています。

⑪ 子育て全般について

- ・ 岡崎市における満足度（満足・まあ満足の合計割合）については、就学前児童、小学生児童ともに「妊娠・出産・育児期の健康診断」や「学校などでの健康診断」が5割弱、「身近で安心な小児医療サービス」が4割程度と満足度が高い傾向にあります。一方で、「公園など、身近な子どもの遊び場」で不満（不満・やや不満の合計割合）が4割強となっています。
- ・ 子どもを安心して産み育てられる環境のために市に期待する施策についてみると、「子育てにかかる経済的な負担の援助」が就学前児童で7割弱、小学生児童で6割強と最も多く、次いで「全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実」、「夜間や休日における小児科や医療体制の整備」が5割を超えています。経済的な負担軽減策や子どもを安心して育てられる環境づくりが必要とされています。

2. 保育園・幼稚園・認定こども園職員調査

① 幼稚園教諭免許・保育士資格について

- ・ 「両方保有している」が9割強となっています。

② 仕事や職場の環境について

- ・ 仕事にやりがいや充実感を持っている職員は5割強となっています。
- ・ 仕事への満足度について、「職場の人間関係・コミュニケーション」に満足している職員は5割に上ります。
- ・ 現在の仕事量についてみると、「どちらかといえば多いと思う」が4割弱となっています。前回調査時に比べ、「多いと思う」と答えた人が減っています。
- ・ 勤務負担が「増している」が4割強であり、負担が増した理由として「保育士・教諭などの少なさ」が6割弱、「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」が4割半ばとなっています。また、「指導・保育記録作成などの事務の増加」が前回調査時より2割強減っています。
- ・ 前回調査時に比べ、勤務負担が「増している」が1割程度減少し、負担感が減少傾向にあります。今後は職員確保などによる体制の強化が求められています。
- ・ 今の職場・施設について、改善が必要だと思う箇所について、「おもちゃや絵本等の教材の不足」や「教室・保育室やほふく室の改修」が3割強と多くなっています。

③ 研修について

- ・ 研修などへの参加意向がある職員は8割弱となっています。希望する研修内容は「保育実技」が6割強、「発達心理学」が5割弱となっています。研修の実施にあたり、情報提供をはじめ、質の向上に向けた支援策が求められます。

④ 職員からみた保護者や子どもに関する問題について

- ・ 日頃から子どもやその保護者と関わっている職員からみて、特に問題と思うことでは、「注意が続かなかったり、落ち着きがなかったりする子どもがいること」が6割程度、「子どもが基本的な生活習慣を身につけていないまま入園してくること」が5割強となっています。一方で「子どもの貧困の問題」や「虐待・ネグレクトの疑いのあるケース」は僅かとなっています。

⑤ 職員のワーク・ライフ・バランスについて

- ・ 自分の仕事と生活のバランスについて、「とれている」「まあまあとれている」が6割強、仕事と生活の両方が充実しているかについては、「充実している」「まあまあ充実している」が7割弱となっています。今後も一人ひとりがやりがいを持ちながら充実して仕事に取り組むとともに、家庭生活等に自ら希望するバランスで取り組むことが重要です。
- ・ 仕事と生活は互いに良い影響を及ぼしあっているかについては、「そう思う」「まあまあそう思う」が6割弱となっています。生活と仕事のバランスがとれたライフスタイルは良い仕事を創り出すことにつながるため、引き続き職員の働き方の見直しを図ることが必要です。

3. 事業所調査

① 管理職・再雇用の状況について

- ・ ポジティブ・アクションを「知っていて、実際に取り組んでいる」割合は、2割弱となっています。
- ・ 事業所の管理職については、男性が主であり、女性が一人もいないと答えた事業所は5割弱となっています。女性管理職の登用が進まない理由では、「役職に就く前に退職する女性が多いから」が4割弱、「女性自身が、管理職になることを希望しないから」が3割強といった本人が望んでいないといった理由が見受けられます。また、「出張や転勤など時間外労働が多く、家庭を持つ女性には困難だから」が3割強となっています。
- ・ キャリアブランクのある人材の雇用について、「キャリアブランクのある人でも積極的に採用している」が2割弱であり、「キャリアブランクに関係なく、本人の能力に応じた採用を行っている」が5割弱となっています。キャリアブランクが採用の妨げにはなっていないものの、社内のOJTや情報提供等の支援が必要とされています。

② 子育てのしやすい仕事や職場の環境について

- ・ 企業の子育て支援制度についてみると、「家族手当の支給」「出産・入学などの祝い金」や、「短時間勤務制度などの実施」をはじめとする各種勤務条件の免除は4割強の事業所で取り組まれています。
- ・ 各種勤務条件のうち「転勤の免除」の実施は3割弱と少なく、女性管理職の登用が進まない理由でも挙げられている転勤や出張など時間外労働が多いことにつながっています。
- ・ 育児休業から職場復帰する際の支援として「特になにもしていない」が5割弱であり、女性の社会復帰への支援が求められます。

③ 子育て支援について

- ・ 男性が育児休業や育児休暇を取得することについて、「男性も積極的に取得すべき」が3割強であり、「男性は、できるだけ取得しないでほしい」が3割弱となっています。
- ・ 従業員の子育て支援は、従業員の福利厚生のためと考える事業所が多くなっています。また、規模の大きな事業所ほど企業の社会的責任であると考えられる傾向にあります。
- ・ 育児・介護休業制度を定着させるために必要こととして、「休業中の代替要員の確保」が6割弱、「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が4割強となっています。

④ ワーク・ライフ・バランスについて

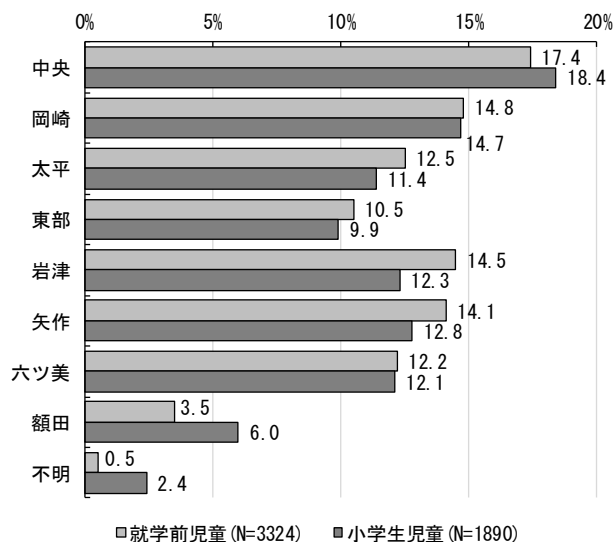
- ・ 事業所のワーク・ライフ・バランスの推進について、「必要と思うが、現実的に難しい」が4割程度となっています。「必要であり、企業としても推進している」は2割弱に留まっています。
- ・ 仕事と家庭の両立に向けて、「保育所、放課後児童クラブなどの保育環境を整備する」が6割程度、「仕事と家庭の両立支援に取り組む事業所などに対する、国や自治体が行う支援策を充実させる」が5割弱と、自治体が重点をおいて取り組むべきこととして求められています。

Ⅲ. 調査結果（就学前児童・小学生児童）

1. お住まいの地域についてうかがいます

(1) お住まいの地域の小学校区名を記入してください。

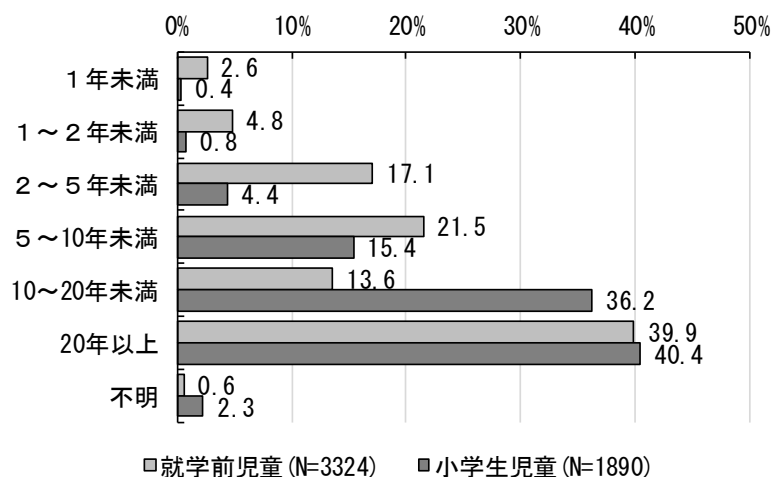
(就学前児童調査・小学生児童調査…問1)



(2) 岡崎市に住んで何年になりますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問2)

居住年数についてみると、「20年以上」が就学前児童で39.9%、小学生児童で40.4%となっています。

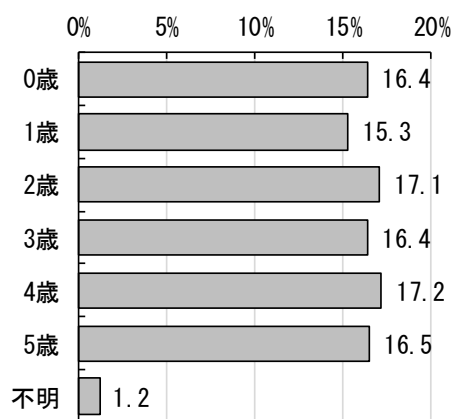


2. お子さんご家族の状況についてうかがいます

(3) 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。〈数量回答〉

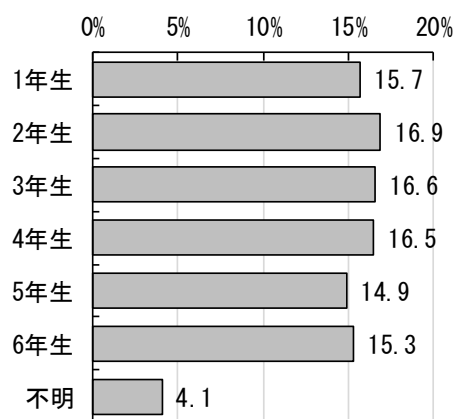
(就学前児童調査・小学生児童調査…問3)

【就学前児童】



□ 就学前児童 (N=3324)

【小学生児童】



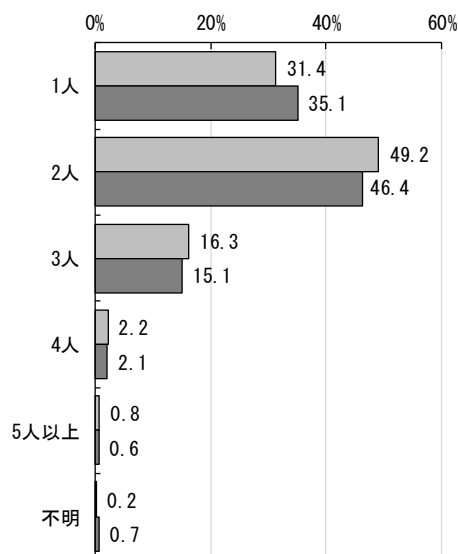
□ 小学生児童 (N=1890)

(4) お子さんは何人いらっしゃいますか。〈数量回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問4)

きょうだいの人数についてみると、「2人」が就学前児童で 49.2%、小学生児童で 53.9% となっています。次いで、「1人」が就学前児童で 31.4%、小学生児童で 23.1% となっています。前回調査時に比べ、小学生児童で「1人」が1割程度増えています。また、「3人」が減っている傾向にあります。

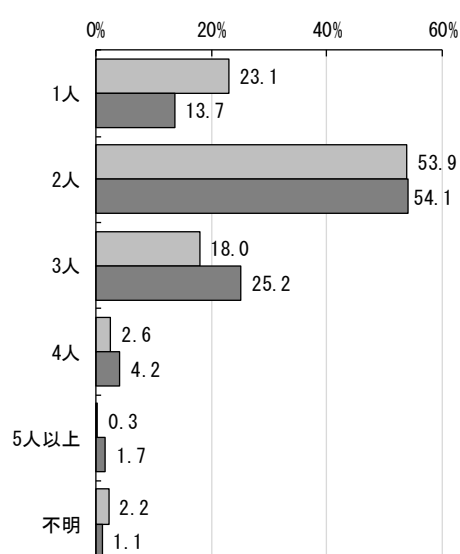
【就学前児童】



□ 平成30年度就学前児童 (N=3324)

■ 平成25年度就学前児童 (N=2545)

【小学生児童】

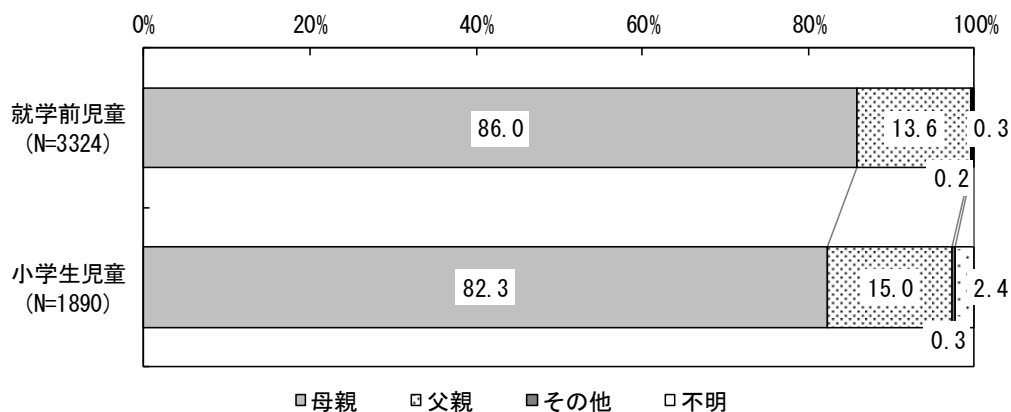


□ 平成30年度小学生児童 (N=1890)

■ 平成25年度小学生児童 (N=793)

(5) この調査票にご回答いただく方はどなたですか。〈単数回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問5)

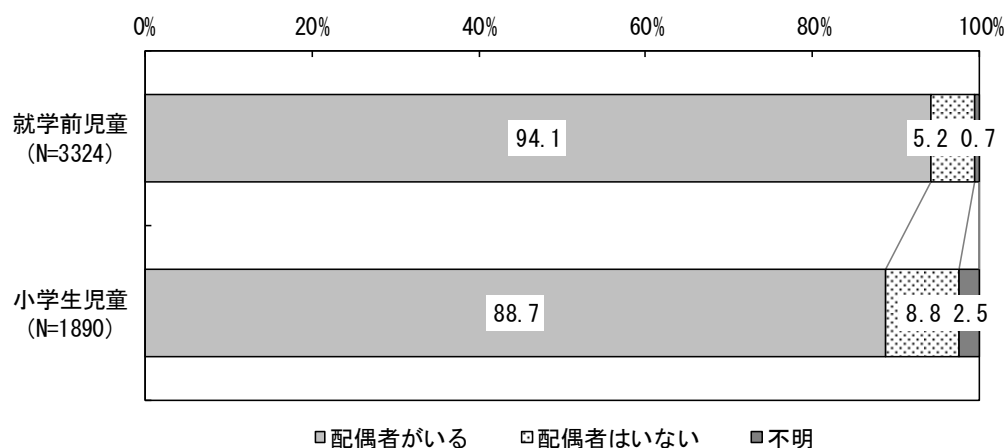


(6) この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

〈単数回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問6)

配偶者の有無についてみると、「配偶者がいる」は就学前児童で94.1%、小学生児童で88.7%となっています。「配偶者はいない」は就学前児童、小学生児童ともに1割以下となっています。



3. 子どもの育ちをめぐる環境についてうかがいます

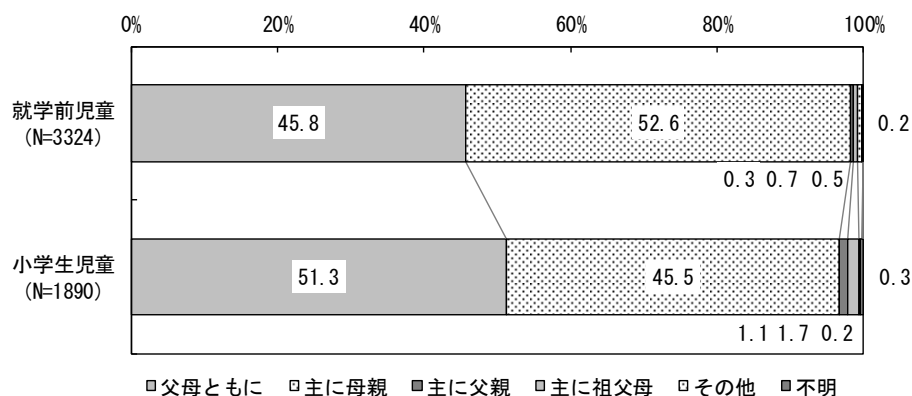
(7) お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。

<単数回答>

(就学前児童調査・小学生児童調査…問7)

子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「父母ともに」が就学前児童で45.8%、小学生児童で51.3%となっています。就学前児童では「主に母親」が半数を超えています。

父親の就労状況との関係についてみると、就労時間が「10時間」以上で「主に母親」が「父母ともに」より多い傾向にあります。



<父親の1日あたりの就労時間×子育てを主に行っている人 就学前児童>

上段：度数 下段：%	合計	父母ともに	主に母親	主に父親	主に祖父母	その他
4時間未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
4時間	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
5時間	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
6時間	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
7時間	17 100.0	11 64.7	5 29.4	1 5.9	0 0.0	0 0.0
8時間	817 100.0	473 57.9	337 41.2	2 0.2	2 0.2	3 0.4
9時間	393 100.0	218 55.5	170 43.3	0 0.0	3 0.8	2 0.5
10時間	890 100.0	422 47.4	459 51.6	1 0.1	5 0.6	3 0.3
11時間	250 100.0	100 40.0	149 59.6	0 0.0	0 0.0	1 0.4
12時間	309 100.0	110 35.6	196 63.4	0 0.0	1 0.3	2 0.6
13時間以上	302 100.0	103 34.1	195 64.6	2 0.7	2 0.7	0 0.0

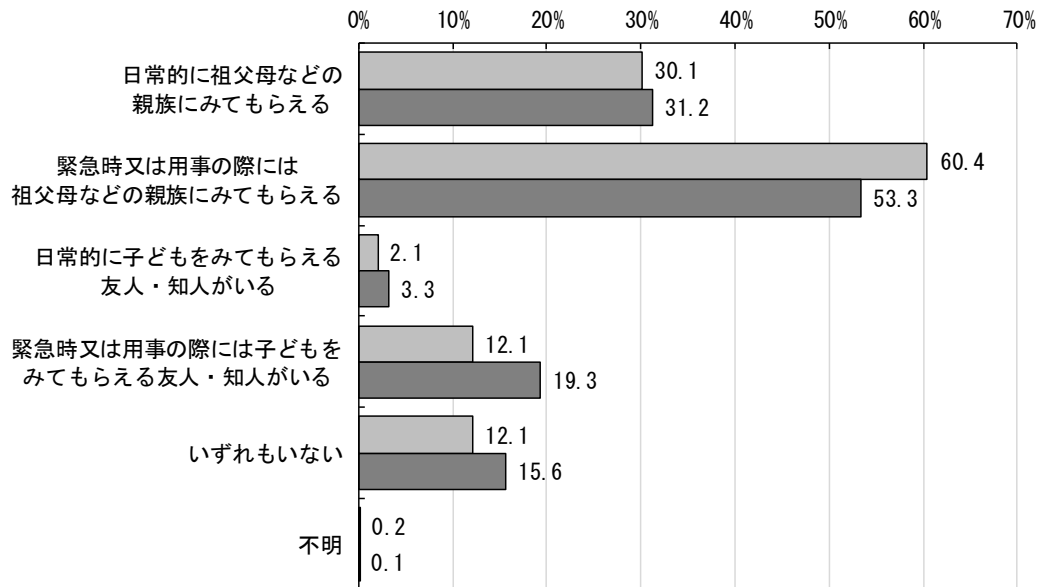
(8) 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。〈複数回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問8)

子どもをみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時又は用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が就学前児童で60.4%、小学生児童で53.3%となっています。

「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」が就学前児童で30.1%、小学生児童で31.2%となっています。

「いずれもない」は就学前児童で12.1%、小学生児童で15.6%となっています。

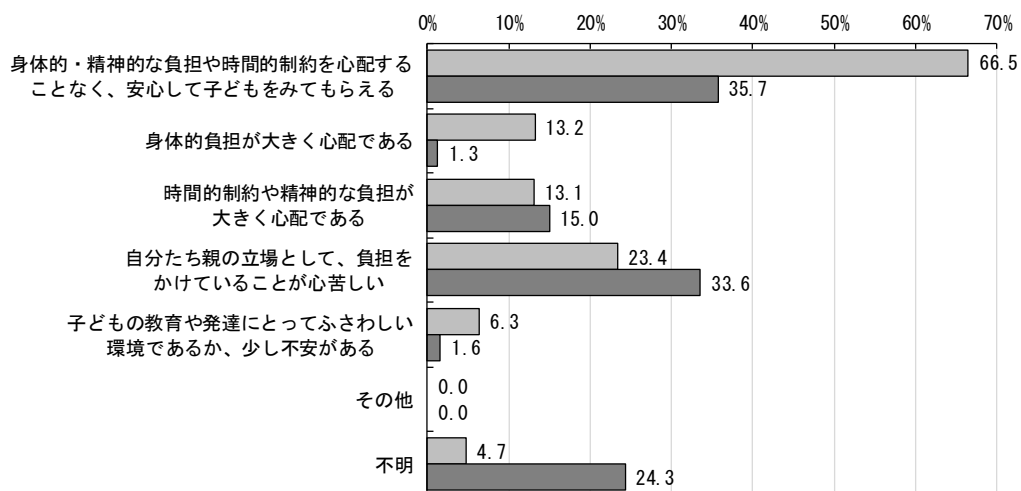


□就学前児童 (N=3324) ■小学生児童 (N=1890)

(9) お子さんをみてもらっている状況についてお答えください。〈複数回答〉

(小学生調査…問8-1)

子どもをみてもらっている状況についてみると、祖父母などにみてもらっている人は「身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が66.5%となっています。「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」は、祖父母などにみてもらっている人で23.4%、友人・知人にみてもらっている人で33.6%となっています。



□祖父母など (N=1474) ■友人・知人 (N=387)

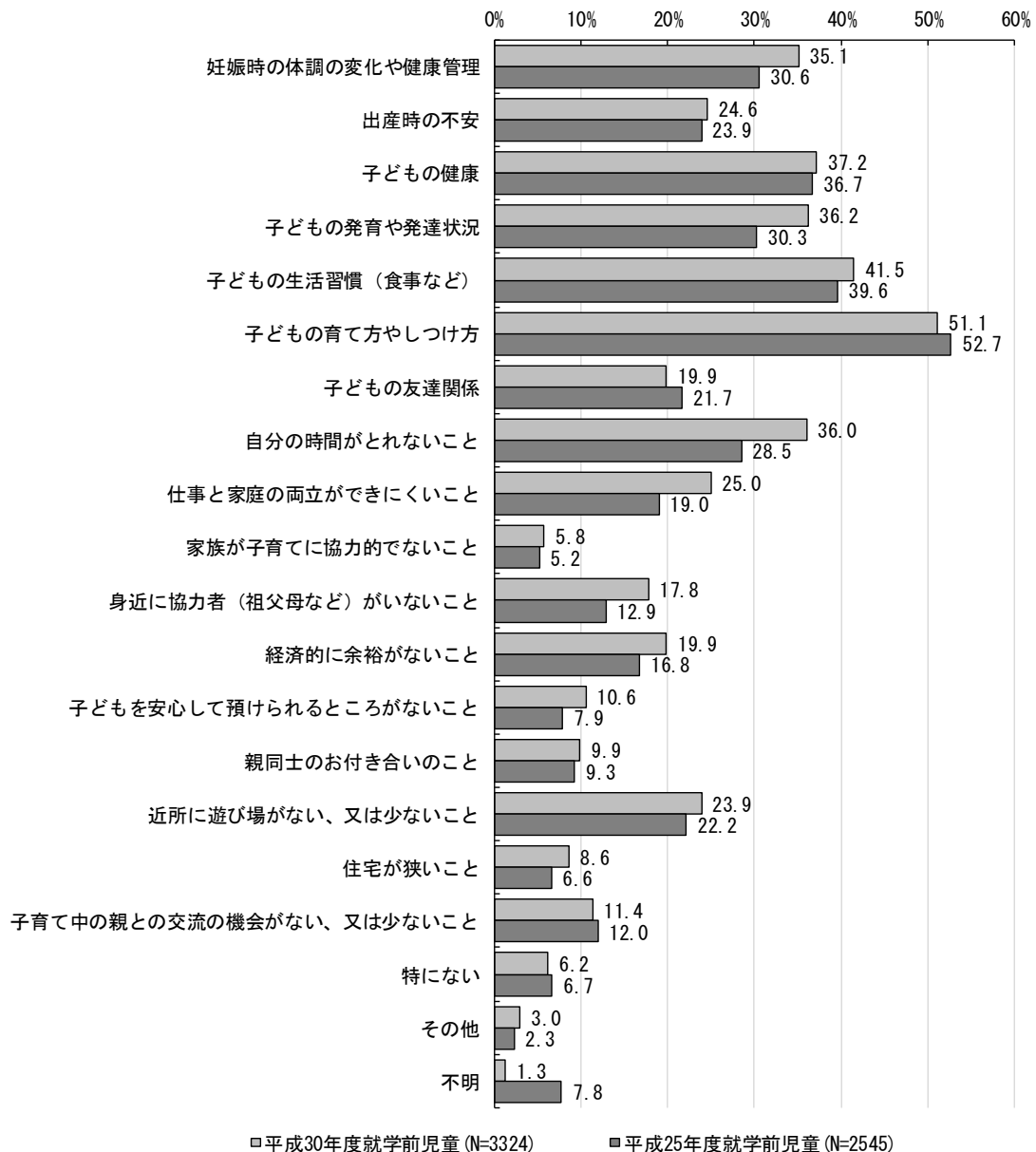
(10) 妊娠、出産、子育てを通じて、困ったことや悩んだことはありますか。

<複数回答>

(就学前児童調査…問9)

妊娠、出産、子育てを通じて、困ったことや悩んだことについてみると、「子どもの育て方やしつけ方」が51.1%、「子どもの生活習慣（食事など）」が41.5%、「子どもの健康」が37.2%となっています。

前回調査時と比べると、「自分の時間がとれないこと」や「仕事と家庭の両立ができにくいこと」が増加傾向にあります。



4. お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます

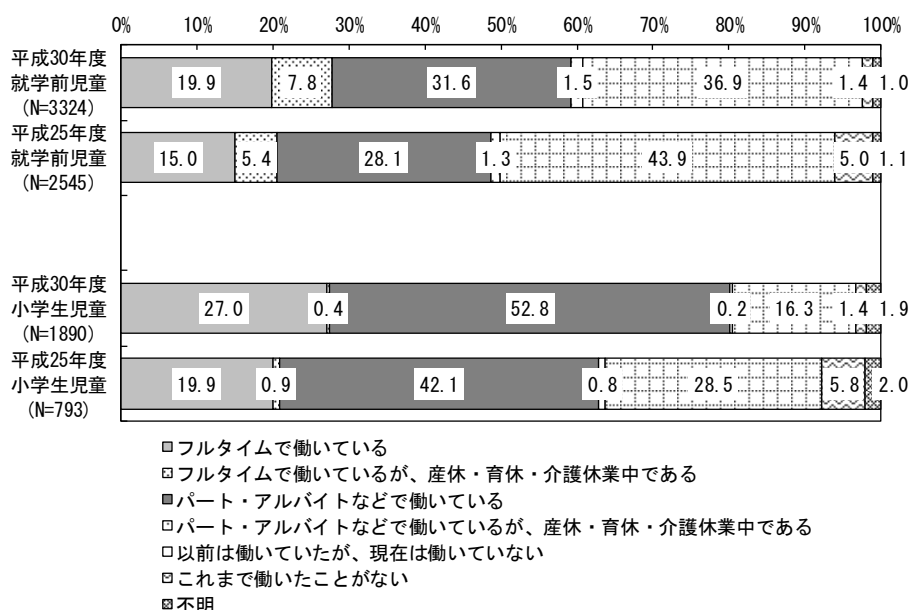
(11) お子さんの保護者の現在の就労状況について、①母親、②父親のそれぞれで当てはまる番号1つに○をつけてください。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問10 小学生児童調査…問9)

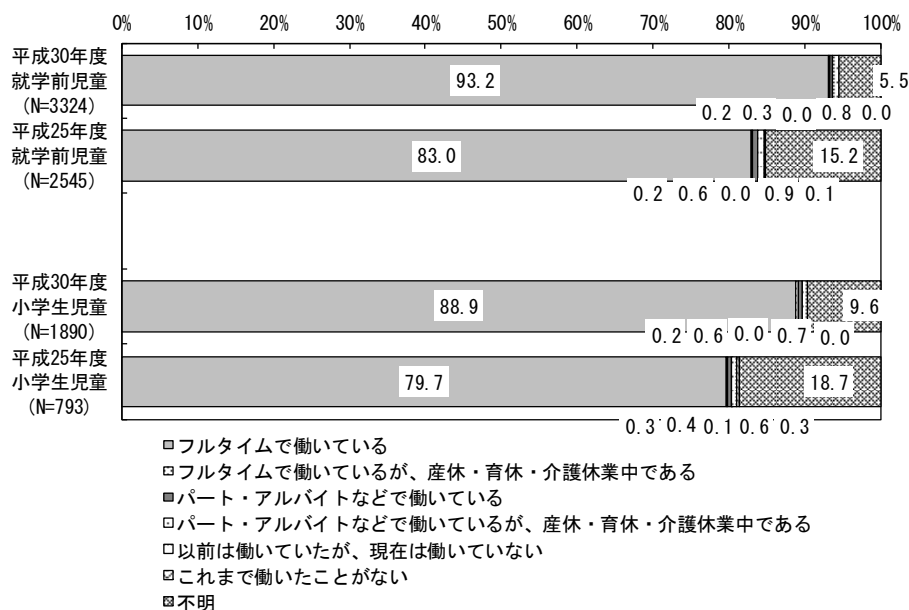
母親の現在の就労状況についてみると、就学前児童で「以前は働いていたが、現在は働いていない」が36.9%、小学生児童で「パート・アルバイトなどで働いている」が52.8%となっています。母親については、就学前児童で60.8%、小学生児童で80.4%が就労しています。前回調査時に比べ、就学前児童で約1割、小学生児童で1割半ば働く母親が増えています。

父親については、「フルタイムで働いている」が就学前児童で93.2%、小学生児童で88.9%となっています。

(母親)



(父親)



就学前児童の学齢別に現在家庭類型についてみると、0～2歳で「D 専業主婦（夫）」が4割半ばと多くなっています。また、3～5歳で「C フルタイム×パートタイム」が多くなっています。

小学生児童の学齢別に現在家庭類型についてみると、「C フルタイム×パートタイム」がいずれの学齢でも多くなっており、「B フルタイム×フルタイム」が高学年になると僅かならが多くなっています。

<子どもの学齢×現在家庭類型 就学前児童>

上段：度数 下段：%	現在家族類型								
	合計	Aひとり親 家庭	Bフルタイム ×フルタイム	Cフルタイム ×パートタイム	C' フルタイム ×パートタイム (短)	D専業主婦 (夫)	Eパート× パート	E' パート ×パート (短)	F無業× 無業
0歳	462 100.0	17 3.7	182 39.4	48 10.4	2 0.4	212 45.9	0 0.0	0 0.0	1 0.2
1歳	426 100.0	15 3.5	121 28.4	87 20.4	3 0.7	199 46.7	0 0.0	0 0.0	1 0.2
2歳	482 100.0	23 4.8	113 23.4	125 25.9	5 1.0	215 44.6	0 0.0	0 0.0	1 0.2
3歳	455 100.0	25 5.5	129 28.4	141 31.0	23 5.1	137 30.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
4歳	472 100.0	27 5.7	106 22.5	185 39.2	39 8.3	113 23.9	1 0.2	0 0.0	1 0.2
5歳	469 100.0	50 10.7	110 23.5	169 36.0	48 10.2	92 19.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0

<子どもの学齢×現在家庭類型 小学生児童>

上段：度数 下段：%	現在家族類型								
	合計	Aひとり親 家庭	Bフルタイム ×フルタイム	Cフルタイム ×パートタイム	C' フルタイム ×パートタイム (短)	D専業主婦 (夫)	Eパート× パート	E' パート ×パート (短)	F無業× 無業
1年生	261 100.0	22 8.4	69 26.4	126 48.3	0 0.0	44 16.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
2年生	282 100.0	26 9.2	65 23.0	139 49.3	0 0.0	51 18.1	0 0.0	0 0.0	1 0.4
3年生	272 100.0	23 8.5	76 27.9	131 48.2	0 0.0	42 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
4年生	272 100.0	33 12.1	79 29.0	122 44.9	0 0.0	38 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
5年生	250 100.0	22 8.8	69 27.6	117 46.8	0 0.0	42 16.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
6年生	252 100.0	24 9.5	76 30.2	116 46.0	0 0.0	36 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(12) 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」を①母親、②父親についてそれぞれ□内に数字でお答えください。

(就学前児童調査…問 10-1 小学生児童調査…問 9-1)

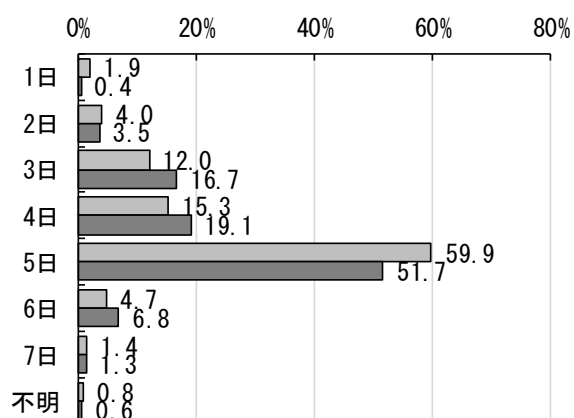
就労日数についてみると、就学前児童、小学生児童それぞれ、母親、父親ともに「5日」が多くなっています。父親については「6日」が約2割となっています。

就労時間についてみると、母親については、就学前児童、小学生児童ともに「8時間」が最も多くなっています。

父親については、就学前児童で「10時間」が28.6%、小学生児童で「8時間」が31.5%となっています。

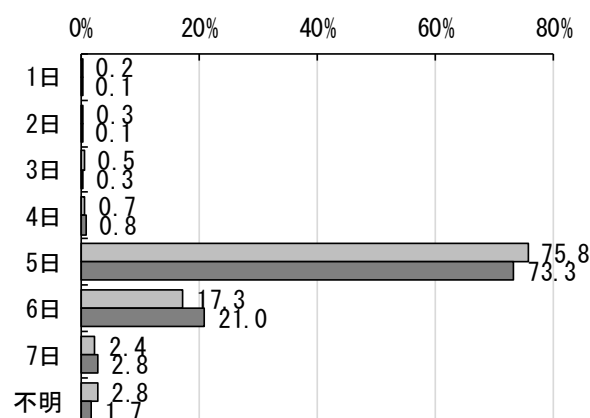
(1週当たりの就労日数)

【母親】



□就学前児童 (N=2018) ■小学生児童 (N=1517)

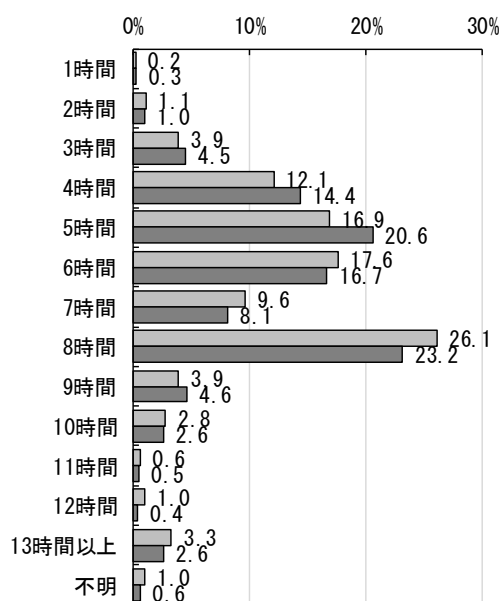
【父親】



□就学前児童 (N=3113) ■小学生児童 (N=1694)

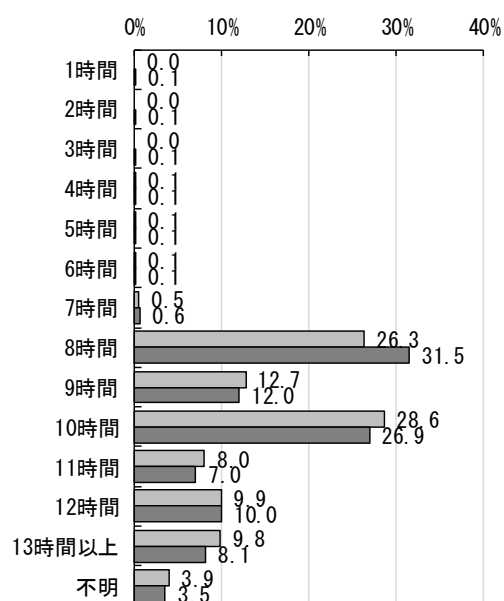
(1日当たりの就労時間)

【母親】



□就学前児童 (N=2020) ■小学生児童 (N=1517)

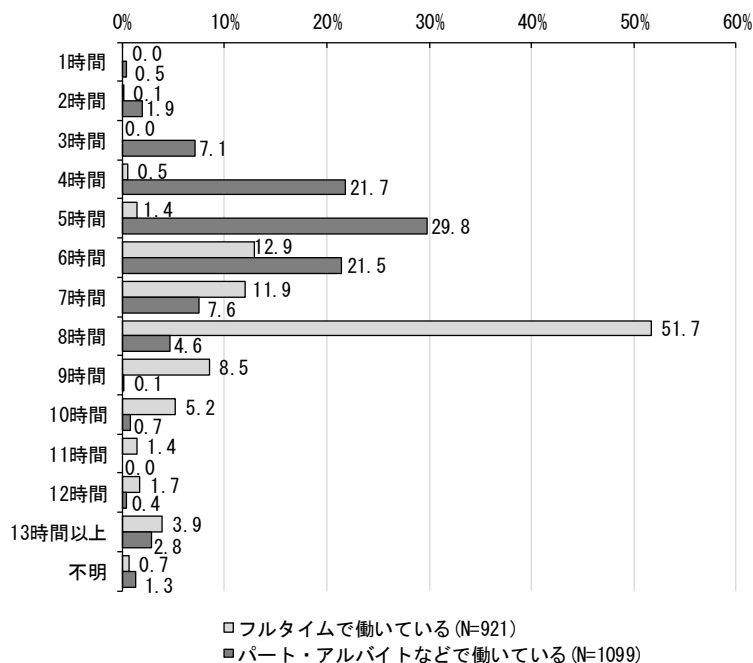
【父親】



□就学前児童 (N=3113) ■小学生児童 (N=1694)

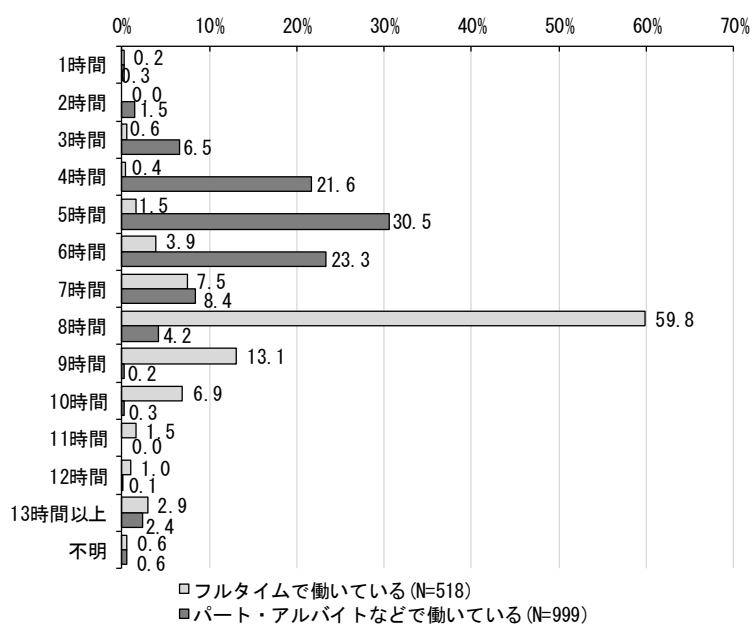
母親の就労状況についてみると、就学前児童では「フルタイムで働いている」では「8時間」が多くなっており、「パート・アルバイトなどで働いている」では「5時間」が多くなっています。小学生児童でも同様の傾向にあります。

<母親の就労状況（フルタイム・パートタイム）×1日当たりの就労時間 就学前児童>



※上グラフは、休業中のフルタイム及びパート・アルバイト等の回答者を含む。

<母親の就労状況（フルタイム・パートタイム）×1日当たりの就労時間 小学生児童>



※上グラフは、休業中のフルタイム及びパート・アルバイト等の回答者を含む。

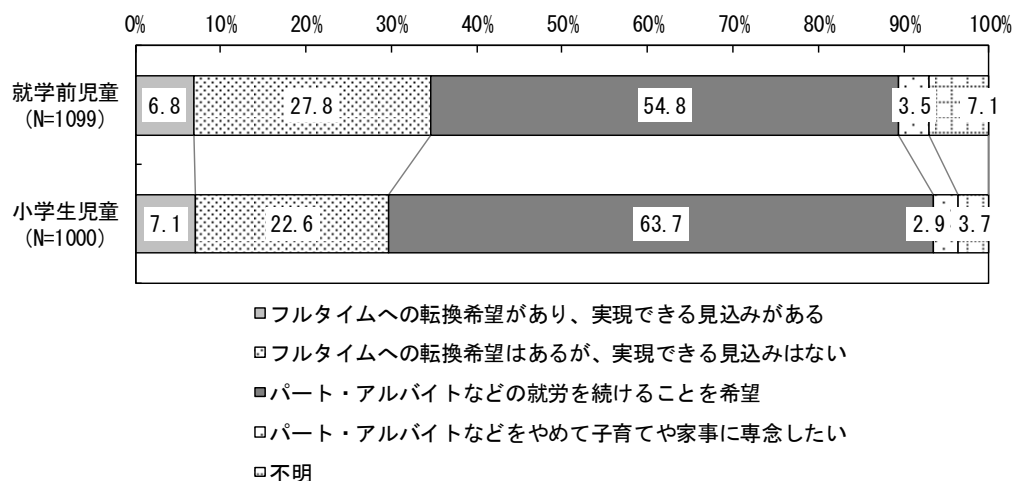
(13) フルタイムへの転換希望はありますか。＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 11 小学生児童調査…問 10)

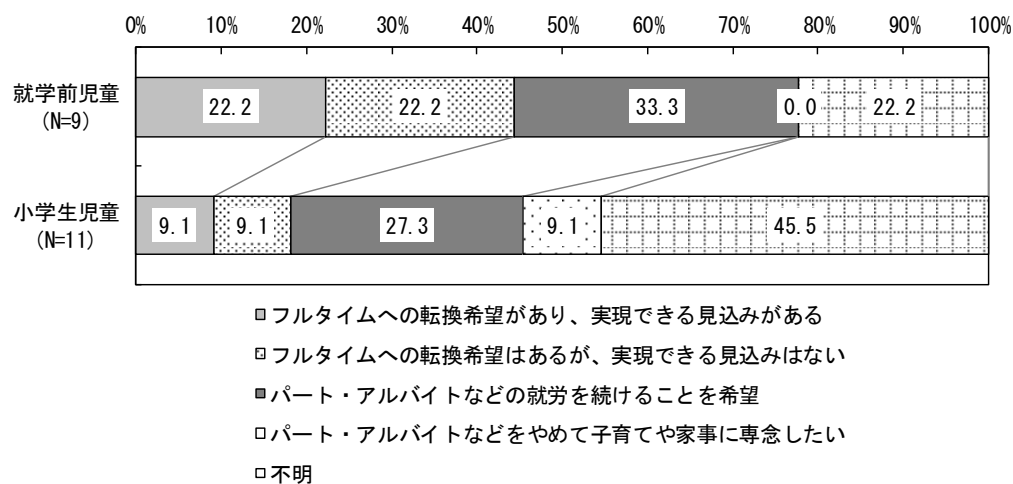
現在、パートタイム・アルバイトの保護者のフルタイムへの転換希望についてみると、母親については、「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が就学前児童で 54.8%、小学生児童で 63.7%となっています。「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と答えた人は就学前児童で 27.8%、小学生児童で 22.6%となっています。

父親については、対象者が僅かではあるものの「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が就学前児童で 33.3%、小学生児童で 27.3%となっています。

(母親)



(父親)



(14) 就労したいという希望はありますか。〈単数回答〉

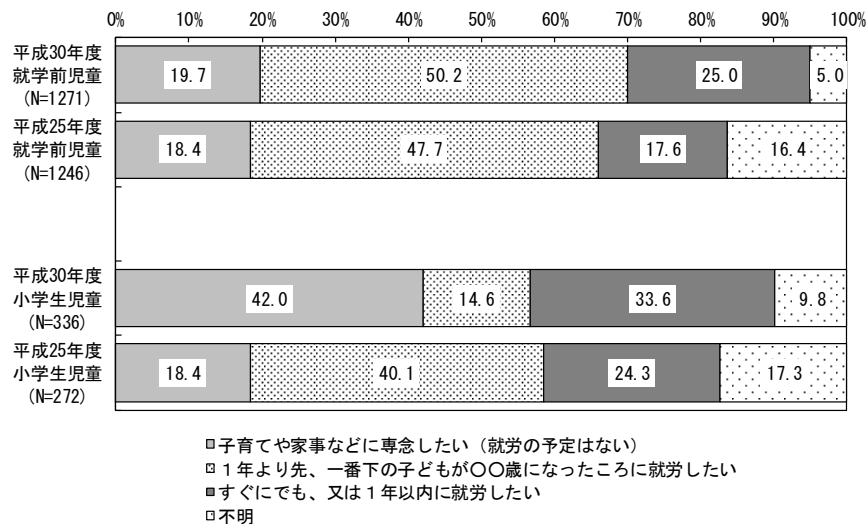
(就学前児童調査…問 12 小学生児童調査…問 11)

現在、無業の母親の就労希望についてみると、「1年より先、一番下の子どもが〇〇歳になったところに就労したい」が就学前児童で50.2%となっています。小学生児童で「子育てや家事などに専念したい」が42.0%となっています。一番下の子どもの年齢については、就学前児童で「3歳」が31.3%、「7歳」は19.1%であり、小学生児童で「13歳以上」が34.7%となっています。今回調査では小学生児童の調査対象を高学年まで拡大しており、前回調査時と比べると、「10歳」以上の割合が増加しています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた母親は就学前児童で25.0%、小学生児童33.6%となっています。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた人で、希望する就労形態についてみると、「パートタイム、アルバイトなど」が就学前児童で91.8%、小学生児童で92.9%となっています。

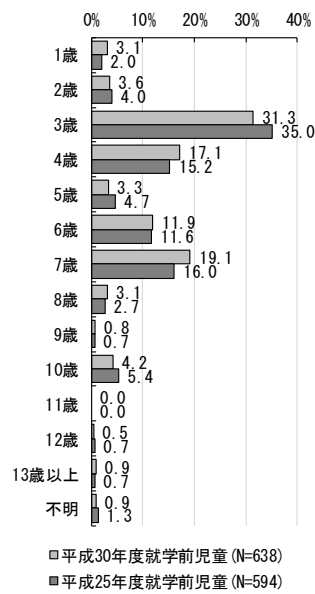
「パートタイム、アルバイトなど」と答えた人の希望する就労日数は、「3日」が就学前児童で46.9%、小学生児童で41.0%、労働時間は「5時間」が就学前児童で41.4%、小学生児童で52.4%となっています。

(母親)

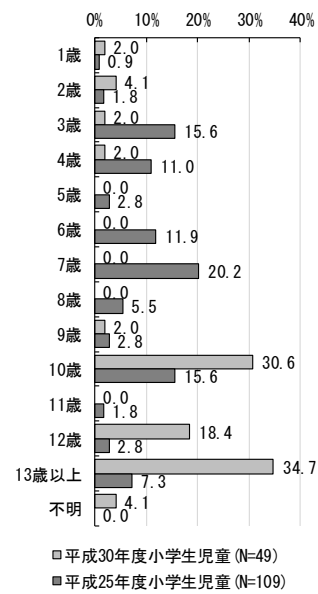


(就労を希望する子どもの年齢 母親)

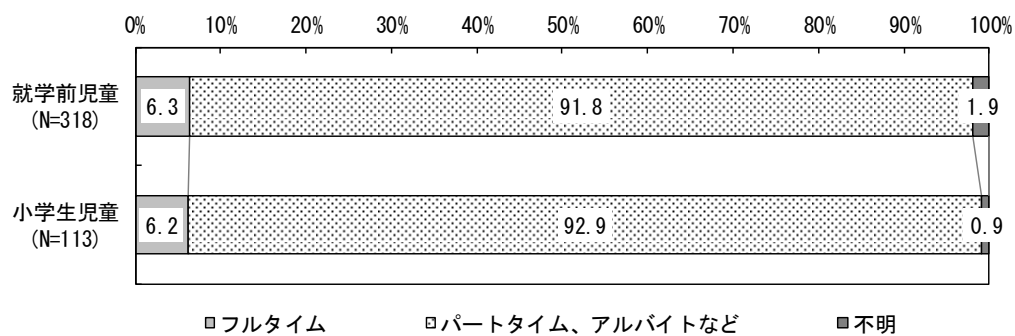
【就学前児童】



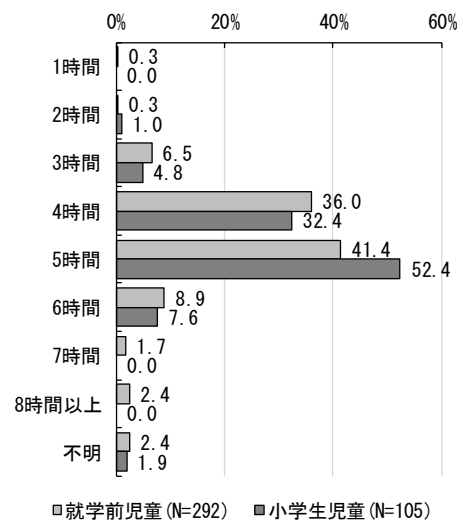
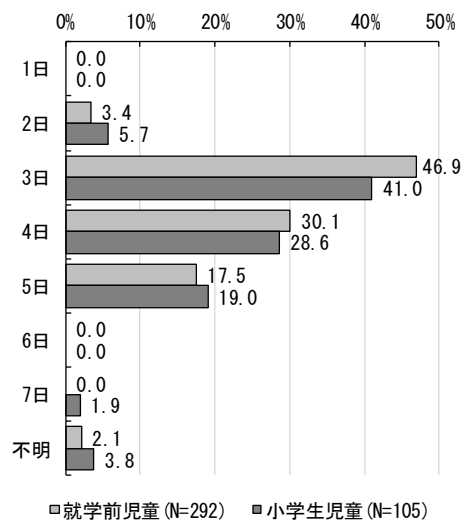
【小学生児童】



(希望する就労形態 母親)

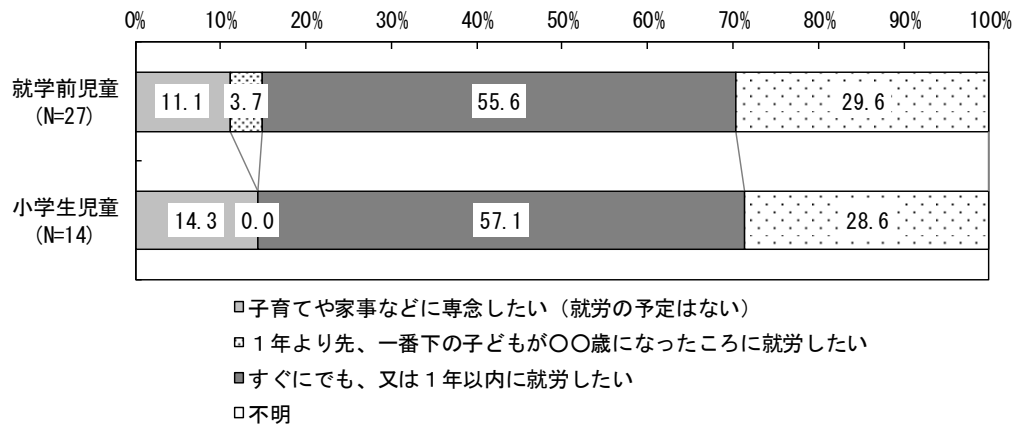


(パートタイム、アルバイトなどの1週あたり・1日あたりの就労時間 母親)



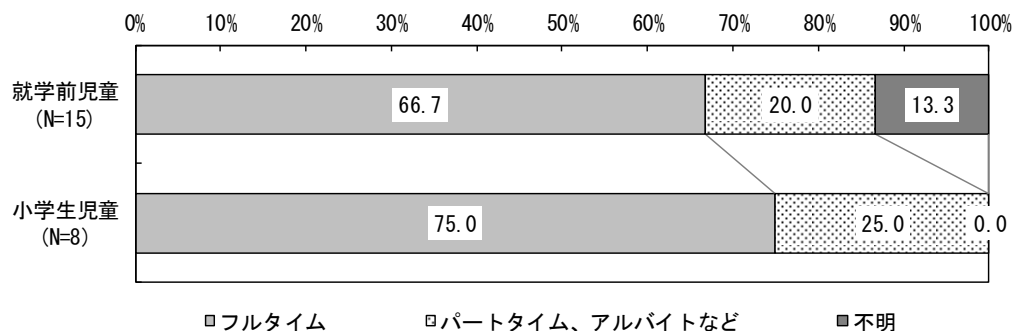
現在、無業の父親の就労希望についてみると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が就学前児童で55.6%、小学生児童で57.1%となっています。希望する就労形態についてみると、「フルタイム」が就学前児童で66.7%、小学生児童で75.0%となっています。

(父親)



※就労を希望する子どもの年齢は、就学前児童の父親で「1歳」が1名、小学生児童の父親は回答なし。

(希望する就労形態 父親)



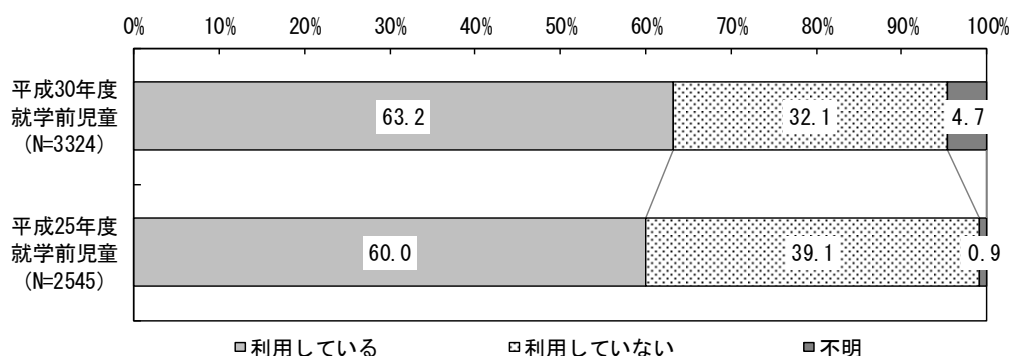
5. お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます

(15) お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。〈単数回答〉

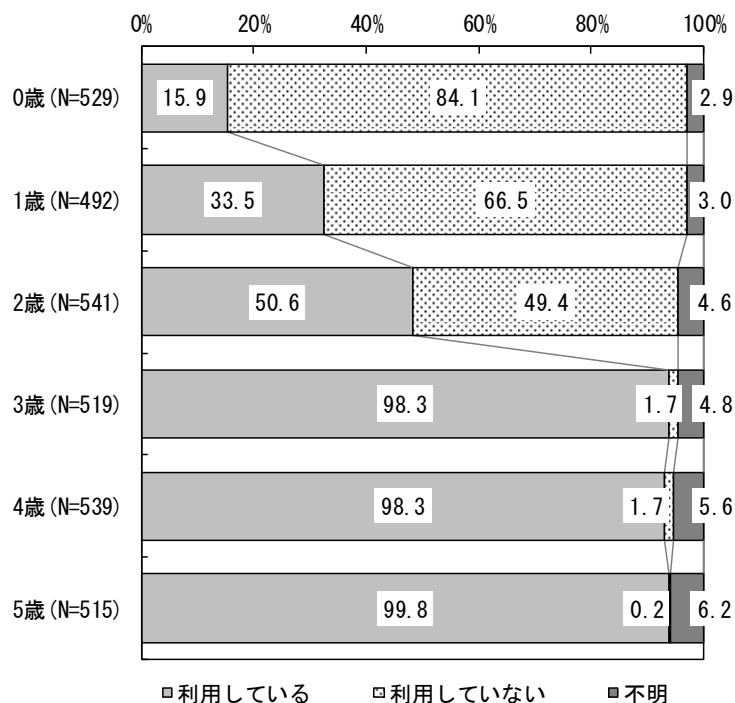
(就学前児童調査…問 13)

幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」についてみると、「利用している」が63.2%となっています。

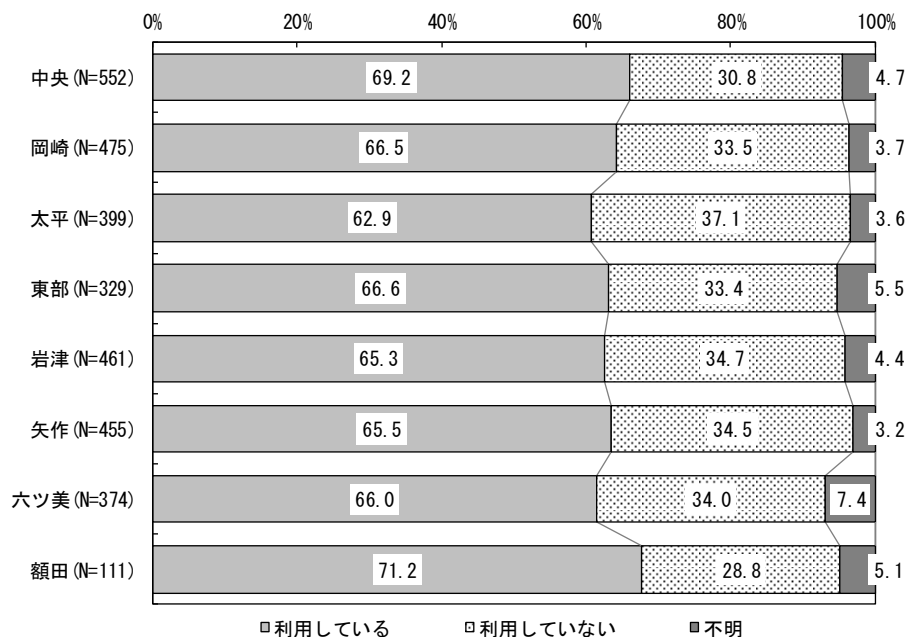
年齢別でみると0歳で15.9%、1歳で33.5%、2歳で50.6%、3歳以上で98%以上が利用しています。



【年齢別】



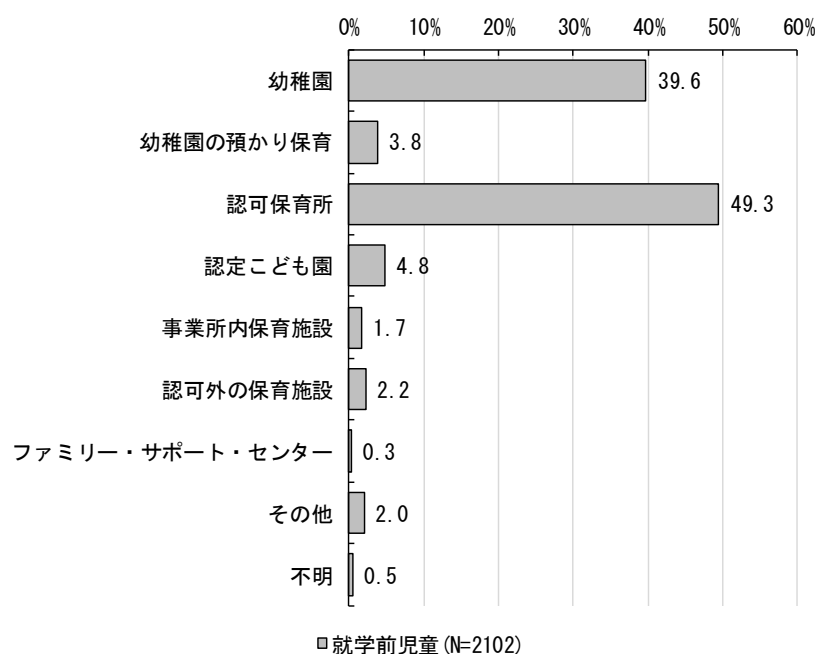
【区域別】



(16) 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 13-1)

利用している教育・保育の事業についてみると、「認可保育所」が49.3%、「幼稚園」が39.6%、となっています。



利用している教育・保育の事業を年齢別にみると、0～2歳では「認可保育所」が多く、3～4歳では「幼稚園」が多くなっています。

現在家庭類型別にみると、「認可保育所」については「Aひとり親家庭」で69.0%、「Bフルタイム×フルタイム」で83.5%、「Cフルタイム×パートタイム」で59.8%となっています。「幼稚園」については「C'フルタイム×パートタイム」で99.1%、「D専業主婦〔夫〕」で84.4%となっています。

<年齢別・区域別×平日の教育・保育事業の利用>

	上段：度数 下段：%	合計	幼稚園	幼稚園の 預かり 保育	認可 保育所	認定 こども園	事業所内 保育施設	認可外の 保育施設	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他
年齢別	0歳	84 100.0	10 11.9	2 2.4	60 71.4	3 3.6	5 6.0	5 6.0	0 0.0	3 3.6
	1歳	164 100.0	12 7.3	1 0.6	125 76.2	4 2.4	14 8.5	9 5.5	0 0.0	3 1.8
	2歳	270 100.0	62 23.0	6 2.2	160 59.3	9 3.3	11 4.1	11 4.1	3 1.1	16 5.9
	3歳	510 100.0	246 48.2	16 3.1	226 44.3	26 5.1	4 0.8	8 1.6	2 0.4	5 1.0
	4歳	528 100.0	247 46.8	26 4.9	229 43.4	32 6.1	0 0.0	5 0.9	1 0.2	8 1.5
	5歳	511 100.0	248 48.5	27 5.3	224 43.8	27 5.3	0 0.0	6 1.2	1 0.2	7 1.4
区域別	中央	379 100.0	147 38.8	17 4.5	187 49.3	31 8.2	5 1.3	3 0.8	0 0.0	8 2.1
	岡崎	314 100.0	155 49.4	15 4.8	134 42.7	2 0.6	2 0.6	15 4.8	0 0.0	5 1.6
	太平	250 100.0	100 40.0	14 5.6	131 52.4	2 0.8	6 2.4	4 1.6	0 0.0	7 2.8
	東部	218 100.0	75 34.4	8.0 3.7	129.0 59.2	3.0 1.4	1.0 0.5	3.0 1.4	1.0 0.5	5.0 2.3
	岩津	300 100.0	151 50.3	8.0 2.7	131.0 43.7	4.0 1.3	4.0 1.3	4.0 1.3	1.0 0.3	4.0 1.3
	矢作	296 100.0	111 37.5	5 1.7	151 51.0	17 5.7	8 2.7	7 2.4	3 1.0	7 2.4
	六ツ美	247 100.0	86 34.8	11 4.5	137 55.5	4 1.6	7 2.8	8 3.2	1 0.4	4 1.6
	額田	79 100.0	4 5.1	0 0.0	36 45.6	37 46.8	1 1.3	1 1.3	1 1.3	2 2.5

<現在家庭類型×平日の教育・保育事業の利用>

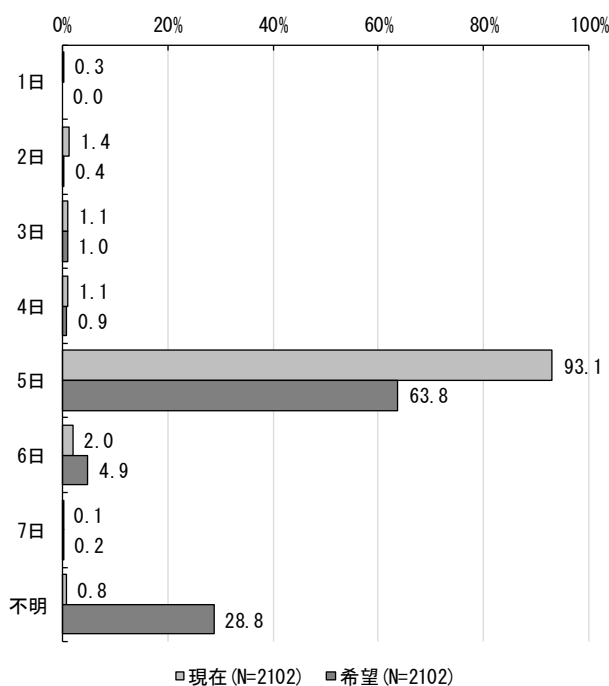
上段：度数 下段：%	合計	幼稚園	幼稚園の 預かり 保育	認可 保育所	認定 こども園	事業所内 保育施設	認可外の 保育施設	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他
Aひとり親家庭	116 100.0	21 18.1	7 6.0	80 69.0	8 6.9	0 0.0	3 2.6	2 1.7	2 1.7
Bフルタイム×フルタイム	544 100.0	43 7.9	12 2.2	454 83.5	13 2.4	14 2.6	10 1.8	2 0.4	10 1.8
Cフルタイム×パートタイム	619 100.0	172 27.8	21 3.4	370 59.8	36 5.8	16 2.6	22 3.6	2 0.3	8 1.3
C'フルタイム×パートタイム（短）	113 100.0	112 99.1	21 18.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9	0 0.0	1 0.9
D専業主婦（夫）	377 100.0	318 84.4	7 1.9	16 4.2	26 6.9	1 0.3	4 1.1	0 0.0	13 3.4
Eパート×パート	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
E'パート×パート（短）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
F無業×無業	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(17) 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。〈数量回答〉

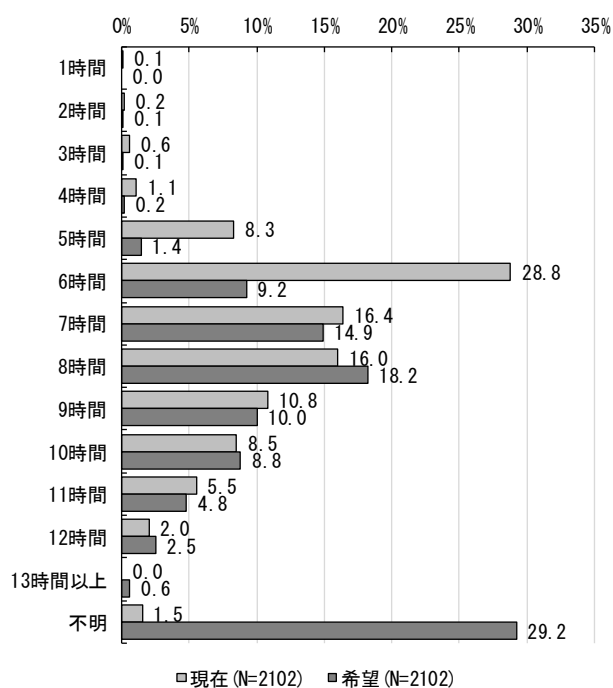
(就学前児童調査…問 13-2)

教育・保育の事業の利用頻度についてみると、現在の利用状況としては「5日」が93.1%であり、希望する利用日数は、「5日」が63.8%となっています。利用時間についてみると、現在の利用時間としては「6時間」が28.8%と最も多く、希望する利用時間は、「8時間」が18.2%、「7時間」が14.9%となっています。

(1週あたりの利用日数)



(1日あたりの利用時間)



施設別にみると、特に「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「認定こども園」において希望する利用時間が現在よりも長くなっています。

<現在と希望の教育・保育事業の利用×1日あたりの利用時間>

上段：度数 下段：%		合計	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間	13時間 以上
現在	幼稚園	820 100.0	2 0.2	2 0.2	8 1.0	14 1.7	115 14.0	511 62.3	120 14.6	32 3.9	12 1.5	3 0.4	1 0.1	0 0.0	0 0.0
	幼稚園の預かり保育	79 100.0	2 2.5	2 2.5	1 1.3	0 0.0	6 7.6	19 24.1	12 15.2	17 21.5	14 17.7	4 5.1	2 2.5	0 0.0	0 0.0
	認可保育所	1020 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.1	1 0.1	56 5.5	197 19.3	261 25.6	191 18.7	163 16.0	107 10.5	42 4.1	1 0.1
	認定こども園	101 100.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	41 40.6	19 18.8	8 7.9	18 17.8	7 6.9	5 5.0	1 1.0	1 1.0	0 0.0
	事業所内保育施設	34 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.9	1 2.9	3 8.8	6 17.6	11 32.4	3 8.8	6 17.6	2 5.9	0 0.0	0 0.0
	認可外の保育施設	46 100.0	0 0.0	0 0.0	2 4.3	2 4.3	6 13.0	9 19.6	8 17.4	8 17.4	8 17.4	2 4.3	1 2.2	0 0.0	0 0.0
	ファミリー・サポート・センター	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	0 0.0
	その他	42 100.0	1 2.4	2 4.8	2 4.8	5 11.9	11 26.2	7 16.7	6 14.3	5 11.9	1 2.4	1 2.4	1 2.4	0 0.0	0 0.0
希望	幼稚園	610 100.0	0 0.0	2 0.3	2 0.3	2 0.3	19 3.1	145 23.8	180 29.5	187 30.7	47 7.7	24 3.9	2 0.3	0 0.0	0 0.0
	幼稚園の預かり保育	62 100.0	0 0.0	2 3.2	1 1.6	1 1.6	1 1.6	5 8.1	8 12.9	21 33.9	14 22.6	6 9.7	3 4.8	0 0.0	0 0.0
	認可保育所	710 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	25 3.5	92 13.0	164 23.1	138 19.4	146 20.6	87 12.3	45 6.3	13 1.8
	認定こども園	74 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 5.4	12 16.2	27 36.5	11 14.9	9 12.2	6 8.1	3 4.1	2 2.7	0 0.0
	事業所内保育施設	31 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	4 12.9	2 6.5	6 19.4	6 19.4	4 12.9	5 16.1	3 9.7	0 0.0
	認可外の保育施設	35 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	2 5.7	4 11.4	8 22.9	7 20.0	5 14.3	5 14.3	1 2.9	2 5.7	0 0.0
	ファミリー・サポート・センター	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7
	その他	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	3 11.5	3 11.5	10 38.5	4 15.4	3 11.5	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

家庭類型別についてみると、現在の利用時間は、Aひとり親家庭で「8時間」が21.9%、Bフルタイム×フルタイムで「10時間」が23.2%、Cフルタイム×パートタイムで「7時間」が27.5%となっています。また、「6時間」がC'フルタイム×パートタイムで54.5%、D専業主婦〔夫〕で61.5%となっています。

潜在家庭類型別についてみると、希望する利用時間は、Aひとり親家庭で「8時間」が28.4%、Bフルタイム×フルタイムで「10時間」が23.6%となっています。また、Cフルタイム×パートタイムで「8時間」が30.6%、C'フルタイム×パートタイムで「8時間」が32.4%（7時間と同率）となっています。家庭類型に関わりなく、希望する利用時間が現状よりも長くなっています。

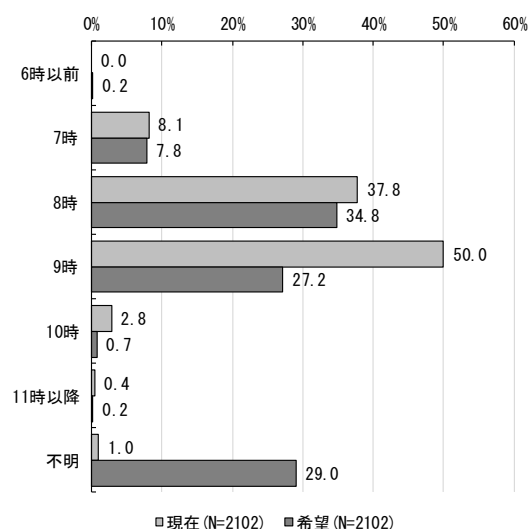
<現在・潜在家庭類型×1日あたりの利用時間>

	上段：度数 下段：%	合計	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間	13時間以上
現在 家族類型	Aひとり親家庭	114 100.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9	0 0.0	5 4.4	13 11.4	21 18.4	25 21.9	23 20.2	12 10.5	8 7.0	6 5.3	0 0.0
	Bフルタイム×フルタイム	542 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.4	6 1.1	32 5.9	52 9.6	81 14.9	114 21.0	126 23.2	98 18.1	30 5.5	1 0.2
	Cフルタイム×パートタイム	611 100.0	0 0.0	1 0.2	1 0.2	4 0.7	32 5.2	146 23.9	168 27.5	164 26.8	58 9.5	27 4.4	7 1.1	3 0.5	0 0.0
	C'フルタイム×パートタイム（短）	112 100.0	1 0.9	1 0.9	1 0.9	0 0.0	11 9.8	61 54.5	23 20.5	13 11.6	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	D専業主婦〔夫〕	377 100.0	0 0.0	2 0.5	7 1.9	7 1.9	79 21.0	232 61.5	31 8.2	14 3.7	2 0.5	2 0.5	0 0.0	1 0.3	0 0.0
	Eパート×パート	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	E'パート×パート（短）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	F無業×無業	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
潜在 家族類型	Aひとり親家庭	67 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.0	10 14.9	19 28.4	16 23.9	12 17.9	3 4.5	4 6.0	1 1.5
	Bフルタイム×フルタイム	436 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	10 2.3	36 8.3	76 17.4	84 19.3	103 23.6	74 17.0	40 9.2	12 2.8
	Cフルタイム×パートタイム	428 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	7 1.6	43 10.0	112 26.2	131 30.6	70 16.4	41 9.6	17 4.0	6 1.4	0 0.0
	C'フルタイム×パートタイム（短）	136 100.0	0 0.0	1 0.7	1 0.7	1 0.7	3 2.2	28 20.6	44 32.4	44 32.4	12 8.8	2 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	D専業主婦〔夫〕	212 100.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	1 0.5	10 4.7	72 34.0	62 29.2	52 24.5	8 3.8	4 1.9	1 0.5	1 0.5	0 0.0
	Eパート×パート	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	E'パート×パート（短）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	F無業×無業	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

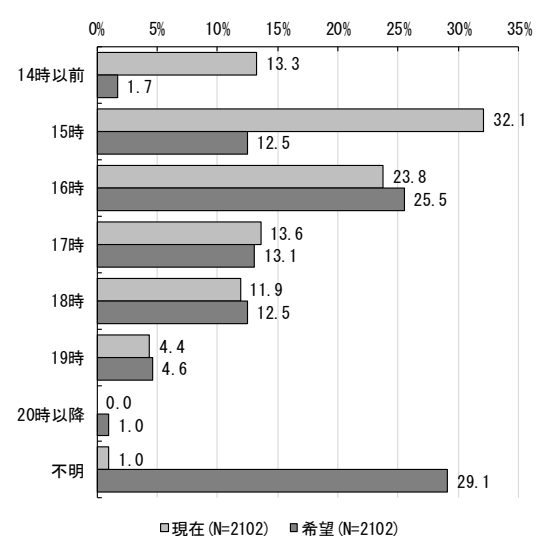
教育・保育の事業の通園時間についてみると、「9時」が50.0%、「8時」が37.8%となっています。通園の希望時間として、「9時」よりも「8時」が多くなっています。

退園時間についてみると、「15時」が32.1%、「16時」が23.8%と、15時から16時を合計すると過半数を超えています。退園の希望時間は、「15時」よりも「16時」が多くなっています。

(利用開始時間)



(利用終了時間)



特に「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」で通園時間を早くし、「幼稚園」「認可保育所」「認定こども園」で退園時間を遅くしたいとする傾向となっています。

＜現在と希望の教育・保育事業の利用×利用開始時間＞

	上段:度数 下段:%	合計	6時以前	7時	8時	9時	10時	11時以降
現在	幼稚園	826 100.0	0 0.0	3 0.4	152 18.4	636 77.0	30 3.6	5 0.6
	幼稚園の預かり保育	79 100.0	0 0.0	3 3.8	26 32.9	43 54.4	3 3.8	4 5.1
	認可保育所	1023 100.0	0 0.0	155 15.2	575 56.2	291 28.4	1 0.1	1 0.1
	認定こども園	101 100.0	0 0.0	3 3.0	24 23.8	73 72.3	0 0.0	1 1.0
	事業所内保育施設	35 100.0	0 0.0	4 11.4	21 60.0	9 25.7	0 0.0	1 2.9
	認可外の保育施設	46 100.0	0 0.0	1 2.2	12 26.1	25 54.3	7 15.2	1 2.2
	ファミリー・サポート・センター	7 100.0	0 0.0	4 57.1	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0
	その他	42 100.0	0 0.0	1 2.4	9 21.4	13 31.0	19 45.2	0 0.0
希望	幼稚園	612 100.0	1 0.2	6 1.0	266 43.5	327 53.4	9 1.5	3 0.5
	幼稚園の預かり保育	61 100.0	0 0.0	3 4.9	32 52.5	21 34.4	2 3.3	3 4.9
	認可保育所	711 100.0	4 0.6	140 19.7	400 56.3	167 23.5	0 0.0	0 0.0
	認定こども園	74 100.0	0 0.0	6 8.1	28 37.8	40 54.1	0 0.0	0 0.0
	事業所内保育施設	31 100.0	0 0.0	7 22.6	15 48.4	8 25.8	0 0.0	1 3.2
	認可外の保育施設	35 100.0	0 0.0	4 11.4	13 37.1	16 45.7	2 5.7	0 0.0
	ファミリー・サポート・センター	6 100.0	0 0.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0
	その他	26 100.0	0 0.0	0 0.0	10 38.5	14 53.8	2 7.7	0 0.0

＜現在と希望の教育・保育事業の利用×利用終了時間＞

	上段:度数 下段:%	合計	14時以前	15時	16時	17時	18時	19時	20時以降
現在	幼稚園	827 100.0	194 23.5	548 66.3	57 6.9	18 2.2	9 1.1	1 0.1	0 0.0
	幼稚園の預かり保育	79 100.0	7 8.9	21.0 26.6	23.0 29.1	18.0 22.8	9.0 11.4	1.0 1.3	0.0 0.0
	認可保育所	1023 100.0	6 0.6	91 8.9	388 37.9	234 22.9	215 21.0	89 8.7	0 0.0
	認定こども園	101 100.0	53 52.5	9.0 8.9	21.0 20.8	8.0 7.9	9.0 8.9	1.0 1.0	0.0 0.0
	事業所内保育施設	35 100.0	3 8.6	6 17.1	11 31.4	9 25.7	5 14.3	1 2.9	0 0.0
	認可外の保育施設	46 100.0	8 17.4	12 26.1	7 15.2	14 30.4	5 10.9	0 0.0	0 0.0
	ファミリー・サポート・センター	7 100.0	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	0 0.0
	その他	42 100.0	16 38.1	11.0 26.2	11.0 26.2	1.0 2.4	3.0 7.1	0.0 0.0	0.0 0.0
希望	幼稚園	612 100.0	25 4.1	187 30.6	283 46.2	83 13.6	30 4.9	3 0.5	1 0.2
	幼稚園の預かり保育	61 100.0	1 1.6	6 9.8	20 32.8	19 31.1	13 21.3	2 3.3	0 0.0
	認可保育所	711 100.0	0 0.0	42 5.9	199 28.0	163 22.9	203 28.6	86 12.1	18 2.5
	認定こども園	74 100.0	4 5.4	19 25.7	31 41.9	6 8.1	11 14.9	3 4.1	0 0.0
	事業所内保育施設	30 100.0	1 3.3	4 13.3	7 23.3	7 23.3	7 23.3	3 10.0	1 3.3
	認可外の保育施設	35 100.0	2 5.7	6 17.1	11 31.4	8 22.9	6 17.1	2 5.7	0 0.0
	ファミリー・サポート・センター	6 100.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7
	その他	26 100.0	3 11.5	7 26.9	8 30.8	5 19.2	3 11.5	0 0.0	0 0.0

家庭類型別についてみると、通園時間は、「8時」がAひとり親家庭で47.8%、Bフルタイム×フルタイムで53.6%となっています。「9時」がCフルタイム×パートタイムで50.8%、C'フルタイム×パートタイムで68.8%、D専業主婦〔夫〕で81.9%となっています。

退園時間としては「16時」がAひとり親家庭で27.8%、Cフルタイム×パートタイムで41.6%となっています。「18時」がBフルタイム×フルタイムで33.0%となっています。「15時」がC'フルタイム×パートタイムで58.0%、D専業主婦〔夫〕で63.3%となっています。

潜在家庭類型別についてみると、通園の希望時間は、「8時」がAひとり親家庭で56.1%、Bフルタイム×フルタイムで53.4%、Cフルタイム×パートタイムで53.3%、C'フルタイム×パートタイムで48.5%（9時と同率）となっています。「9時」がD専業主婦〔夫〕で65.1%となっています。

退園の希望時間は、「18時」がAひとり親家庭で28.8%、Bフルタイム×フルタイムで35.6%となっています。「16時」がAひとり親家庭で28.8%、Cフルタイム×パートタイムで43.9%、C'フルタイム×パートタイムで44.9%、D専業主婦〔夫〕で44.1%となっています。

特にCフルタイム×パートタイム、C'フルタイム×パートタイム、D専業主婦〔夫〕で通園時間を早くし、退園時間を遅くしたいとする傾向となっています。

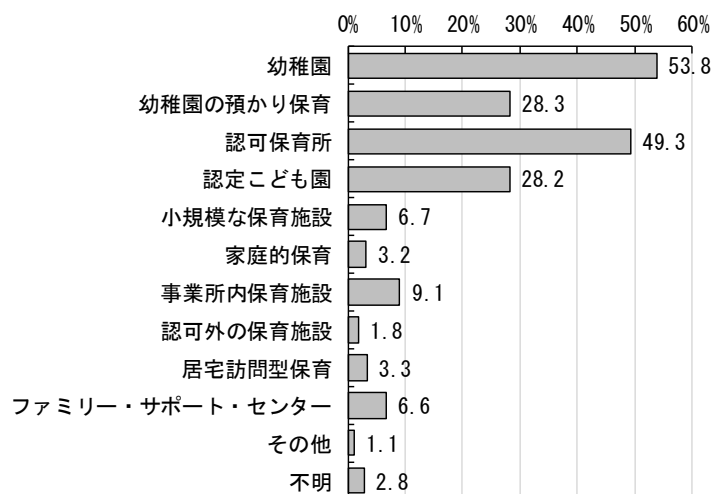
<現在・潜在家庭類型×利用開始・終了時間>

	上段：度数 下段：%	開始時間							終了時間						
		合計	6時以前	7時	8時	9時	10時	11時以降	14時以前	15時	16時	17時	18時	19時	20時以降
現在 家庭類型	Aひとり親家庭	115 100.0	0 0.0	13 11.3	55 47.8	44 38.3	3 2.6	0 0.0	8 7.0	18 15.7	32 27.8	25 21.7	21 18.3	11 9.6	0 0.0
	Bフルタイム×フルタイム	545 100.0	0 0.0	131 24.0	292 53.6	115 21.1	5 0.9	2 0.4	9 1.7	40 7.3	109 20.0	135 24.8	180 33.0	72 13.2	0 0.0
	Cフルタイム×パートタイム	616 100.0	0 0.0	16 2.6	275 44.6	313 50.8	11 1.8	1 0.2	59 9.6	181 29.4	256 41.6	84 13.6	31 5.0	5 0.8	0 0.0
	C'フルタイム×パートタイム（短）	112 100.0	0 0.0	0 0.0	30 26.8	77 68.8	2 1.8	3 2.7	22 19.6	65 58.0	18 16.1	6 5.4	1 0.9	0 0.0	0 0.0
	D専業主婦〔夫〕	376 100.0	0 0.0	2 0.5	41 10.9	308 81.9	25 6.6	0 0.0	110 29.3	238 63.3	22 5.9	4 1.1	1 0.3	1 0.3	0 0.0
	Eパート×パート	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	E'パート×パート（短）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	F無業×無業	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
潜在 家庭類型	Aひとり親家庭	66 100.0	0 0.0	10 15.2	37 56.1	19 28.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.0	19 28.8	18 27.3	19 28.8	7 10.6	1 1.5
	Bフルタイム×フルタイム	436 100.0	4 0.9	123 28.2	233 53.4	74 17.0	1 0.2	1 0.2	1 0.2	19 4.4	84 19.3	91 20.9	155 35.6	69 15.8	17 3.9
	Cフルタイム×パートタイム	430 100.0	0 0.0	25 5.8	229 53.3	174 40.5	2 0.5	0 0.0	8 1.9	68 15.9	188 43.9	98 22.9	51 11.9	14 3.3	1 0.2
	C'フルタイム×パートタイム（短）	136 100.0	0 0.0	0 0.0	66 48.5	66 48.5	2 1.5	2 1.5	5 3.7	43 31.6	61 44.9	21 15.4	6 4.4	0 0.0	0 0.0
	D専業主婦〔夫〕	212 100.0	0 0.0	1 0.5	67 31.6	138 65.1	6 2.8	0 0.0	12 5.6	84 39.4	94 44.1	16 7.5	5 2.3	2 0.9	0 0.0
	Eパート×パート	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	E'パート×パート（短）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	F無業×無業	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(18) 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。
 <複数回答>

(就学前児童調査…問 14)

「定期的に」利用したいと考える教育・保育の事業についてみると、「幼稚園」が53.8%、「認可保育所」が49.3%となっています。特に「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」の利用希望が現在の利用状況に比べて多くなっています。



□就学前児童 (N=3324)

<年齢・区域×定期的な教育・保育事業の利用希望>

	上段:度数 下段:%	合計	幼稚園	幼稚園の 預かり 保育	認可 保育所	認定 こども園	小規模な 保育施設	家庭的 保育	事業所内 保育施設	認可外の 保育施設	居宅訪問 型保育	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他
年齢別	0歳	531 100.0	293 55.2	140 26.4	325 61.2	185 34.8	52 9.8	20 3.8	63 11.9	13 2.4	18 3.4	31 5.8	6 1.1
	1歳	493 100.0	294 59.6	134 27.2	267 54.2	163 33.1	39 7.9	12 2.4	45 9.1	7 1.4	23 4.7	30 6.1	6 1.2
	2歳	551 100.0	305 55.4	170 30.9	277 50.3	156 28.3	46 8.3	27 4.9	56 10.2	14 2.5	26 4.7	41 7.4	7 1.3
	3歳	528 100.0	289 54.7	174 33.0	257 48.7	147 27.8	23 4.4	16 3.0	50 9.5	10 1.9	15 2.8	38 7.2	8 1.5
	4歳	557 100.0	293 52.6	158 28.4	245 44.0	145 26.0	25 4.5	14 2.5	41 7.4	7 1.3	11 2.0	39 7.0	4 0.7
	5歳	532 100.0	294 55.3	152 28.6	249 46.8	131 24.6	34 6.4	14 2.6	43 8.1	5 0.9	18 3.4	36 6.8	5 0.9
区域別	中央	565 100.0	314 55.6	173 30.6	270 47.8	187 33.1	44 7.8	20 3.5	51 9.0	7 1.2	26 4.6	43 7.6	9 1.6
	岡崎	481 100.0	307 63.8	159 33.1	225 46.8	131 27.2	33 6.9	12 2.5	44 9.1	14 2.9	12 2.5	35 7.3	6 1.2
	太平	404 100.0	228 56.4	124 30.7	219 54.2	96 23.8	37 9.2	10 2.5	39 9.7	5 1.2	8 2.0	29 7.2	4 1.0
	東部	334 100.0	166 49.7	76 22.8	198 59.3	88 26.3	26 7.8	13 3.9	30 9.0	8 2.4	16 4.8	22 6.6	3 0.9
	岩津	467 100.0	286 61.2	137 29.3	207 44.3	132 28.3	33 7.1	20 4.3	40 8.6	7 1.5	16 3.4	27 5.8	7 1.5
	矢作	459 100.0	251 54.7	134 29.2	234 51.0	139 30.3	24 5.2	12 2.6	49 10.7	5 1.1	13 2.8	32 7.0	4 0.9
	六ツ美	395 100.0	203 51.4	107 27.1	219 55.4	97 24.6	15 3.8	10 2.5	37 9.4	9 2.3	14 3.5	23 5.8	3 0.8
	額田	110 100.0	25 22.7	21 19.1	59 53.6	62 56.4	9 8.2	8 7.3	9 8.2	3 2.7	5 4.5	7 6.4	0 0.0

潜在家庭類型別についてみると、「認可保育所」がAひとり親家庭で65.4%、Bフルタイム×フルタイムで76.6%、Cフルタイム×パートタイムで65.0%となっています。

「幼稚園」がC'フルタイム×パートタイムで88.2%、D専業主婦〔夫〕で84.5%となっています。

「認可保育所」の利用が中心のAひとり親家庭、Bフルタイム×フルタイム、Cフルタイム×パートタイムとなっています。

<潜在家庭類型×定期的な教育・保育事業の利用希望>

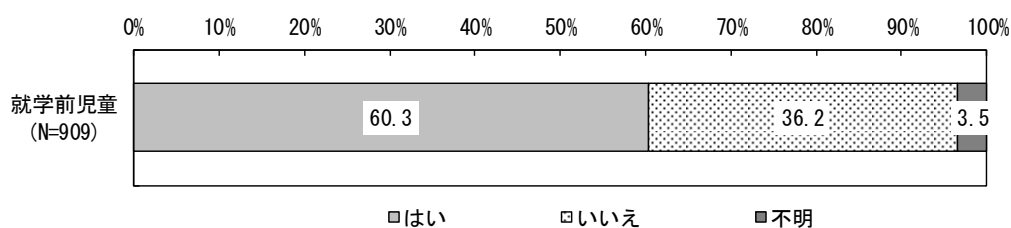
上段：度数 下段：%	合計	幼稚園	幼稚園の 預かり 保育	認可 保育所	認定 こども園	小規模な 保育施設	家庭的 保育	事業所内 保育施設	認可外の 保育施設	居宅訪問 型保育	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他
Aひとり親家庭	153 100.0	42 27.5	29 19.0	100 65.4	42 27.5	8 5.2	1 0.7	16 10.5	2 1.3	9 5.9	6 3.9	2 1.3
Bフルタイム× フルタイム	813 100.0	232 28.5	176 21.6	623 76.6	251 30.9	53 6.5	27 3.3	113 13.9	23 2.8	37 4.6	67 8.2	10 1.2
Cフルタイム× パートタイム	734 100.0	310 42.2	211 28.7	477 65.0	266 36.2	55 7.5	20 2.7	72 9.8	14 1.9	15 2.0	47 6.4	9 1.2
C'フルタイム× パートタイム（短）	221 100.0	195 88.2	111 50.2	12 5.4	26 11.8	8 3.6	4 1.8	15 6.8	0 0.0	4 1.8	15 6.8	4 1.8
D専業主婦（夫）	783 100.0	662 84.5	240 30.7	216 27.6	207 26.4	61 7.8	30 3.8	50 6.4	9 1.1	26 3.3	47 6.0	7 0.9
Eパート×パート	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
E'パート× パート（短）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
F無業×無業	5 100.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0

(19) 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。〈単数回答〉

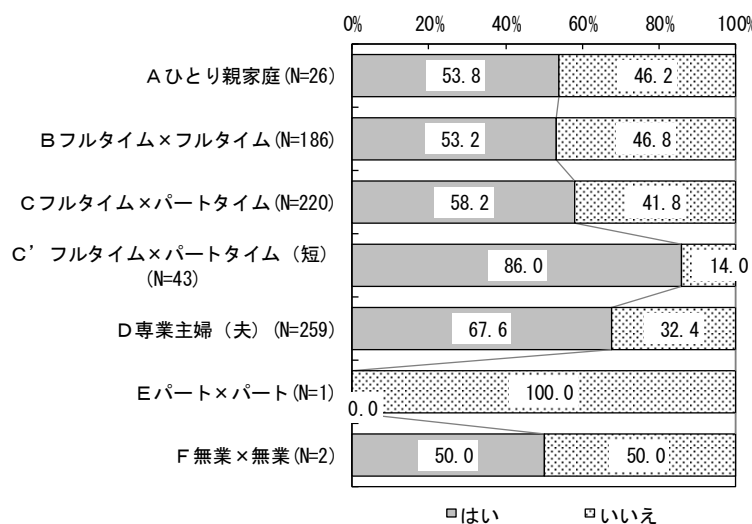
（就学前児童調査…問 14-1）

保育事業の利用にも希望をした人のうち、特に幼稚園の利用を強く希望する割合は 60.3% となっています。

潜在家庭類型別についてみると、C'フルタイム×パートタイムで 86.0%、D 専業主婦〔夫〕で 67.6%となっています。



<幼稚園の利用意向×潜在家庭類型>



※家庭類型 E'は該当者なし。

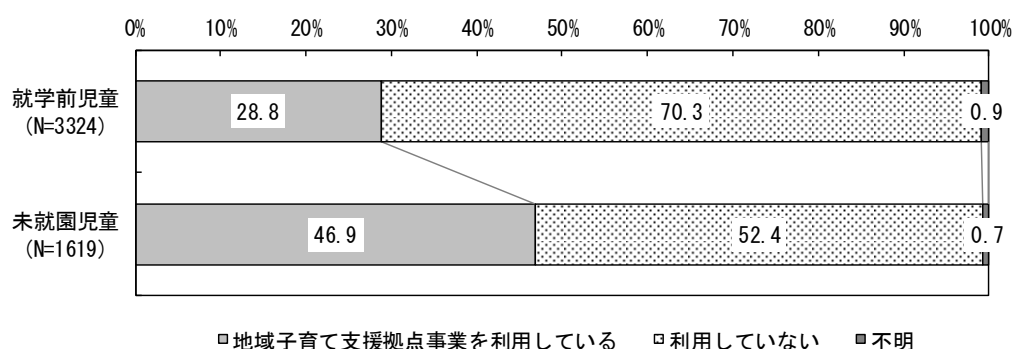
6. お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況についてうかがいます

(20) お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場（地域交流センター、げんき館などのプレイルーム）」「子育て支援センター」などと呼ばれています）を利用していますか。〈単数回答〉

（就学前児童調査…問 15）

地域子育て支援拠点事業の利用についてみると、未就園児童（0・1・2歳）で「地域子育て支援拠点事業を利用している」が46.9%となっています。

利用回数は1週あたり「1回」が17.8%、1か月あたり「1回」が33.1%となっています。



＜区域×地域子育て支援拠点事業の利用 未就園児童＞

上段：度数 下段：%	合計	地域子育て支援拠点事業を利用している	利用していない	不明
中央	257 100.0	121 47.1	136 52.9	0 0.0
岡崎	239 100.0	108 45.2	127 53.1	4 1.7
太平	219 100.0	114 52.1	105 47.9	0 0.0
東部	171 100.0	100 58.5	70 40.9	1 0.6
岩津	225 100.0	95 42.2	126 56.0	4 1.8
矢作	242 100.0	102 42.1	138 57.0	2 0.8
六ツ美	204 100.0	87 42.6	116 56.9	1 0.5
額田	56 100.0	30 53.6	26 46.4	0 0.0

（1週あたりもしくは1か月あたりの利用回数 未就園児童）

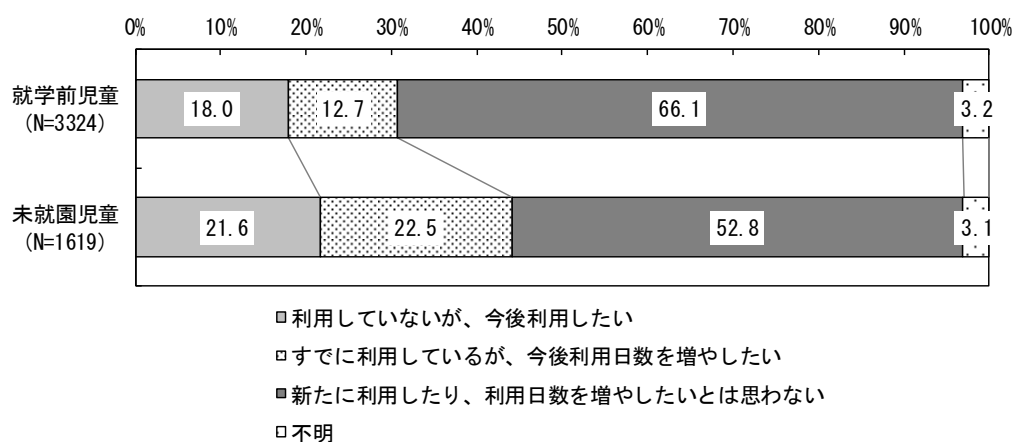
未就園児	1週あたりの利用回数 (N=759)		1か月あたりの利用回数 (N=759)	
	件数	%	件数	%
1回	135	17.8	251	33.1
2回	86	11.3	153	20.2
3回	37	4.9	64	8.4
4回	16	2.1	28	3.7
5回以上	9	1.2	53	7.0
不明	476	62.7	210	27.7

(21) 今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 16)

地域子育て支援拠点事業の今後の利用についてみると、未就園児童で「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が52.8%となっています。

今後利用したい回数は1週あたり「1回」が34.6%、1か月あたり「1回」が28.3%となっています。増やしたい回数としては、1週あたり「1回」が34.0%、1か月あたり「2回」が20.1%となっています。



〈地域×地域子育て支援拠点事業の利用希望 未就園児童〉

	合計	利用していないが、今後利用したい	すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	不明
上段:度数 下段:%					
中央	257 100.0	49 19.1	56 21.8	147 57.2	5 1.9
岡崎	239 100.0	48 20.1	53 22.2	131 54.8	7 2.9
太平	219 100.0	38 17.4	51 23.3	124 56.6	6 2.7
東部	171 100.0	34 19.9	46 26.9	84 49.1	7 4.1
岩津	225 100.0	65 28.9	51 22.7	97 43.1	12 5.3
矢作	242 100.0	50 20.7	43 17.8	140 57.9	9 3.7
六ツ美	204 100.0	46 22.5	50 24.5	106 52.0	2 1.0
額田	56 100.0	18 32.1	13 23.2	23 41.1	2 3.6

(1週あたりもしくは1か月あたりの利用希望回数 未就園児童)

未就園児童の 1週あたりの 利用希望回数	利用していないが、 今後利用したい (N=350)		すでに利用している が、今後利用回数を 増やしたい(N=364)	
	件数	%	件数	%
1回	121	34.6	119	34.0
2回	30	8.6	72	20.6
3回	7	2.0	21	6.0
4回	0	0.0	34	9.7
5回以上	1	0.3	16	4.6
不明	191	54.6	88	25.1

未就園児童の 1か月あたりの 利用希望回数	利用していないが、 今後利用したい (N=350)		すでに利用している が、今後利用回数を 増やしたい(N=364)	
	件数	%	件数	%
1回	103	28.3	39	10.7
2回	46	12.6	73	20.1
3回	16	4.4	36	9.9
4回	6	1.6	33	9.1
5回以上	6	1.6	34	9.3
不明	187	51.4	149	40.9

7. お子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望についてうかがいます

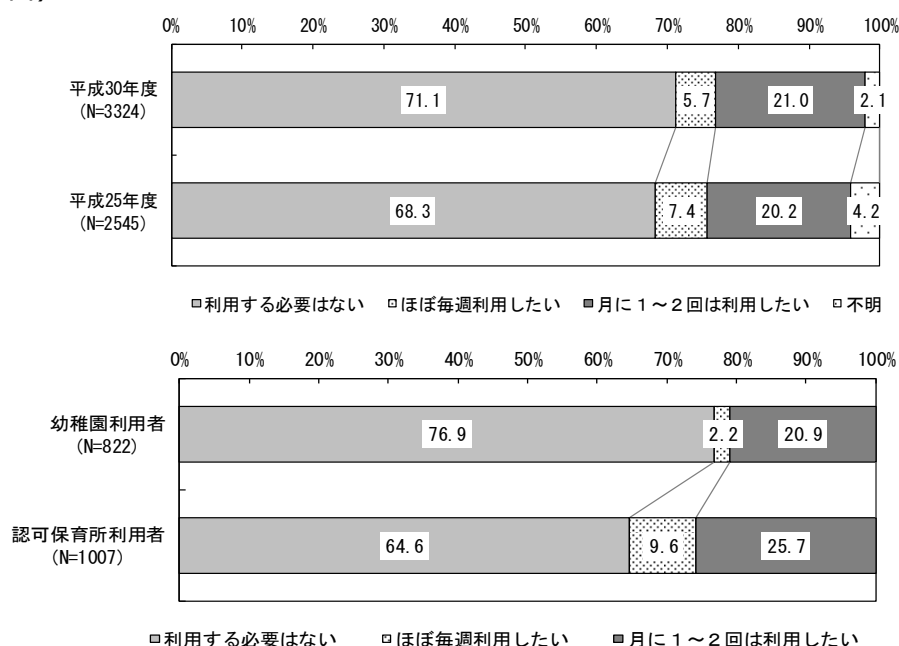
(22) お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。〈単数回答〉

（就学前児童調査…問 17）

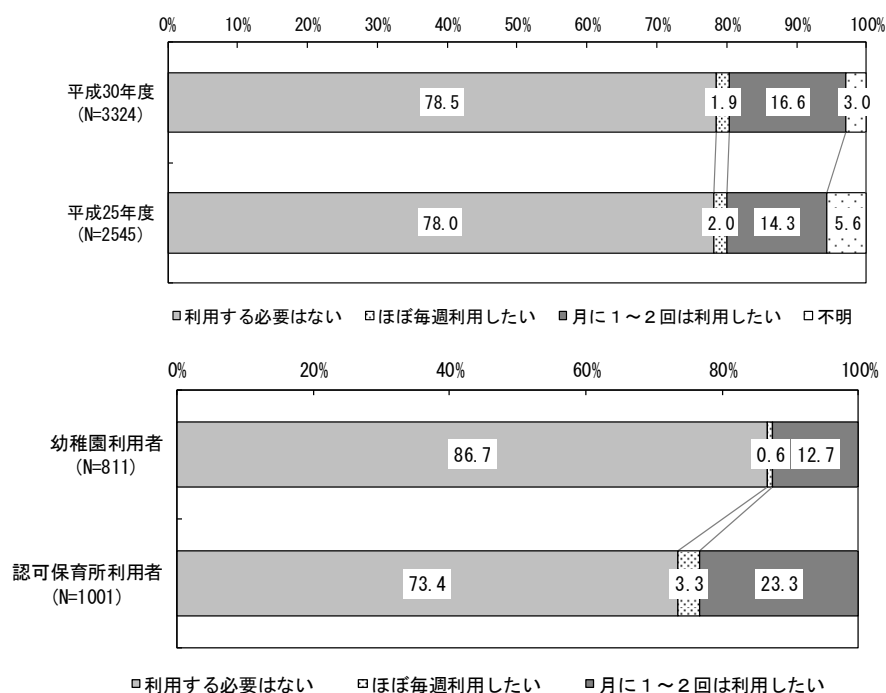
土曜・休日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、「利用する必要はない」が土曜日で71.1%、日曜日・祝日で78.5%となっています。

認可保育所利用者で土曜日と日曜日・祝日の定期的な利用希望が幼稚園利用者より多くなっています。なかでも、土曜日の利用希望は35.3%となっています。

（土曜日）



（日曜日・祝日）

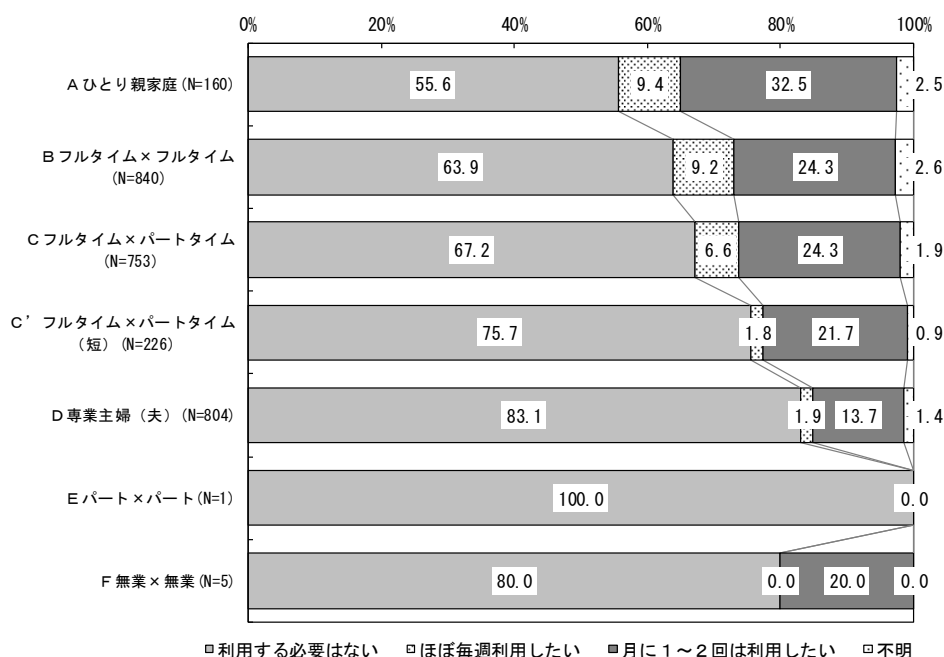


潜在家庭類型別にみると、土曜日では利用したい割合（「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合計）がAひとり親家庭で41.9%、Bフルタイム×フルタイムで33.5%、Cフルタイム×パートタイムで30.9%となっています。

日曜日・祝日では、利用したい割合がAひとり親家庭で27.5%、Bフルタイム×フルタイムで27.9%、Cフルタイム×パートタイムで18.2%となっています。

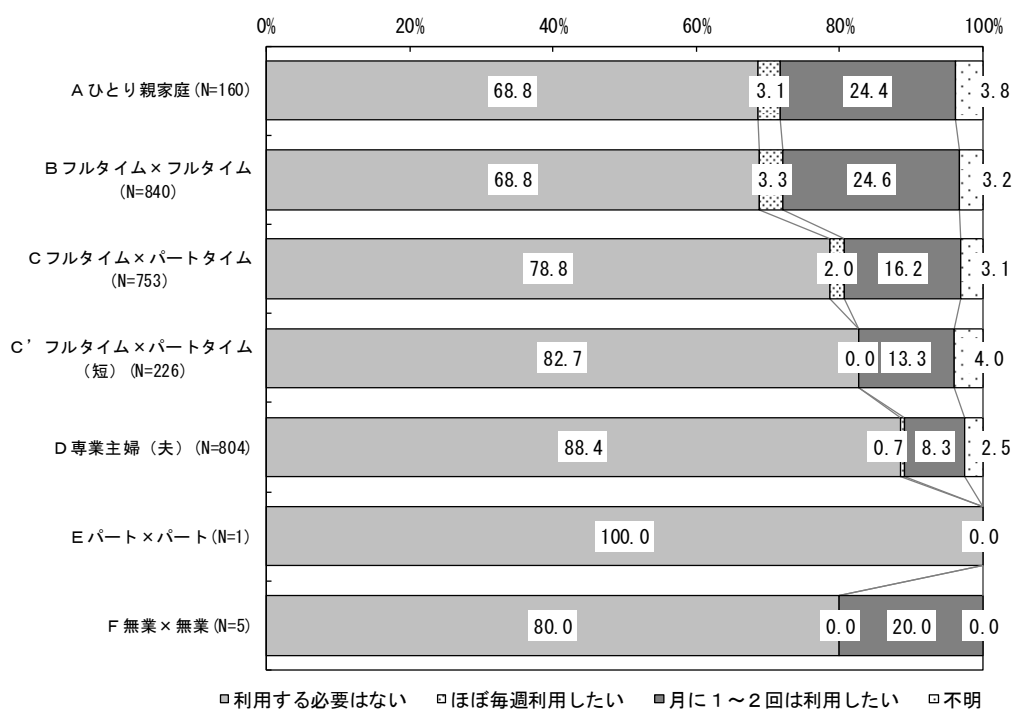
土曜日は、日曜日・祝日に比べて利用意向が多くなっています。

<潜在家庭類型×土曜日の定期的な利用>



※家庭類型E'は該当者なし。

<潜在家庭類型×日曜日・祝日の定期的な利用>



※家庭類型E'は該当者なし。

(利用したい時間帯 利用開始時間 就学前児童)

	土曜日 (N=890)		日曜日・祝日 (N=614)	
	件数	%	件数	%
6時以前	1	0.1	0	0.0
7時	85	9.6	95	15.5
8時	356	40.0	251	40.9
9時	377	42.4	220	35.8
10時	35	3.9	20	3.3
11時以降	10	1.1	6	1.0
不明	26	2.9	22	3.6

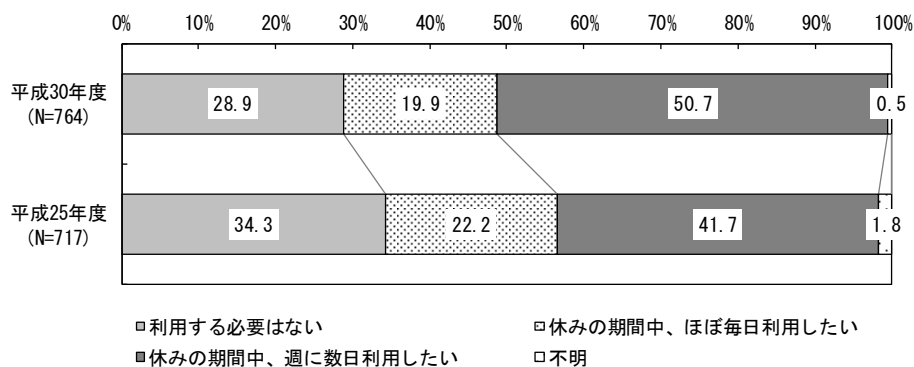
(利用したい時間帯 利用終了時間 就学前児童)

	土曜日 (N=890)		日曜日・祝日 (N=614)	
	件数	%	件数	%
14時以前	100	11.2	28	4.6
15時	145	16.3	81	13.2
16時	219	24.6	138	22.5
17時	184	20.7	152	24.8
18時	160	18.0	136	22.1
19時	51	5.7	51	8.3
20時以降	5	0.6	6	1.0
不明	26	2.9	22	3.6

(23) 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。
 <単数回答>

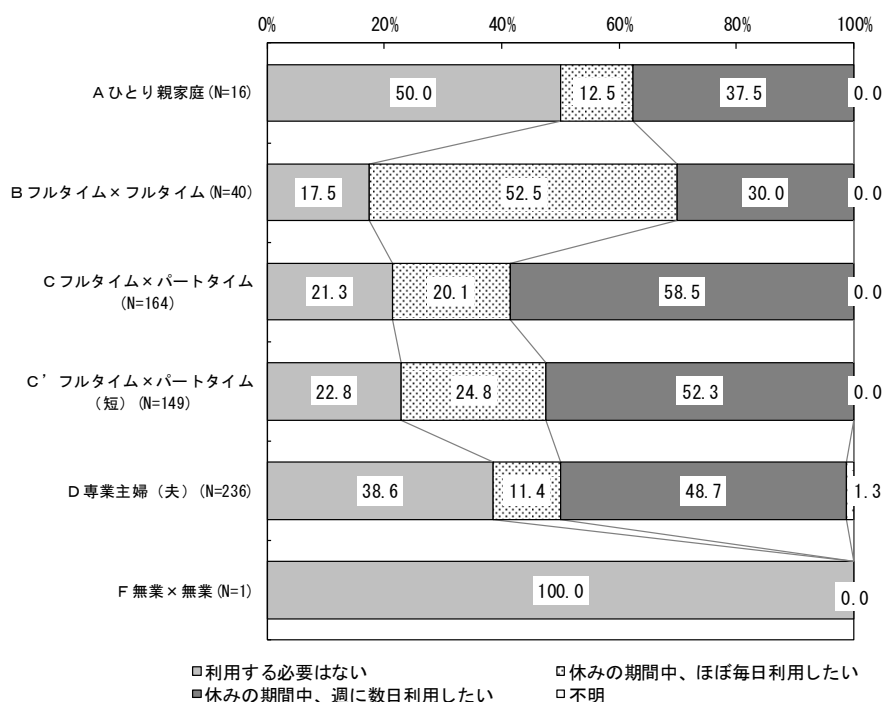
(就学前児童調査…問 18)

幼稚園を利用していると回答した人において、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望についてみると、「休みの期間中、週に数日利用したい」が50.7%、「利用する必要はない」が28.9%となっています。前回調査時に比べ、利用したい割合が増えています。



潜在家庭類型別にみると、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」がBフルタイム×フルタイムで52.5%となっています。利用したい時間帯は、開始時間「9時」が66.2%、終了時間「15時」が50.1%と多くなっています。

＜潜在家庭類型×夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望＞



※家庭類型 E および E' は該当者なし。

(利用したい時間帯)

就学前児童 (N=539)		
開始時間	件数	%
6時以前	0	0.0
7時	5	0.9
8時	155	28.8
9時	357	66.2
10時	17	3.2
11時以降	1	0.2
不明	4	0.7

就学前児童 (N=539)		
終了時間	件数	%
14時以前	44	8.2
15時	270	50.1
16時	161	29.9
17時	40	7.4
18時	18	3.3
19時	1	0.2
20時以降	1	0.2
不明	4	0.7

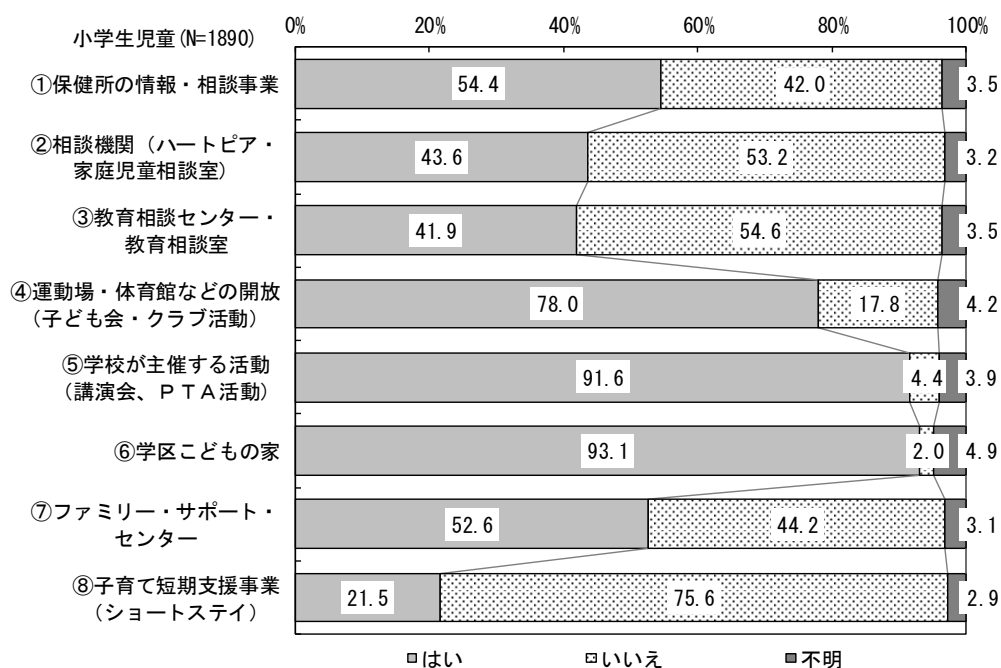
8. 子育て支援サービスの認知度についてうかがいます

(24)下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。①～⑧の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。〈単数回答〉

(小学生児童調査…問 12)

子育て支援サービスについて、「知っている」が「⑥学区こどもの家」で93.1%、「⑤学校が主催する活動」で91.6%、「④運動場・体育館などの開放」で78.0%となっています。

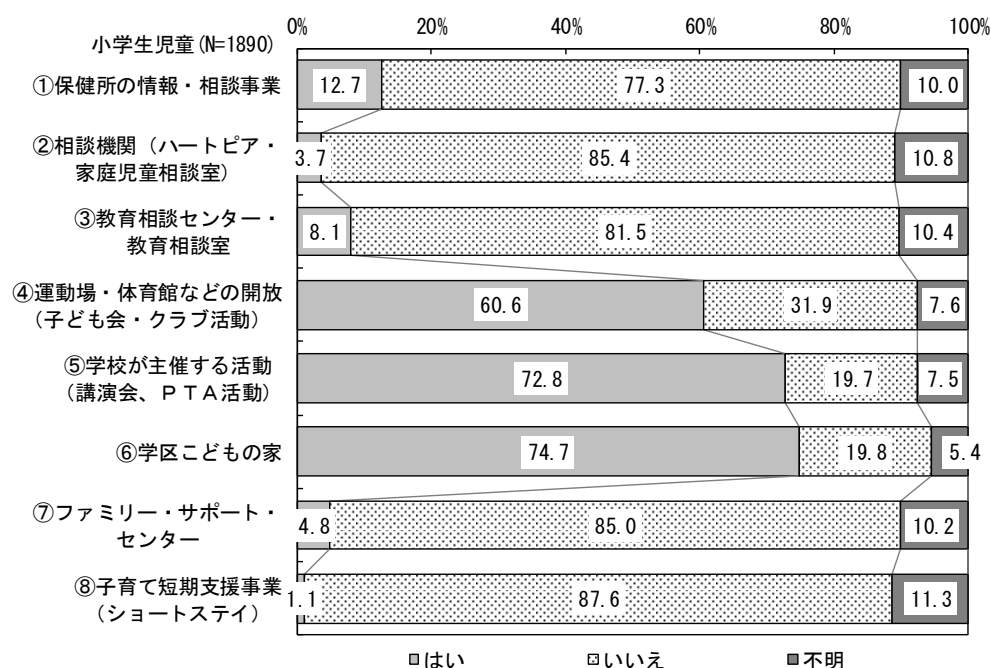
(A. 知っている)



子育て支援サービスについて、「これまでに利用したことがある」が「⑥学区こどもの家」で74.7%、「⑤学校が主催する活動」で72.8%、「④運動場・体育館などの開放」で60.6%となっています。

一方で、「⑦ファミリー・サポート・センター」は認知度が52.6%であり、利用は4.8%、「②相談機関」は認知度が43.6%であり、利用は3.7%となっています。

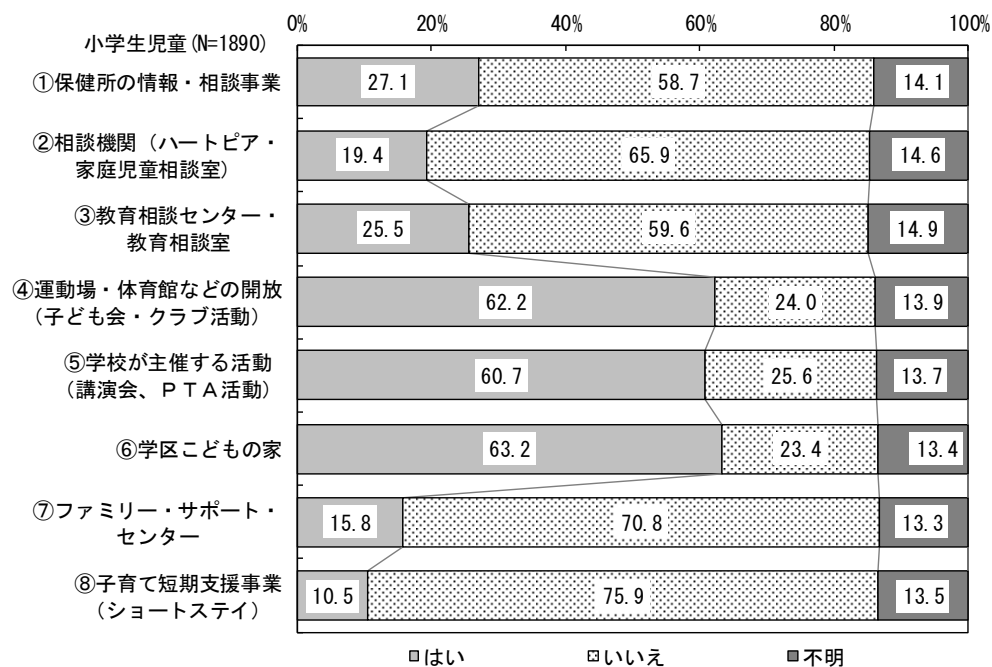
(B. これまでに利用したことがある)



子育て支援サービスについて、「今後利用したい」が「⑥学区こどもの家」で63.2%、「④運動場・体育館などの開放」で62.2%、「⑤学校が主催する活動」では60.7%となっています。

また、これまでの利用は少ないが、今後の利用意向として、「③教育相談センター・教育相談室」で25.5%、「②相談機関（ハートピア・家庭児童相談室）」で19.4%となっています。

(C. 利用したい)



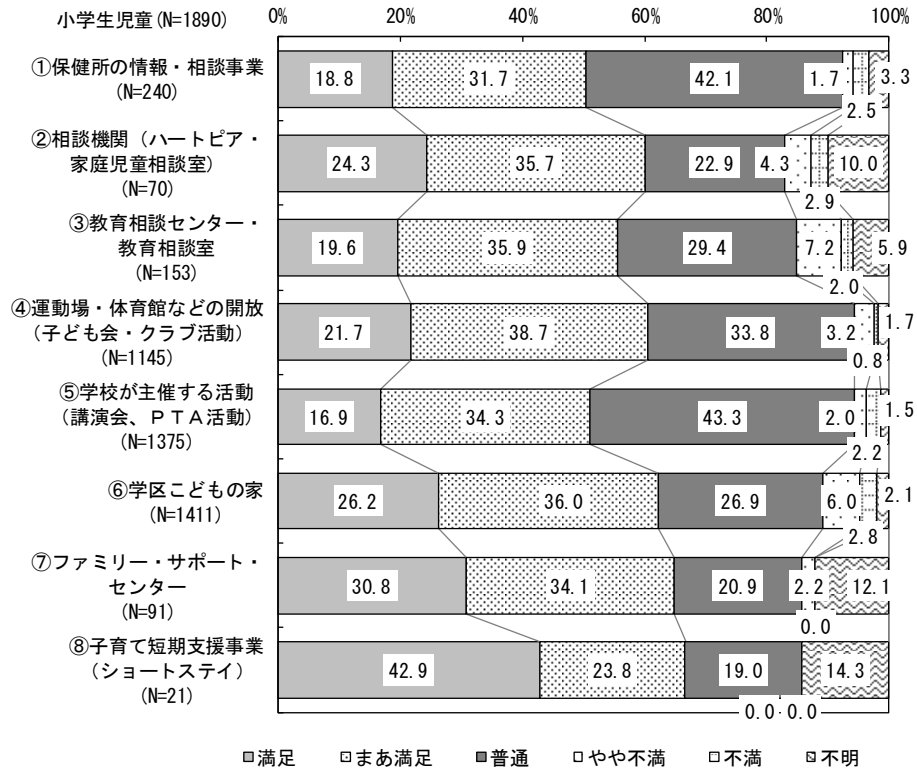
(25) 利用した際の満足度をお答えください。〈単数回答〉

(小学生児童調査…問 13)

子育て支援サービスの満足度についてみると、満足（「満足」と「まあ満足」の合計）が「⑧子育て短期支援事業」で66.7%、「⑦ファミリー・サポート・センター」で64.9%となっています。

一方で、不満（「やや不満」と「不満」の合計）が「③教育相談センター・教育相談室」で9.2%、「⑥学区こどもの家」で8.8%となっています。

(満足度)

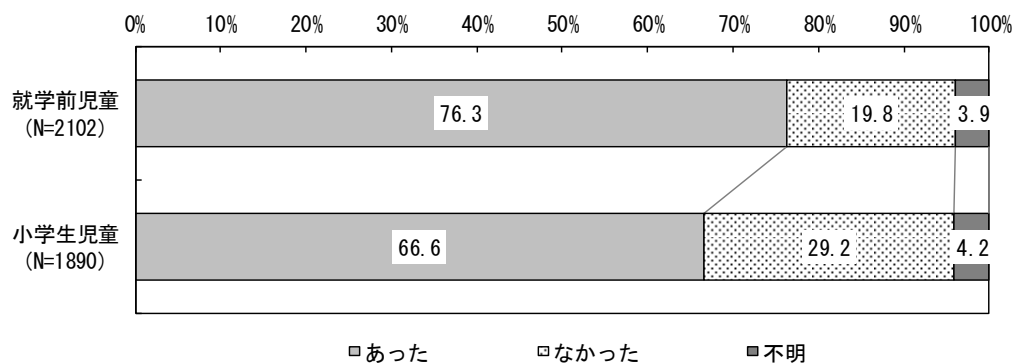


9. お子さんの病気の際の対応についてうかがいます (平日の教育・保育を利用する方のみ)

(26) この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 19 小学生児童調査…問 14)

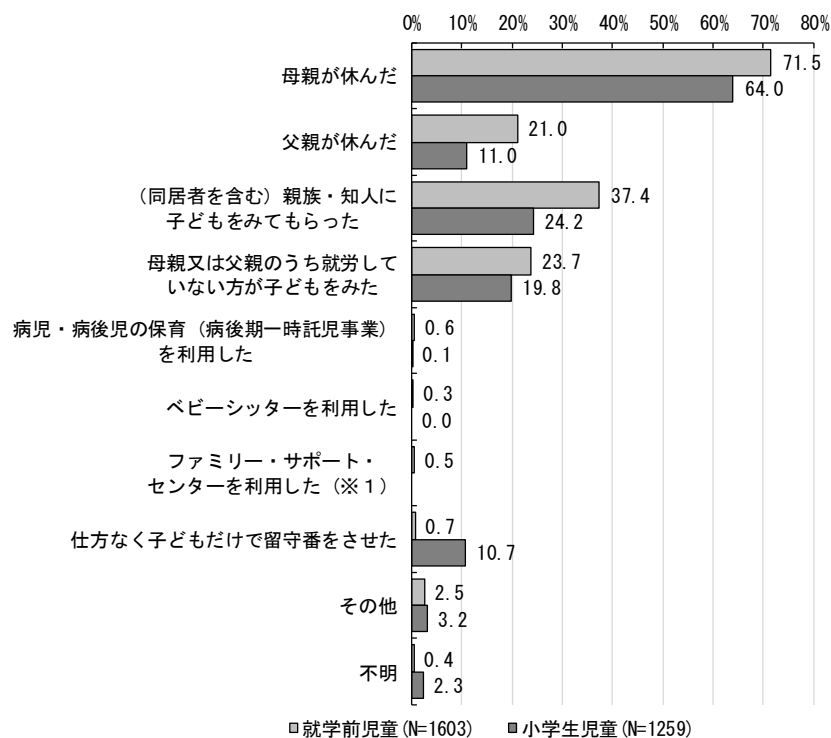
病気やケガで通常の事業が利用できなかったことや学校を休んだことがあるかについてみると、「あった」が就学前児童で76.3%、小学生児童で66.6%となっています。



(27) お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法〈複数回答〉

(就学前児童調査…問 19-1 小学生児童調査…問 14-1)

病気やけがの際の対処方法についてみると、「母親が休んだ」が就学前児童で71.5%、小学生児童で64.0%となっています。



(※1) …就学前児童のみの設問

対処した日数についてみると、「母親が休んだ」について、就学前児童では「10日以上」が27.7%、小学生児童では「1日」が34.1%となっています。

(対処した日数 就学前児童)

	母親が休んだ (N=1146)		父親が休んだ (N=336)		親族・知人に みてもらった (N=599)		就労していない方が 子どもをみた (N=380)		病児・病後児の保育 を利用した (N=9)		ベビーシッターを 利用した (N=5)		ファミリー・サポート・ センターを利用した (N=8)		仕方なく子どもだけで 留守番させた (N=12)		その他 (N=40)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	124	10.8	96	28.6	79	13.2	28	7.4	2	22.2	0	0.0	3	37.5	4	33.3	6	15.0
2日	138	12.0	84	25.0	101	16.9	59	15.5	3	33.3	1	20.0	1	12.5	4	33.3	7	17.5
3日	153	13.4	53	15.8	68	11.4	47	12.4	0	0.0	1	20.0	1	12.5	0	0.0	1	2.5
4日	47	4.1	7	2.1	27	4.5	10	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	16.7	2	5.0
5日	201	17.5	37	11.0	111	18.5	56	14.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	7.5
6日	20	1.7	5	1.5	15	2.5	15	3.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	49	4.3	8	2.4	24	4.0	26	6.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	7.5
8日	20	1.7	2	0.6	5	0.8	7	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	8.3	0	0.0
9日	5	0.4	0	0.0	1	0.2	2	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.5
10日以上	318	27.7	25	7.4	111	18.5	89	23.4	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	27.5
不明	71	6.2	19	5.7	57	9.5	41	10.8	3	33.3	3	60.0	3	37.5	1	8.3	6	15.0

(対処した日数 小学生児童)

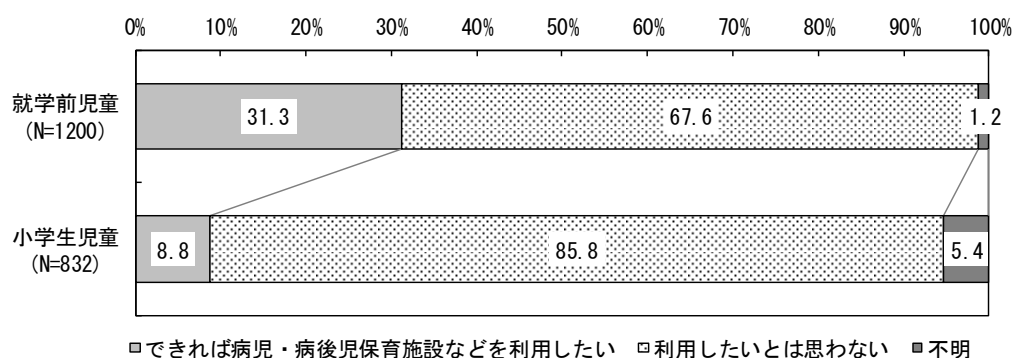
	母親が休んだ (N=806)		父親が休んだ (N=138)		親族・知人に みてもらった (N=305)		就労していない方が 子どもをみた (N=249)		ベビーシッターを 利用した (N=0)		病後期一時託児事業 を利用した (N=1)		仕方なく子どもだけで 留守番させた (N=135)		その他 (N=40)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	275	34.1	81	58.7	113	37.0	69	27.7	0	0.0	0	0.0	60	44.4	16	40.0
2日	145	18.0	25	18.1	72	23.6	36	14.5	0	0.0	1	100.0	30	22.2	5	12.5
3日	110	13.6	14	10.1	52	17.0	35	14.1	0	0.0	0	0.0	17	12.6	6	15.0
4日	53	6.6	2	1.4	8	2.6	12	4.8	0	0.0	0	0.0	2	1.5	2	5.0
5日	102	12.7	8	5.8	28	9.2	35	14.1	0	0.0	0	0.0	9	6.7	2	5.0
6日	5	0.6	1	0.7	2	0.7	7	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	30	3.7	1	0.7	3	1.0	14	5.6	0	0.0	0	0.0	3	2.2	1	2.5
8日	3	0.4	0	0.0	0	0.0	5	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.7	0	0.0
9日	1	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	53	6.6	0	0.0	11	3.6	18	7.2	0	0.0	0	0.0	1	0.7	0	0.0
不明	29	3.6	6	4.3	16	5.2	17	6.8	0	0.0	0	100.0	12	8.9	8	20.0

(28) その際、「できれば病児・病後児のための保育施設（小学生児童の場合は、病後児一時託児事業）などを利用したい」と思われましたか。＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 19-2 小学生児童調査…問 14-2)

父親が母親のいずれかが休んだと回答した人において、病児・病後児のための保育施設などを利用したいかについてみると、「利用したいとは思わない」が就学前児童で67.6%、小学生児童で85.8%となっています。

「病児・病後児保育施設などを利用したい」と答えた人の利用希望日数は、就学前児童で「10日以上」が23.2%、小学生児童で「1日」が31.9%となっています。



(利用希望日数 就学前児童)

就学前児童 (N=375)		
	件数	%
1日	38	10.1
2日	50	13.3
3日	72	19.2
4日	12	3.2
5日	66	17.6
6日	4	1.1
7日	23	6.1
8日	1	0.3
9日	0	0.0
10日以上	87	23.2
不明	22	5.9

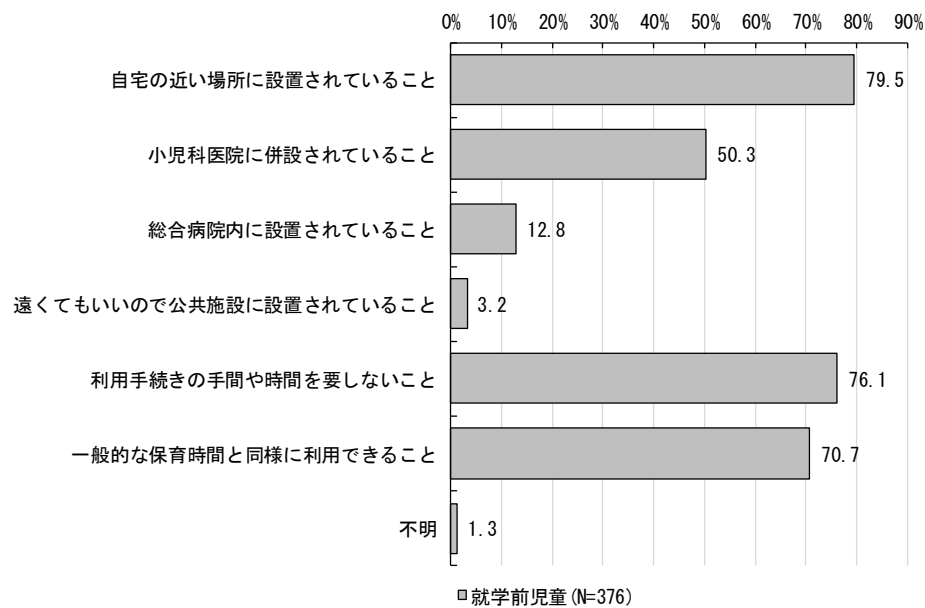
(利用希望日数 小学生児童)

小学生児童 (N=72)		
	件数	%
1日	23	31.9
2日	16	22.2
3日	15	20.8
4日	1	1.4
5日	6	8.3
6日	0	0.0
7日	6	8.3
8日	0	0.0
9日	0	0.0
10日以上	2	2.8
不明	3	4.2

(29) 病児・病後児保育施設について、希望する条件はありますか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 19-3)

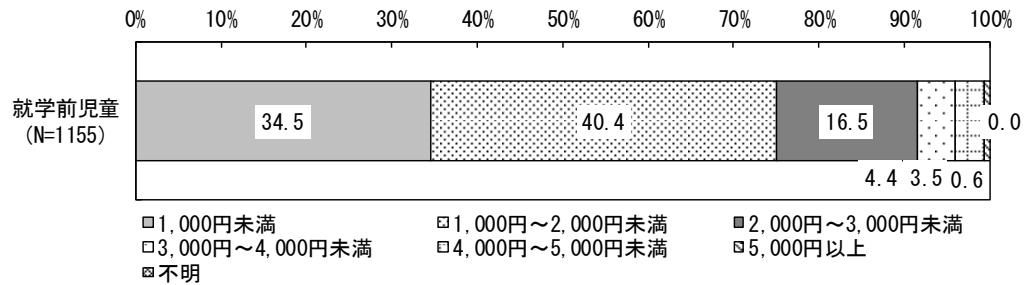
病児・病後児保育施設の希望条件についてみると、「自宅の近い場所に設置されていること」が79.5%、「利用手続きの手間や時間を要しないこと」が76.1%となっています。



(30) 病児・病後児保育施設を利用しようとする場合、1回あたりの利用料金がいくらまでなら利用されますか。＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 19-4)

病児・病後児保育施設の1回あたりの利用料金についてみると、「1,000～2,000 円未満」が 40.4%、「1,000 円未満」が 34.5%となっています。



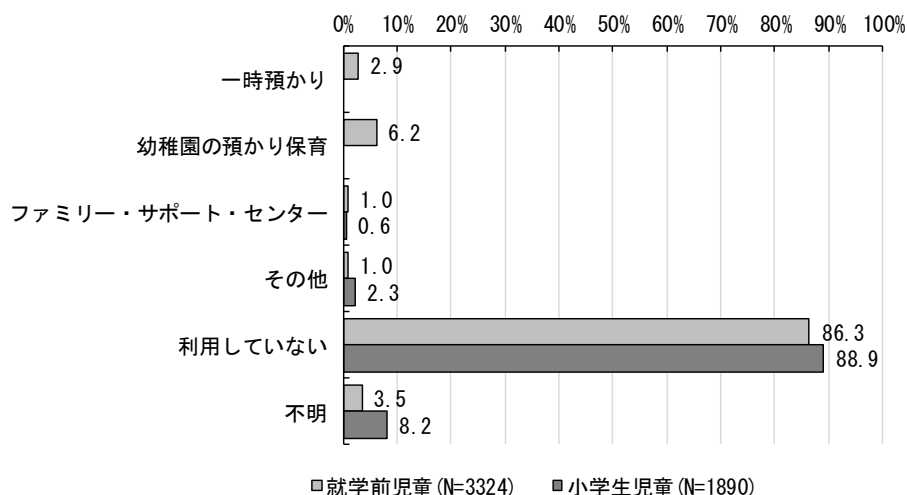
10. お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用についてうかがいます

(31) お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不 定期の就労などの目的で不定期に利用している事業はありますか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 20 小学生児童調査…問 15)

私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用している事業についてみると、「利用していない」が就学前児童で 86.3%、小学生児童で 88.9%となっています。

必要となった場合に利用している事業については、「幼稚園の預かり保育」、保育所などの「一時預かり」となっています。



(1 年間の利用日数 就学前児童)

	一時預かり (N=98)		幼稚園の預かり保育 (N=205)		ファミリー・サポート・センター (N=34)		その他 (N=32)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	12	12.2	15	7.3	5	14.7	2	6.3
2日	8	8.2	20	9.8	8	23.5	3	9.4
3日	7	7.1	22	10.7	5	14.7	2	6.3
4日	4	4.1	1	0.5	0	0.0	0	0.0
5日	8	8.2	18	8.8	4	11.8	3	9.4
6日	3	3.1	7	3.4	1	2.9	1	3.1
7日	3	3.1	2	1.0	1	2.9	1	3.1
8日	0	0.0	1	0.5	1	2.9	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	21	21.4	42	20.5	1	2.9	5	15.6
20～29日	8	8.2	20	9.8	0	0.0	2	6.3
30日以上	18	18.4	47	22.9	4	11.8	6	18.8
不明	6	6.1	10	4.9	4	11.8	7	21.9

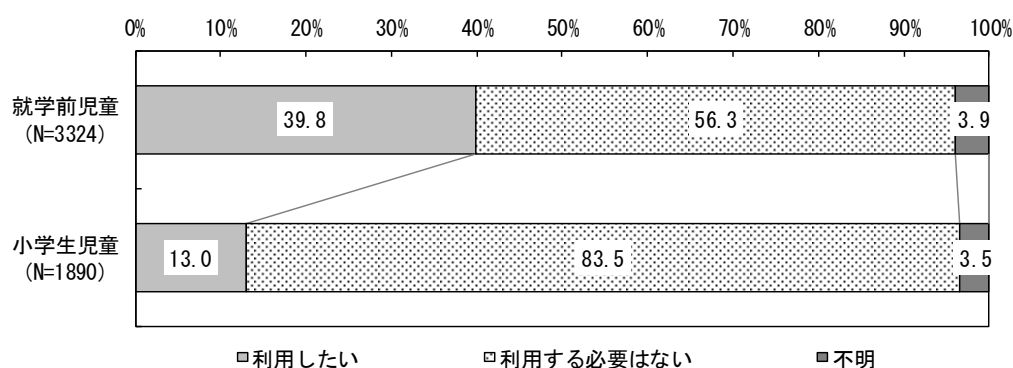
(1 年間の利用日数 小学生児童)

	ファミリー・サポート・センター (N=11)		その他 (N=43)	
	件数	%	件数	%
1日	2	18.2	5	11.6
2日	1	9.1	2	4.7
3日	0	0.0	3	7.0
4日	1	9.1	2	4.7
5日	1	9.1	6	14.0
6日	0	0.0	0	0.0
7日	1	9.1	0	0.0
8日	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0
10～19日	0	0.0	9	20.9
20～29日	1	9.1	3	7.0
30日以上	1	9.1	9	20.9
不明	3	27.3	4	9.3

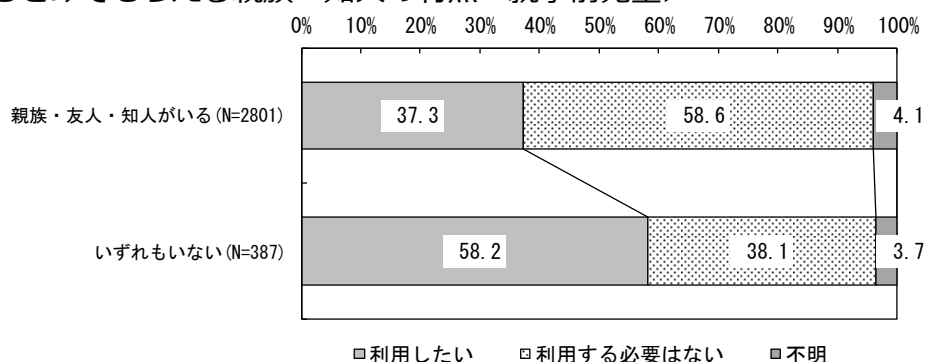
(32) お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 21 小学生児童調査…問 16)

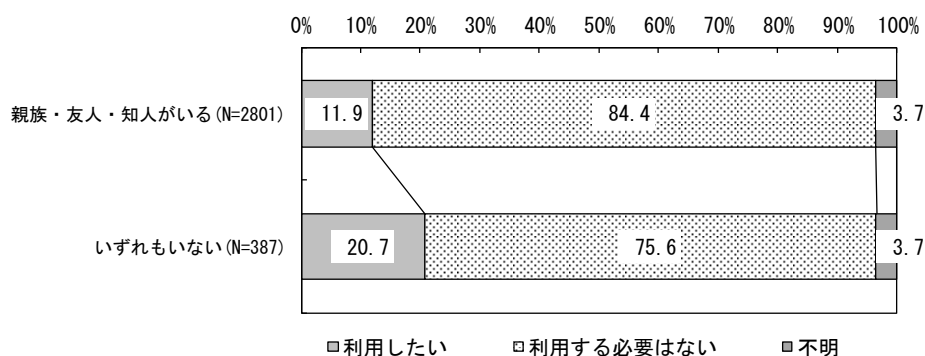
私用、親の通院、不定期の就労などの目的で事業を利用する必要があるかについてみると、「利用したい」が就学前児童で 39.8%、小学生児童で 13.0%となっています。なかでも、日頃、子どもをみてもらえる親族・友人のいずれもいないと回答した人で、「利用したい」が就学前児童で 58.2%、小学生児童で 20.7%となっています。



〈子どもをみてもらえる親族・知人の有無 就学前児童〉



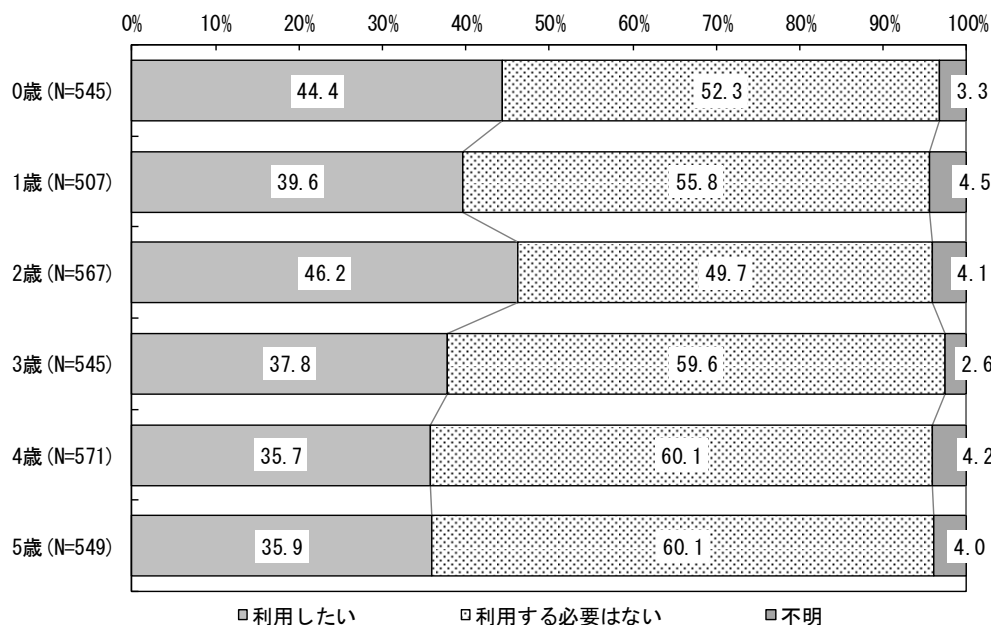
〈子どもをみてもらえる親族・知人の有無 小学生児童〉



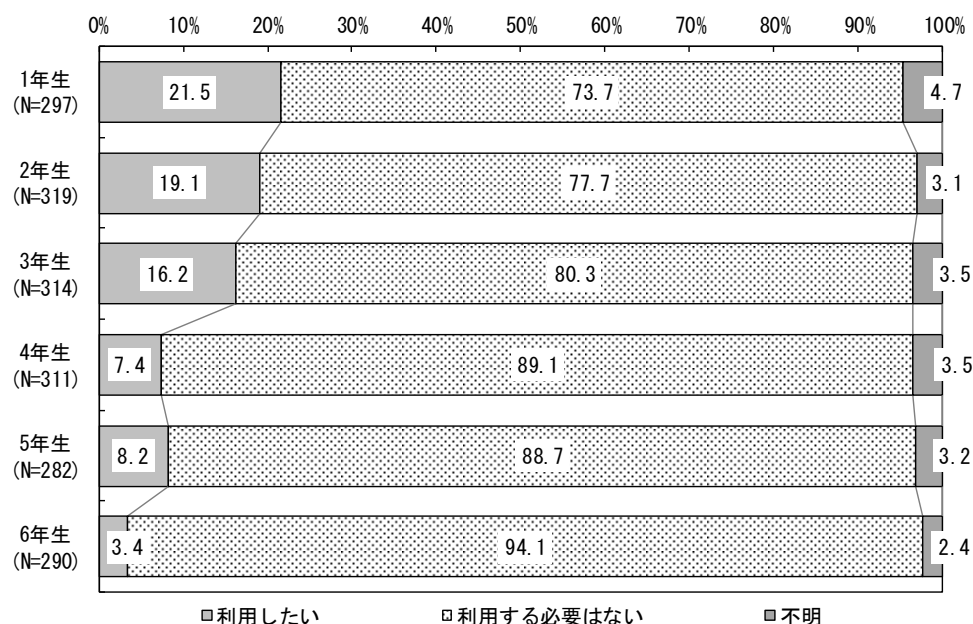
子どもの年齢別についてみると、就学前児童では0～2歳で4割程度となっており、3～5歳では4割弱となっています。

小学生児童では「1年生」で21.5%と最も多く、4年生以上になると1割未満となっています。

<子どもの年齢×利用意向 就学前児童>



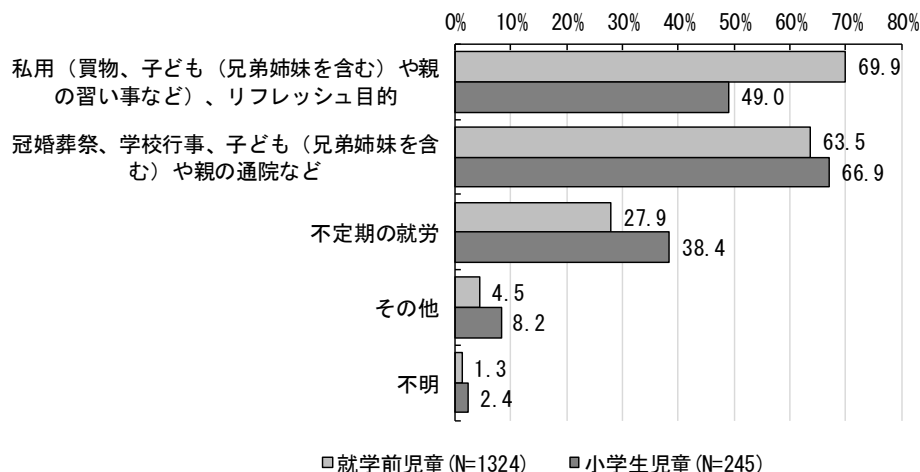
<子どもの年齢×利用意向 小学生児童>



利用目的としては、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」が就学前児童で 63.5%、小学生児童で 66.9%となっています。就学前児童では、「私用、リフレッシュ目的」で小学生児童より多く、「不定期の就労」で小学生児童より少なくなっています。

利用したい年間日数としては「10～19 日」が就学前児童で 33.3%、小学生児童で 25.7%となっています。

(利用する目的 複数回答)



(利用意向日数 就学前児童)

	年間合計 (N=1324)		私用（買物、子どもや親の習い事）、リフレッシュ目的 (N=925)		冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など (N=841)		不定期の就労 (N=370)		その他 (N=60)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	24	1.8	38	4.1	39	4.6	8	2.2	7	11.7
2日	67	5.1	62	6.7	78	9.3	22	5.9	10	16.7
3日	70	5.3	74	8.0	102	12.1	35	9.5	6	10.0
4日	33	2.5	19	2.1	19	2.3	10	2.7	0	0.0
5日	99	7.5	128	13.8	192	22.8	48	13.0	7	11.7
6日	48	3.6	45	4.9	41	4.9	8	2.2	0	0.0
7日	29	2.2	14	1.5	29	3.4	6	1.6	2	3.3
8日	15	1.1	1	0.1	4	0.5	0	0.0	0	0.0
9日	8	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	441	33.3	351	37.9	245	29.1	88	23.8	5	8.3
20～29日	193	14.6	74	8.0	31	3.7	29	7.8	7	11.7
30～39日	60	4.5	16	1.7	9	1.1	25	6.8	1	1.7
40～49日	44	3.3	29	3.1	8	1.0	18	4.9	3	5.0
50日以上	123	9.3	27	2.9	6	0.7	48	13.0	5	8.3
不明	70	5.3	47	5.1	38	4.5	25	6.8	7	11.7

(利用意向日数 小学生児童)

	年間合計 (N=245)		私用（買物、子どもや親の習い事）、リフレッシュ目的 (N=120)		冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など (N=164)		不定期の就労 (N=94)		その他 (N=20)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	14	5.7	7	5.8	11	6.7	3	3.2	0	0.0
2日	19	7.8	11	9.2	24	14.6	6	6.4	3	15.0
3日	18	7.3	16	13.3	27	16.5	10	10.6	1	5.0
4日	8	3.3	3	2.5	2	1.2	4	4.3	0	0.0
5日	30	12.2	28	23.3	33	20.1	13	13.8	5	25.0
6日	11	4.5	7	5.8	7	4.3	3	3.2	1	5.0
7日	7	2.9	3	2.5	1	0.6	3	3.2	1	5.0
8日	4	1.6	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.0
9日	3	1.2	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	63	25.7	31	25.8	45	27.4	25	26.6	3	15.0
20～29日	21	8.6	4	3.3	5	3.0	4	4.3	1	5.0
30～39日	19	7.8	3	2.5	1	0.6	6	6.4	2	10.0
40～49日	3	1.2	4	3.3	0	0.0	3	3.2	0	0.0
50日以上	17	6.9	1	0.8	0	0.0	7	7.4	1	5.0
不明	8	3.3	1	0.8	8	4.9	6	6.4	2	10.0

(33) この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先がみつからなかった場合も含む）。

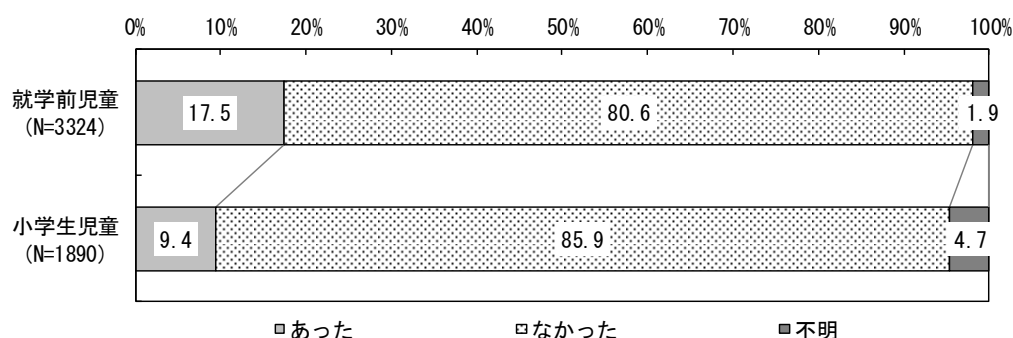
（就学前児童調査…問 22 小学生児童調査…問 17）

保護者の用事により、泊りがけで家族以外にみてもらうことの有無についてみると、「あった」が就学前児童で 17.5%、小学生児童で 9.4%となっています。

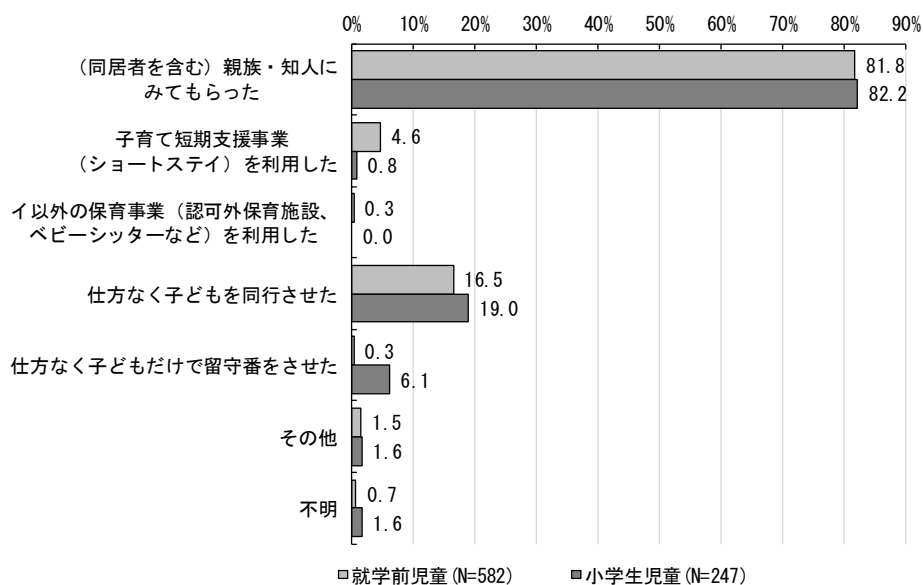
対処方法としては、「親族・知人にみてもらった」が就学前児童で 81.8%、小学生児童で 82.2%となっています。小学生児童で、「仕方なく子どもを同行させた」が就学前児童より多くなっています。

宿泊数としては、「1～2泊」が就学前児童、小学生児童ともに多くなっています。

（泊りがけで子どもをみてもらったことの有無 単数回答）



（対処方法 複数回答）



(宿泊数 就学前児童)

	親族・知人に みてもらった (N=477)		子育て短期支援事業 を利用した (N=27)		子育て短期支援事業 以外の保育事業を 利用した (N=2)		仕方なく子どもを 同行させた (N=96)		仕方なく子どもだけで 留守番させた (N=2)		その他 (N=9)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	143	30.0	1	3.7	0	0.0	31	32.3	2	100.0	2	22.2
2泊	86	18.0	2	7.4	1	50.0	23	24.0	0	0.0	2	22.2
3泊	52	10.9	0	0.0	0	0.0	11	11.5	0	0.0	1	11.1
4泊	26	5.5	0	0.0	1	50.0	2	2.1	0	0.0	1	11.1
5泊	48	10.1	1	3.7	0	0.0	10	10.4	0	0.0	1	11.1
6泊	15	3.1	1	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1
7泊	27	5.7	0	0.0	0	0.0	4	4.2	0	0.0	0	0.0
8泊	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	3	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19泊	36	7.5	2	7.4	0	0.0	3	3.1	0	0.0	0	0.0
20～29泊	7	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30泊以上	16	3.4	0	0.0	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0
不明	17	3.6	20	74.1	0	0.0	11	11.5	0	0.0	1	11.1

(宿泊数 小学生児童)

	親族・知人に みてもらった (N=203)		子育て短期支援事業 を利用した (N=2)		子育て短期支援事業 以外の保育事業を 利用した (N=0)		仕方なく子どもを 同行させた (N=47)		仕方なく子どもだけで 留守番させた (N=15)		その他 (N=4)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	79	38.9	0	0.0	0	0.0	16	34.0	8	53.3	1	25.0
2泊	33	16.3	0	0.0	0	0.0	16	34.0	3	20.0	1	25.0
3泊	17	8.4	0	0.0	0	0.0	4	8.5	0	0.0	0	0.0
4泊	14	6.9	0	0.0	0	0.0	1	2.1	0	0.0	0	0.0
5泊	21	10.3	0	0.0	0	0.0	2	4.3	0	0.0	1	25.0
6泊	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊	7	3.4	0	0.0	0	0.0	1	2.1	0	0.0	0	0.0
8泊	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19泊	13	6.4	1	50.0	0	0.0	4	8.5	1	6.7	1	25.0
20～29泊	7	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30泊以上	4	2.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	1	6.7	0	0.0
不明	6	3.0	0	0.0	0	0.0	3	6.4	2	13.3	0	0.0

11. 放課後の過ごし方（就学前児童の場合は、5歳以上）について

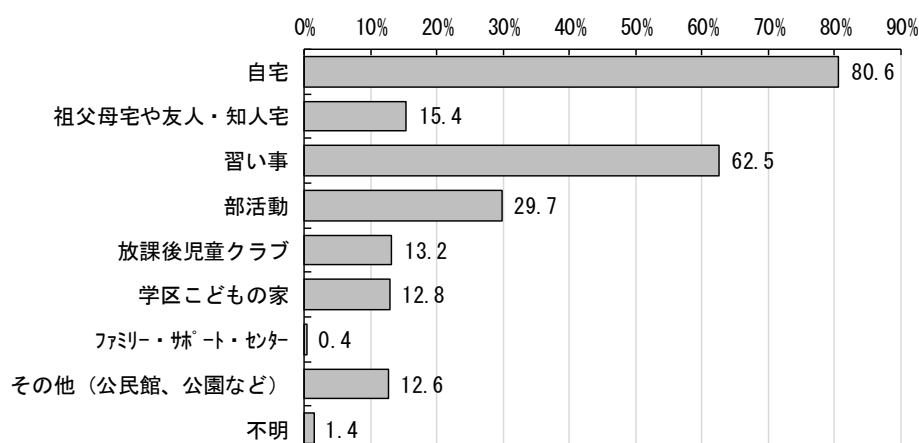
（34）宛名のお子さんについて、小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。＜複数回答＞

（就学前児童調査…問 23 小学生児童調査…問 18）

小学生児童の現在の放課後の過ごし方についてみると、「自宅」が80.6%、「習い事」が62.5%となっています。

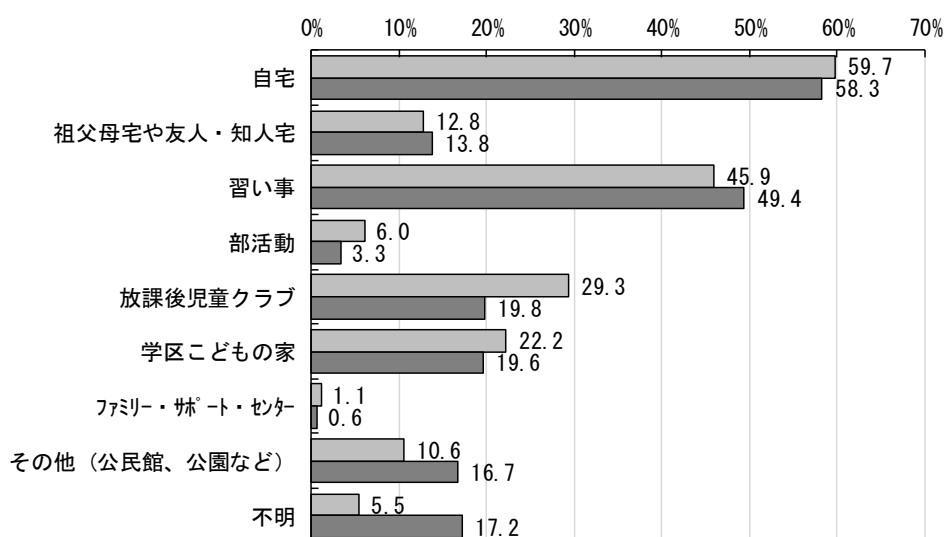
希望の放課後の過ごし方についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「自宅」が最も多く、次いで「習い事」となっています。また、「放課後児童クラブ」は就学前児童で29.3%、小学生児童で19.8%、「学区こどもの家」は就学前児童で22.2%、小学生児童で19.6%となっています。

（現在の過ごし方）



□ 小学生児童 (N=1890)

（希望の過ごし方 低学年）



□ 就学前児童 (N=549) ■ 小学生児童 (N=930)

※小学生児童は、低学年（1～3年）のみを集計

潜在家庭類型別に希望の放課後の過ごし方についてみると、「放課後児童クラブ」が B フルタイム×フルタイムで就学前児童 67.2%、小学生児童 46.2%と多く、A ひとり親家庭で就学前児童 54.5%、小学生児童 51.8%となっています。

「学区こどもの家」が C' フルタイム×パートタイムで就学前児童 38.6%、小学生児童 33.3%と多く、C フルタイム×パートタイムで就学前児童 26.3%、小学生児童 27.8%となっています。

<潜在家庭類型×希望の過ごし方（低学年） 就学前児童>

上段：度数 下段：%	合計	自宅	祖父母宅 や友人・ 知人宅	習い事	部活動	放課後児 童クラブ	学区こど もの家	ファミリー・サ ポート・セン ター	その他 （公民 館、公園 など）
A ひとり親家庭	44 100.0	18 40.9	7 15.9	12 27.3	2 4.5	24 54.5	10 22.7	0 0.0	1 2.3
B フルタイム× フルタイム	119 100.0	38 31.9	13 10.9	29 24.4	3 2.5	80 67.2	19 16.0	3 2.5	3 2.5
C フルタイム× パートタイム	152 100.0	111 73.0	25 16.4	82 53.9	11 7.2	31 20.4	40 26.3	0 0.0	17 11.2
C' フルタイム×パー トタイム（短）	57 100.0	46 80.7	9 15.8	34 59.6	6 10.5	8 14.0	22 38.6	1 1.8	10 17.5
D 専業主婦（夫）	71 100.0	56 78.9	9 12.7	48 67.6	7 9.9	3 4.2	19 26.8	0 0.0	19 26.8

※家庭類型 E、E'および F は該当者なし。

<潜在家庭類型×希望の過ごし方（低学年） 小学生児童>

上段：度数 下段：%	合計	自宅	祖父母宅 や友人・ 知人宅	習い事	部活動	放課後児 童クラブ	学区こど もの家	ファミリー・サ ポート・セン ター	その他 （公民 館、公園 など）
A ひとり親家庭	56 100.0	32 57.1	5 8.9	22 39.3	3 5.4	29 51.8	9 16.1	1 1.8	9 16.1
B フルタイム× フルタイム	171 100.0	87 50.9	28 16.4	76 44.4	9 5.3	79 46.2	33 19.3	2 1.2	24 14.0
C フルタイム× パートタイム	324 100.0	251 77.5	58 17.9	211 65.1	11 3.4	50 15.4	90 27.8	3 0.9	67 20.7
C' フルタイム× パートタイム（短）	12 100.0	11 91.7	2 16.7	11 91.7	0 0.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	8 66.7
D 専業主婦（夫）	114 100.0	94 82.5	19 16.7	85 74.6	4 3.5	10 8.8	27 23.7	0 0.0	29 25.4
E' パート× パート（短）	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
F 無業×無業	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

※家庭類型 E は該当者なし。

週あたりの利用希望日数については、就学前児童では「習い事」は「2日」が45.2%、「放課後児童クラブ（学童保育）」は「5日」が62.1%、「学区こどもの家」は「1日」、「2日」、「5日」が23%程度となっています。

小学生児童では「習い事」は「2日」が33.6%、「放課後児童クラブ」は「5日」が53.8%、「学区こどもの家」は「1日」が37.9%、「2日」が26.9%となっています。

（放課後の過ごし方（低学年） 就学前児童）

	自宅 (N=328)		祖父母宅や 友人・知人宅 (N=70)		習い事 (N=252)		部活動 (N=33)		放課後児童クラブ (学童保育) (N=161)		学区こどもの家 (N=122)		ファミリー・サポート・ センター (N=6)		その他 (公民館、公園など) (N=58)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	26	7.9	26	37.1	70	27.8	2	6.1	3	1.9	29	23.8	0	0.0	17	29.3
2日	80	24.4	11	15.7	114	45.2	2	6.1	14	8.7	28	23.0	1	16.7	22	37.9
3日	51	15.5	18	25.7	50	19.8	4	12.1	25	15.5	23	18.9	1	16.7	6	10.3
4日	46	14.0	1	1.4	9	3.6	2	6.1	10	6.2	10	8.2	1	16.7	3	5.2
5日	106	32.3	9	12.9	4	1.6	1	3.0	100	62.1	28	23.0	3	50.0	8	13.8
6日	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	3.0	9	5.6	1	0.8	0	0.0	1	1.7
7日	6	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	12	3.7	5	7.1	5	2.0	21	63.6	0	0.0	3	2.5	0	0.0	1	1.7

（放課後の過ごし方（低学年） 小学生児童）

	自宅 (N=542)		祖父母宅や 友人・知人宅 (N=128)		習い事 (N=459)		部活動 (N=31)		放課後児童クラブ (学童保育) (N=184)		学区こどもの家 (N=182)		ファミリー・サポート・ センター (N=6)		その他 (公民館、公園など) (N=155)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	71	13.1	73	57.0	117	25.5	8	25.8	8	4.3	69	37.9	4	66.7	68	43.9
2日	118	21.8	24	18.8	154	33.6	10	32.3	18	9.8	49	26.9	1	16.7	52	33.5
3日	94	17.3	9	7.0	133	29.0	8	25.8	18	9.8	23	12.6	0	0.0	21	13.5
4日	65	12.0	4	3.1	37	8.1	5	16.1	35	19.0	14	7.7	0	0.0	6	3.9
5日	167	30.8	17	13.3	17	3.7	0	0.0	99	53.8	24	13.2	1	16.7	7	4.5
6日	7	1.3	1	0.8	0	0.0	0	0.0	5	2.7	1	0.5	0	0.0	1	0.6
7日	20	3.7	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0	0	0.0

※小学生児童は、低学年（1～3年）のみを集計。

放課後児童クラブの利用希望時間については、下校時から「18時」が、就学前児童で35.4%、小学生児童で37.0%となっています。

学区こどもの家の利用希望時間については、下校時から「17時」が、就学前児童で48.4%、小学生児童で41.2%となっています。

（放課後児童クラブの利用希望時間）

【就学前児童】

	放課後児童クラブ (N=161)	
	件数	%
15時	2	1.2
16時	10	6.2
17時	44	27.3
18時	57	35.4
19時	42	26.1
20時以降	1	0.6
不明	5	3.1

【小学生児童】

	放課後児童クラブ (N=184)	
	件数	%
15時	2	1.1
16時	13	7.1
17時	56	30.4
18時	68	37.0
19時	31	16.8
20時以降	6	3.3
不明	8	4.3

(学区子どもの家の利用希望時間)

【就学前児童】

	学区子どもの家 (N=122)	
	件数	%
15時	1	0.8
16時	22	18.0
17時	59	48.4
18時	16	13.1
19時	7	5.7
20時以降	1	0.8
不明	16	13.1

【小学生児童】

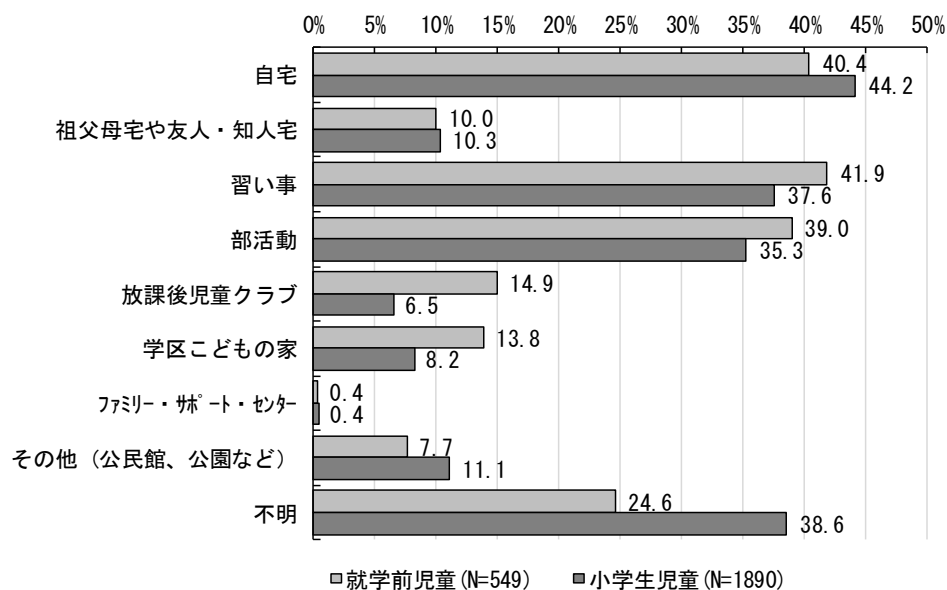
	学区子どもの家 (N=182)	
	件数	%
15時	6	3.3
16時	21	11.5
17時	75	41.2
18時	39	21.4
19時	6	3.3
20時以降	0	0.0
不明	35	19.2

小学校高学年での放課後の時間で過ごさせたい場所についてみると、就学前児童で「習い事」が41.9%、小学生児童で「自宅」が44.2%となっています。

低学年時と比べて、「放課後児童クラブ」「学区こどもの家」の割合が少なくなり、「部活動」が多くなっています。

(希望の過ごし方 高学年)

(就学前児童調査…問 23 小学生児童調査…問 18)



潜在家庭類型別に希望の放課後の過ごし方についてみると、就学前児童では「放課後児童クラブ」が A ひとり親家庭で就学前児童 50.0%、B フルタイム×フルタイムで 43.9%となっています。

小学生児童ではほとんどの潜在家庭類型で「自宅」が多くなっています。

<潜在家庭類型×希望の過ごし方（高学年） 就学前児童>

上段：度数 下段：%	合計	自宅	祖父母宅 や友人・ 知人宅	習い事	部活動	放課後児 童クラブ	学区こど もの家	ファミリー・サ ポート・セン ター	その他 （公民 館、公園 など）
A ひとり親家庭	36 100.0	14 38.9	5 13.9	11 30.6	13 36.1	18 50.0	9 25.0	0 0.0	4 11.1
B フルタイム× フルタイム	98 100.0	34 34.7	9 9.2	34 34.7	36 36.7	43 43.9	20 20.4	1 1.0	3 3.1
C フルタイム× パートタイム	119 100.0	71 59.7	21 17.6	75 63.0	68 57.1	11 9.2	20 16.8	0 0.0	13 10.9
C' フルタイム× パートタイム	44 100.0	33 75.0	6 13.6	28 63.6	22 50.0	5 11.4	10 22.7	1 2.3	7 15.9
D 専業主婦（夫）	66 100.0	35 53.0	7 10.6	48 72.7	49 74.2	1 1.5	11 16.7	0 0.0	12 18.2

※家庭類型 E、E'および F は該当者なし。

<潜在家庭類型×希望の過ごし方（高学年） 小学生児童>

上段：度数 下段：%	合計	自宅	祖父母宅 や友人・ 知人宅	習い事	部活動	放課後児 童クラブ	学区こど もの家	ファミリー・サ ポート・セン ター	その他 （公民 館、公園 など）
A ひとり親家庭	84 100.0	48 57.1	12 14.3	37 44.0	32 38.1	19 22.6	10 11.9	1 1.2	9 10.7
B フルタイム× フルタイム	269 100.0	177 65.8	38 14.1	142 52.8	140 52.0	56 20.8	34 12.6	4 1.5	33 12.3
C フルタイム× パートタイム	462 100.0	341 73.8	92 19.9	301 65.2	288 62.3	24 5.2	66 14.3	0 0.0	96 20.8
C' フルタイム× パートタイム	16 100.0	13 81.3	4 25.0	13 81.3	11 68.8	0 0.0	5 31.3	0 0.0	7 43.8
D 専業主婦（夫）	182 100.0	147 80.8	30 16.5	137 75.3	119 65.4	12 6.6	21 11.5	2 1.1	42 23.1
E' パート× パート（短）	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0

※家庭類型 E および F は該当者なし。

週あたりの利用希望日数については、就学前児童では「習い事」は「2日」が37.8%、「放課後児童クラブ」は「5日」が62.2%、「学区こどもの家」は「5日」が31.6%となっています。

小学生児童では「習い事」は「2日」が37.3%、「放課後児童クラブ」は「5日」が54.1%、「学区こどもの家」は「1日」が39.4%となっています。

(放課後の過ごし方 (高学年) 就学前児童)

	自宅 (N=222)		祖父母宅や 友人・知人宅 (N=55)		習い事 (N=230)		部活動 (N=214)		放課後児童クラブ (学童保育) (N=82)		学区こどもの家 (N=76)		ファミリー・サポート・ センター (N=2)		その他 (公民館、公園など) (N=42)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	58	26.1	28	50.9	61	26.5	5	2.3	1	1.2	21	27.6	0	0.0	12	28.6
2日	55	24.8	12	21.8	87	37.8	31	14.5	9	11.0	19	25.0	0	0.0	16	38.1
3日	24	10.8	10	18.2	55	23.9	74	34.6	11	13.4	9	11.8	1	50.0	4	9.5
4日	11	5.0	1	1.8	21	9.1	68	31.8	5	6.1	2	2.6	0	0.0	3	7.1
5日	70	31.5	4	7.3	4	1.7	34	15.9	51	62.2	24	31.6	1	50.0	5	11.9
6日	2	0.9	0	0.0	2	0.9	0	0.0	4	4.9	1	1.3	0	0.0	2	4.8
7日	2	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.9	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(放課後の過ごし方 (高学年) 小学生児童)

	自宅 (N=835)		祖父母宅や 友人・知人宅 (N=195)		習い事 (N=710)		部活動 (N=667)		放課後児童クラブ (学童保育) (N=122)		学区こどもの家 (N=155)		ファミリー・サポート・ センター (N=7)		その他 (公民館、公園など) (N=210)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	163	19.5	116	59.5	152	21.4	32	4.8	8	6.6	61	39.4	2	28.6	89	42.4
2日	182	21.8	41	21.0	265	37.3	86	12.9	8	6.6	35	22.6	3	42.9	72	34.3
3日	112	13.4	16	8.2	191	26.9	261	39.1	19	15.6	20	12.9	0	0.0	30	14.3
4日	62	7.4	6	3.1	70	9.9	196	29.4	16	13.1	13	8.4	0	0.0	8	3.8
5日	271	32.5	15	7.7	26	3.7	86	12.9	66	54.1	22	14.2	1	14.3	11	5.2
6日	10	1.2	0	0.0	4	0.6	6	0.9	4	3.3	3	1.9	1	14.3	0	0.0
7日	35	4.2	0	0.0	2	0.3	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.0

「放課後児童クラブ」の利用希望時間については、下校時から「18時」が、就学前児童で40.2%、小学生児童で51.6%となっています。

「学区こどもの家」の利用希望時間については、就学前児童で下校時から「17時」が39.5%、小学生児童で下校時から「18時」が40.0%となっています。

(放課後児童クラブの利用希望時間)

【就学前児童】

	放課後児童クラブ (N=82)	
	件数	%
15時	1	1.2
16時	1	1.2
17時	13	15.9
18時	33	40.2
19時	30	36.6
20時以降	2	2.4
不明	2	2.4

【小学生児童】

	放課後児童クラブ (N=122)	
	件数	%
15時	0	0.0
16時	3	2.5
17時	20	16.4
18時	63	51.6
19時	28	23.0
20時以降	4	3.3
不明	4	3.3

(学区子どもの家の利用希望時間)

【就学前児童】

	学区子どもの家	
	(N=76)	
	件数	%
15時	0	0.0
16時	10	13.2
17時	30	39.5
18時	22	28.9
19時	7	9.2
20時以降	1	1.3
不明	6	7.9

【小学生児童】

	学区子どもの家	
	(N=155)	
	件数	%
15時	2	1.3
16時	8	5.2
17時	52	33.5
18時	62	40.0
19時	8	5.2
20時以降	0	0.0
不明	23	14.8

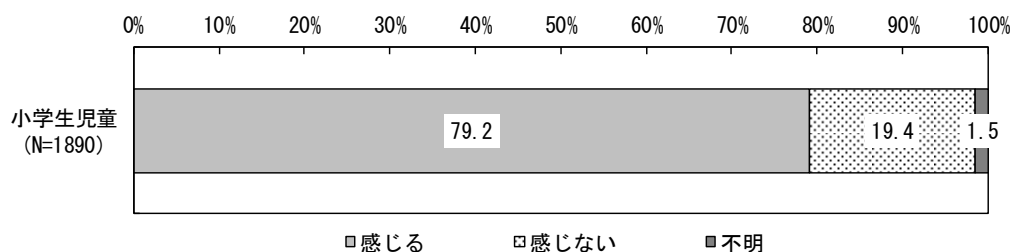
(35) 小学生の子どもが家で1人又はきょうだいで過ごすことに不安を感じますか。

＜単数回答＞

(小学生児童調査…問 19)

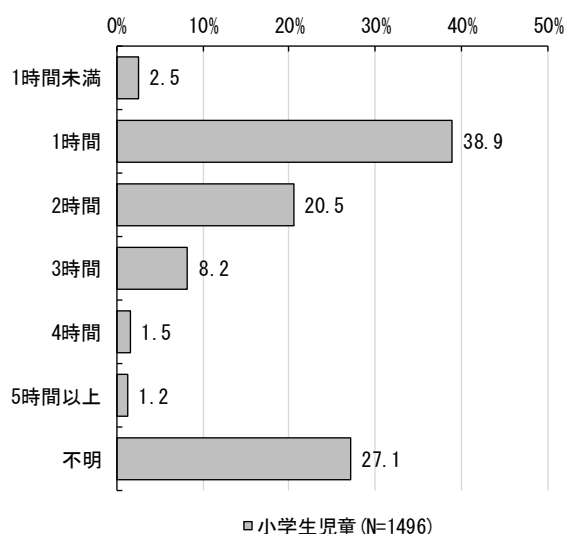
子どもだけで過ごすことに不安を感じる人が79.2%となっています。

留守番させることに不安を感じる時間は、低学年で「1時間」が38.9%、高学年で「2時間」と「3時間」がそれぞれ2割強となっています。

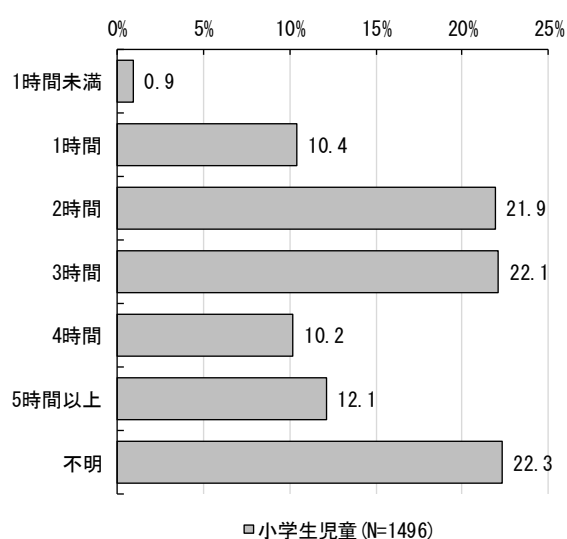


(留守番させることに不安を感じる時間)

【低学年】



【高学年】



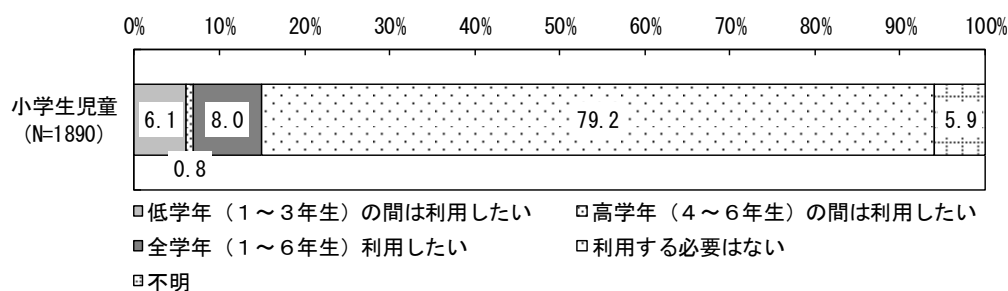
(36) お子さんについて、土曜日、祝日、長期休暇（夏休み・冬休みなど）に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。＜単数回答＞

（小学生児童調査…問 20）

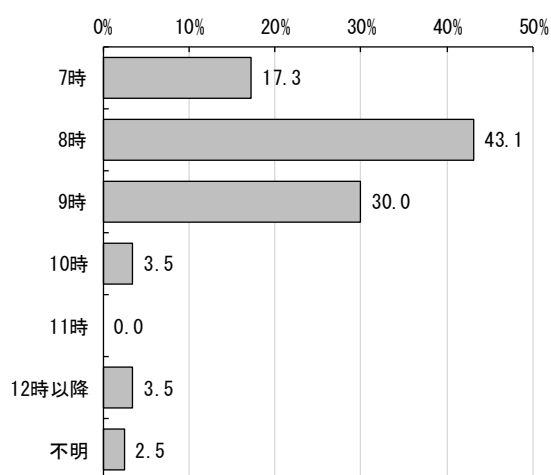
土曜日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が79.2%となっています。

利用開始希望時間については、「8時」が43.1%、利用終了希望時間については、「18時」が29.3%となっています。

（土曜日）

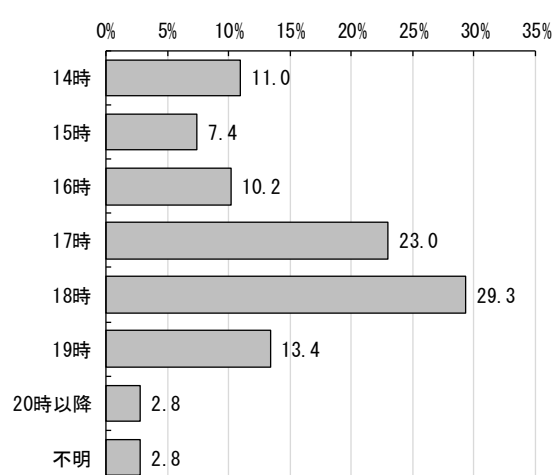


【利用開始時間】



□ 小学生児童 (N=283)

【利用終了時間】

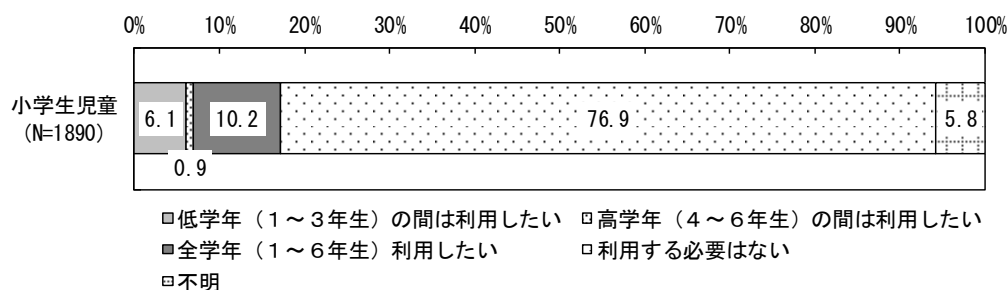


□ 小学生児童 (N=283)

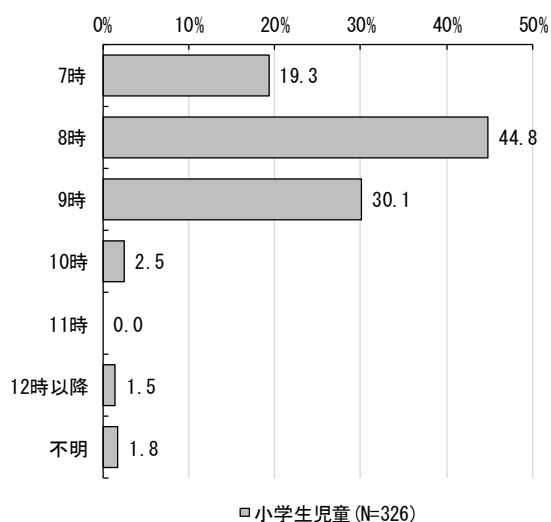
祝日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が76.9%となっています。

利用開始希望時間については、「8時」が44.8%、利用終了希望時間については、「18時」が31.0%となっています。

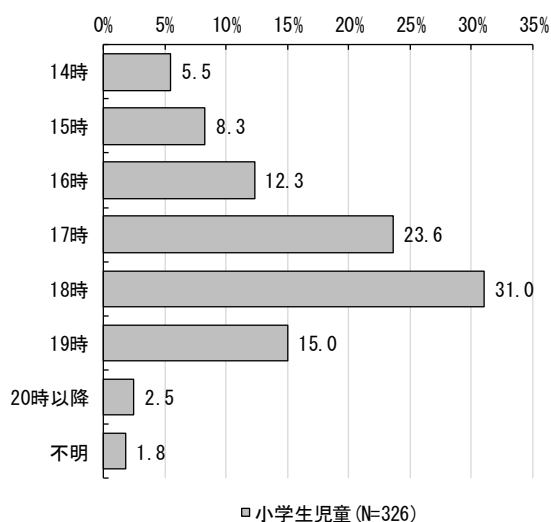
(祝日)



【利用開始時間】



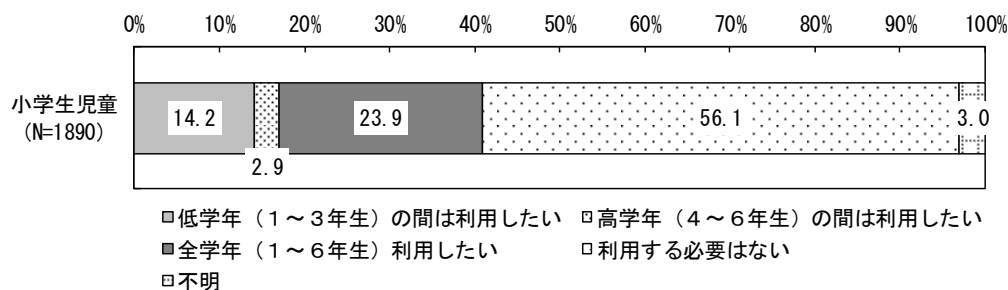
【利用終了時間】



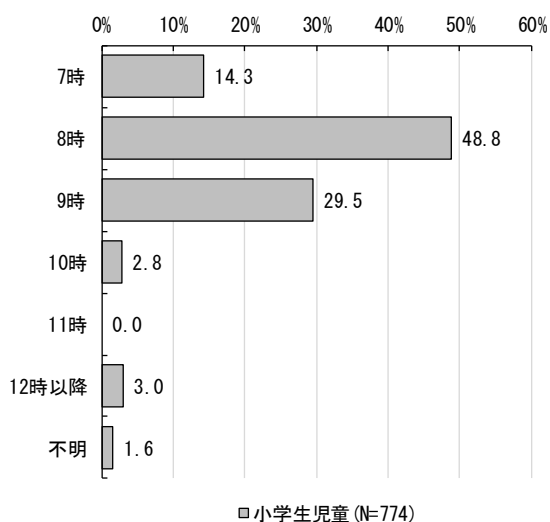
長期休暇（夏休み・冬休みなど）時の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「全学年利用したい」が23.9%、「低学年の間は利用したい」が14.2%となっています。

利用開始希望時間については、「8時」が48.8%、「18時」が26.7%となっています。

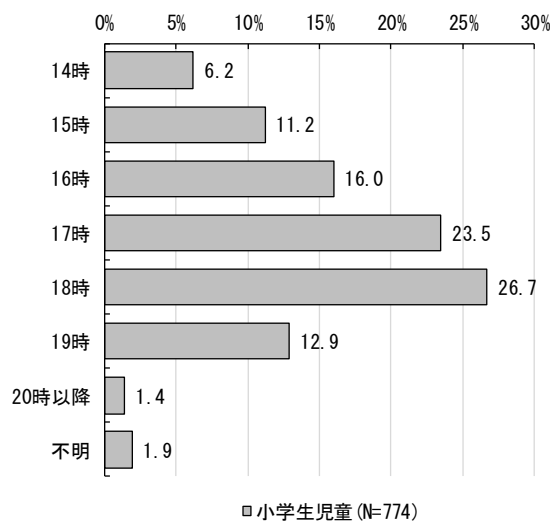
（長期休暇）



【利用開始時間】



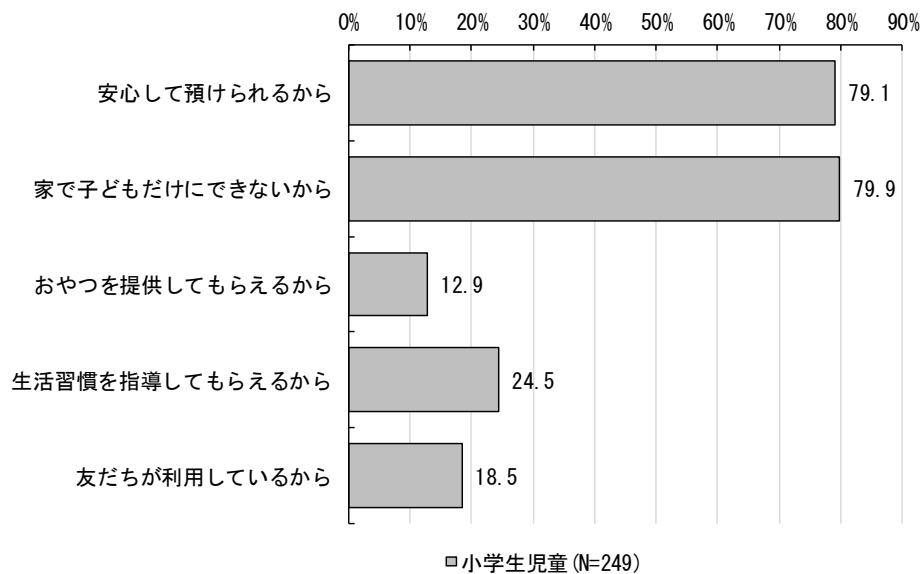
【利用終了時間】



(37) 放課後児童クラブを利用する理由〈複数回答〉

(小学生児童調査…問 21)

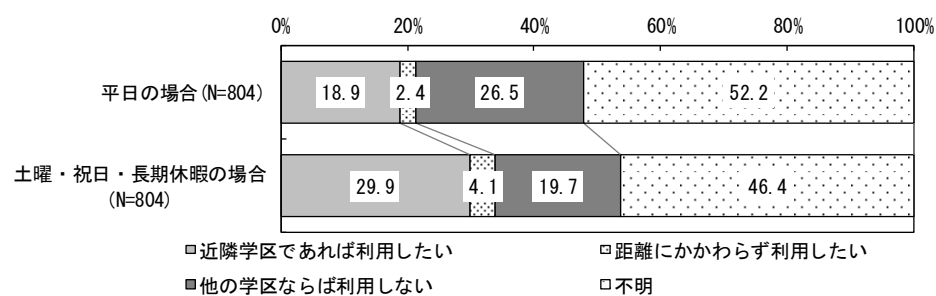
現在、放課後児童クラブを利用する理由としては、「家で子どもだけにできないから」が79.9%、「安心して預けられるから」が79.1%となっています。



(38) お住まいの学区の放課後児童クラブが利用できない場合、他の学区の放課後児童クラブを利用したいと思いますか。〈単数回答〉

(小学生児童調査…問 21-1)

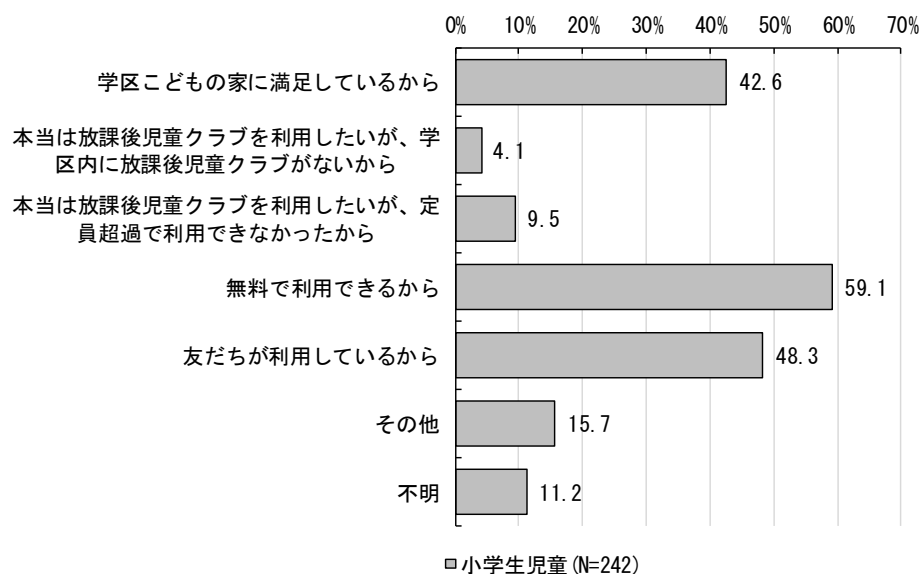
他の学区であっても放課後児童クラブを利用したいかについてみると、「近隣学区であれば利用したい」が平日の場合で18.9%、土曜・祝日・長期休暇の場合で29.9%となっています。保護者が送迎を行う土曜・祝日・長期休暇の場合では利用したい割合が多くなっています。



(39) 学区こどもの家を利用する理由〈複数回答〉

(小学生児童調査…問 22)

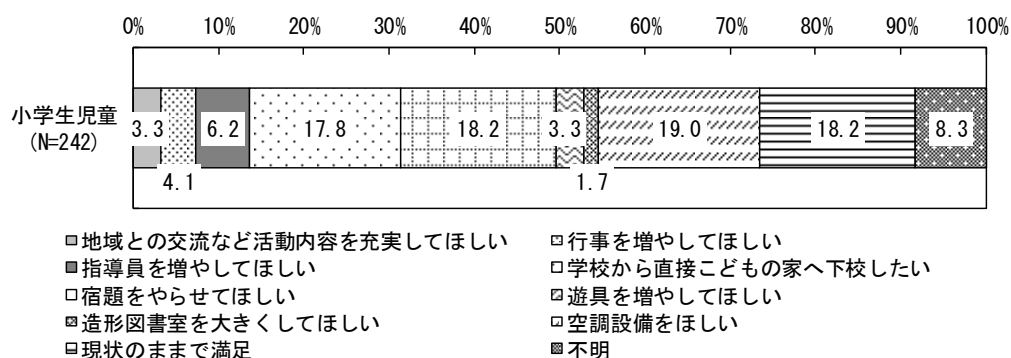
学区こどもの家を利用する理由としては、「無料で利用できるから」が59.1%、「友だちが利用しているから」が48.3%となっています。



(40) お子さんが学区こどもの家を利用するに当たり、こどもの家として望むもの〈単数回答〉

(小学生児童調査…問 22-1)

学区こどもの家として望むものとしては、「空調設備をほしい」が19.0%、「宿題をやらせてほしい」が18.2%、「学校から直接こどもの家へ下校したい」が17.8%となっています。



12. すべての方に、育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度についてうかがいます

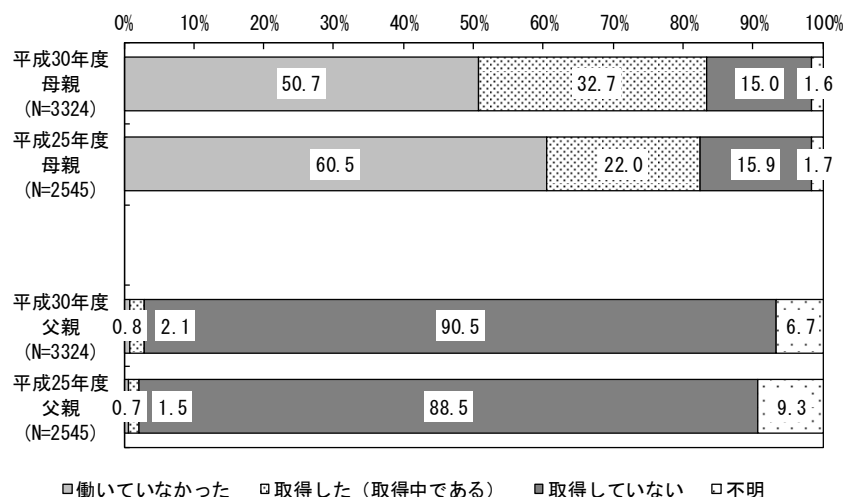
(41) お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 24)

育児休業の取得の有無についてみると、「取得した（取得中である）」が母親で 32.7%、父親で 2.1%となっており、父親では「取得していない」が 90.5%となっています。

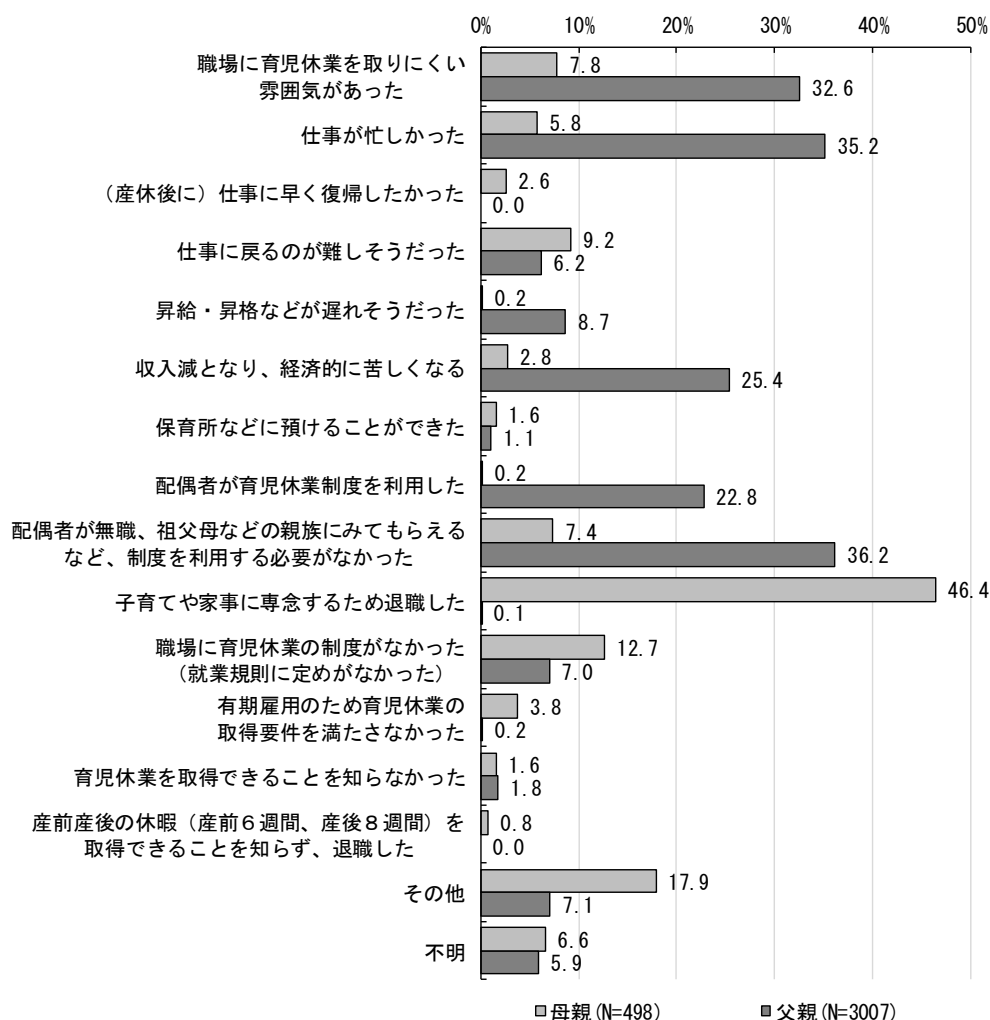
前回調査時に比べ、取得した割合が母親では約 1 割増えています。



取得していない理由については、母親で「子育てや家事に専念するため退職した」が46.4%、父親で「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が36.2%、「仕事が忙しかった」が35.2%となっています。

また、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が母親で7.8%、父親で32.6%となっています。

(取得していない理由)

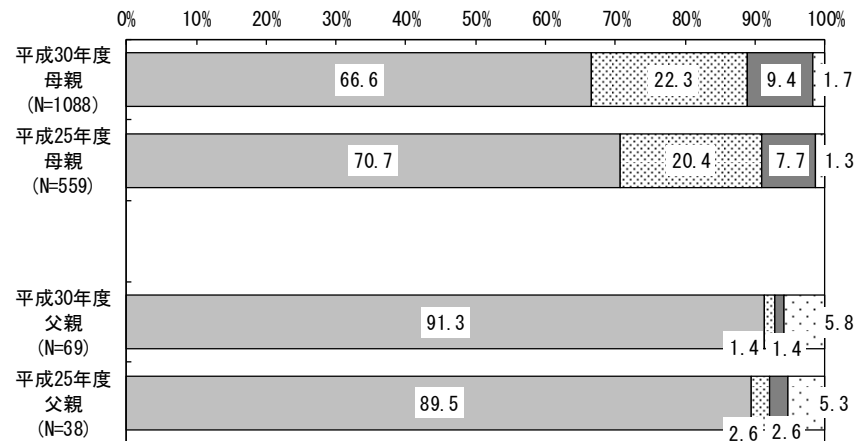


(42) 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 24-1)

育児休業取得後の職場復帰についてみると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が母親で66.6%、父親で91.3%となっています。また、「育児休業中に離職した」は母親で9.4%となっています。

前回調査時と比べ、ほぼ同様の傾向となっています。



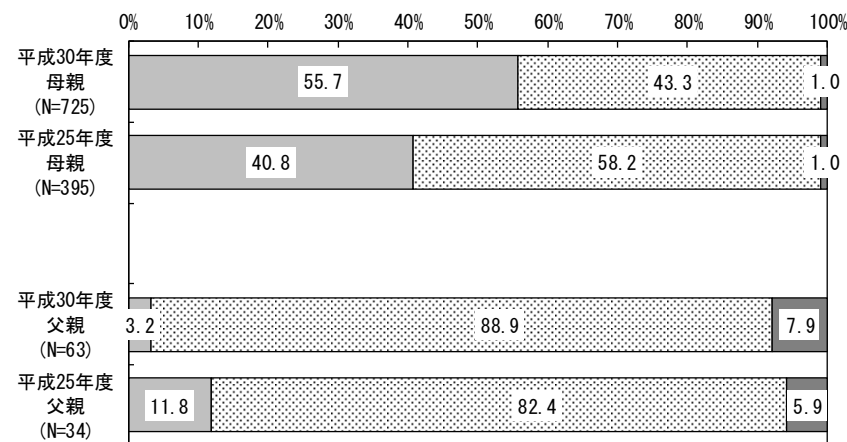
□ 育児休業取得後、職場に復帰した □ 現在も育児休業中である □ 育児休業中に離職した □ 不明

(43) 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 24-2)

育児休業取得後の職場復帰のタイミングについてみると、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が母親で55.7%となっています。「それ以外だった」が母親で43.3%、父親で88.9%となっています。

前回調査時に比べ、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が母親で1割以上増えています。



□ 年度初めの入所に合わせたタイミングだった □ それ以外だった □ 不明

(44) 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。

<数量回答>

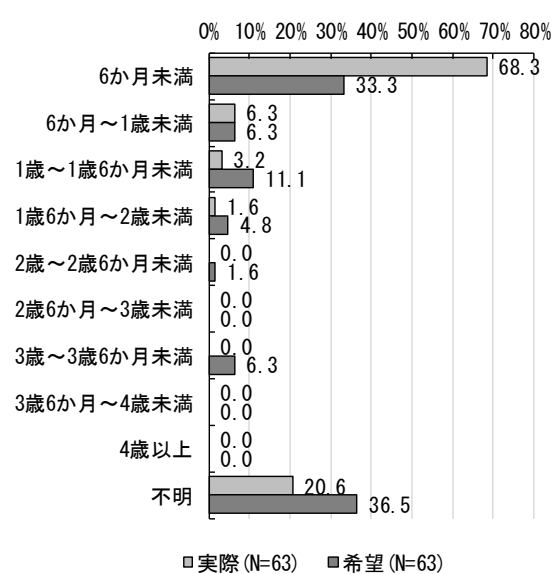
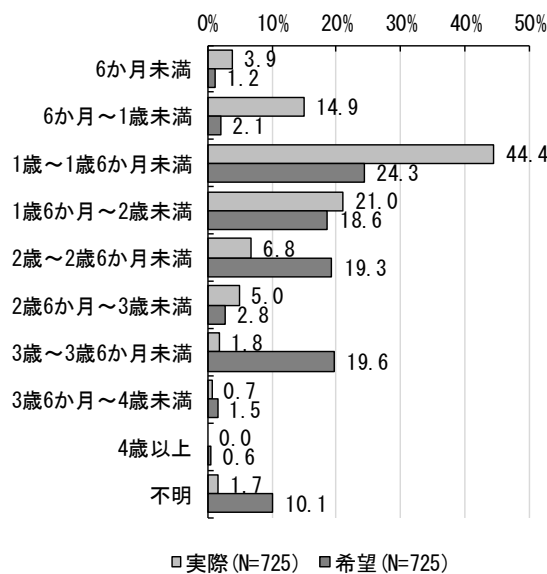
(就学前児童調査…問 24-3)

職場復帰したときの実際のお子さんの年齢と希望の年齢についてみると、母親で実際の復帰は「1歳～1歳6か月未満」が44.4%であり、2歳未満を合計すると84.2%となっています。希望する子どもの年齢よりも実際は早く復帰しています。

父親では、実際の復帰は「6か月未満」が68.3%であり、希望の復帰も「6か月未満」が33.3%となっています。

(母親)

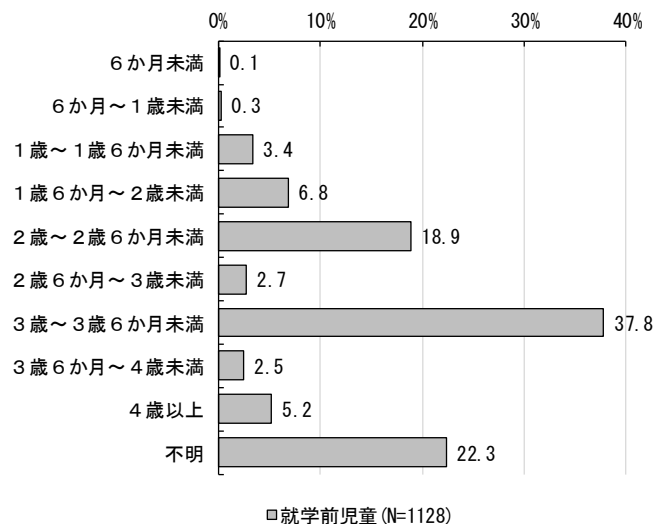
(父親)



(45) お勤め先の制度内容にかかわらず、子育ての観点から、お子さんが何歳何か月まで育児休業を取得できるのが理想だと考えますか。<数量回答>

(就学前児童調査…問 24-4)

育児休業を取得できる理想の年齢については、「3歳～3歳6か月未満」が37.8%となっています。



□就学前児童 (N=1128)

(46) 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(就学前児童調査…問 24-5)

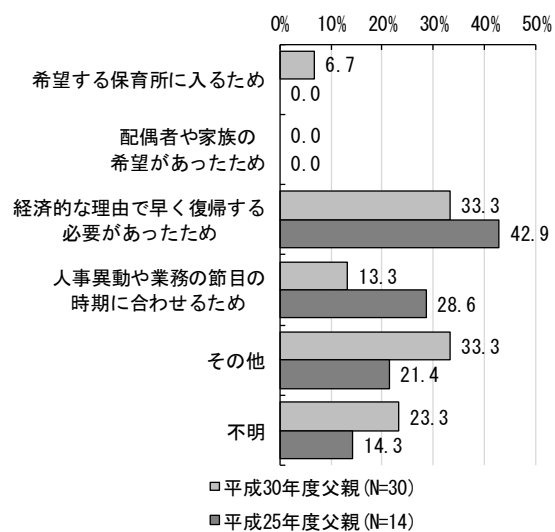
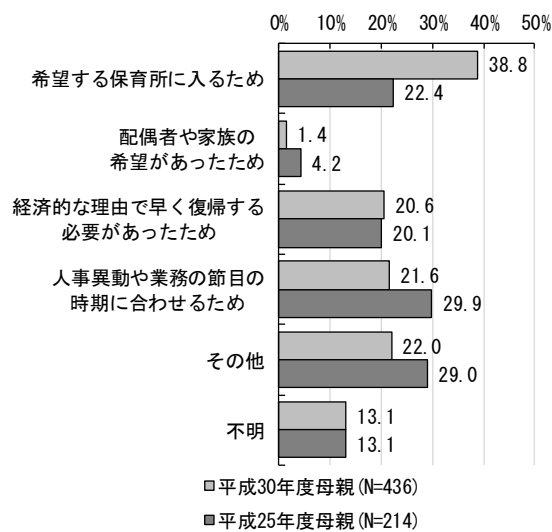
希望の時期に職場復帰しなかった理由について、希望よりも早く復帰した人についてみると、母親では「希望する保育所に入るため」が38.8%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が21.6%となっています。

父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が33.3%となっています。

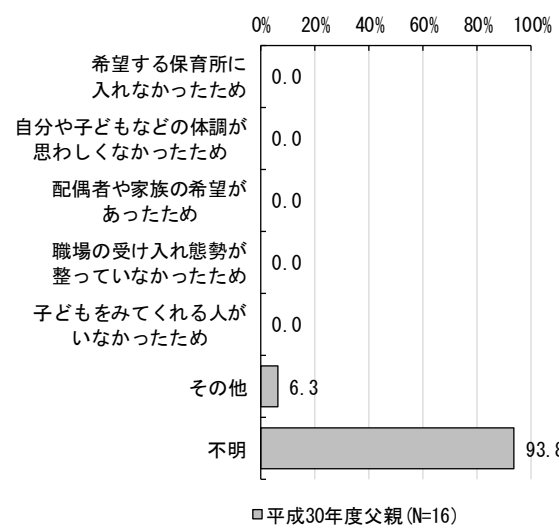
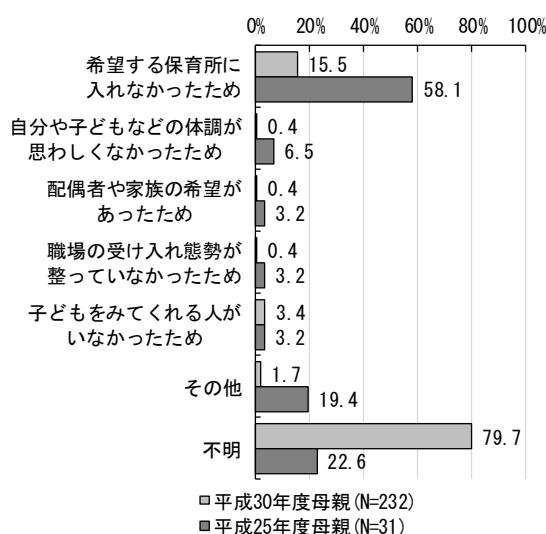
また、希望よりも遅く復帰した人についてみると、母親では「希望する保育所に入れなかったため」が15.5%となっています。

前回調査時と比べ、希望よりも早く復帰した人は「希望する保育所に入るため」が2割弱増えています。

「希望」より早く復帰した方



「希望」より遅く復帰した方

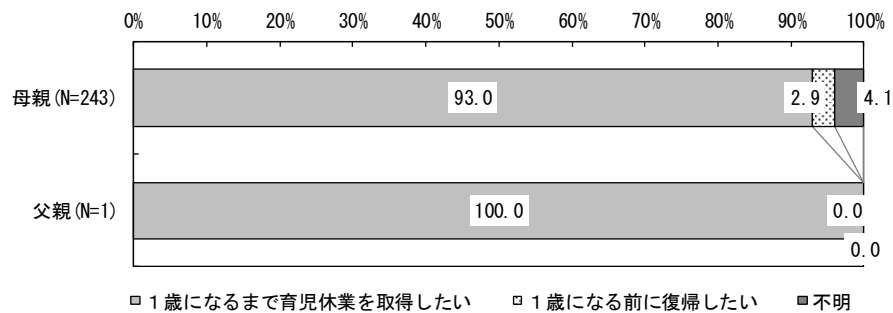


※平成 25 年度における父親の回答なし

(47) お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。又は、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 24-6)

現在も育児休業中と回答した人において、お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかについてみると、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が母親で93.0%となっています。



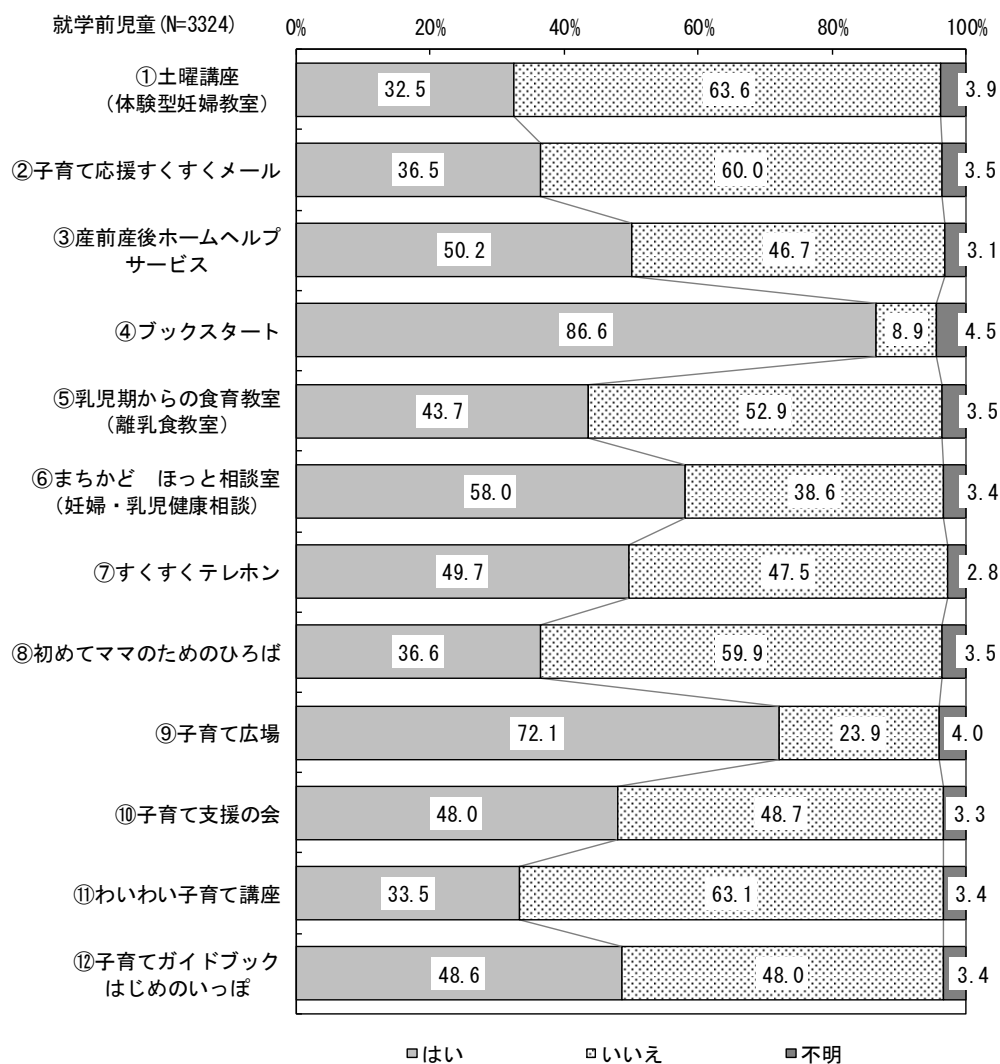
13. 子育て全般についてうかがいます

(48) 下記の事業ごとに、A～Cのすべてについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。Cについて、既に対象となる時期を過ぎている場合は、対象だったら利用したいと思うかお答えください。＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 25)

子育て支援事業について、「知っている」が「④ブックスタート」で 86.6%、「⑨子育て広場」で 72.1%、「⑥まちかどほっと相談室」で 58.0%となっています。

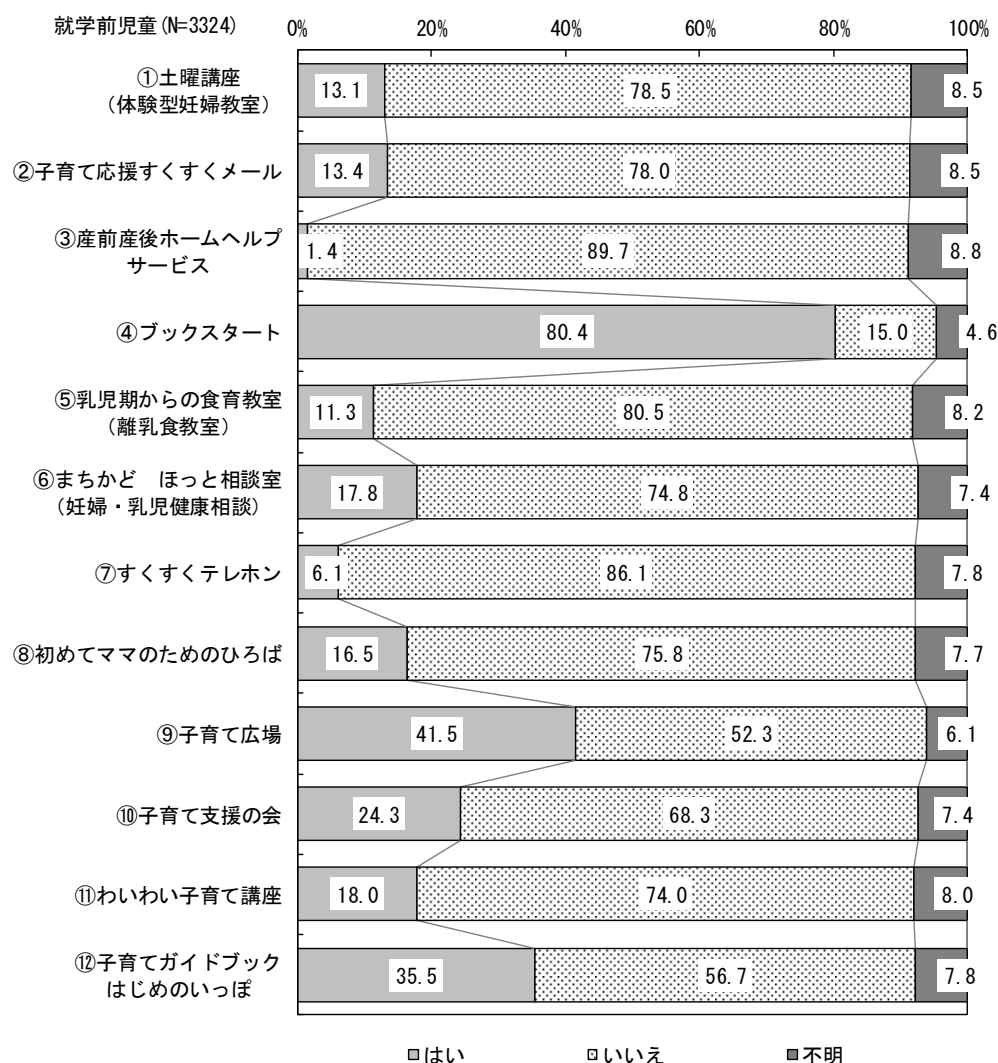
(A. 知っている)



子育て支援事業について、「これまでに利用したことがある」が「④ブックスタート」で 80.4%、「⑨子育て広場」で 41.5%、「⑫子育てガイドブックはじめのいっぽ」で 35.5%となっています。

一方で、「③産前産後ホームヘルプサービス」は認知度が 50.2%であり、利用は 1.4%、「⑦すくすくテレホン」は認知度が 49.7%であり、利用は 6.1%となっています。

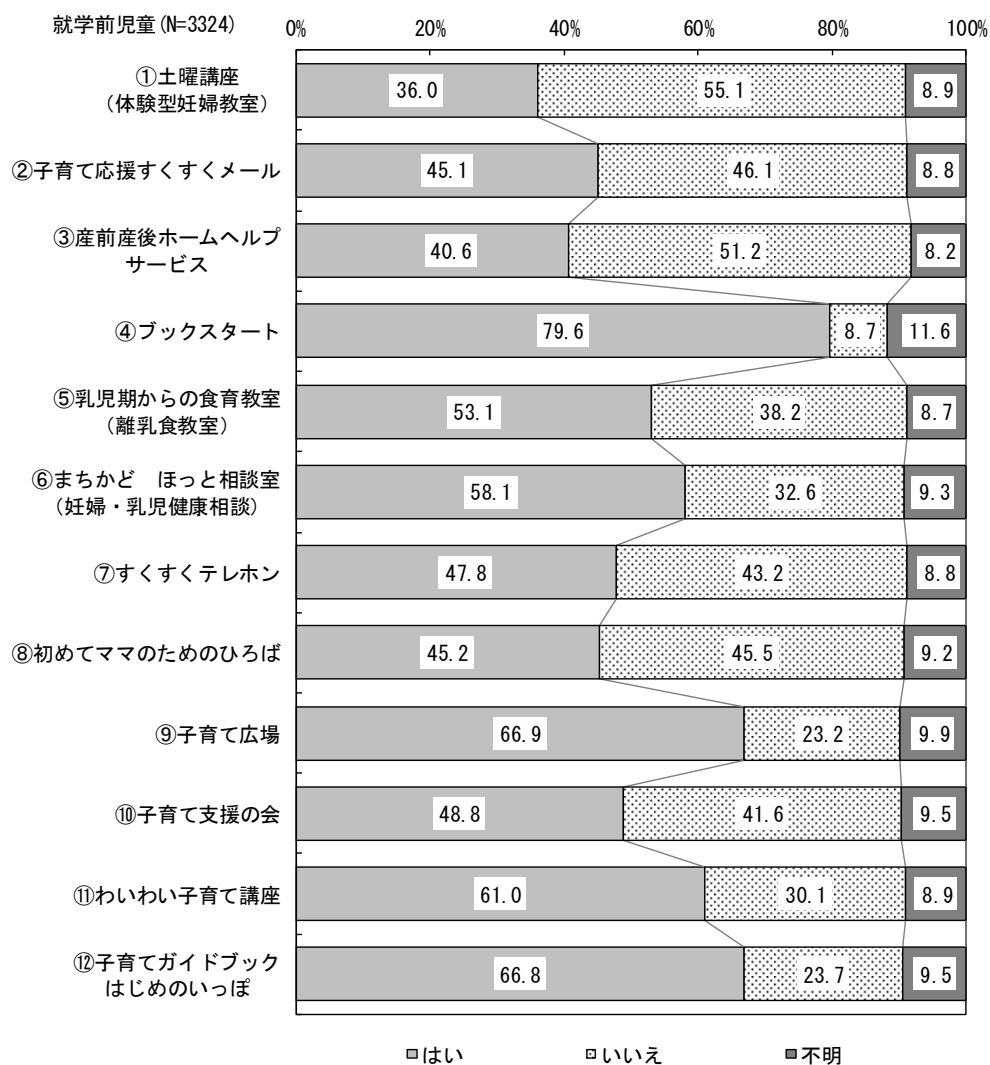
(B. これまでに利用したことがある)



子育て支援事業について、「今後利用したい」が「④ブックスタート」で79.6%、「⑨子育て広場」で66.9%、「⑫子育てガイドブックはじめのいっぽ」で66.8%となっています。

また、これまでの利用は少ないが、今後の利用意向として、「③産前産後ホームヘルプサービス」で40.6%、「⑦すくすくテレホン」で47.8%となっています。

(C. 利用したい)

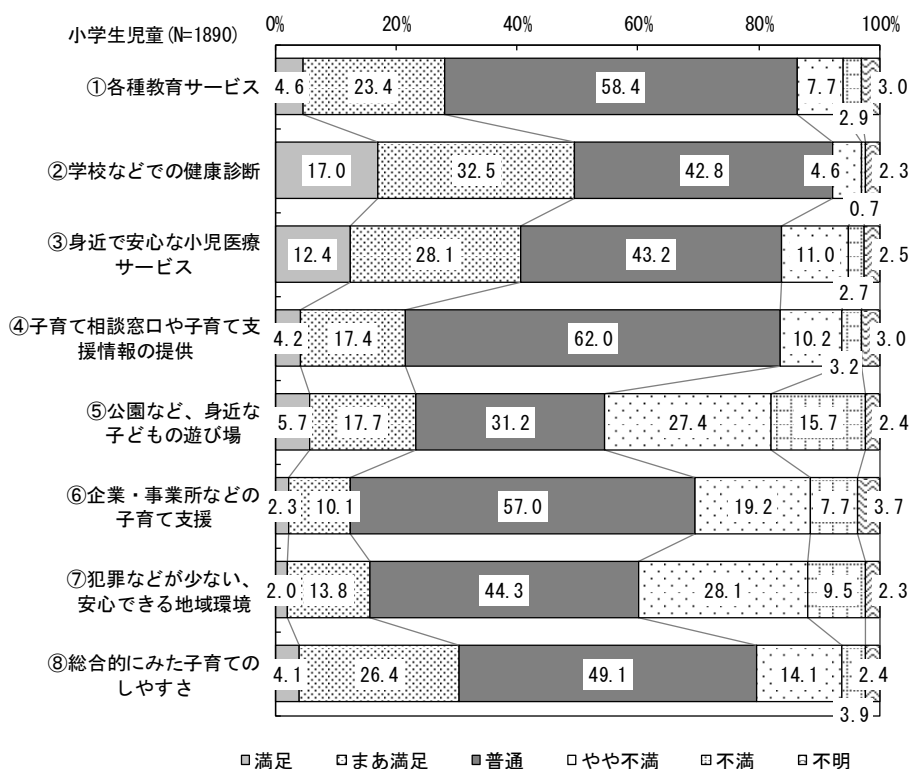
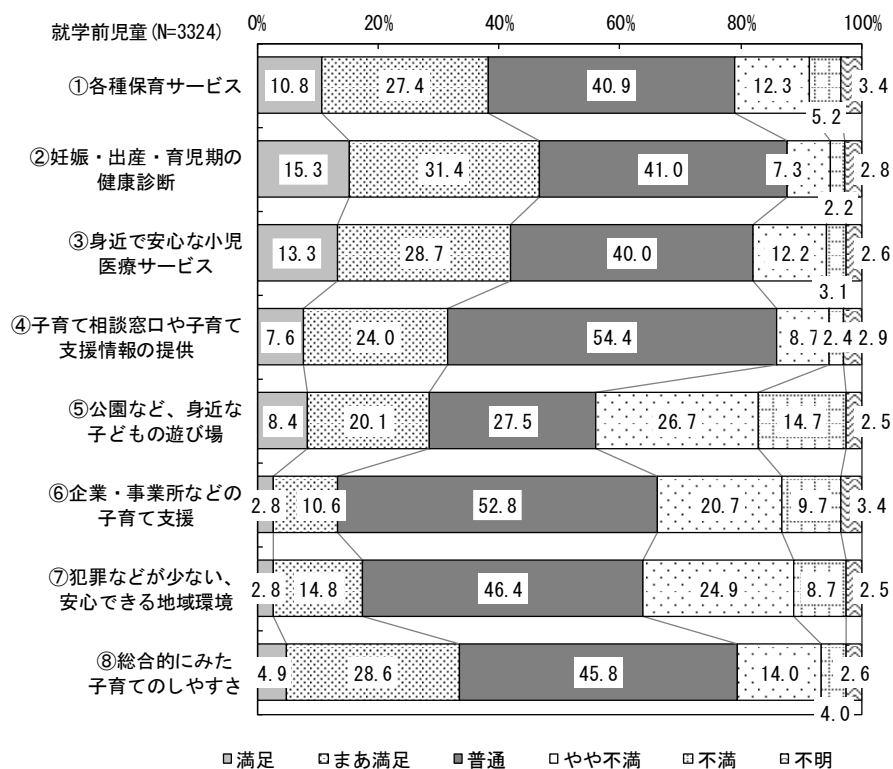


(49) 岡崎市における以下のような分野について満足していますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 26 小学生児童調査…問 23)

岡崎市の各分野における満足度についてみると、「②妊娠・出産・育児期の健康診断（就学前児童）／②学校などでの健康診断（小学生児童）」で満足（「満足」と「まあ満足」の合計）が、就学前児童で 46.7%、小学生児童で 49.5%となっています。

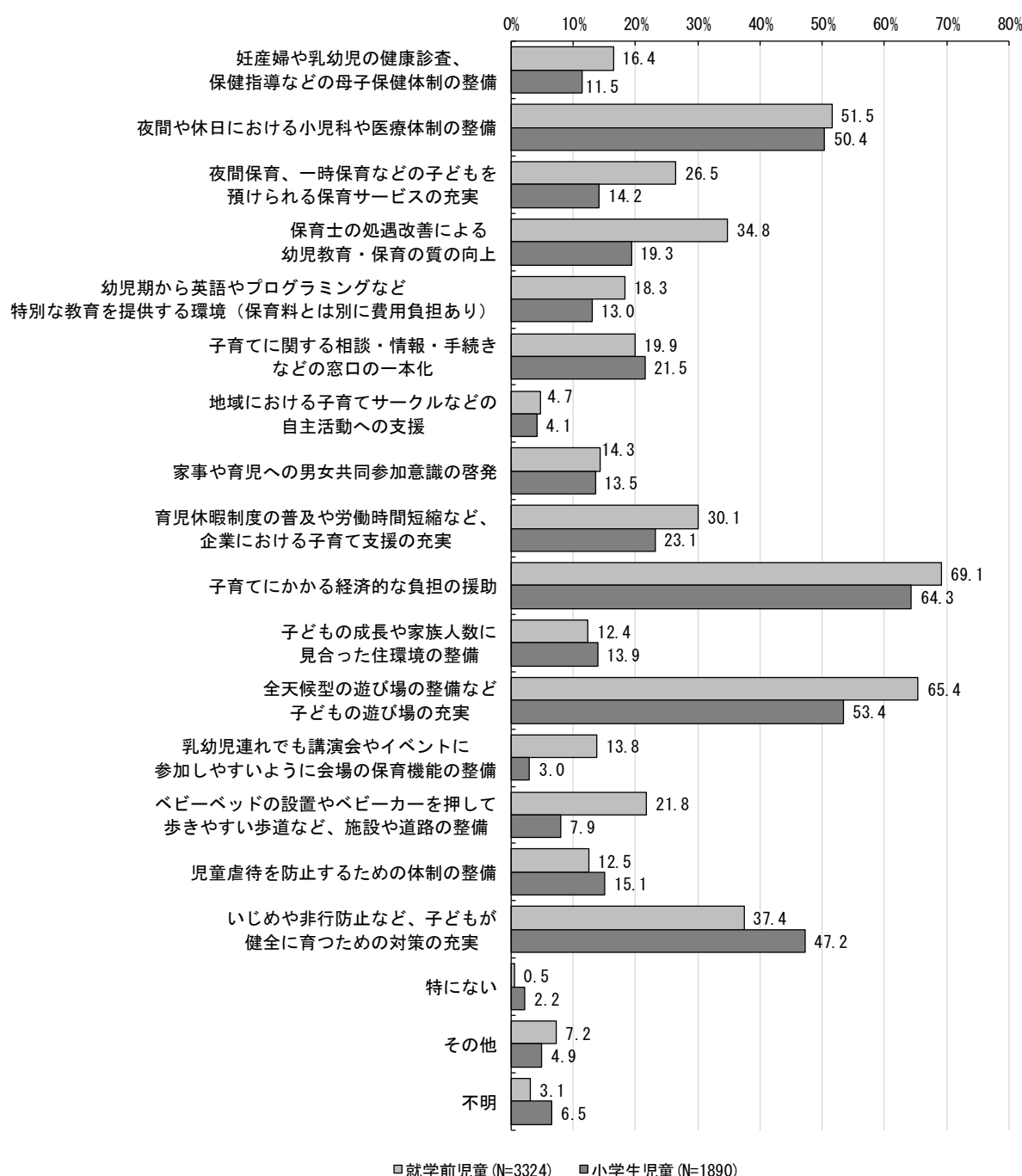
一方で、「⑤公園など、身近な子どもの遊び場」で不満（「やや不満」と「不満」の合計）が、就学前児童で 41.4%、小学生児童で 43.1%となっています。



(50) 子どもを安心して産み育てられる環境のために、市に対してどのような施策を期待しますか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 27 小学生児童調査…問 24)

子どもを安心して産み育てられる環境のために、市に期待する施策についてみると、「子育てにかかる経済的な負担の援助」が就学前児童で69.1%、小学生児童で64.3%となっています。次いで、「全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実」が就学前児童で65.4%、小学生児童で53.4%、「夜間や休日における小児科や医療体制の整備」が就学前児童で51.5%、小学生児童で50.4%となっています。



14. 就学前児童の自由回答

区分	主な意見内容		件数
保育サービスに関すること	保育所	定員数 ○3歳未満の乳幼児が保育園に入れるようにしてほしい。 ○一時保育の利用できる園と日数を増やしてほしい。 ○待機児童がなくなるように、定員数の拡大を考えてほしい。	75
		時間 ○急な仕事の都合による延長保育に対応してほしい。 ○土日や祝日でも預けられるようにしてほしい。 ○夜間保育を利用したい。	85
		条件 ○障がいや病気のある子どもに対する延長保育を認めてほしい。 ○育児休業終了後、職場復帰のため年度途中の入園を枠を確保してほしい。 ○下の子の育休中でも保育を利用できるようにしてほしい。 ○兄弟で違う園になってしまった場合の負担が大きい。 ○親と同居していると、延長保育が利用できない。	85
		お金 ○毎月の保育料を安くしてほしい。 ○保育料が高いので、無償化を推進してほしい。 ○サービス内容が向上すれば、保育料の値上げも仕方がない。 ○3人目以上の場合には育児にお金がかかるため、料金を軽減してほしい。	59
		一時保育 ○夏休みの一時保育は、利用者が多すぎて断られた経験がある。 ○一時保育の利用には、1か月前の申し込みや利用日数の制限などがある。 ○産前産後の一時保育を利用したが、実際に利用できる日数が少ないと感じた。 ○急を要した際の、一時保育の受け入れを対応してもらいたい。	40
		病児保育 ○病児保育所を作してほしい。 ○子どもが病気の時の預け先がないので、仕事をしていて不安である。 ○病児保育、訪問看護師の設置をしてほしい。	12
		その他 ○保育士の待遇改善をしてほしい。 ○手作りのおやつを提供してほしい。	60
	幼稚園	お金 ○保育園と幼稚園でかかるお金に差が出ないようにしてほしい。 ○私立幼稚園就園奨励費補助制度は良い。 ○岡崎市は私立幼稚園が多く、授業料が高い。 ○幼稚園の預かり保育料を安くしてほしい。	24
		その他 ○幼稚園の預かり保育はとても助かる。 ○幼稚園の預かり保育の時間帯を延長してほしい。 ○長期休み期間の預かり保育などを希望する。 ○幼稚園の先生不足を感じる。	21
	学童保育	○保育園の延長保育と同様の条件で学童保育を実施してほしい。 ○安心して預けられる環境を整備してほしい。 ○学校内での保育や長期休み時の保育など学童保育の充実。 ○学区によって学童保育がない等、地域格差がある。 ○学童保育の受け入れ人数の拡大を図ってほしい。 ○他市のようなトワイライトスクールがあると良い。	36

	その他		○もっと認定こども園が増えると良い。 ○食物アレルギーの子どもへの対応をしてほしい。 ○プレイルームが小さい、汚いので改善してほしい。 ○男性が積極的に育児に取り組むことができる制度等を充実してほしい。	14
保健に関すること	乳幼児	産婦人科	○出産費用や妊婦健診等の費用を補助してほしい。 ○産後のサポートも充実させてほしい。 ○近くに産婦人科があれば良い。	9
		小児科	○小児科の診療時間延長や休日対応をしてほしい。 ○学区によっては、小児科対応の病院がない。 ○予防接種を受けられるようにしてほしい。	36
	健康診査		○健康診断の時間帯を午後からにしてほしい。 ○健診時、医師や保健師は配慮ある対応をしてほしい。 ○乳児検診の回数を増やしてほしい。 ○待ち時間が長い。	55
	医療体制		○夜間の小児医療があれば良い。 ○ネット予約ができると助かる。 ○休日・祝日の医療体制を充実してほしい。	3
	その他		○2歳児歯科検診のお知らせはもっと早めに教えてほしい。	13
子育て支援に関すること	地域		○市街地や駅、公園周辺などはベビーカーでの移動が不便である。 ○休日に子連れで遊びに行ける場所の混雑を解消してほしい。 ○子育てサークルを充実させてほしい。	45
	相談		○なんでも相談できる雰囲気づくりや体制を整えてほしい。 ○家庭問題や子育てについて相談できる窓口がほしい。 ○どこに相談していいかわからないことがある。	21
	子育て支援センター		○子育て支援センターの数を増やしてほしい。 ○地域交流センターや子育て支援センターは、施設やおもちゃが充実しているので良い。 ○基本的に乳幼児向けなので、狭く感じる。	27
	障がい児への対応		○障がい児に対する支援を手厚くしてほしい。 ○障がい児の保護者に対する支援。 ○障がいの有無にかかわらず平等に支援が受けられる環境を望む。 ○発達の遅れや育てにくさを感じた時の相談先が分からない。	39
労働環境に関すること	職場の理解		○子どもが病気で休むことに対する理解を広めてほしい。 ○働く女性に対する職場の理解を促進してほしい。 ○短時間勤務が当たり前になってほしい。	4
	男性の育児休暇		○職場における男性の育児休暇の普及が足りていない。 ○男性の育児休暇が普通になってほしい。	5
	職場復帰		○職場復帰しやすい環境を整備してほしい。 ○原職の雇用条件で復帰できるよう努力してほしい。 ○パートに対する復職サポートをしてほしい。	5

教育に関すること	学校教育		☐ 部活動の時間が短いので、確保してほしい。 ☐ 休日の部活動を見直してほしい。 ☐ PTA 等の当番制を見直してほしい。 ☐ 学校の先生の仕事を減らすべき。 ☐ 学区を見直してほしい。	16
	教育全般		☐ 厳しくも親身な教育をしてほしい。 ☐ 市内は体験型の教育学習施設が少ない。 ☐ 少子化問題に対応した小学校の統廃合を考えてほしい。 ☐ 英語教育に力を入れてほしい。	12
	教育費		☐ 教育費の無償化ではなく、保育や教育の質を上げる取り組みをしてほしい。 ☐ 教育費の負担を軽減できるよう制度を改善してほしい。 ☐ 教育費の支援をしてほしい。 ☐ 義務教育期間の授業料を無償化してほしい。	4
手当や助成に関すること	児童手当		☐ 子どもが多い家庭は児童手当を多くしてほしい。	12
	ひとり親		☐ ひとり親への支援について、積極的に案内してほしい。 ☐ ひとり親家庭自立支援を推進してほしい。 ☐ 父子家庭への支援を充実させてほしい。	4
	医療費		☐ インフルエンザ予防接種の補助をしてほしい。 ☐ 未就学児には接種無料券などで接種できるようにしてほしい。 ☐ 歯科健診の補助はありがたい。 ☐ 医療費の無料はありがたい。	45
	その他		☐ 子どもの人数に応じた援助があると良い。 ☐ 子育て世帯への減税をしてほしい。 ☐ 3人以上出産した時のお祝い金制度を復活させてほしい。	28
安心、安全に関すること	遊び場	屋内施設	☐ 体を動かせる広い屋内施設がほしい。 ☐ 雨天時でも遊べる施設がほしい。 ☐ 全天候型の遊び場があれば遊びに行きやすい。	83
		その他	☐ 乳児から小学生が一緒に遊べる施設がほしい。 ☐ 子どもがのびのびと遊べる施設がほしい。 ☐ 太陽の城に代わる施設を作してほしい。	49
	公園	公園の数	☐ 人口の割に、公園が少ない。 ☐ 近くに公園がない。	54
		設備	☐ 公園で遊具が古いところは、新しくしてほしい。 ☐ 遊具が古く、さびていたり腐食している。 ☐ 遊具が老朽化していて遊べない。 ☐ 公園が汚い。 ☐ 駐車場が少ない。	59

	道路	歩道	○小さな子どもが安心して歩ける歩道にしてほしい。 ○道幅を広くしてほしい。 ○交通量の多い道路に歩道を整備するなど安全対策をしてほしい。	49
		安全対策	○カーブミラーの数を増やしてほしい。 ○ガードレールがなく、通学が危険である。 ○ガードレールを設置してほしい。	17
	防犯		○不審者や犯罪者から子どもを守れる環境にしてほしい。 ○防犯カメラの設置など犯罪防止に力を入れてほしい。 ○夕方の公園周囲パトロールなど。 ○犯罪や事故、いじめに対する対策を強化してほしい。	23
関 係 情 報 に 関 する 事 項			○ホームページの情報を増やしてほしい。 ○子育てに役立つ情報を配布してほしい。 ○無償化に関する情報がほしい。 ○保育園の情報は、市でまとめて情報発信をほしい。 ○障がいのある子ども向けの情報を充実させてほしい。 ○赤ちゃん訪問の情報を充実させてほしい。	50
行 政 に 関 する 事 項	職員の対応		○いろいろと丁寧に教えてもらい、感謝している。 ○相談に行った際の職員の対応を見直してほしい。	7
	その他		○役所手続をネットで行えるシステムを作してほしい。 ○必要書類と業務フローを統一してほしい。 ○相談しやすいように市役所が身近であってほしい。	13
そ の 他	アンケート		○アンケートを見やすくしてほしい。 ○アンケートの結果を実際に役立ててほしい。 ○ネットアンケートにしてほしい。	16
	税金		○未来の繁栄のために税金を有効活用してほしい。 ○税金を障がい者や高齢者のために使用してほしい。	14
	その他		○市営、県営住宅を建設してほしい。 ○子育て環境が整っているので満足している。	28

※上記は、自由回答の一部抜粋です。

15. 小学生児童の自由回答

区分	主な意見内容			件数
保育サービスに関すること	保育所	施設数	○保育園を増やしてほしい。	1
		時間	○夜間保育、一時保育などを充実させ、急な用事に対応してほしい。 ○開所時間を早めてほしい。	2
		へ障がい児の対応	○障がいのある子どもを普通の子と一緒にしてほしい。	2
		その他	○岡崎市は公立の保育園や幼稚園が少ないので、幼児期の経済的な負担が多かった。 ○子どもが1歳からでも働けるように、保育施設を充実させてほしい。	38
	幼稚園	一時預かり	○保育園だけでなく、幼稚園の一時預かりも必要である。	1
	学童保育	施設数	○住んでいる学区に学童保育がないので、作ってほしい。 ○受け入れ人数を増やしてほしい。	27
		条件	○全学年が利用できるようにしてほしい。 ○夏休み等の長期休暇時の利用枠を十分確保してほしい。 ○土日や祝日にも対応してほしい。 ○正社員とパートで学童保育利用の優先度を変えてほしい。	28
		その他	○学童保育利用の際の審査を適正に行ってほしい。 ○職場近くで学童保育を実施してもらえるとありがたい。 ○開所時間を早めてほしい。	29
	その他		○祖父母や親戚が近くにいないので、保育サービスを充実させてほしい。 ○他市のようなトワイライトの制度を作ってほしい。 ○子育て相談の電話や小児救急ダイヤルは助かった。	8
保健に関すること	医療体制		○休日・夜間受診できる病院をもっと増やしてほしい。 ○夜間休日における小児科や医療体制をもっと整備してほしい。	7
	予防接種		○インフルエンザ予防接種の補助を行ってほしい。 ○予防接種が学校でできると良い。	12

子育て支援に関すること	地域	子ども会等	○子ども会や PTA の集まりが多い。 ○子ども会は負担が大きい。	12
		その他	○近所、知人がとても親切に助けてくれるので、感謝している。 ○地域や近所同士の支援が身近にあると良い。	3
	こどもの家		○利用者が多い時は手狭になる。 ○宿題をさせてほしい。 ○学区によって開所時間に差がある。 ○こどもの家の職員の質の向上をしてほしい。	22
	その他		○ボランティアの援助も借りて子育て支援に力を入れてほしい。 ○子育て施設や公園等の環境整備を進めてほしい。 ○父親、母親ともに子育てに関われる社会的サポートに期待したい。 ○すべてのことが負担なくできる子育て環境の整備を期待したい。	24
労働環境に関すること	企業		○働きやすい企業環境になってほしい。 ○夫婦共働きだが、男女の育児休業取得率等に差がある。 ○短時間勤務制度を促進してほしい。 ○責任を持って保護者がきちんと子育てしていけるよう、企業が変わってほしい。	25
	その他		○共働き世帯の増加に伴う預け先が不足していることが不安である。 ○祖父母が近くにいない夫婦共働き世帯は、子育てが大変である。 ○フルタイム勤務の母親は周囲の協力が必要である。	12
教育に関すること	学校教育	学習	○放課後、希望者に補習を受けれるようにしてほしい。 ○学校の勉強の事を聞ける簡易的な場所や時間を確保してほしい。 ○総合学習の時間が多すぎる。	5
		へ障のが対い応児	○学校の教職員による知識不足、対応にも不満がある。 ○学校の教職員に、発達障がいについて広く知ってほしい。	9
		部活動	○部活動の強制はやめてほしい。 ○休日の送迎が多くて負担になっている。 ○市全体で部活動を減らす働きかけをしてほしい。	30
		その他	○小中学校のエアコン設置をすみやかに進めてほしい。 ○教職員の労働環境改善をしてほしい。 ○制服、体操服、シューズなどが学用品の費用が高い。 ○学校教育のレベルに地域差が出やすい。 ○教職員の質を向上してほしい。 ○子どもの個性を大事にするような教育をしてほしい。 ○しっかりした教育といじめ対策を充実してほしい。	48

手当や助成に関すること	手 児 当 童		○子ども手当を増額してほしい。 ○児童手当は非常に助かっている。	12
	医 療 費		○18 歳までの医療費補助があると良い。 ○医療費無償は今後も続けてほしい。	19
	補 各 助 種		○中学・高校の制服購入の補助金を出してもらえると助かる。 ○補助金は平等にしてほしい。 ○教育保育に関する市の助成金を増やしてほしい。	18
	ひ と り 親		○ひとり親手当を支給していただき、助かっている。	2
安心、安全に関すること	遊 び 場		○小学生が雨の日に遊べる場所がほしい。 ○暑い時に利用できる遊び場がほしい。 ○市内の東西南北に一つずつ全天候型の遊べる施設をつくってほしい。 ○室内プールを作ってほしい。	30
	公 園		○公園の数が少ない。 ○学区によっては広い公園がない。 ○汚なくて遊具も充実していない公園がある。 ○公園自体が古く、修繕が必要である。 ○思い切りボール遊びができる公園がほしい。	59
	道 路		○通学路で歩道のないような危険な場所の改善をしてほしい。 ○子どもを安心して歩かせられないような道路は改善してほしい。 ○街路樹をもっと増やしてほしい。	35
	そ の 他		○近くの公園のパトロールを強化してほしい。 ○子どもが安心して帰宅できるまちづくりを希望する。	44
関 心 の 情 報 に 関 する こ と			○子育て支援の情報があまり知らされていないように感じる。 ○NPO や市民活動団体が情報共有できる仕組みづくりをしてほしい。 ○不審者情報などは迅速に提供してほしい。 ○高校や大学の情報がほしい。	10
そ の 他	お 金		○中学生以上になると、お金がさらにかかる。 ○託児チケット等のサービスがほしい。 ○子どもが多くなれば、生活費がかさむ。 ○経済的なサポートを充実してほしい。	18
	施 設		○発達障がいに関する施設が少ないので増やしてほしい。 ○科学に身近に触れられる施設がほしい。	33
	ア ン ケ ー ト		○アンケート調査の目的がよく分からない。 ○意見が言えるアンケートがあり、うれしく思った。	17
	そ の 他		○近くにバスが通っていないので、高校などを決める時に限られてしまう。 ○子どもや若者達が将来夢を持てるようにしてほしい。 ○岡崎市の生活にはとても満足している。 ○他市の子育てに対するさまざまな優遇制度が魅力的である。	42

※上記は、自由回答の一部抜粋です。

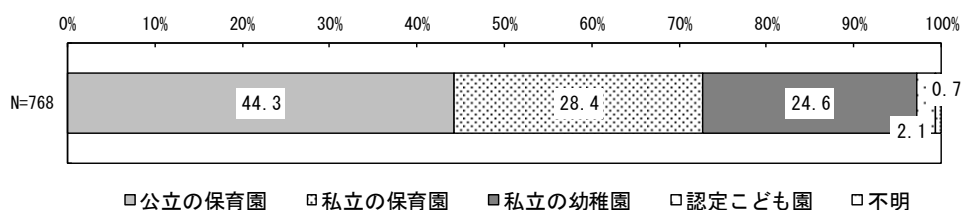
IV. 調査結果（保育園・幼稚園・認定こども園職員）

1. あなたご自身についてうかがいます

(1) あなたの勤務地は次のうちどれですか。〈単数回答〉

(園職員調査…問1)

勤務地についてみると、「公立の保育園」が44.3%、「私立の保育園」が28.4%となっています。

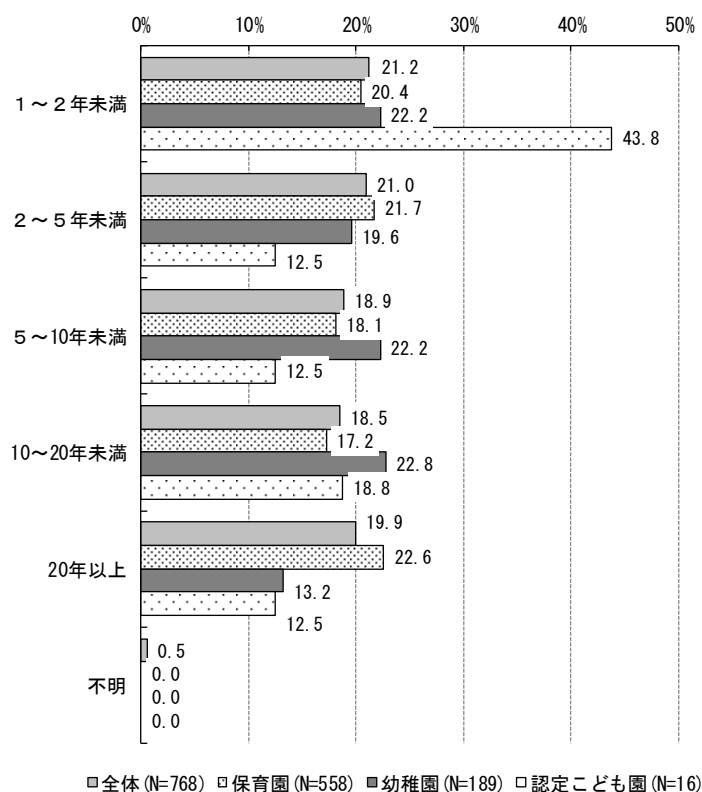


(2) 保育園・幼稚園・認定こども園での保育経験年数は次のうちどれですか。

〈単数回答〉

(園職員調査…問2)

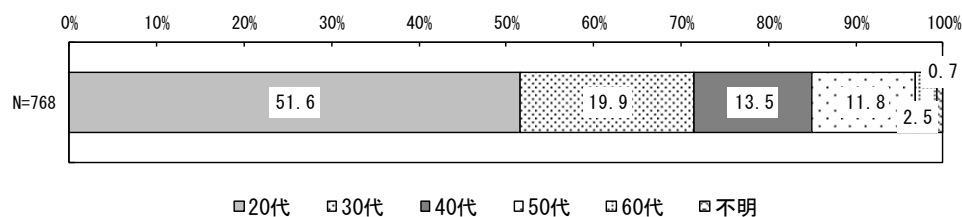
保育経験年数についてみると、どの経験年数も約2割となっています。保育園では「20年以上」が22.6%、幼稚園では「10～20年未満」が22.8%、「認定こども園」では「1～2年未満」が43.8%となっています。



(3) 年齢＜単数回答＞

(園職員調査…問3)

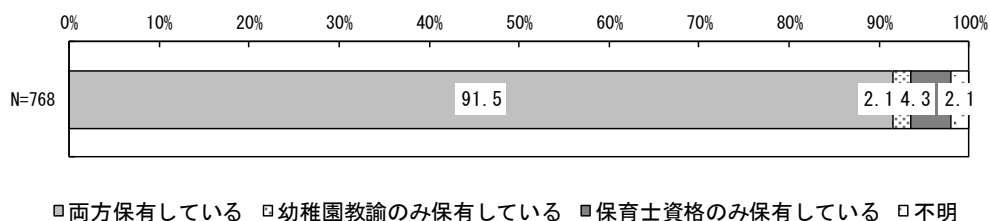
職員の年齢についてみると、「20代」が51.6%、「30代」が19.9%となっています。



(4) 現在、幼稚園教諭免許及び保育士資格の両方を保有していますか。＜単数回答＞

(園職員調査…問4)

資格の保有状況についてみると、幼稚園教諭免許と保育士資格を「両方保有している」が91.5%となっています。



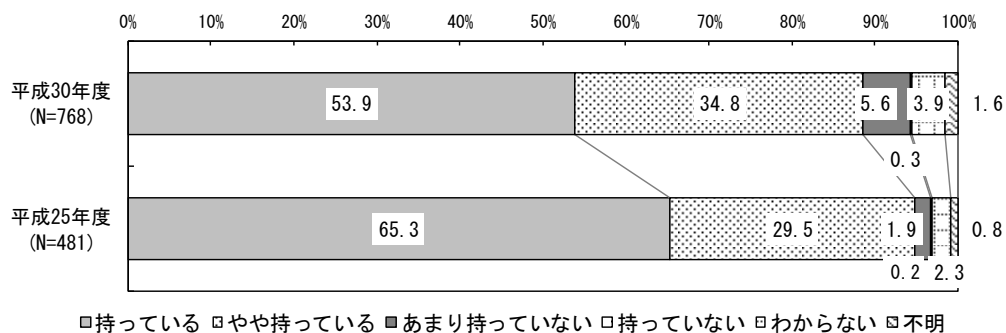
2. 仕事や職場の環境についてうかがいます

(5) 保育園・幼稚園・認定こども園の仕事にやりがいや充実感を持っていますか。

<単数回答>

(園職員調査…問5)

仕事にやりがいや充実感を持っているかについてみると、「持っている」が53.9%、「やや持っている」が34.8%となっています。前回調査時に比べ、仕事にやりがいや充実感を持っている割合がやや減っています。



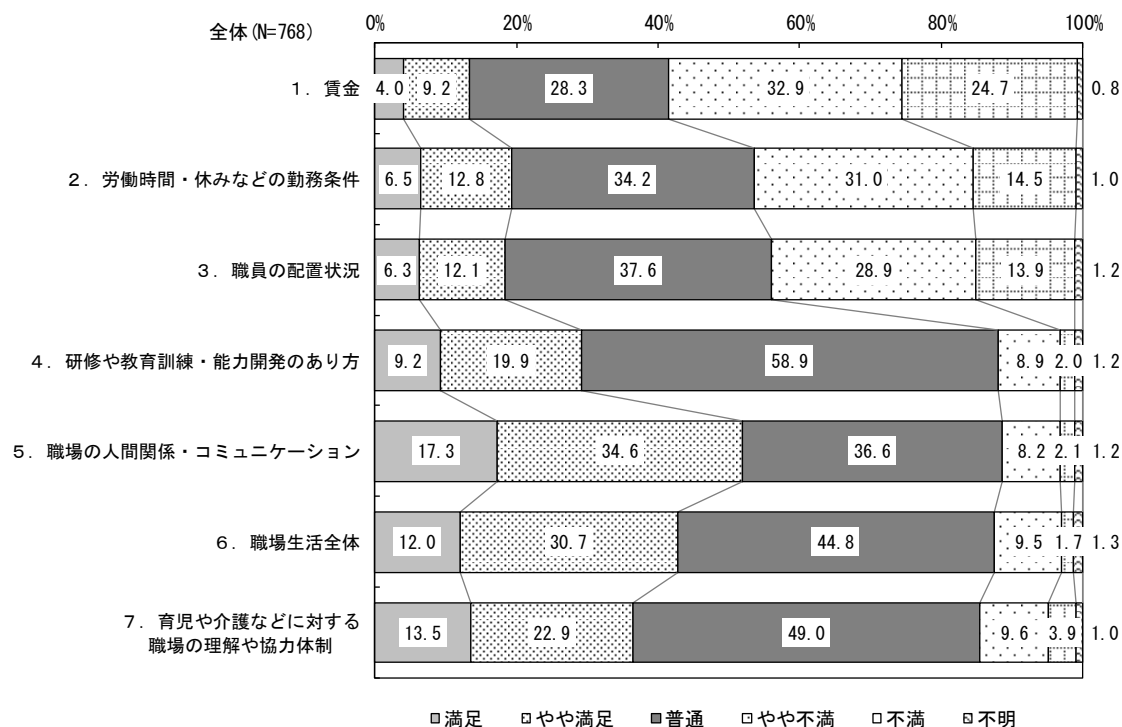
（６）現在の仕事の満足度についてうかがいます。＜単数回答＞

（園職員調査…問６）

仕事の満足度についてみると、職場の人間関係・コミュニケーションが満足（「満足」と「やや満足」の合計）が51.9%となっています。賃金が不満（「やや不満」と「不満」の合計）が57.6%となっています。

公立と私立では、「労働時間・休みなどの勤務条件」「職員の配置状況」に差がみられます。

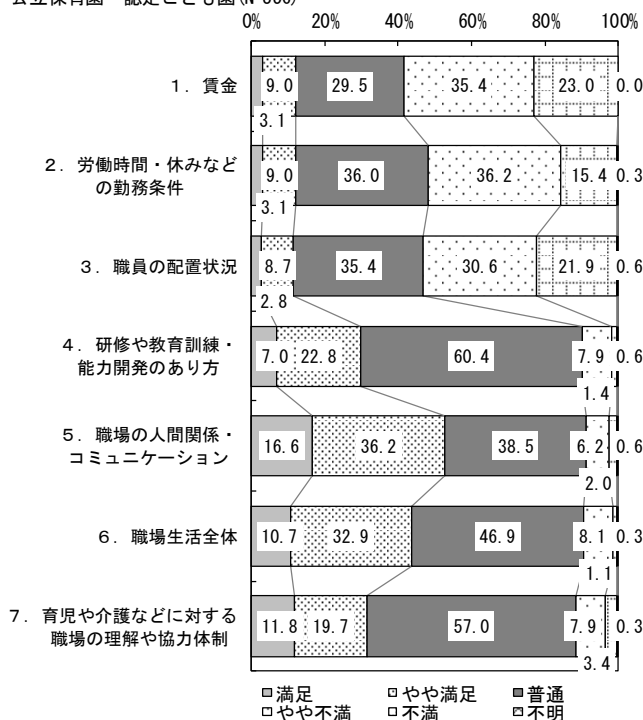
【全体】



【公立・私立別】

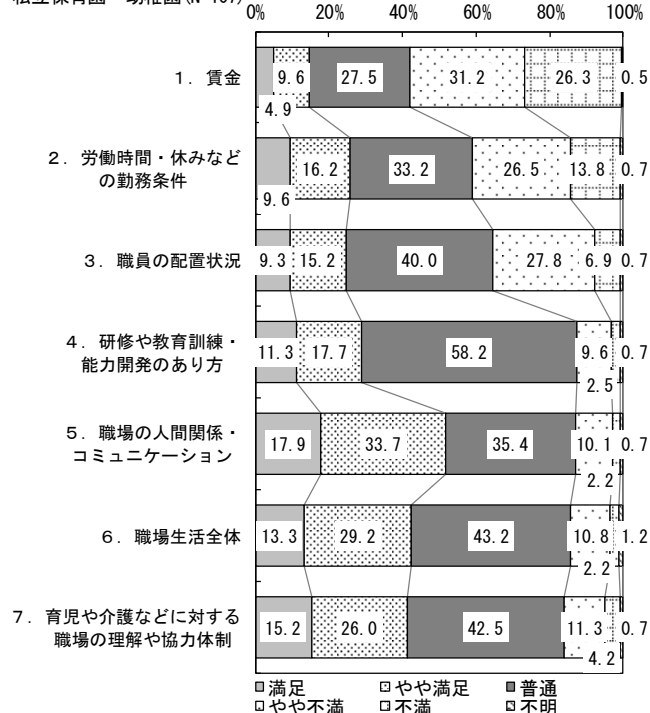
（公立保育園・認定こども園）

公立保育園・認定こども園 (N=356)



（私立保育園・幼稚園）

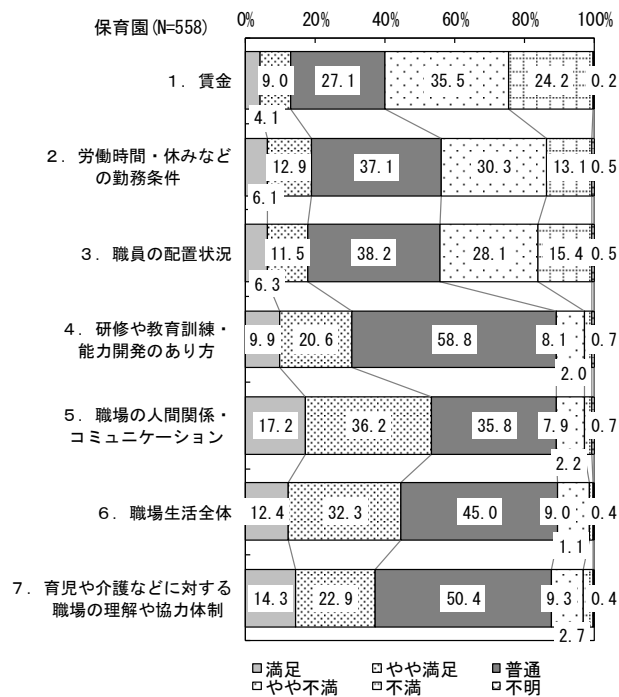
私立保育園・幼稚園 (N=407)



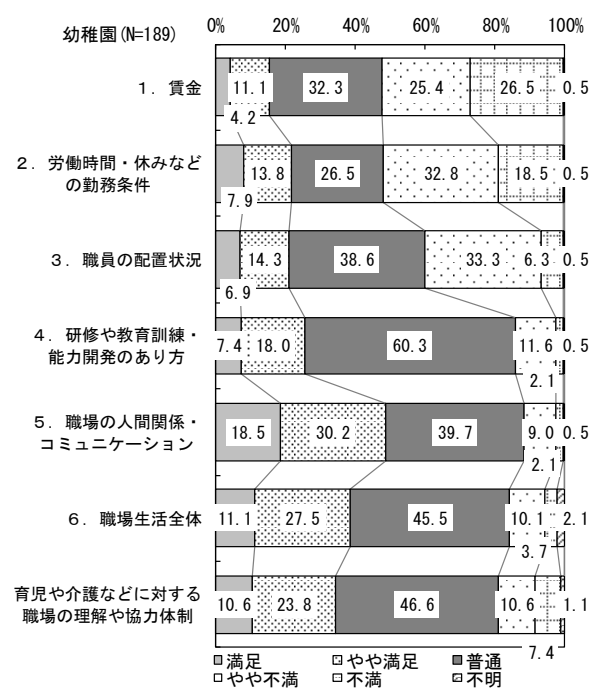
勤務地別についてみると、職場の人間関係・コミュニケーションについて「保育園」では他よりも満足がやや多く、賃金について「保育園」「認定こども園」で不満が多くなっています。

【勤務地別】

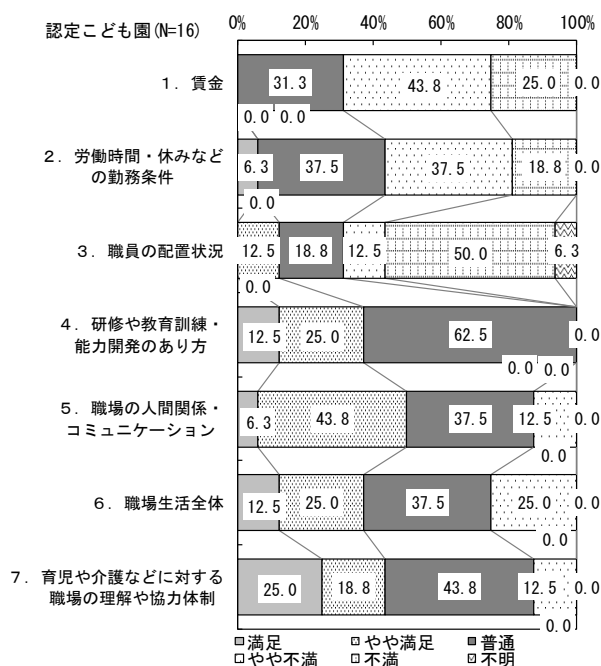
(保育園)



(幼稚園)



(認定こども園)



（７）あなたに任された現在の仕事量は適量だと思いますか。＜単数回答＞

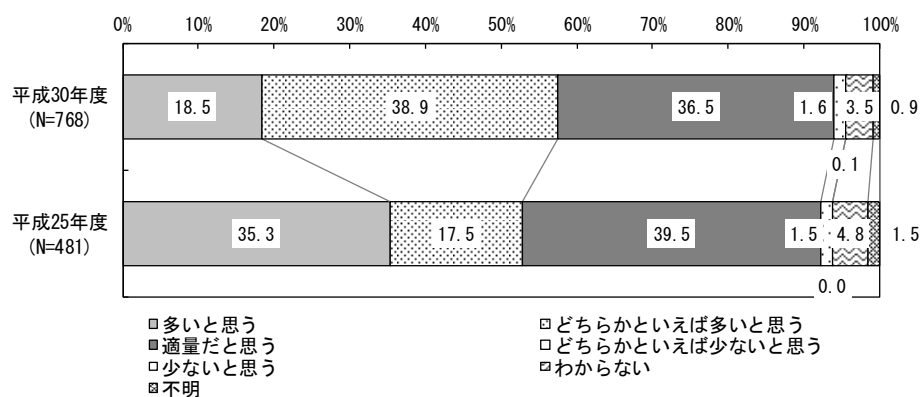
（園職員調査…問７）

現在の仕事量についてみると、「どちらかといえば多いと思う」が38.9%となっています。前回調査時に比べて、「多いと思う」と答えた人が減っています。

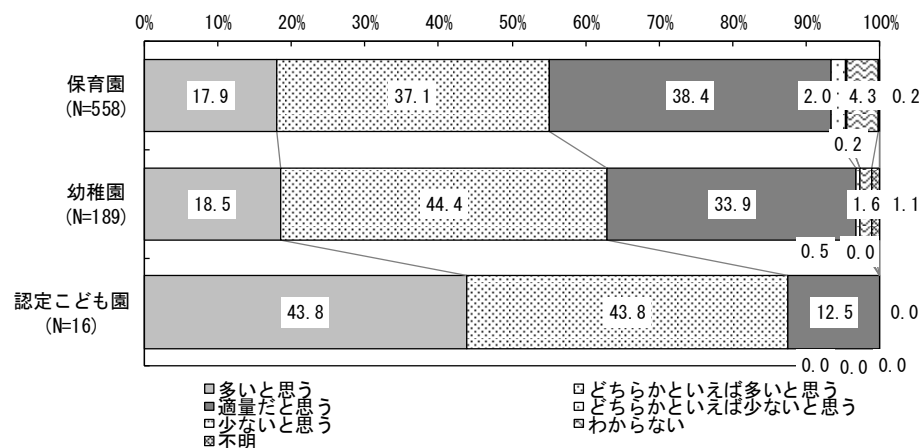
勤務地別では、特に認定こども園で「多いと思う」が43.8%となっています。

経験年数別では、経験年数があがるにつれ仕事量が「多いと思う」割合が多くなっています。

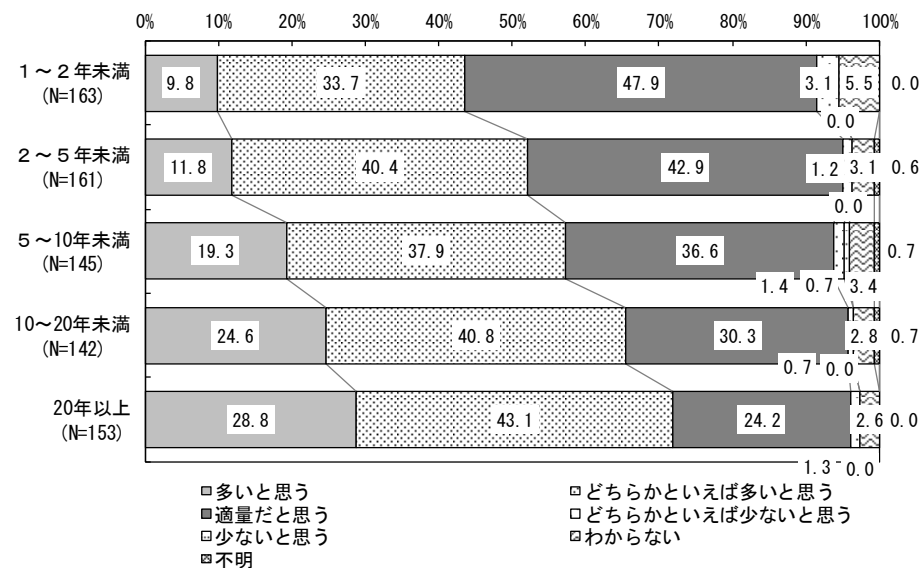
【全体】



【勤務地別】



【経験年数別】



(8) ここ数年の間で、あなたの勤務負担は増えていますか。それとも軽減されていますか。

＜単数回答＞

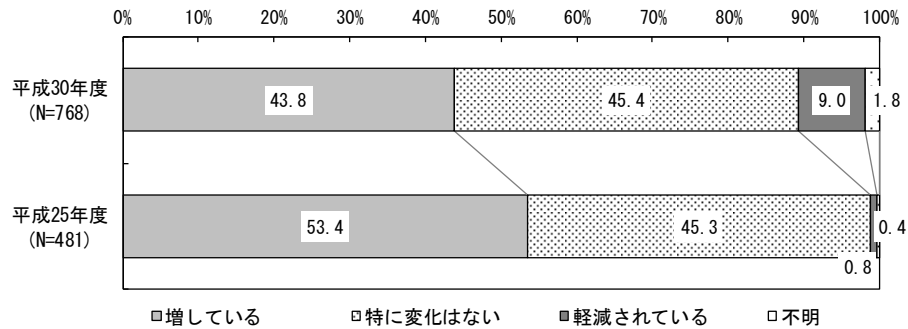
(園職員調査…問8)

勤務負担は増えているかについてみると、「特に変化はない」が45.4%であり、前回調査時に比べ、「増えている」と答えた人が1程度減っています。

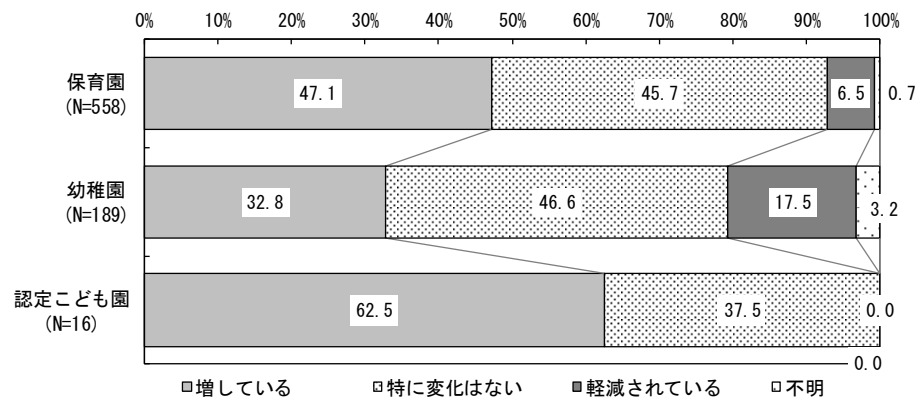
勤務地別では、「増えている」が保育園で47.1%、認定こども園で62.5%となっています。

経験年数別では、経験年数があがるにつれ勤務負担が「増えている」割合が増えています。

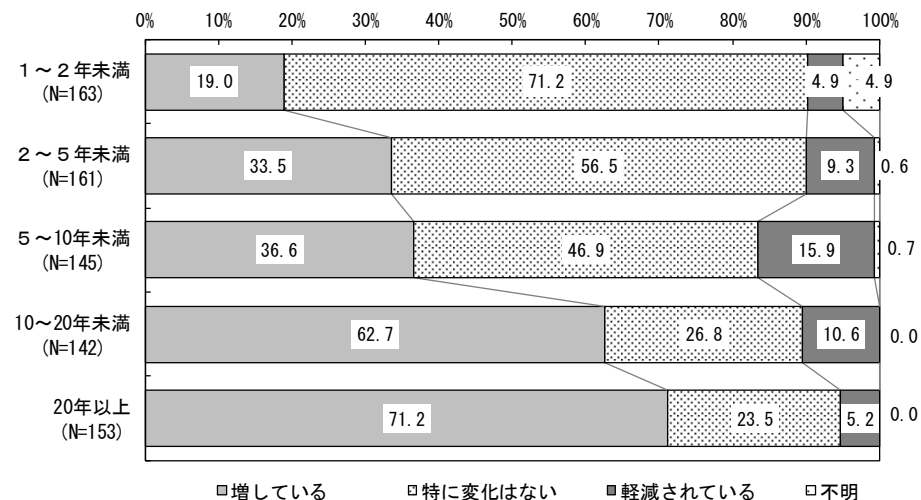
【全体】



【勤務地別】



【経験年数別】

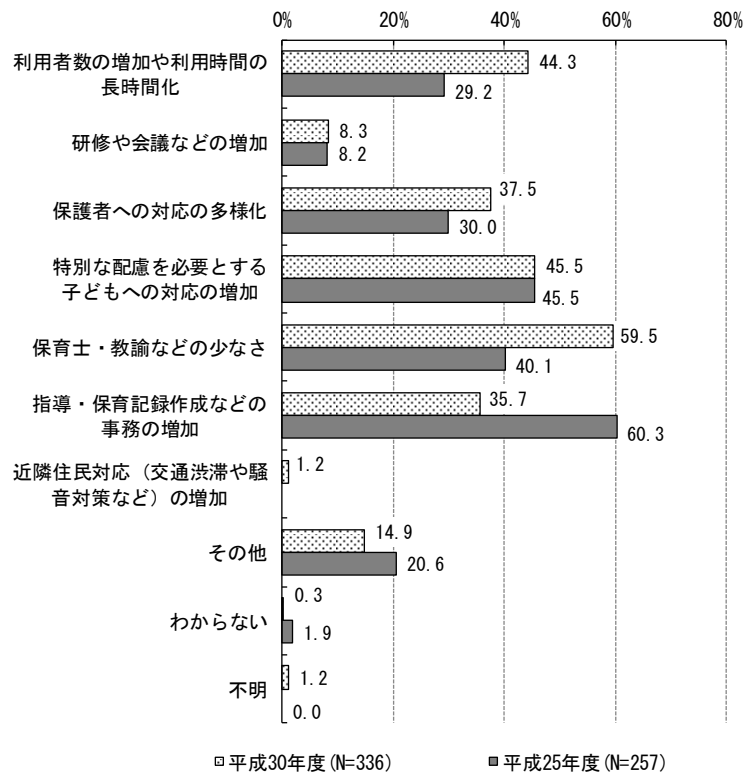


(9) 負担が増してきた主な原因は何だと思いますか。〈複数回答〉

(園職員調査…問 8-1)

負担が増してきた主な原因についてみると、「保育士・教諭などの少なさ」が59.5%となっています。前回調査時と比べて、「保育士・教諭などの少なさ」「利用者数の増加や利用時間の長時間化」「保護者への対応の多様化」が多くなっています。一方で「指導・保育記録作成などの事務の増加」が少なくなっています。

【全体】

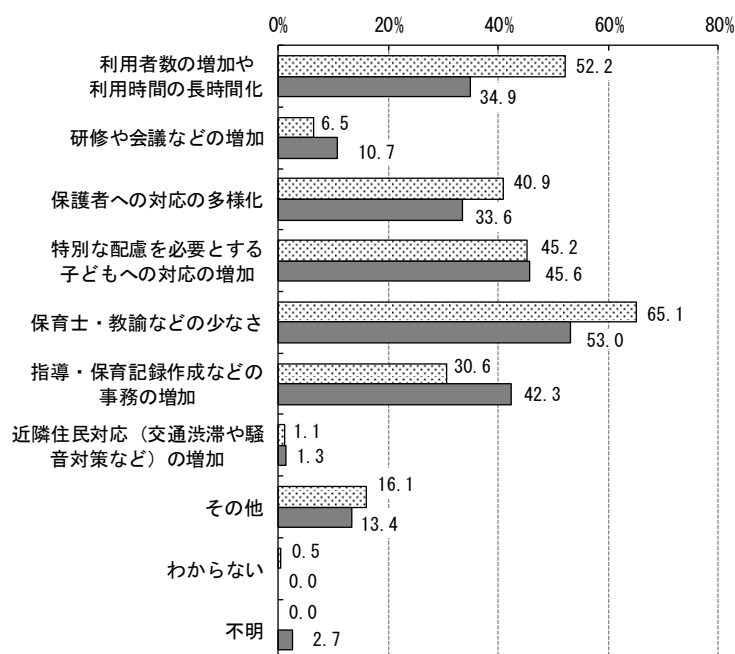


※「近隣住民対応（交通渋滞や騒音対策など）の増加」は、平成 30 年度調査のみ。

公立・私立別についてみると、公立では「保育士・教員などの少なさ」「利用者数の増加や利用時間の長時間化」が多く、私立では「指導・保育記録作成などの事務の増加」が多くなっています。

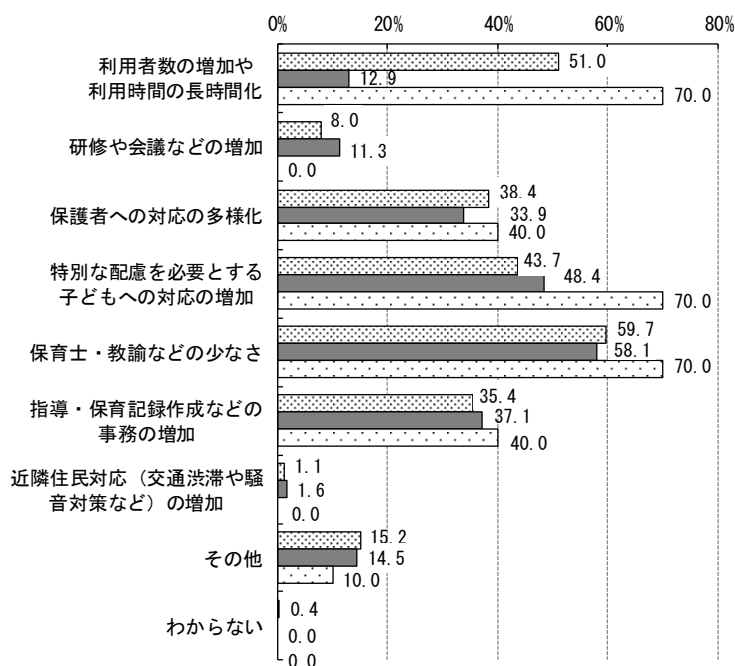
勤務地別についてみると、幼稚園と保育園では「利用者数の増加や利用時間の長時間化」に差がみられます。

【公立・私立別】



□公立保育園・認定こども園 (N=186) ■私立保育園・幼稚園 (N=149)

【勤務地別】



□保育園 (N=263) ■幼稚園 (N=62) □認定こども園 (N=10)

(10) 労働条件・仕事の負担に関して以下のような悩み・不満などがありますか。

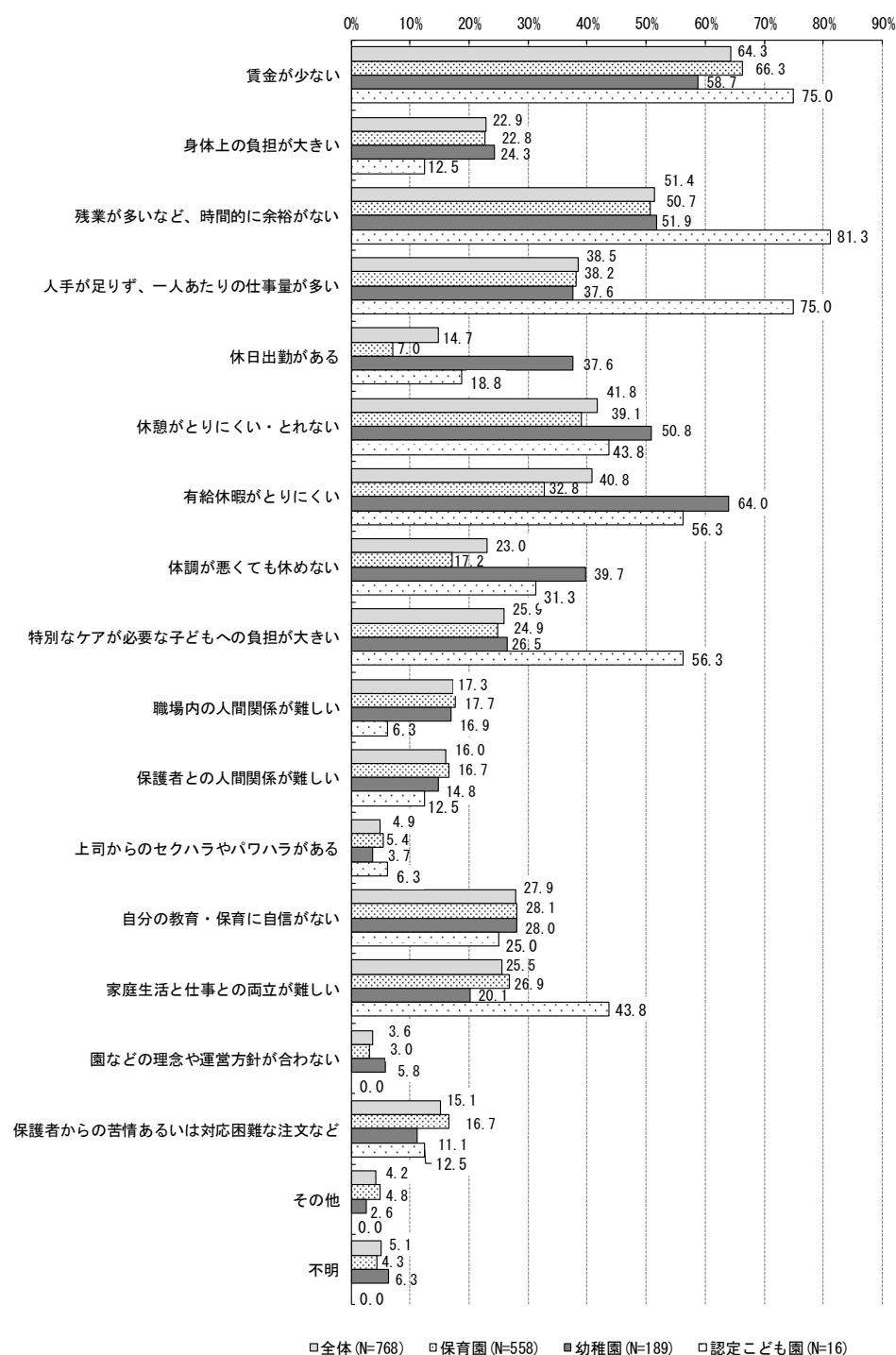
<複数回答>

(園職員調査…問9)

労働条件・仕事の負担に関する悩み・不満についてみると、「賃金が少ない」が64.3%、「残業が多いなど、時間的に余裕がない」が51.4%となっています。

勤務地別についてみると、他に比べて幼稚園では「有給休暇がとりにくい」が64.0%、「休憩がとりにくい・とれない」が50.8%と多く、認定こども園では「残業が多いなど、時間的に余裕がない」が81.3%と多くなっています。

【全体・勤務地別】



公立・私立別についてみると、他に比べて公立では「残業が多いなど、時間的に余裕がない」が60.4%、「人手が足りず、一人あたりの仕事量が多い」が49.7%と多く、私立では「休憩がとりにくい・とれない」が45.9%、「休日出勤がある」が21.4%と多くなっています。

経験年数別についてみると、保育経験年数5～10年では、「賃金が少ない」が82.1%、「残業が多いなど、時間的に余裕がない」が61.4%となっています。保育経験年数1～2年未満では、「自分の教育・保育に自信がない」が47.9%となっています。

【公立・私立別】

	賃金が少ない	身体上の負担が大きい	残業が多いなど、時間的に余裕がない	人手が足りず、一人あたりの仕事量が多い	休日出勤がある	休憩がとりにくい・とれない	有給休暇がとりにくい	体調が悪くても休めない	特別なケアが必要な子どもへの負担が大きい
公立保育園・認定こども園(N=356)	65.7	24.4	60.4	49.7	7.3	37.6	39.6	21.3	30.9
私立保育園・幼稚園(N=407)	63.6	21.6	44.0	29.2	21.4	45.9	42.3	24.6	21.6
	職場内の人間関係が難しい	保護者との人間関係が難しい	上司からのセクハラやパワハラがある	自分の教育・保育に自信がない	家庭生活と仕事との両立が難しい	園などの理念や運営方針が合わない	保護者からの苦情あるいは対応困難な注文など	その他	不明
公立保育園・認定こども園(N=356)	17.1	17.4	4.2	26.1	29.5	2.8	17.7	4.8	3.9
私立保育園・幼稚園(N=407)	17.4	15.0	5.7	29.7	22.1	4.4	13.0	3.7	5.4

【経験年数別】

	賃金が少ない	身体上の負担が大きい	残業が多いなど、時間的に余裕がない	人手が足りず、一人あたりの仕事量が多い	休日出勤がある	休憩がとりにくい・とれない	有給休暇がとりにくい	体調が悪くても休めない	特別なケアが必要な子どもへの負担が大きい
1～2年未満(N=163)	61.3	22.1	46.6	26.4	20.9	36.2	38.7	24.5	19.6
2～5年未満(N=161)	76.4	19.9	60.2	39.1	9.9	41.6	44.1	27.3	27.3
5～10年未満(N=145)	82.1	26.2	61.4	44.1	20.0	51.7	46.9	24.8	29.0
10～20年未満(N=142)	60.6	23.2	47.9	38.7	12.7	48.6	43.7	23.9	30.3
20年以上(N=153)	43.1	24.2	41.8	46.4	10.5	33.3	32.0	15.0	24.8
	職場内の人間関係が難しい	保護者との人間関係が難しい	上司からのセクハラやパワハラがある	自分の教育・保育に自信がない	家庭生活と仕事との両立が難しい	園などの理念や運営方針が合わない	保護者からの苦情あるいは対応困難な注文など	その他	不明
1～2年未満(N=163)	17.8	12.9	2.5	47.9	8.6	3.1	8.6	1.2	6.7
2～5年未満(N=161)	14.9	14.9	6.2	34.8	15.5	2.5	7.5	1.9	5.0
5～10年未満(N=145)	13.8	16.6	4.8	28.3	38.6	7.6	17.2	2.8	0.7
10～20年未満(N=142)	16.2	17.6	6.3	19.0	39.4	2.1	14.8	7.7	5.6
20年以上(N=153)	23.5	19.0	5.2	7.8	29.4	3.3	28.8	7.8	5.2

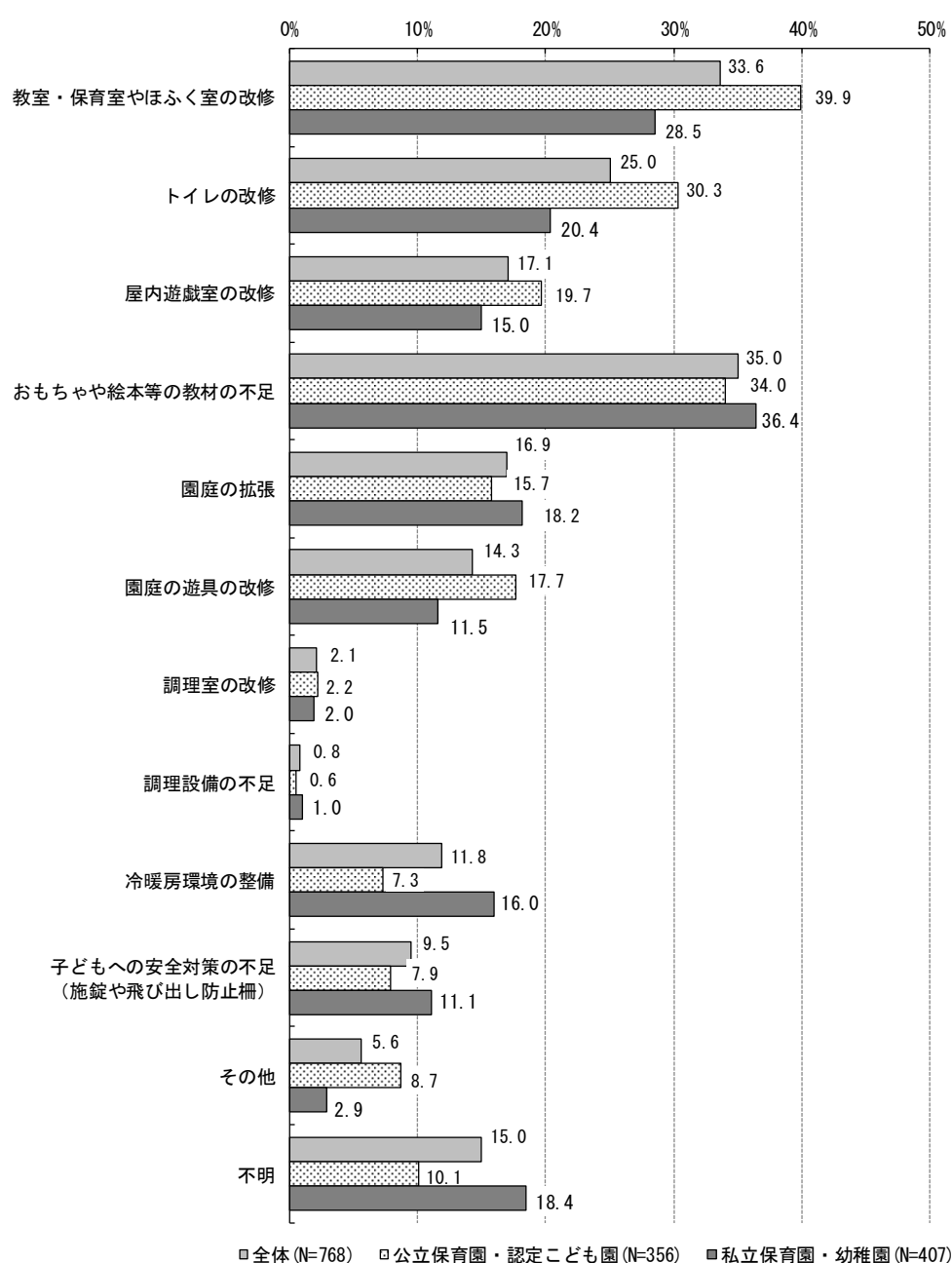
(11) 今の職場・施設について、改善が必要だと思う箇所や不足していると思うことは何ですか。〈複数回答〉

(園職員調査…問 10)

改善が必要だと思う箇所についてみると、「おもちゃや絵本等の教材の不足」が35.0%と最も多く、次いで「教室・保育室やほふく室の改修」が33.6%、「トイレの改修」が25.0%となっています。

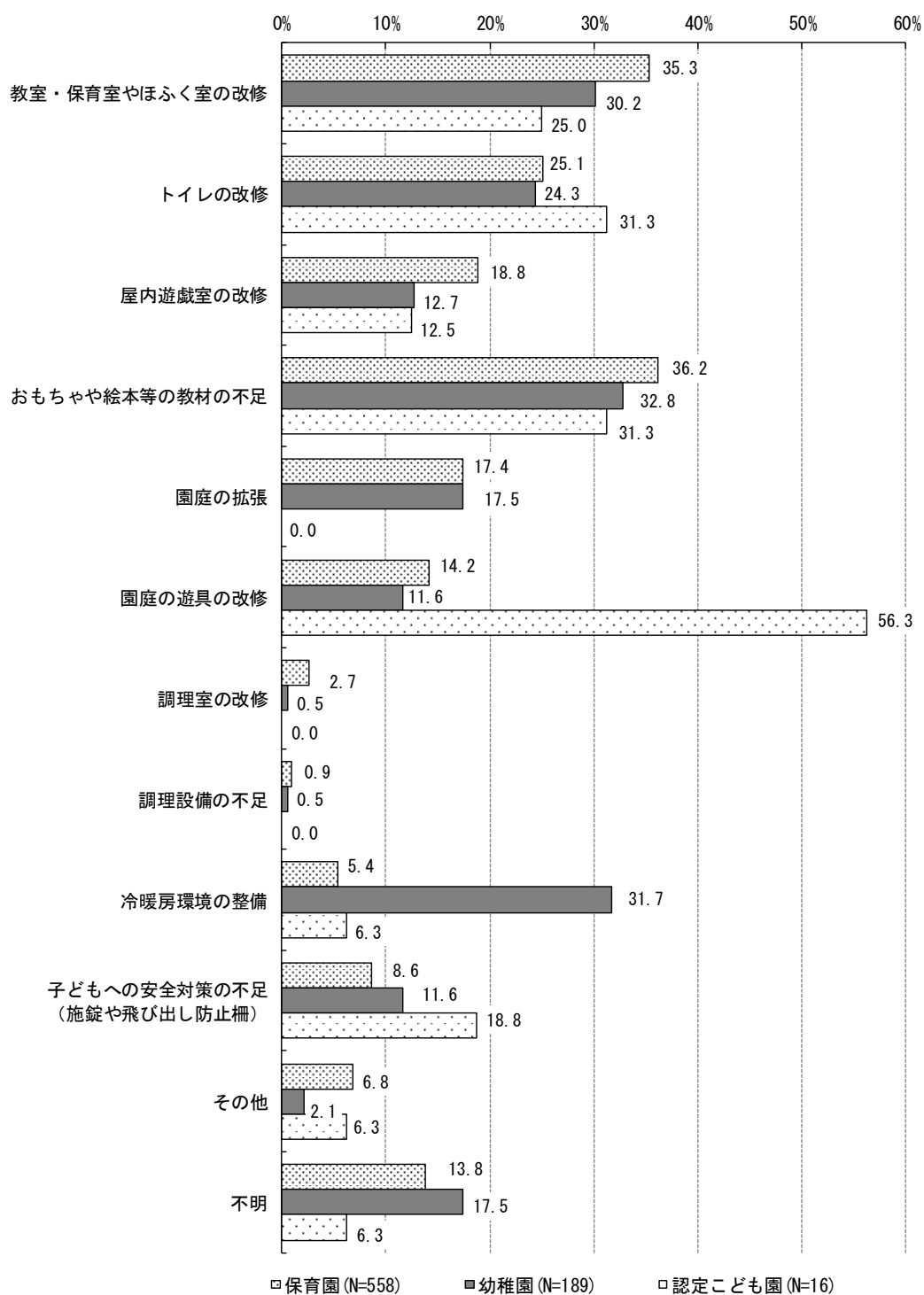
公立・私立別についてみると、他に比べて公立では「教室・保育室やほふく室の改修」が39.9%、「トイレの改修」が30.3%と多く、私立では「園庭の拡張」が18.2%、「冷暖房環境の整備」が16.0%と多くなっています。

【公立・私立別】



勤務地別についてみると、他に比べて幼稚園では「冷暖房環境の整備」が31.7%、認定こども園では「園庭の遊具の改修」が56.3%と多くなっています。

【勤務地別】

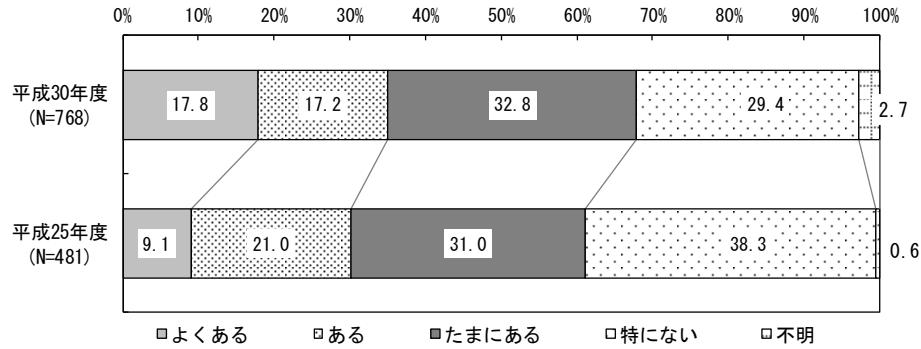


**(12) 今の職場・施設をやめる、あるいは、保育園・幼稚園・認定こども園の仕事からの
転職を考えることはありますか。〈単数回答〉**

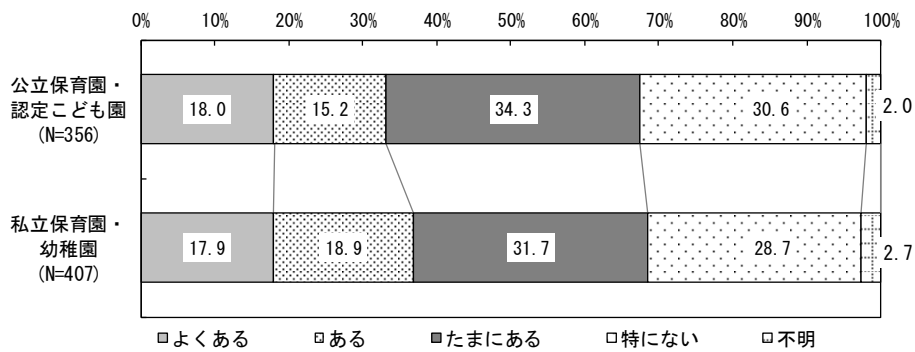
(園職員調査…問 11)

転職を考えたことについてみると、「よくある」が 17.8%となっています。一度でも転職を考えたことがある人は 67.8%であり、前回調査時よりも増えています。

公立・私立別についてみると、大きな差はありません。



(公立・私立別)

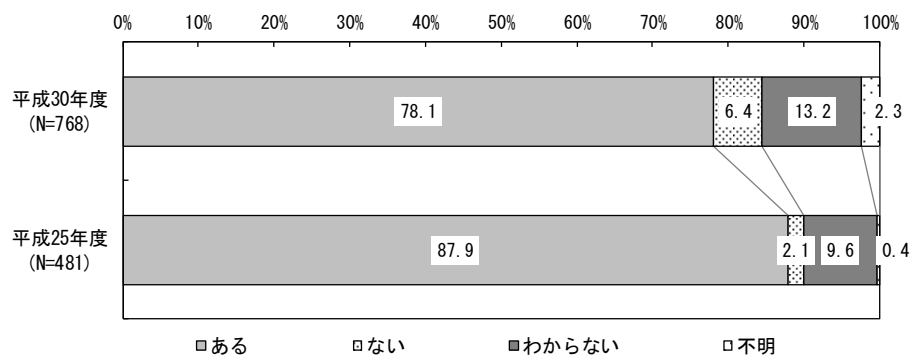


(13) 自分の知識や専門性を高めるため、研修などへの参加意向はありますか。

<単数回答>

(園職員調査…問 12)

研修などへの参加意向についてみると、「ある」が78.1%となっており、前回調査時に比べて約1割ほど少なくなっています。

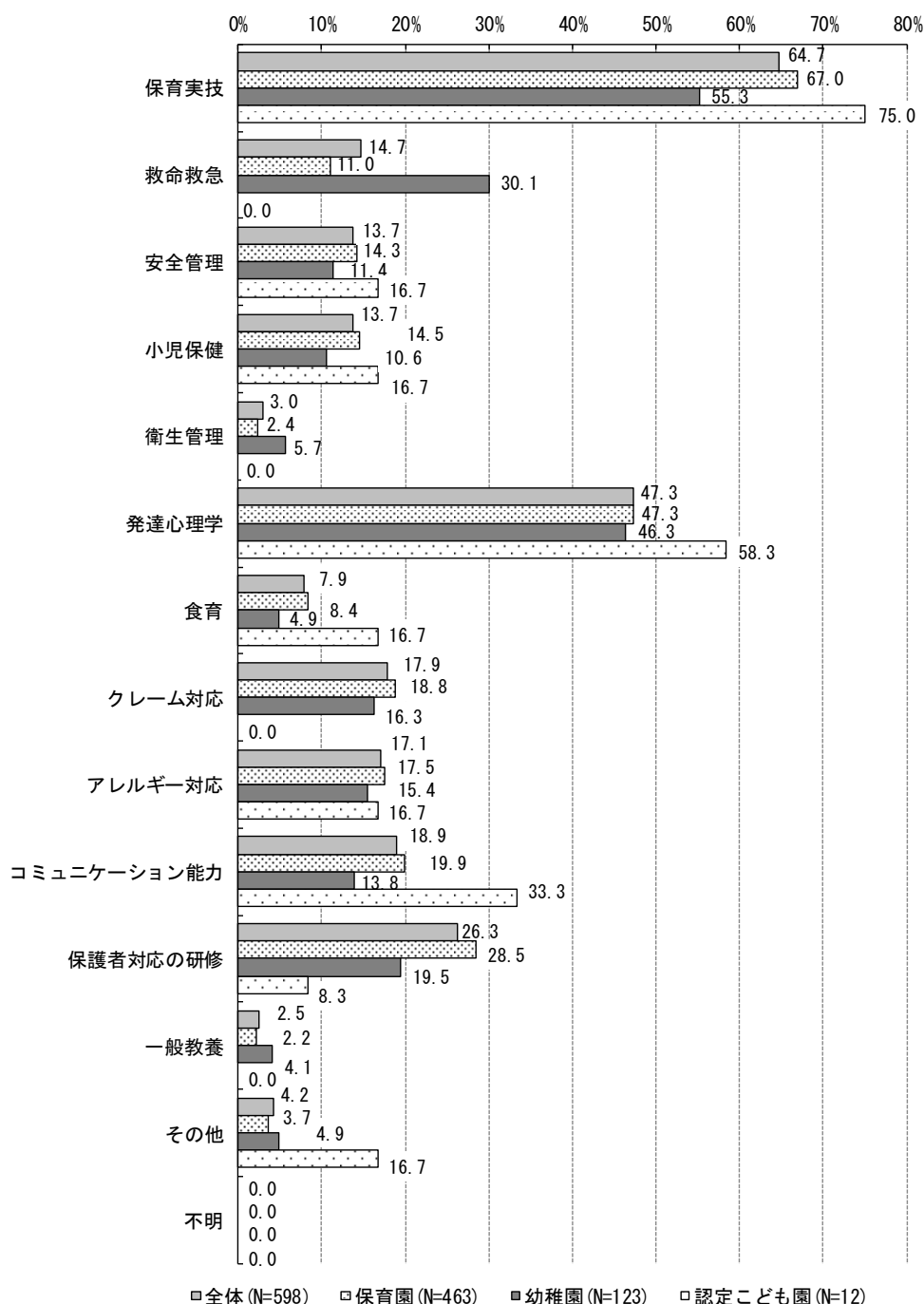


(14) 保育や幼児教育に関する研修では、どのような内容を希望しますか。〈複数回答〉

(園職員調査…問 12-1)

希望する保育や幼児教育に関する研修についてみると、「保育実技」が64.7%、「発達心理学」が47.3%、「保護者対応の研修」が26.3%となっています。

勤務地別についてみると、幼稚園では「救命救急」が30.1%、認定こども園では「コミュニケーション能力」が33.3%と他より多くなっています。



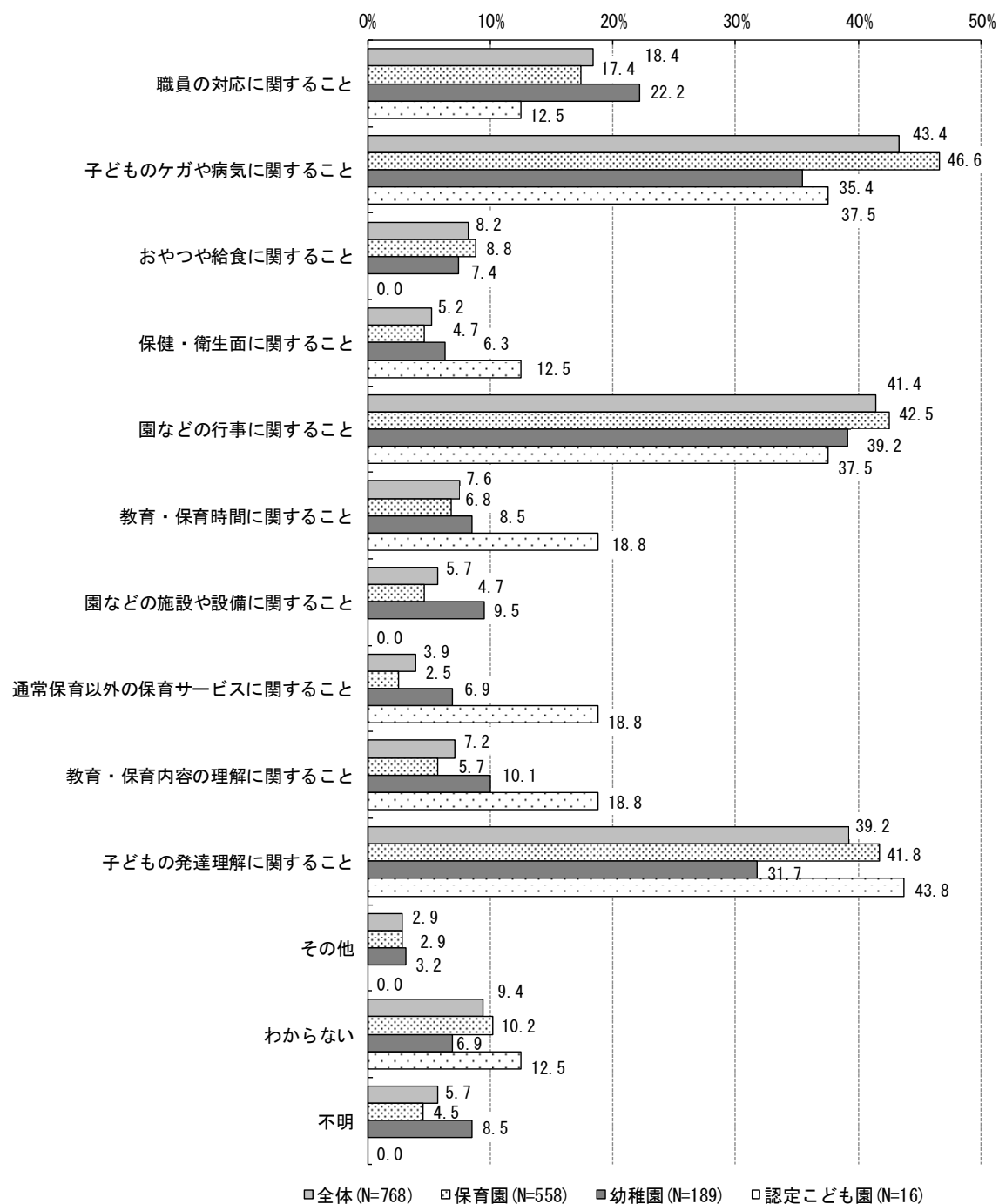
3. 保護者などの状況についてうかがいます

(15) 保護者から寄せられる要望としては、どのようなものが多いですか。〈複数回答〉

(園職員調査…問 13)

保護者から寄せられる要望についてみると、「子どものケガや病気に関すること」が43.4%、「園などの行事に関すること」が41.4%、「子どもの発達理解に関すること」が39.2%となっています。

勤務地別についてみると、他に比べて幼稚園では「職員の対応に関すること」が22.2%と多く、「子どものケガや病気に関すること」が35.4%、「子どもの発達理解に関すること」が31.7%と少なくなっています。

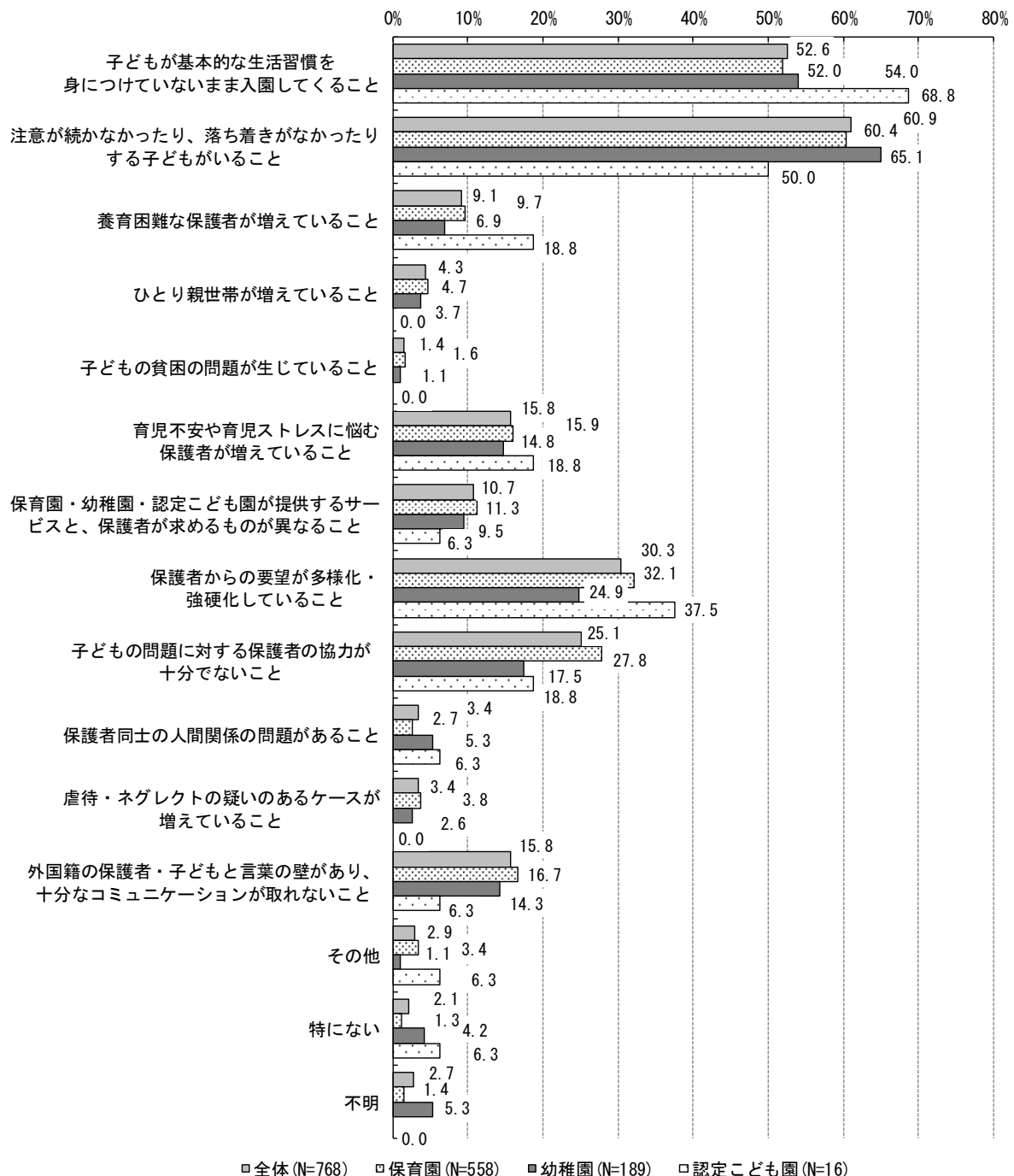


(16) 最近の保護者やその子どもにみられる状況について、特に問題だと思うことは何ですか。〈複数回答〉

(園職員調査…問 14)

特に問題だと思うことについてみると、「注意が続かなかったり、落ち着きがなくなったりする子どもがいること」が60.4%、「子どもが基本的な生活習慣を身につけていないまま入園してくること」が52.6%となっています。

勤務地別についてみると、他に比べて幼稚園では「注意が続かなかったり、落ち着きがなくなったりする子どもがいること」が65.1%と多く、「保護者からの要望が多様化・強硬化していること」が24.9%と少なくなっています。



□ 全体 (N=768) □ 保育園 (N=558) ■ 幼稚園 (N=189) □ 認定こども園 (N=16)

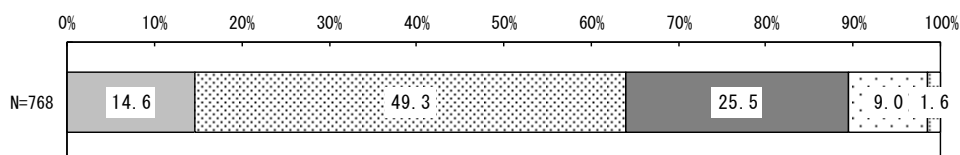
4. ワーク・ライフ・バランスについてうかがいます

(17) 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）のバランスはとれていますか。

<単数回答>

(園職員調査…問 15)

自分の仕事と生活のバランスについてみると、「まあまあとれている」が49.3%となっており、「とれている」と合わせると63.9%となっています。



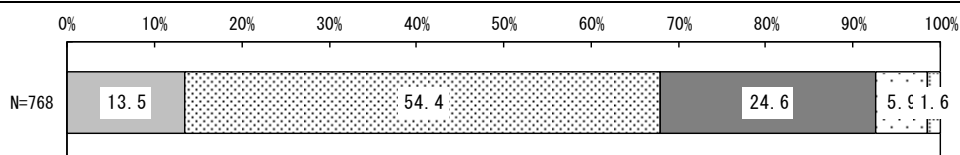
☐ とれている ☐ まあまあとれている ☐ あまりとれていない ☐ とれていない ☐ 不明

(18) 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）は両方充実していますか。

<単数回答>

(園職員調査…問 16)

自分の仕事と生活は両方充実しているかについてみると、「まあ充実している」が54.4%となっており、「充実している」と合わせると67.9%となっています。

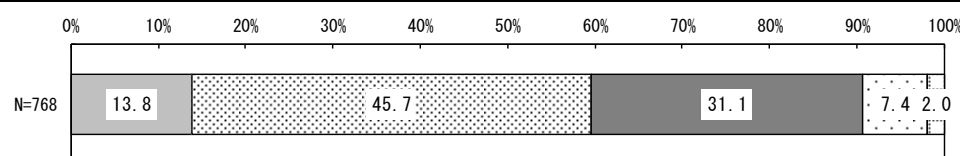


☐ 充実している ☐ まあ充実している ☐ あまり充実していない ☐ 充実していない ☐ 不明

(19) 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）は互いに良い影響を及ぼしあっていますか。 <単数回答>

(園職員調査…問 17)

自分の仕事と生活は互いに良い影響を及ぼしあっているかについてみると、「まあまあそう思う」が45.7%となっており、「そう思う」と合わせると59.5%となっています。

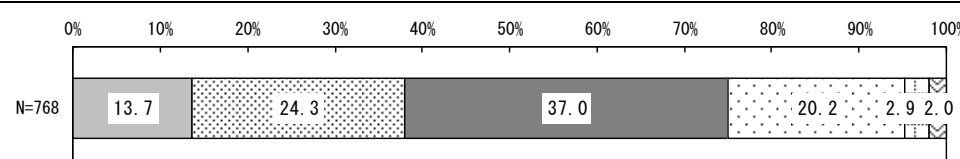


☐ そう思う ☐ まあまあそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ そう思わない ☐ 不明

(20) あなたは困ったとき、誰に相談しますか。 <単数回答>

(園職員調査…問 18)

困ったときの相談先についてみると、「家族」が37.0%、「職場の同僚」が24.3%となっています。



☐ 上司 ☐ 職場の同僚 ☐ 家族 ☐ 友人 ☐ その他 ☐ 不明

5. 保育園・幼稚園・認定こども園職員の自由回答

区分		主な意見内容	件数
サービス		○保育時間が長くなり、子どもの人数が増えている。 ○障がいのある子の対応で、他の園児に手が回らなくなる。障がい児一人当たり保育者が何人という基準を整備してほしい。 ○保護者の要望が年々多種多様なものとなり、保育者の対応もそれによって一層複雑なものになっている。	42
教育・保育に関すること	無償化	○幼児教育、保育の無償化が心配。保育園に求められていること、保育者の負担が増してきているように感じる。 ○保育の無償化よりも待遇の対策をしないと、保育士の確保は困難である。	3
	教育	○どのような教育をしたら、どのような大人に育ったかの追跡研究を行い、その結果に基づき教育の在り方を見直すべきだと思う。 ○日本の保育、教育は、海外の教育に比べ、保育者の負担が大きいと感じる。 ○義務教育でなくても、平等な保育が子どもに届けられるように、方針や設備等整えてほしい。	7
待遇改善に関すること	業務量	○延長時間を利用する子どもが増加し、保育士の負担が増えている。 ○延長保育希望の乳児・障がい児、気になる子が増えているが、対応する職員の数は増えずに負担が大きい。 ○持ち帰りの仕事が多く、家庭に戻っても仕事に拘束されてしまう。 ○事務的な仕事が多すぎる。担任を一人で持って、一人でやらなければいけないため負担が大きすぎる。	106
	人員	○預かる児童の長時間化、低年齢化が年々増加しており、そのために保育士が不足している。時間外で対応しているが、週の半分以上が早朝、延長の対応になり、保育士の余裕がない状態である。 ○保育士不足の現状に合わせた子どもの受け入れを考えていく必要性を感じる。 ○保育園に求められることが多くなり、できることはあっても対応する人員がなく、やりきれないことが多い。 ○「待機児童を無くす」、「保護者の要望に応える」、「子育て支援」など社会的なニーズを優先するために保育士への負担が増えて、離職、保育士不足、さらに残った保育士に負担がかかるという悪循環が生まれている。	59
	賃金・給与	○月給が固定で、残業しても家に持ち帰る仕事があっても給料が同じ。 ○給料が少ない。 ○時間外労働が多く、賃金が低いから、仕事は楽しいが、続けることを悩んでしまう。	82
予算・行政		○小規模園では予算が少なく、事務員も置けずに事務負担が大きい。小規模園にもっと手厚く補助金を出してほしい。 ○もっと教材費や施設費を増やしてほしい。 ○建物や備品が老朽化しており、修繕費などを補助してほしい。 ○行政は市民のニーズに応えることばかり考えていて、実際に保育している側（保育者）のことを考えてくれないように思う。	24
子育て支援施策		○家庭で育児を行っていることへの何らかの支援があっても良いのではないかと感じる。 ○市内に雨天時の遊べる施設を作してほしい。充実させてほしい。 ○これから子どもを産んで、育てやすい環境が作られていない。	10

仕事・職場に関すること	○保育園は、様々なこと（休憩の取り方や、延長保育の当番、クラス運営など）が園によって異なり、職場に慣れるのに時間を要するのが問題だと思う。 ○1つの園での勤続年数が長いので、正規・嘱託・パートすべての職員をもっと異動をさせるべきだと感じる。 ○他の職員があまりよくない言葉かけや行動をしていても、注意するのにためらってしまう。 ○働く中で正規職員、嘱託職員、パート職員などの考え方、また、園長、主任先生の保育等に関する考え方や仕事に対する意見や協力に温度差があることについて残念に思う。 ○保育所やこども園が子どものための場ではなく、大人が働きやすいための場になっていると感じる。	21
その他	○大変なこともあるが、やっぱり子どもが可愛いので頑張ることが出来ていると感じる。 ○保護者の育児支援に重きを置くあまりに、子どもがないがしろにされてはならないと感じる。 ○言葉使いや常識等で世代ギャップを感じる。 ○子育てしながら、フルタイムで仕事するのは大変であり、精神的につらいこともあるが、とてもやりがいを感じて取り組める部分もあるので、出来る限り仕事を続けていきたいと思っている。	25

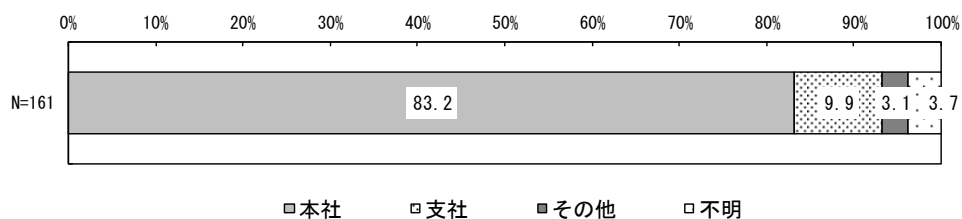
※上記は、自由回答の一部抜粋です。

V. 調査結果（事業所）

1. 貴事業所についてうかがいます

(1) 貴事業所の概要についてお答えください。(貴事業所の性格) <単数回答>

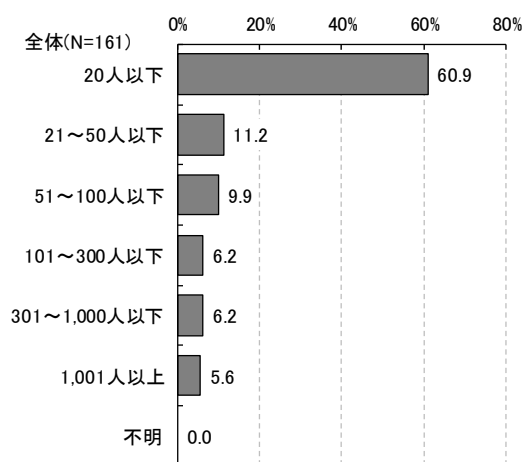
(事業所調査…問2)



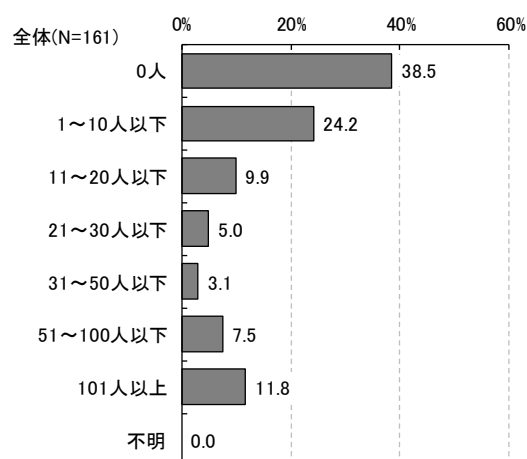
(企業の業種)

選択肢	%
建設業	16.7
製造業	25.0
電気・ガス・熱供給・水道業	3.8
情報通信業	0.6
運輸業	0.6
卸売・小売業	14.7
金融・保険業	2.6
不動産業	2.6
飲食店・宿泊業	2.6
医療・福祉（社会福祉法人を含む）	6.4
教育・学習支援業（フィットネスクラブ、教養講座を含む）	1.3
複合サービス業（郵便局や、農協などの協同組合を含む）	0.6
サービス業	12.2
その他	5.8
無回答	4.5

【従業員数 全社員数】(数量回答)



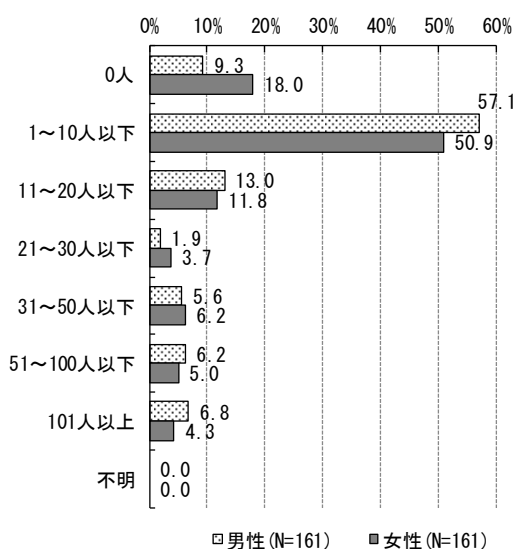
【従業員数 貴事業所(支社)人数】(数量回答)



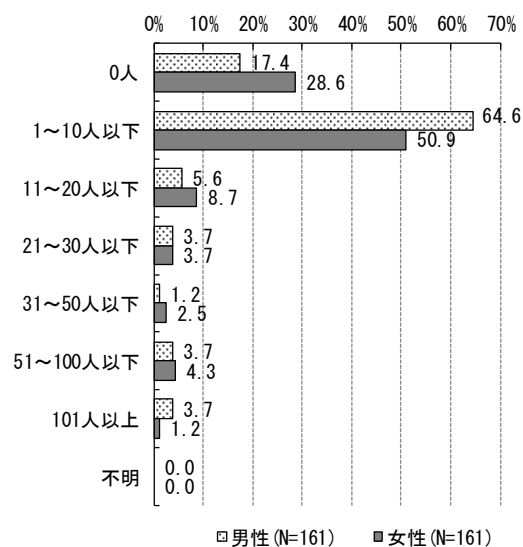
(2) 貴事業所の従業員の状況についてお答えください。＜数量回答＞

(事業所調査…問3)

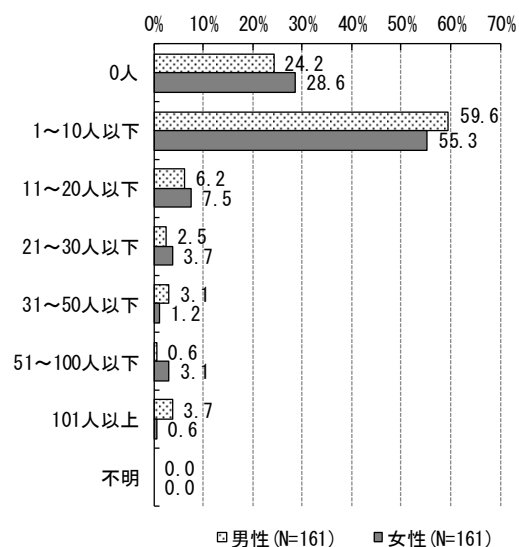
(男女別従業員数)



【従業員のうち配偶者がいる者の数】



【従業員のうち子どもがいる者の数】

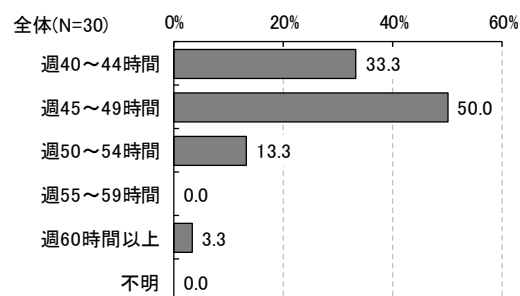
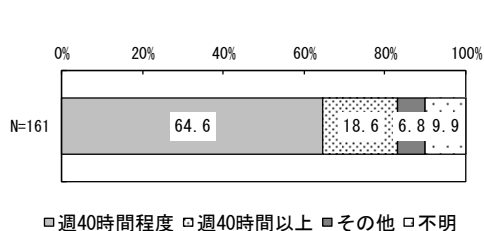


(3) 貴事業所における勤務の状況についてお答えください。〈単数回答〉

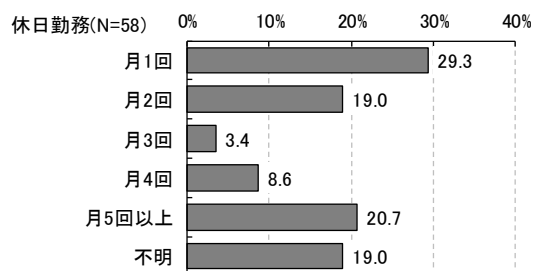
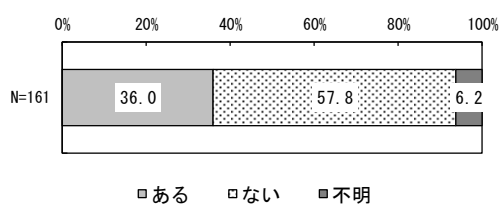
(事業所調査…問4)

(平均的な就労時間)

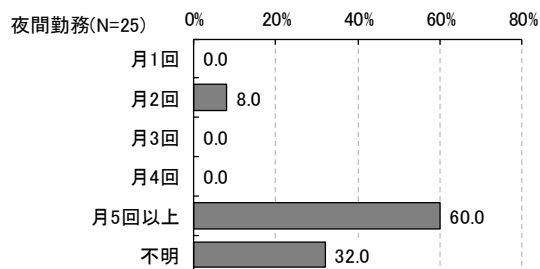
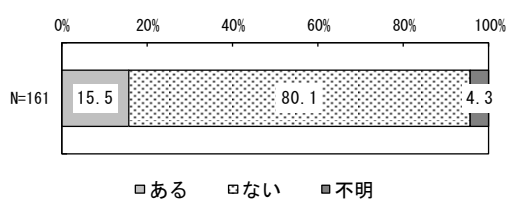
【週 40 時間以上である事業所の週の労働時間】



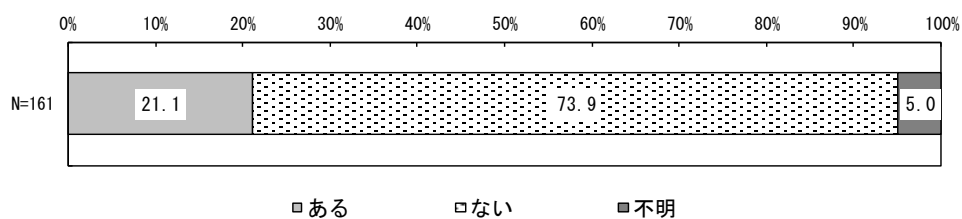
(休日勤務の有無)



(夜間勤務の有無)



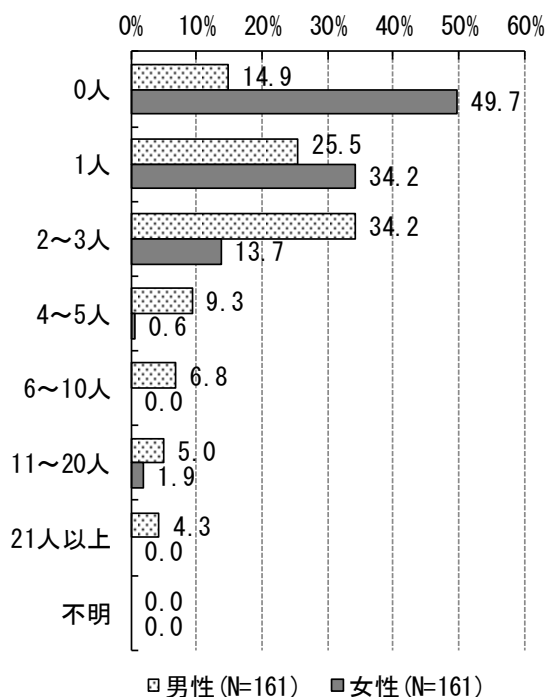
(勤務状況における男女の差)



2. 貴事業所の管理職の状況についてうかがいます

(4) 貴事業所における管理職について、男女別に人数をご記入ください。〈数量回答〉

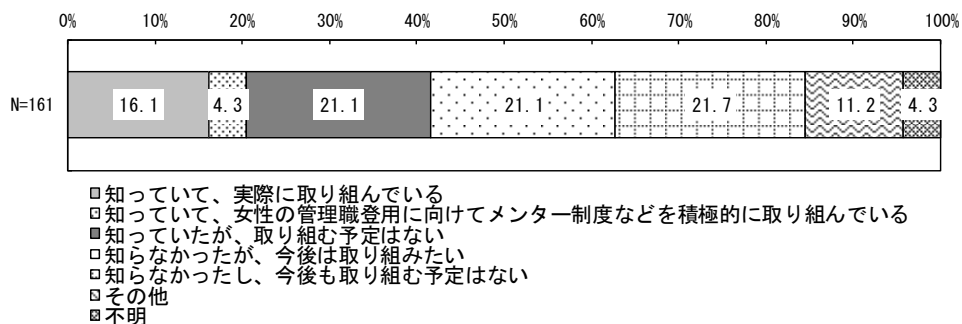
(事業所調査…問5)



(5) 現在、指導的地位にいる女性の割合を増やすため「ポジティブ・アクション」を国が推進していますが、このような取り組みをご存知ですか。また、貴事業所ではこのような取り組みを行っていますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問6)

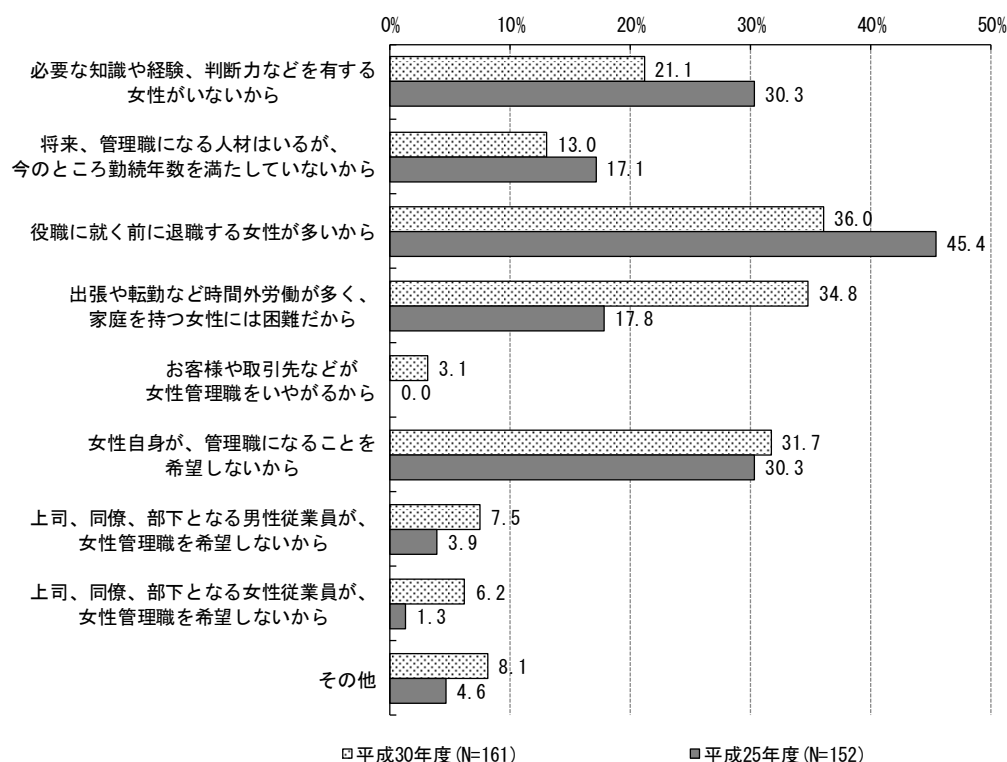
ポジティブ・アクションについてみると、「知っていて、実際に取り組んでいる」が16.1%となっています。知っていると答えた事業所は41.5%となっています。



(6) 一般的な傾向として、女性管理職の登用が進まないのは、どのような理由からだと思われますか。〈複数回答〉

(事業所調査…問7)

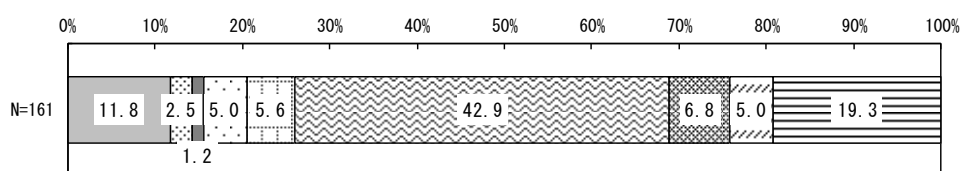
女性管理職の登用が進まない理由についてみると、「役職に就く前に退職する女性が多いから」が36.0%、「出張や転勤など時間外労働が多く、家庭を持つ女性には困難だから」が34.8%となっています。前回調査時に比べ、「出張や転勤など時間外労働が多く、家庭を持つ女性には困難だから」が2割弱多くなっています。



(7) 101人以上の従業員を雇用する企業は、次世代育成支援対策推進法に基づき、仕事と子育ての両立を図るために「一般事業主行動計画」を策定して都道府県労働局に届出、公表、従業員への周知が義務づけられています(100人以下の中小企業は努力義務)。このような中、貴事業所の状況について、当てはまる番号1つに○をつけてください。〈単数回答〉

(事業所調査…問8)

「一般事業主行動計画」における企業の状況についてみると、計画を策定し目標に沿って実施しているのは16.8%、計画を策定しているが具体的に実施していないのは8.1%となっています。策定義務はあるが計画を策定していないのは1.2%となっています。



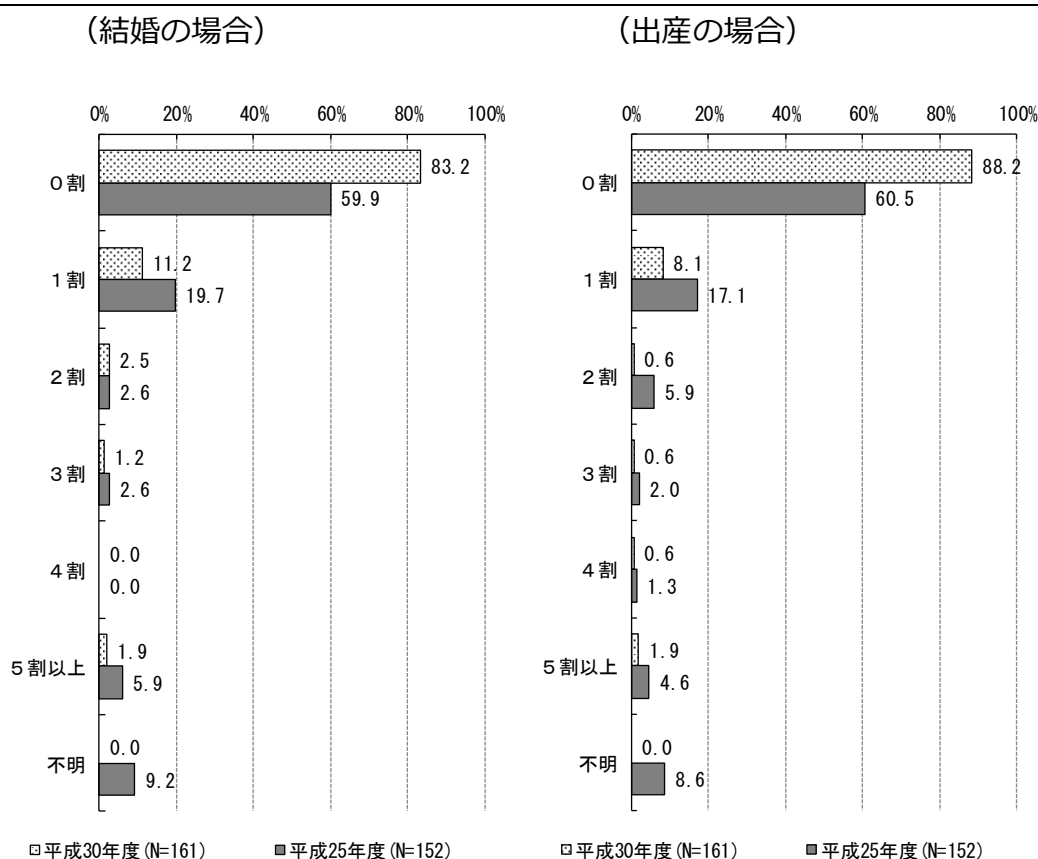
- ☐ 従業員が101人以上あり、一般事業主行動計画を策定し目標に沿って実施している
- ☐ 従業員が101人以上あり、一般事業主行動計画を策定しているが具体的に実施していない
- ☐ 従業員が101人以上いるが、一般事業主行動計画を策定していない
- ☐ 従業員が100人以下であるが、一般事業主行動計画を策定し目標に沿って実施している
- ☐ 従業員が100人以下であり、一般事業主行動計画を策定しているが具体的に実施していない
- ☐ 従業員が100人以下であり、一般事業主行動計画を策定していない
- ☐ 他部署が対応しているので、よくわからない
- ☐ その他
- ☐ 不明

3. 貴事業所の退職・離職・再雇用の状況についてうかがいます

(8) 過去3年間に退職した女性従業員のうち、結婚や出産を理由に退職した従業員は何割程度を占めますか。〈数量回答〉

(事業所調査…問9)

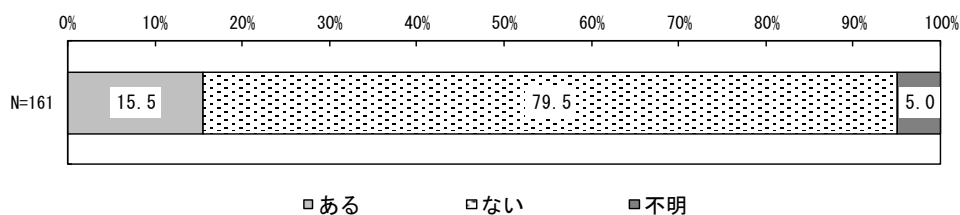
過去3年間に結婚や出産を理由に退職した女性従業員についてみると、結婚の場合「0割」が83.2%、出産の場合「0割」が88.2%となっています。前回調査時に比べ、「0割」と答えた事業所が多くなっています。



(9) 過去3年間に、結婚や妊娠・出産などで退職した女性を再雇用したことがありますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問10)

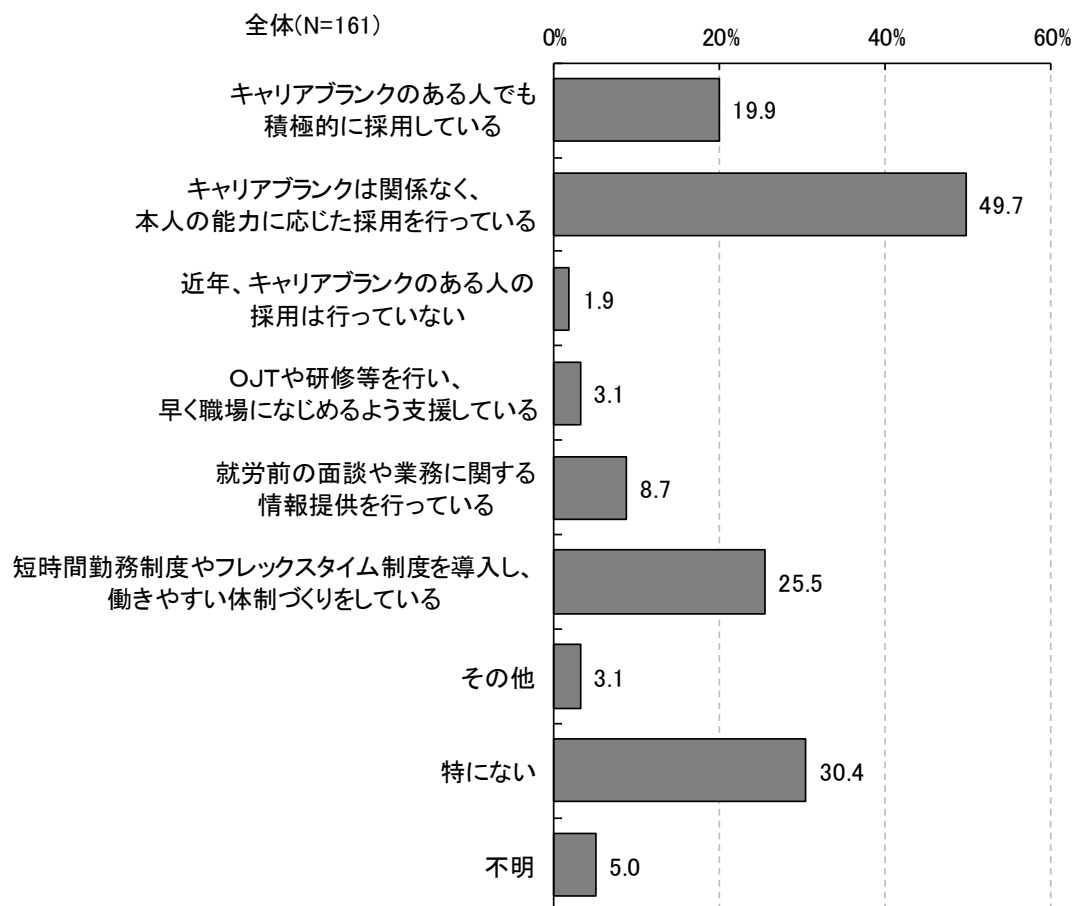
結婚や妊娠・出産などで一度退職した女性従業員を再雇用したことがあるのは15.5%となっています。



(10) 結婚や妊娠・出産などによりキャリアブランクのある人材の雇用について、貴事業所ではどのようにお考えですか。＜複数回答＞

(事業所調査…問 11)

キャリアブランクのある人材の雇用について、「キャリアブランクに関係なく、本人の能力に応じた採用を行っている」が49.7%であり、「短時間勤務制度やフレックスタイム制度を導入し、働きやすい体制づくりをしている」が25.5%となっています。



4. 仕事や職場の環境についてうかがいます

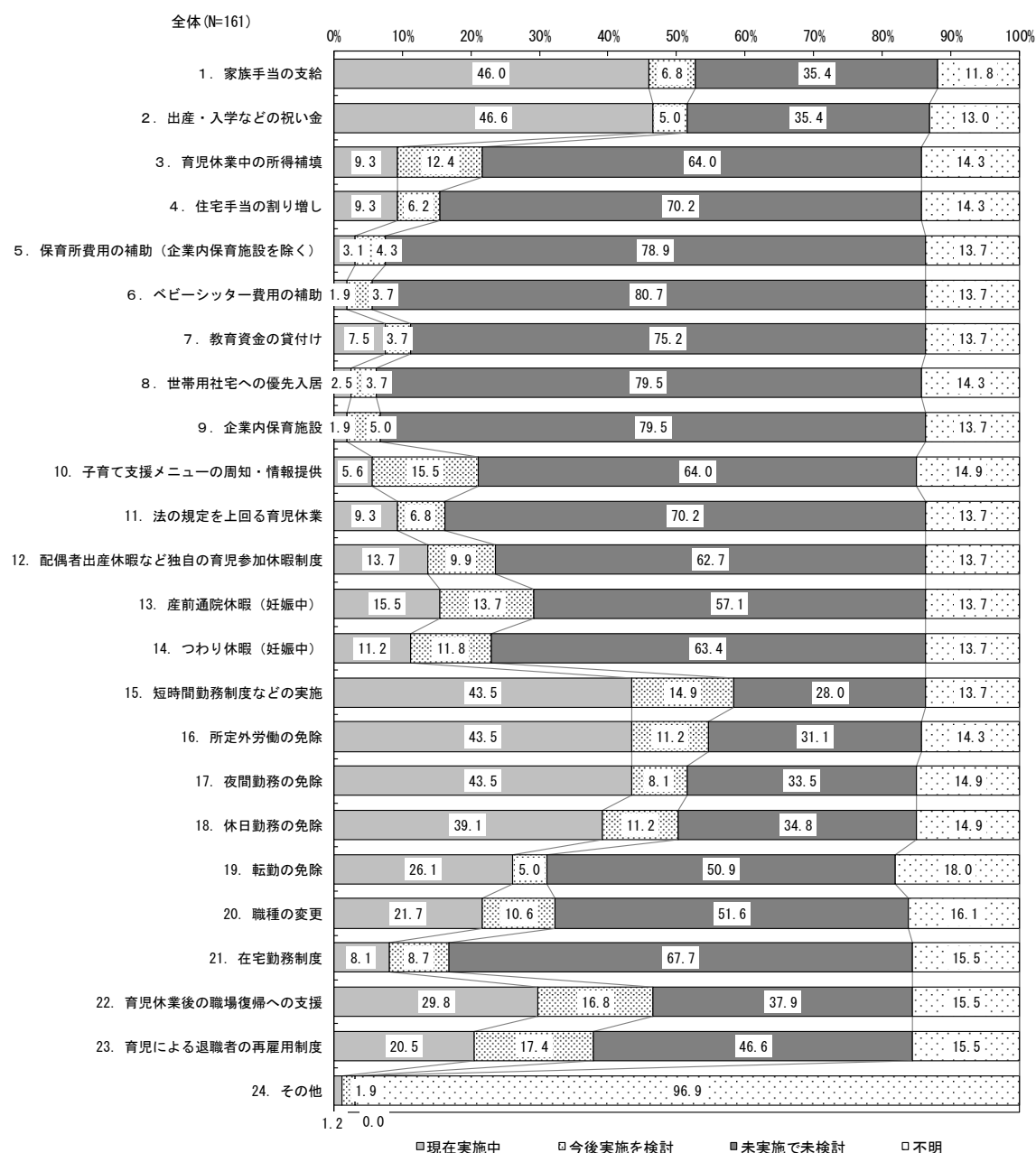
(11) 企業の子育て支援制度について、現在実施されているものと、今後実施されるもの、未実施・未検討の支援策についてお答えください。〈単数回答〉

(事業所調査…問 12)

企業の子育て支援制度についてみると、「現在実施中」の支援策は「出産・入学などの祝い金」が最も多く 46.6%、次いで「家族手当の支給」が 46.0%であり、事業所での実施が進んでいます。

「今後実施を検討」の支援策は、「育児による退職者の再雇用制度」が最も多く 17.4%、次いで育児休業後の職場復帰への支援」が 16.8%となっています。

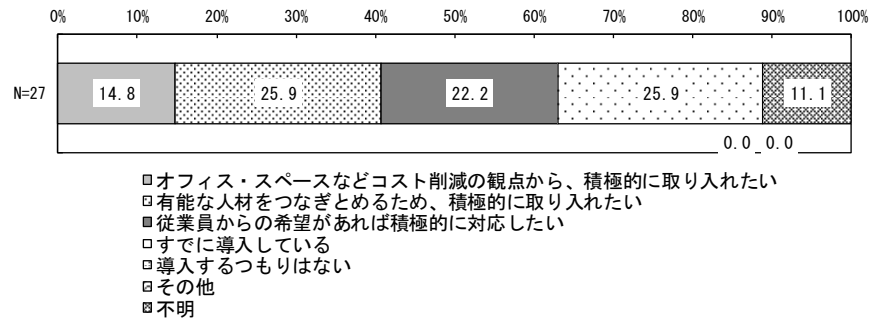
「未検討で未実施」の支援策は、「ベビーシッター費用の補助」が最も多く 80.7%、次いで「世帯用住宅への優先入居」「企業内保育施設」が 79.5%となっています。



(12) 子育て支援を目的とする在宅勤務制度について、貴事業所ではどのようにお考えですか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 12-1)

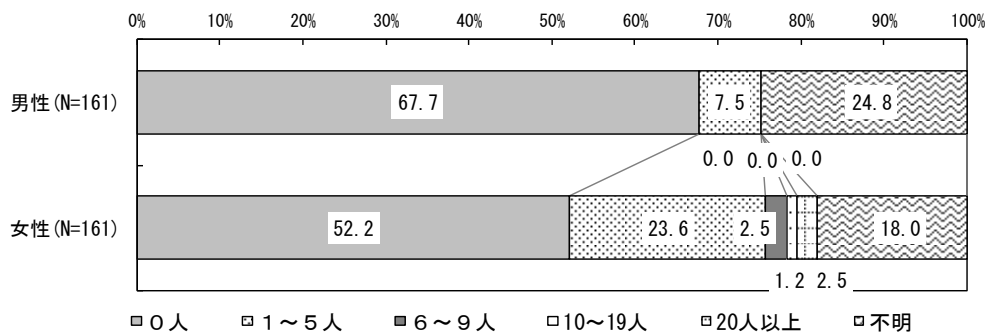
在宅勤務制度についてみると、「すでに導入している」が 25.9%であり、積極的に取り入れていく方向を示している事業所が 40.7%となっています。



(13) 貴事業所では、従業員の育児休業の取得状況はどうか。

(事業所調査…問 13)

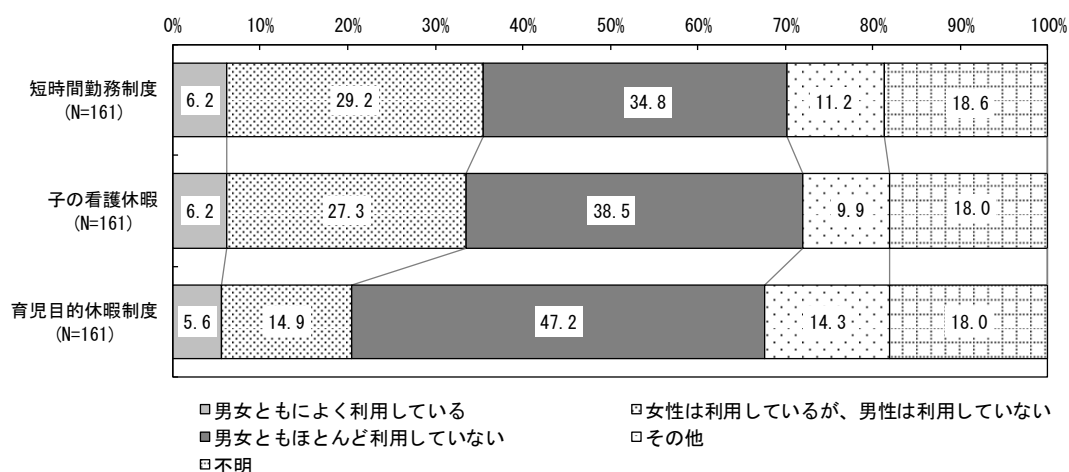
育児休業の取得状況については、男女ともに「0人」が最も多く、女性では「1～5人」が 23.6%となっています。



(14) 育児・介護休業法では「3歳までの子を養育する労働者について、短時間勤務制度（1日6時間）を設けることを事業主の義務」とすることや「子の看護休暇制度を拡充」が記載されており、平成29年10月の改正では、「育児休業期間の延長」や「育児目的休暇制度の努力義務の創設」が示されました。貴事業所では、利用（進捗）状況はどうか。〈単数回答〉

（事業所調査…問14）

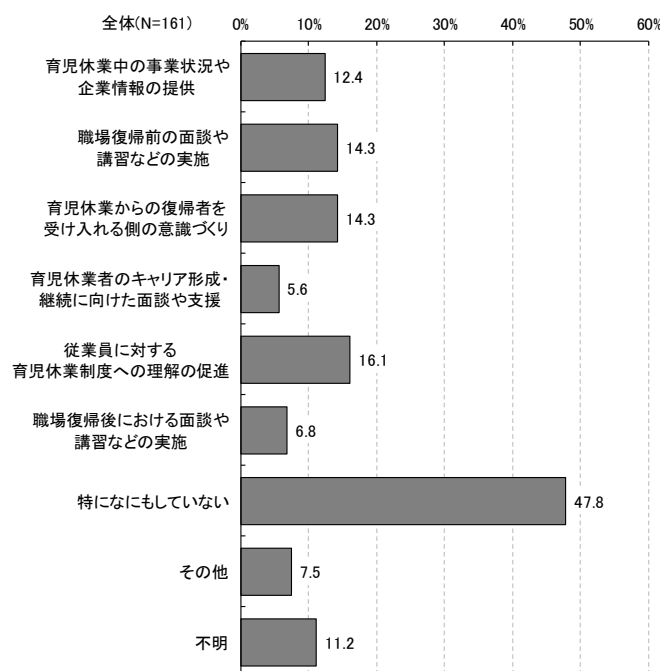
どの制度においても「男女ともによく利用している」は1割満たない割合となっています。短時間勤務制度や子の看護休暇の取得状況では「女性は利用しているが、男性は利用していない」が3割弱となっています。育児目的休暇制度の取得状況についてみると、「男女ともほとんど利用していない」が47.2%となっています。



(15) 企業では、育児休業から職場復帰する従業員に対し、復帰支援として取り組まれていることはありますか。〈複数回答〉

（事業所調査…問15）

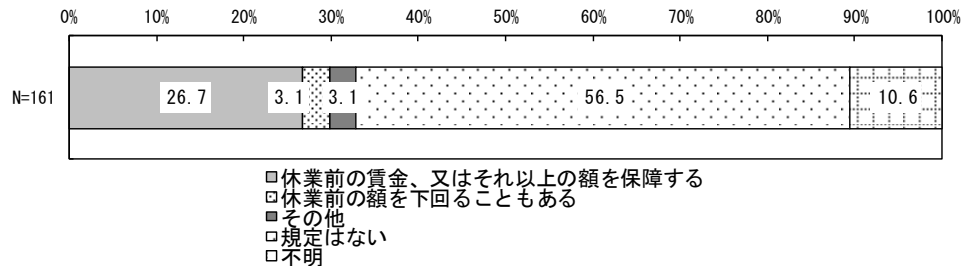
復帰支援として取り組まれていることについてみると、「特になにもしていない」が47.8%となっています。



(16) 育児休業を終えて職場に復帰した従業員の賃金の取り扱いについて、就業規則などではどのように規定されていますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 16)

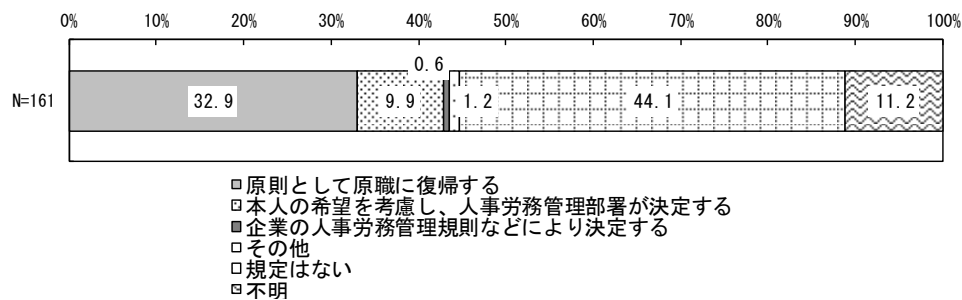
育児休業を終えて職場に復帰した従業員の賃金の取り扱いについてみると、「休業前の賃金、またはそれ以上の額を保障する」が26.7%、「規定はない」が56.5%となっています。



(17) 育児休業を終えて職場に復帰した従業員の配置について、就業規則などではどのように規定されていますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 17)

育児休業を終えて職場に復帰した従業員の配置についてみると、「原則として原職に復帰する」が32.9%、「規定はない」が44.1%となっています。



5. 子育て支援についてうかがいます

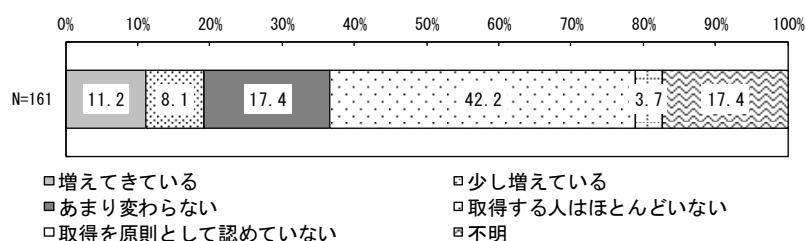
(18) 貴事業所では、ここ5年間に於いて育児休業や育児休暇を取得する人は増えていますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 18)

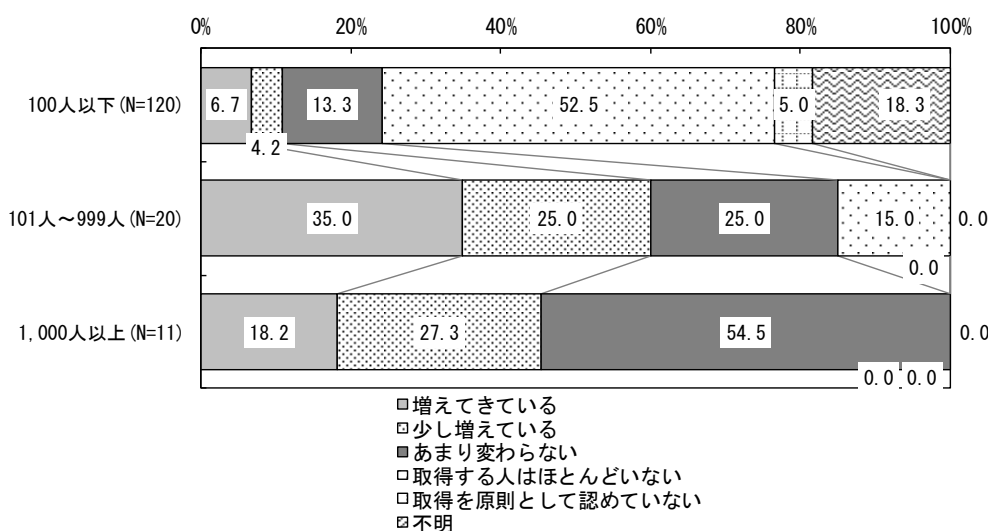
ここ5年間に於いて育児休業や育児休暇を取得する人についてみると、「取得する人はほとんどいない」が42.2%となっています。増えた（「増えてきている」と「少し増えている」の合計）が19.3%となっています。

従業員数別では、101～999人で増えたが60.0%となっていますが、100人以下では10.9%となっています。

【全体】



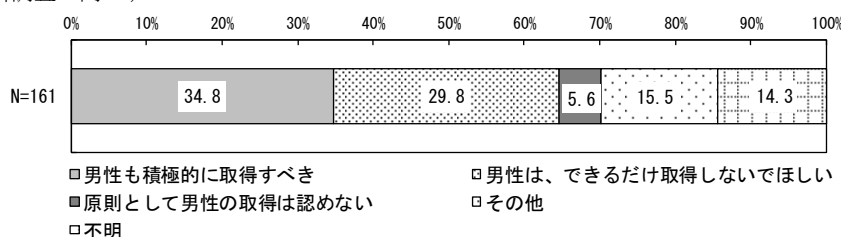
【従業員数別】



(19) 男性が育児休業や育児休暇を取得することについて、貴事業所ではどのようにお考えですか。〈単数回答〉

育児休業や育児休暇の取得の考え方についてみると、「男性も積極的に取得すべき」が34.8%となっています。

(事業所調査…問 19)



(20) 従業員の子育て支援について、貴事業所ではどのようにお考えですか。

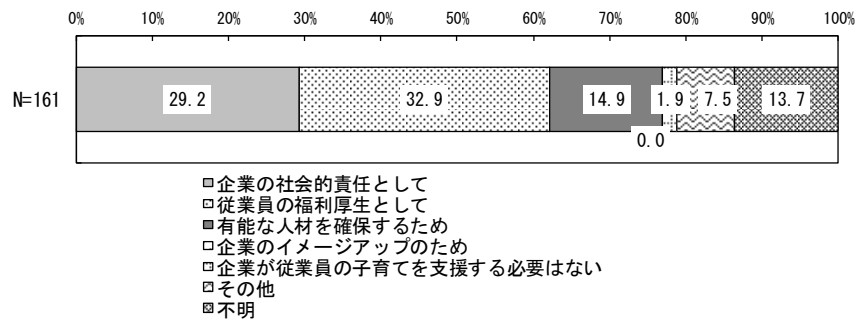
<単数回答>

(事業所調査…問 20)

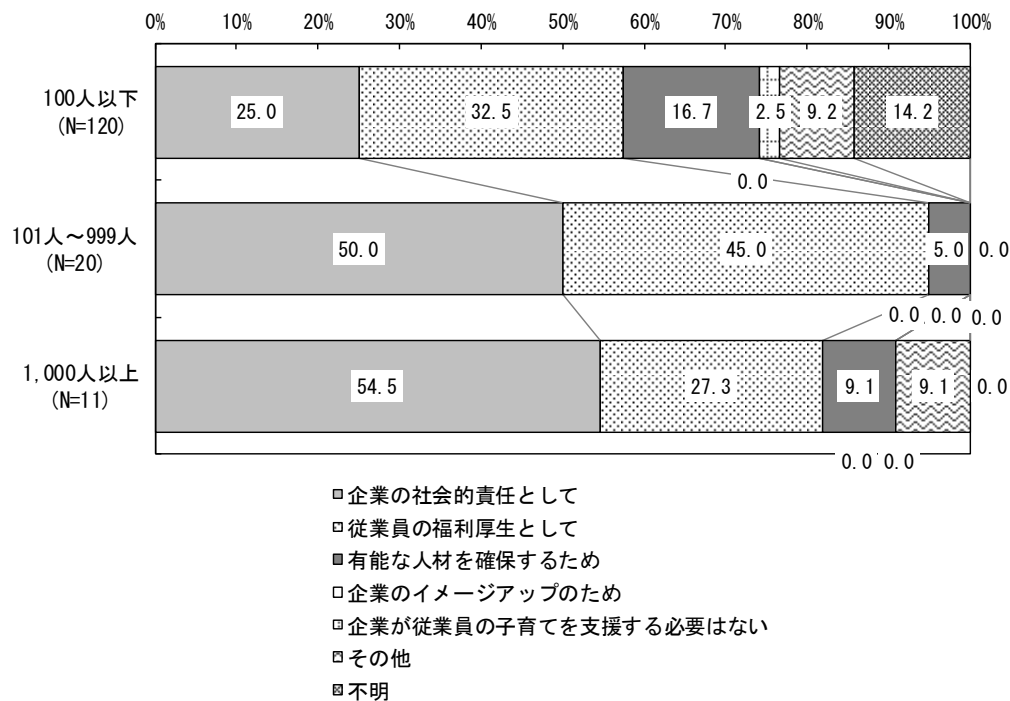
従業員の子育て支援への考えについてみると、「従業員の福利厚生として」が32.9%、「企業の社会的責任として」が29.2%となっています。

従業員数別では、1,000人以上で「企業の社会的責任として」が54.5%、100人以下では「従業員の福利厚生として」が32.5%となっています。

【全体】



【従業員数別】



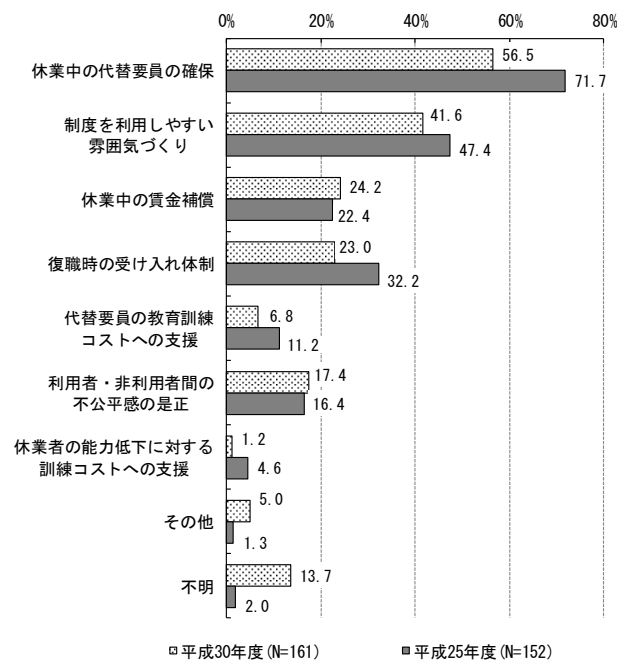
(21) 貴事業所では、育児・介護休業制度を定着させるために特に必要だと思われることはなんですか。〈複数回答〉

(事業所調査…問 21)

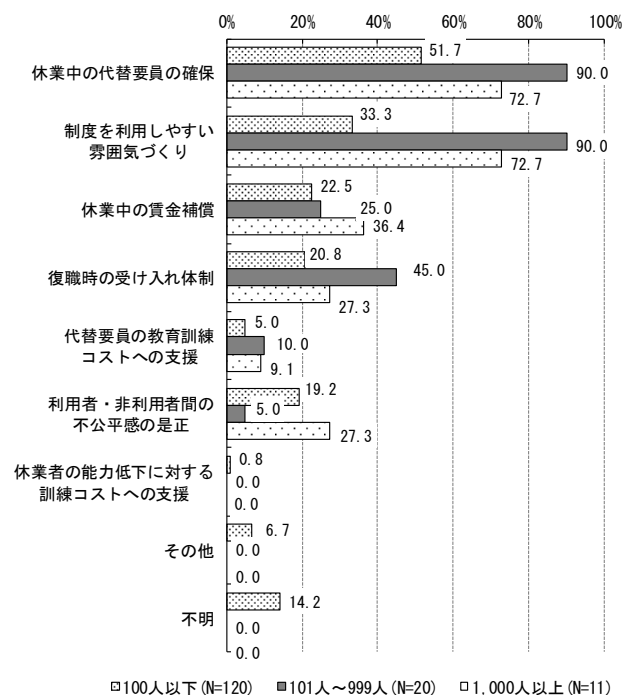
育児・介護休業制度を定着させるために特に必要だと思われることについてみると、「休業中の代替要員の確保」が56.5%となっています。前回調査時に比べ、「休業中の代替要員の確保」「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が少なくなっています。

従業員数別では、101人～999人で「休業中の代替要員の確保」「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が90.0%となっています。1,000人以上では、「休業中の賃金補償」が36.4%、「利用者・非利用者間の不公平感の是正」が27.3%となっています。

【全体】



【従業員数別】

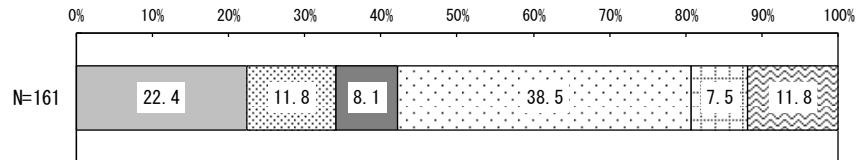


(22) 企業が子育て支援を進めるにあたって、何が問題になると思いますか。

<単数回答>

(事業所調査…問 22)

企業が子育て支援を進めるにあたり問題になることについてみると、「従業員数が少ないので、支援メニューがそろえられない」が38.5%となっています。



- ☐ 経営環境が厳しく、社員の子育てを支援する余裕がない
- ☐ 従業員が何を求めているのかわからない
- ☐ 子どもがいる社員を優遇することに反感がある
- ☐ 従業員数が少ないので、支援メニューがそろえられない
- ☐ その他
- ☐ 不明

6. ワーク・ライフ・バランスの推進についてうかがいます

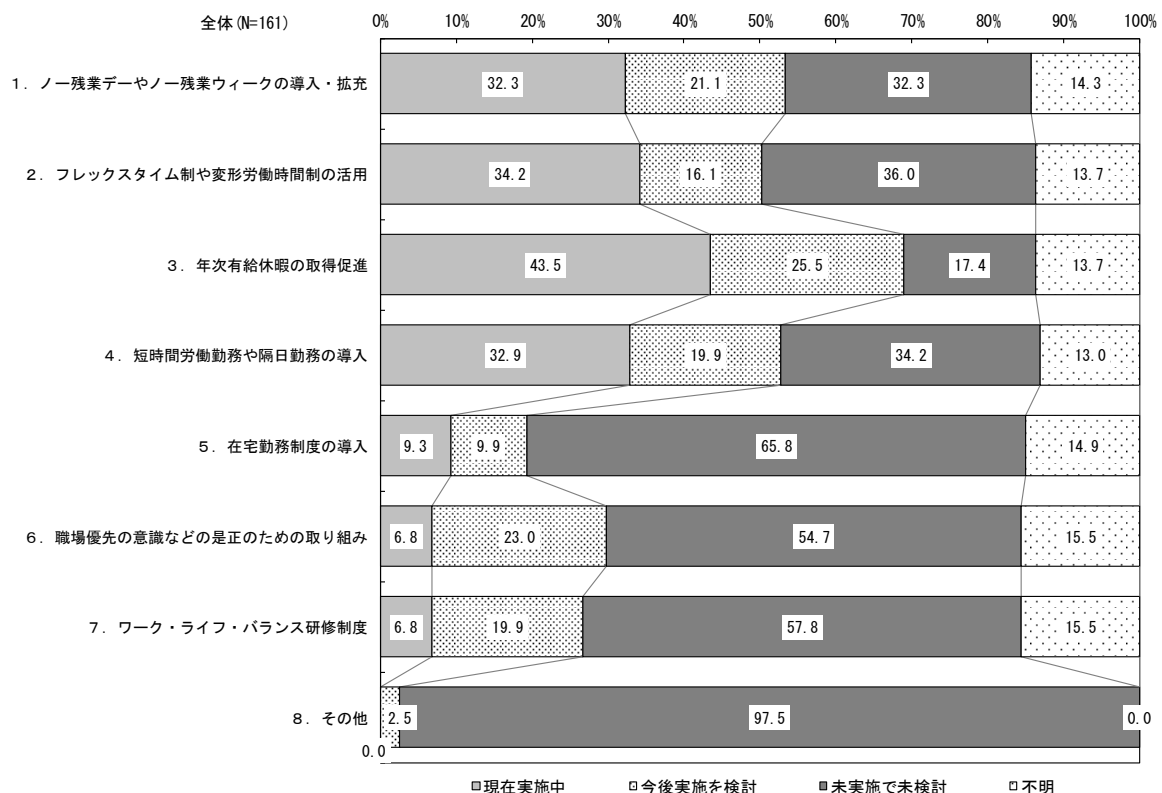
(23) 従業員の働き方の見直しについて、企業ではどんなことを実施していますか。

＜単数回答＞

(事業所調査…問 23)

従業員の働き方の見直しとして企業で実施していることについてみると、「年次有給休暇の取得促進」は「現在実施中」が43.5%、「フレックスタイム制や変形労働時間制の活用」は「現在実施中」が34.2%となっています。

「在宅勤務制度の導入」は「未実施で未検討」が65.8%、「ワーク・ライフ・バランス研修制度」は「未実施で未検討」が57.8%となっています。



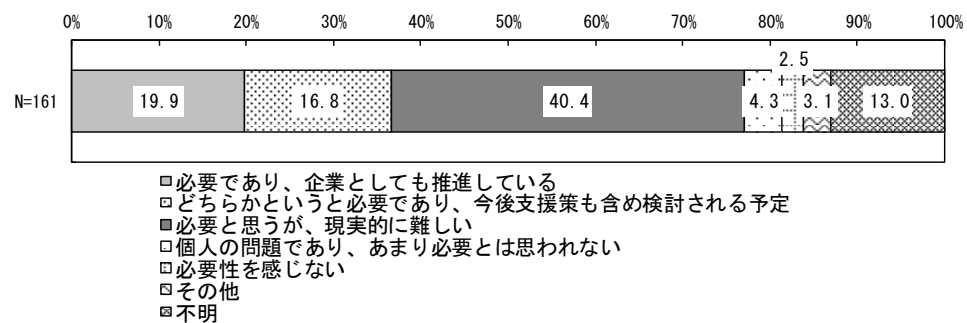
(24) ワーク・ライフ・バランスの推進について、企業における取り組みをどのように思っていますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 24)

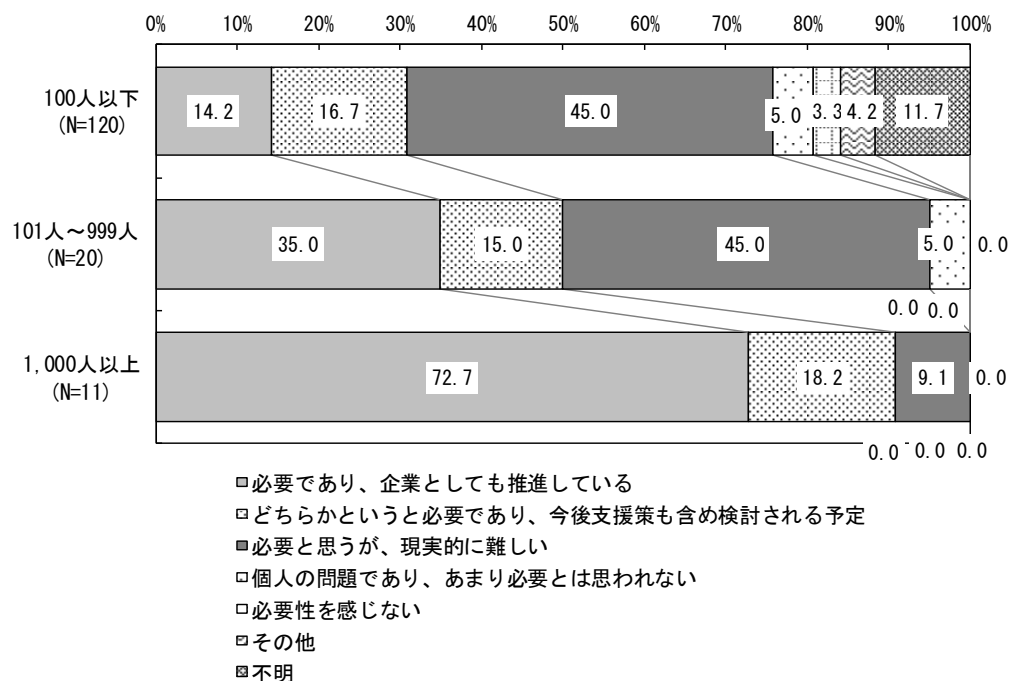
ワーク・ライフ・バランスの推進における考え方についてみると、「必要と思うが、現実的に難しい」が40.4%となっています。「必要であり、企業としても推進している」は19.9%となっています。

従業員数別では、「必要であり、企業としても推進している」が1,000人以上で72.7%、100人以下で14.2%となっています。1,000人未満では、「必要と思うが、現実的に難しい」がいずれも45.0%となっており、従業員数（企業規模）の大きさが、ワーク・ライフ・バランスを取り組める体制の有無にも左右していることがうかがえます。

【全体】



【従業員数別】



(25) ワーク・ライフ・バランスの推進が必要と考えられる理由は何ですか。

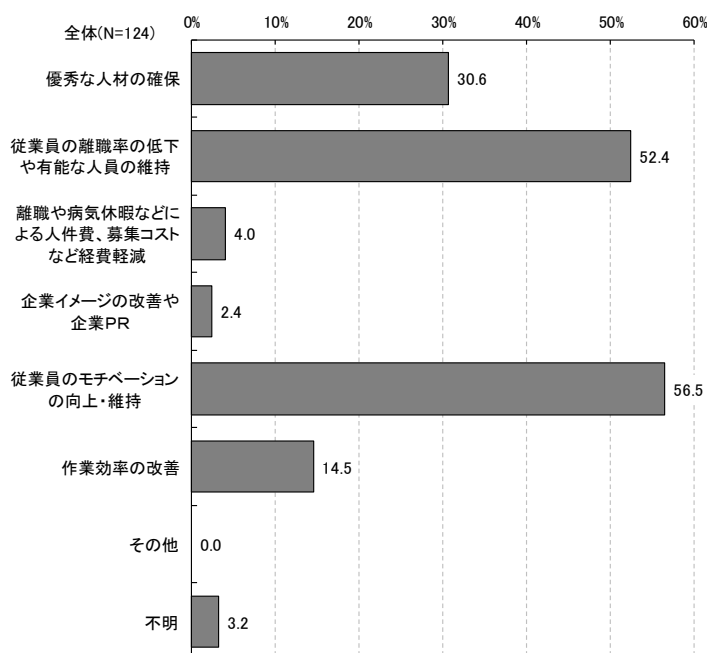
<複数回答>

(事業所調査…問 24-1)

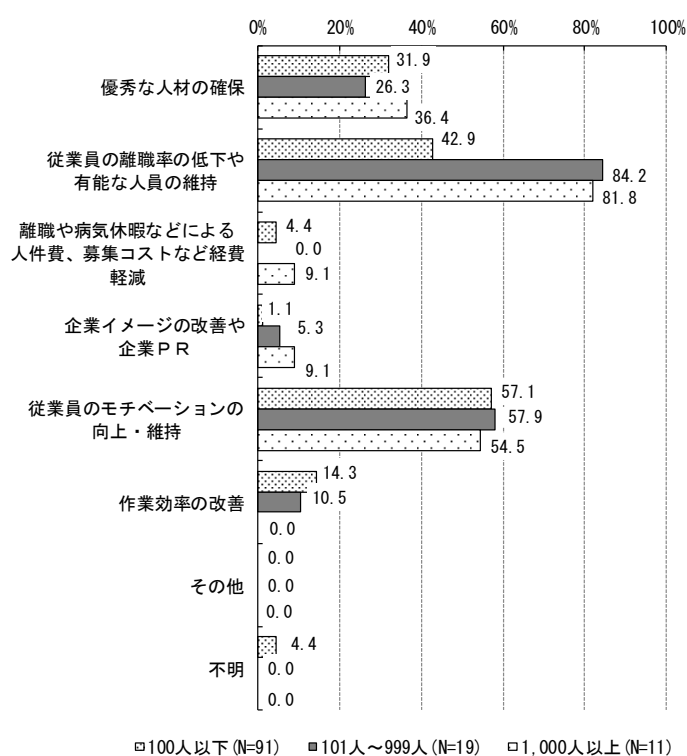
ワーク・ライフ・バランスの推進が必要と考える理由についてみると、「従業員のモチベーションの向上・維持」が56.5%、「従業員の離職率の低下や有能な人員の維持」が52.4%となっています。

従業員数別では、101 以上では「従業員の離職率の低下や有能な人員の維持」がいずれも8割を超えており、100 人以下では42.9%と差があります。

【全体】



【従業員数別】



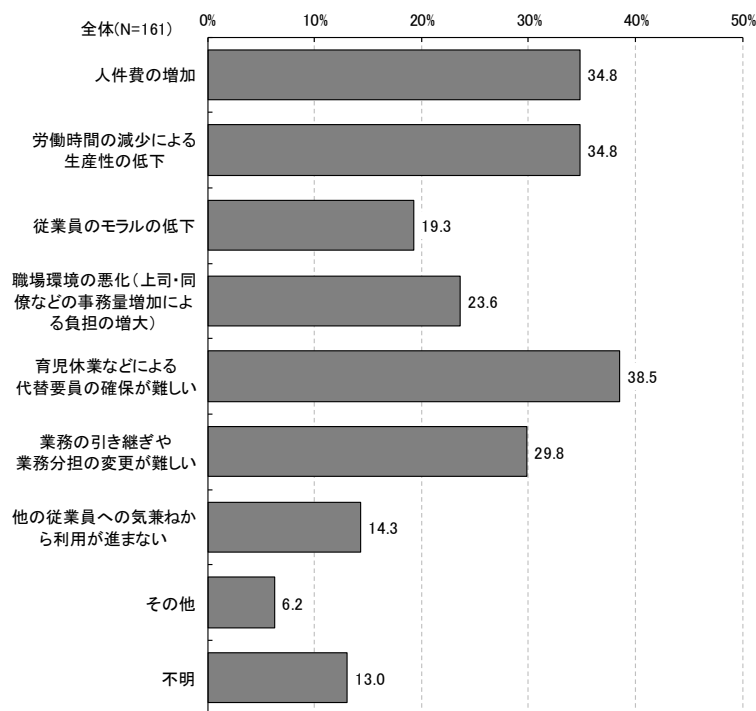
(26) ワーク・ライフ・バランスの推進において障がいとなりそうなこと、障がいとなっていること。＜複数回答＞

(事業所調査…問 25)

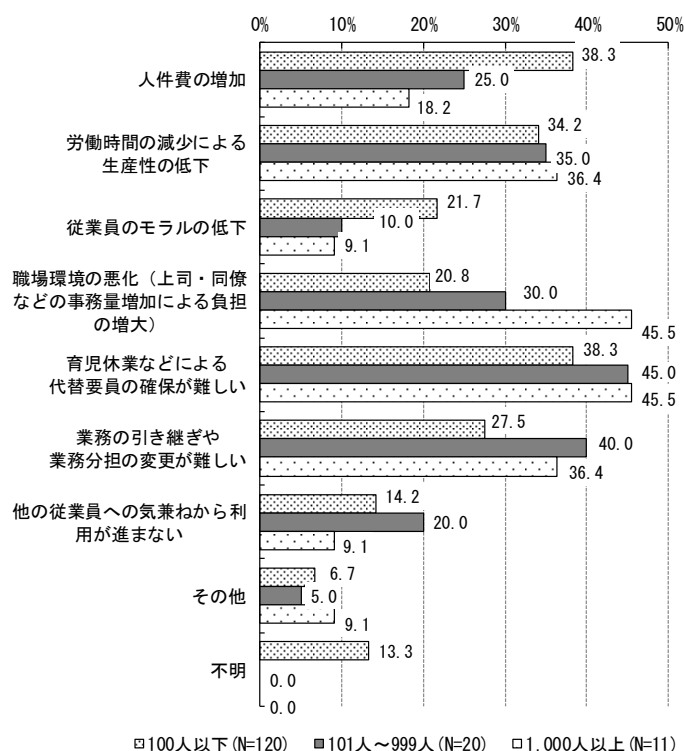
ワーク・ライフ・バランスの推進において障がいとなりそうなことについてみると、「育児休業などによる代替要員の確保が難しい」が38.5%、「人件費の増加」「労働時間の減少による生産性の低下」が34.8%となっています。

従業員数別では、1,000人以上では「職場環境の悪化」が45.5%となっています。100人以下では「人件費の増加」が38.3%、「従業員のモラルの低下」が21.7%と多くなっています。

【全体】



【従業員数別】

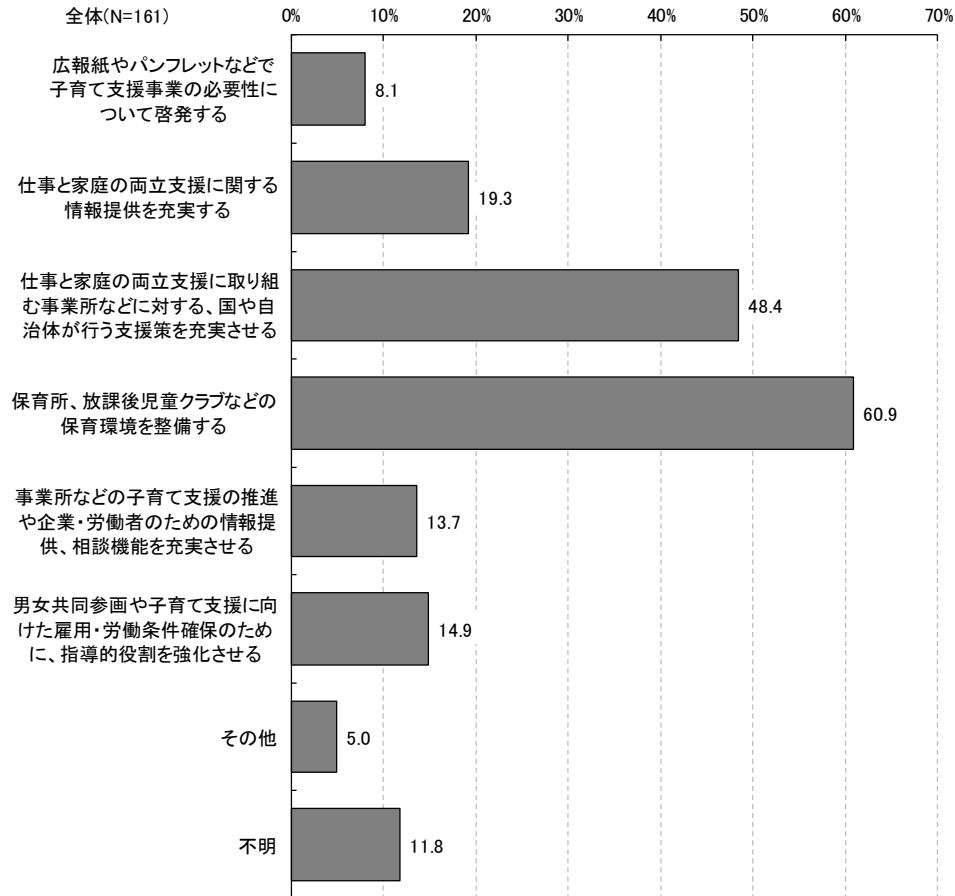


(27) 仕事と家庭の両立について、自治体が特に重点をおいて取り組むべきだと思うこと。

<複数回答>

(事業所調査…問 26)

仕事と家庭の両立について、自治体が重点をおいて取り組むべきことについてみると、「保育所、放課後児童クラブなどの保育環境を整備する」が60.9%、「仕事と家庭の両立支援に取り組む事業所などに対する、国や自治体が行う支援策を充実させる」が48.4%となっています。



7. 事業所の自由回答

区分	主な意見内容	件数
企業負担等	○地元企業では、人材不足で実行したくてもできないと思う。 ○大企業は両立支援制度が充実しており、利用する従業員も多くて良いと思うが、中小企業等は経営者の理解も乏しく、また配偶者が専業主婦である等、なかなか制度づくりも進まないのが現状である。	3
環境の整備	○子どもが病気の時など、休みたい時に休みやすいような環境を会社が作れるようにしてくれるともっと働きやすくなると思う。 ○従業員数に男女差があり、職种的に子育て支援まで手が回らないのが実状だが、前向きに考え方を変えていきたい。	2
意識改革	○家庭、家族の理解。男性ばかり、または男性が多い職場の意識を変えるのには、時間がかかる。職場の理解や女性の意識変革も必要である。	1
行政への要望等	○企業規模、経営状態により困難な会社があることを官公庁は理解して、支援してもらわないと企業格差が広がるばかりで社会全体が「仕事と家庭の両立を図りやすい社会」にはならないと思う。 ○放課後児童クラブで預かっている時間に「習い事」がほしい。例えば習字、体操など。 ○今は核家族が増えて、子育ての負担が多くなってきている。3世代同居などは仕事、家庭の両立がしやすく、大家族制度を推進して補助金を出すなど同居を増やす事をしていくといい。 ○子育て中で一番困るのは、子どもの急な体調不良。病児保育室利用者対象となる年齢の引き上げを希望する。小学校低学年の子どもでも利用できる施設又は、サポーター等の支援の充実。	5
その他	○すでに両立が図りやすい社会になっている。	1

※上記は、自由回答の一部抜粋です。

VI. 資料編

1. 就学前児童用調査票

岡崎市子ども・子育てに関するアンケート調査

皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
岡崎市では、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）に基づき、平成27年に岡崎市子ども・子育て支援事業計画「おかざきっ子 育ちプラン」を策定し、本市の実情に即した子育て環境の整備を進めてまいりました。来年度（2019）で計画期間の終了を迎えるため、次の5年間（2020-2024）を計画期間とする新たな計画を策定する必要があります。

本調査は、この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出し、市民の皆様の子育てに関する現状や要望・ご意見などを把握することを目的として、小学校に入る前のお子さんのいるご家庭のうち、無作為に5,000世帯を選び、ご協力をお願いするものです。

なお、ここで回答していただいた内容は、施設や事業の具体的な利用の可否を確認・決定するものではありません。将来の利用希望を変更していただいて構いません。

ご多忙のこととは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月

岡崎市長 内田 康宏

あなたの声が、岡崎市の子育て支援の充実に生かされます！



子育て家庭



岡崎市

調査票を送付 → 回答 → 調査票を返信

このアンケート調査で、子育て支援の利用状況や利用希望等を把握

●地域の子ども支援の充実
放課後児童クラブ、地域子育て支援拠点
事業、一時預かり、病児・病後児保育等

●幼児期の学校教育・保育の充実
幼稚園、保育園、認定こども園等

第2期 岡崎市子ども・子育て支援事業計画
「おかざきっ子 育ちプラン」
(計画期間 2020-2024)

幼児期の学校教育・保育や地域の子ども支援について
調査票に記入（回答は必ず回答欄に記入）
・施設の方策（施設の内容や実施時期）を記載

ご記入に当たってのお願い

- アンケートには、お子さんの保護者の方がご記入ください。
- 特にことわりのある場合以外は、封筒の宛名のお子さんについてご記入ください。
- 時間は24時間制（例：09時、18時など）で、数字は1つの口についてご記入ください。
- ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて11月8日（木）までにポストに投函してください。
- この調査についてお問い合わせは、下記までお願いします。

＜問い合わせ先＞岡崎市子ども育成課
電話：0564-23-6820 FAX：0564-23-6833
月～金曜日 8時30分～17時15分

近年では、女性の社会進出に伴う夫婦共働き世帯の増加により、今まで以上に子育てニーズの多様化がみられています。また、国では幼児教育及び保育の無償化の全面実施が閣議決定されるなど、子育ての環境は大きく変わってまいります。

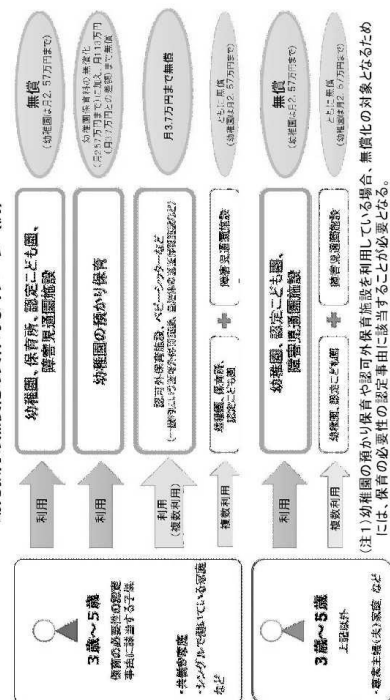
【幼児教育・保育の無償化の概要】

時期：平成31年10月（予定）

対象：3歳～5歳児 ※0歳～2歳児は住民税非課税世帯のみ

※平成30年9月時点での国の
保育内容であり、今後変更され
る可能性があります。

幼児教育の無償化の具体的なイメージ（例）



※要費として徴収されている費用（通園送迎費、食料費、行事費など）は、無償化の対象外。

※住民税非課税世帯については、0歳～2歳児についても上記と同様の考え方で無償化の対象となる。この場合、月4.2万円まで無償。

（注2）上記のうち認可外保育施設及びベビーシッターについては、認可外保育施設の面出し、指導監督の基準を満たすものに限る（ただし、5年間の経過措置として、指導監督の基準を満たさない場合でも無償化の対象とする措置期間を図ける）。

（※）地域型保育も対象。また、企業主導型保育事業（標準的な利用料）も対象。

【用語の定義】この調査票における用語の定義は、以下のとおりです。

幼稚園	学校教育法に定める、3歳～5歳児に対して学校教育を行う施設（学校教育法第22条）
保育園	児童福祉法に定める、保育を必要とする0歳～5歳児に対して保育を行う施設（児童福祉法第39条）
認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項）
子育て	教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援
教育	間12歳までにおいては家庭での教育を含めた広い意味、間13以降においては幼児期の学校における教育の意味で用いています

1 お住まいの地域についてうかがいます

問1 お住まいの地域の小学校区名を記入してください。
わからない場合は、お住まいの町名をご記入ください。

	小学校区		町・丁目
→ わからない場合は、お住まいの町名			

問2 岡崎市に住んで何年になりますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

※旧額田町を含め、回答される保護者の方の年数でお答えください。

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～2年未満 | 3. 2～5年未満 |
| 4. 5～10年未満 | 5. 10～20年未満 | 6. 20年以上 |

2 お子さんご家族の状況についてうかがいます

問3 宛名のお子さんの生年月月をご記入ください。口内に数字でご記入ください。

平成			年			月	生まれ
----	----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------	---	-----

問4 お子さんは何人いらっしゃいますか。

宛名のお子さんを含めた人数を口内に数字でご記入ください。

お子さんの数		人
--------	----------------------	---

問5 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。

お子さんから見た関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 母親	2. 父親	3. その他 ()
-------	-------	------------

問6 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 配偶者がいる	2. 配偶者はいない
-----------	------------

3 子どもの育ちをめぐめる環境についてうかがいます

問7 お子さんの子育て（教育を含む）を主にしているのはどなたですか。
お子さんから見た関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 父母ともに	2. 主に母親	3. 主に父親
4. 主に祖父母	5. その他 ()	

問8 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいいますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 日時的に祖父母などの親族にみてもらえる |
| 2. 緊急時又は用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる |
| 3. 日時的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる |
| 4. 緊急時又は用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる |
| 5. いずれもない |

問9 妊娠、出産、子育てを通じて、困ったことや悩んだことはありますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 妊娠時の体調の変化や健康管理	2. 出産時の不安
3. 子どもの健康	4. 子どもの発育や発達状況
5. 子どもの生活習慣（食事など）	6. 子どもの育て方やしつけ方
7. 子どもの発達関係	8. 自分の時間がとれないこと
9. 仕事と家庭の両立ができていくこと	10. 家族が子育てに協力的でないこと
11. 身近に協力者（祖父母など）がないこと	12. 経済的に余裕がないこと
13. 子どもを安心して預けられるところがないこと	14. 親同士のお付き合いのこと
15. 近所に遊び場がない、又は少ないこと	16. 住宅が狭いこと
17. 子育て中の親との交流の機会がない、又は少ないこと	
18. 特になし	
19. その他 ()	

4 お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます

お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む）をうかがいます。

問10から問12まで共通

・「フルタイム」＝1週5日程度・1日8時間程度の就労を目安にご判断ください。

・「パート・アルバイトなど」＝フルタイム以外の就労をいいます。

・父子家庭の場合の「母親」の欄、母子家庭の場合の「父親」の欄の記入は不要です。

問10 お子さんの保護者の現在の就労状況について、①母親、②父親のそれぞれで当てはまる番号1つに○をつけてください。

①母親	②父親	就労状況（当てはまる番号1つに○）
1	1	フルタイムで働いている
2	2	フルタイムで働いているが、産休・育休・介護休業中である
3	3	パート・アルバイトなどで働いている
4	4	パート・アルバイトなどで働いているが、産休・育休・介護休業中である
5	5	以前は働いていたが、現在は働いていない
6	6	これまで働いたことがない

問10-1 問10で「1」～「4」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。

1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（就業時間を含む）」を①母親、②父親についてそれぞれ□内に数字でお答えください。（記入例：[5]日、[0]8時間）

就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

	1週当たりの就労日数	1日当たりの就労時間
① 母親	□ □ 日	□ □ 時間
② 父親	□ □ 日	□ □ 時間

問11 問10で「3」「4」（パート・アルバイトなどで就労している）に○をつけた方にうかがいます。当てはまらない方は、問13へお進みください。

フルタイムへの転換希望はありますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

①母親	②父親	フルタイムへの転換希望（当てはまる番号1つに○）
1	1	フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
2	2	フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3	3	パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望
4	4	パート・アルバイトなどをやめて子育てや家事に専念したい

問12 問10で「5」「6」（就労していない）に○をつけた方にうかがいます。当てはまらない方は、問13へお進みください。

就労したいという希望はありますか。

当てはまる番号・記号それぞれ1つに○をつけ、□内に数字でご記入ください。

（記入例：[5]日、[0]8時間）

(1) 母親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
□ □ 歳になったところに就労したい
2. 1年より先、一番下の子どもが □ □ 歳になったところに就労したい
3. すぐにも、又は1年以内に就労したい

→希望する就労形態

ア. フルタイム
イ. パートタイム、アルバイトなど
→1週当たり □ □ 日/1日当たり □ □ 時間

(2) 父親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
□ □ 歳になったところに就労したい
2. 1年より先、一番下の子どもが □ □ 歳になったところに就労したい
3. すぐにも、又は1年以内に就労したい

→希望する就労形態

ア. フルタイム
イ. パートタイム、アルバイトなど
→1週当たり □ □ 日/1日当たり □ □ 時間

5 お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます

※こここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。
具体的には、幼稚園や保育所など、問13-1に示した事業が含まれます。

問13 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 利用している ⇒問13-1、問13-2へ 2. 利用していない ⇒問14へ

問13-1 問13で「1. 利用している」に○をつけた方にかがいます。
宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的」に利用している事業をお答えください。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 幼稚園	〈通常の就園時間の利用〉
2. 幼稚園の預かり保育	〈通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ〉
3. 認可保育所	〈県や市の認可を受けたもの〉
4. 認定こども園	〈幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設〉
5. 事業所内保育施設	〈企業が主に従業員用に運営する施設〉
6. 認可外の保育施設	
7. ファミリー・サポート・センター	〈地域住民が子どもを預かる事業〉
8. その他（	）

問13-2 問13で「1. 利用している」に○をつけた方にかがいます。
平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。
また、希望としてはどのくらい利用したいですか。
1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを、口内に具体的な数字で記入ください。（記入例：1日当たり08時間 08時～16時）

(1) 現在	
1週当たり	日 1日当たり 時間（ ～ 時）
(2) 希望	
1週当たり	日 1日当たり 時間（ ～ 時）

問14 すべての方にかがいます。
現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的」に利用したいと考ええる事業をお答えください。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。
なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。（現在、岡崎市では実施していない事業（選択費5、6、9の事業）も含んでいます。）
※なお、国では幼稚園や保育所等の利用料の無償化が検討されています。詳しくは、表紙（裏面）をご覧ください。

1. 幼稚園	〈通常の就園時間の利用〉
2. 幼稚園の預かり保育	〈通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ〉
3. 認可保育所	〈県や市の認可を受けたもの〉
4. 認定こども園	〈幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設〉
5. 小規模な保育施設	〈市町村の認可を受けた定員数6～19人もの〉
6. 家庭的保育	〈保育者の家庭などで5人以下の子どもを保育する事業〉
7. 事業所内保育施設	〈企業が主に従業員用に運営する施設〉
8. 認可外の保育施設	
9. 居宅訪問型保育	〈ベビーシッターのような保育者が子どもを家庭で保育する事業〉
10. ファミリー・サポート・センター	〈地域住民が子どもを預かる事業〉
11. その他（	）

問14-1 問14で「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ3～11にも○をつけた方にかがいます。
特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ

6 お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況 についてうかがいます

問15 お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場（地域交流センター、げんき館などのプレイーム）」「子育て支援センター」などと呼ばれています）を利用していますか。
次の中から、当てはまる番号1つに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）を口内に数字でご記入ください。

1. 地域子育て支援拠点事業を利用している
1 週当たり 回 又は 1 か月当たり 回程度

2. 利用していない

問16 問15のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用回数を増やしたいと思いませんか。
当てはまる番号1つに○をつけて、おおよその利用回数（頻度）を口内に数字でご記入ください。

1. 利用していないが、今後利用したい
1 週当たり 回 又は 1 か月当たり 回程度

2. すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい
1 週当たり 更に 回 又は 1 か月当たり 更に 回程度

3. 新たに利用したり、利用回数を増やしたいとは思わない

7 お子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な 教育・保育事業の利用希望についてうかがいます

問17 お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。
希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。
※教育・保育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。（記入例：○9時～11時）

(1) 土曜日

1. 利用する必要はない

2. ほぼ毎週利用したい
⇒ 利用したい時間帯 時から 時まで

3. 月に1～2回は利用したい 時から 時まで

(2) 日曜・祝日

1. 利用する必要はない

2. ほぼ毎週利用したい
⇒ 利用したい時間帯 時から 時まで

3. 月に1～2回は利用したい 時から 時まで

問18 「幼稚園」を利用されている方にかがいます。
お子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。
希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。（記入例：○9時～11時）

1. 利用する必要はない

2. 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい
⇒ 利用したい時間帯 時から 時まで

3. 休みの期間中、週に数回利用したい 時から 時まで

8 お子さんの病気の際の対応についてうかがいます (平日の教育・保育を利用する方のみ)

問19 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方(問13で「1」に○をつけた方)にうかがいます。利用していらっしゃる方は、問20にお進みください。
この1年間に、お子さんが病気で通常の事業が利用できなかったことはありますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. あった ⇒問19-1へ 2. なかった ⇒問20へ

問19-1 お子さんが病気で休んだ期間中に、この1年間に、お子さんが病気で通常の事業が利用できなかったことはありますか。
この1年間に、お子さんが病気で通常の事業が利用できなかったことはありますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1年間の対応方法		日数	
ア. 母親が休んだ			日
イ. 父親が休んだ			日
ウ. (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった			日
エ. 母親又は父親のうら就労していない方が子どもをみた			日
オ. 病児・病後児の保育を利用した			日
カ. ベビーシッターを利用した			日
キ. ファミリー・サポート・センターを利用した			日
ク. 仕方なく子どもだけで留守番させた			日
ク. その他()			日

問19-2へ

問19-2 問19-1で「ア」「イ」のいずれかに回答した方にうかがいます。

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、日数についても口内に数字でご記入ください。
なお、病児・病後児のための事業などの利用には、一定の利用料がかかります。利用前にかかりつけ医の受診が必要です。

1. できれば病児・病後児保育施設などを利用したい ⇒ 日 日

2. 利用したいとは思わない(理由:)

病児保育 …保育所等に通っている子どもが病気になったとき、就労している親に代わって病児の子どもをみる保育のこと。
病後児保育…子どもが病気の回復期にあるものの、就労等の理由から保育が困難な親に代わって世話をする保育のこと。市内には「岡崎市八帖保育園病後児保育室」や「岡崎げんき館病後児一時託児事業」があります。

問19-3 問19-2で「1」に回答した方にうかがいます。
病児・病後児保育施設について、希望する条件はありますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 自宅の近い場所に設置されていること
2. 小児科医院に併設されていること
3. 総合病院内に設置されていること
4. 遠くてもいいので公共施設に設置されていること
5. 利用手続きの手間や時間を要しないこと
6. 一般的な保育時間と同様に利用できること

問19-4 病児・病後児保育施設を利用しようとする場合、1回あたりの利用料金がいくらまでなら利用されますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 1,000 円未満
2. 1,000 円～2,000 円未満
3. 2,000 円～3,000 円未満
4. 3,000 円～4,000 円未満
5. 4,000 円～5,000 円未満
6. 5,000 円以上

9 お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用についてうかがいます

問20 お子さんについて、日中の定期的な保育や病児のため以外に、私用・親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用している事業はありますか。
ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数(おおよそ)も口内に数字でご記入ください。

利用している事業・日数(年間)	
1. 一時預かり (私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業)	日
2. 幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ)	日
3. ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業)	日
4. その他()	日
5. 利用していない	

問21 お子さんについて、私用・親の通院、不定期の就労などの目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。
利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください(利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を口内に数字でご記入ください)。
なお、事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

1. 利用したい	計	日
ア. 私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の強い事など)、リフレッシュ目的		日
イ. 冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院など		日
ウ. 不定期の就労		日
エ. その他()		日
2. 利用する必要はない		

問22 この1年間に、保護者の用事（葬祭、葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りだけで家族以外にのみでもらわなければならないことはありましたか(預け先がみつからなかった場合も含む)。
あった場合は、この1年間の対応方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。

1年間の対応方法		日数
1. あった	ア、(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった	泊
	イ、子育て短期支援事業(ショートステイ)を利用した	泊
	ウ、イ以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッターなど)を利用した	泊
	エ、仕方なく子どもを同行させた	泊
	オ、仕方なく子どもだけで留守番をさせた	泊
2. なかった	カ、その他()	泊

10 お子さんが5歳以上である方に、小学校就学後の放課後の過ごし方についてうかがいます

問23 宛名のお子さんについて、小学生になったら、放課後(平日の小学放課後の)時間をどのような場所(通い先)で過ごさせたいと思いますか、小学校低学年(1～3年生)の場合と小学校高学年(4～6年生)の場合について、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。
また、「5、放課後児童クラブ(学童保育)」及び「6、学区こどもの家」の場合には、利用を希望する時間も□内に数字でご記入ください。(記入例:「5日、11時」まで)

	低学年(1～3年生)	高学年(4～6年生)
1. 自宅	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
2. 祖父母や友人・知人家	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
3. 習い事	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
4. 部活動	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
5. 放課後児童クラブ※1(学童保育)	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
6. 学区こどもの家※2	⇒ 下校時から 時まで	時まで
	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
7. カフェ・塾・ト・サター	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい
8. その他(公民館、公園など)	週 日くらい 週 日くらい	週 日くらい

※1「放課後児童クラブ」…保護者が児童等(子ども)より児童等(子ども)に利用を希望する場合は、児童等の生活の場を提供するものです。市内4箇所の児童育成センターと1箇所の民間児童クラブがあります。事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

※2「学区こどもの家」…小学校に比較的近い場所にあり、学区内の子どもが利用可能な施設です。原則として、いったん利用してから利用する施設ですが、お子さんの下校時に家に誰もいない場合は、許可を得た上で、学校から学区こどもの家に直送することが可能な場合があります。

11 すべての方に、育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度についてうかがいます

問24 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたが、
①母親、②父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また、取得していない方はその理由をご記入ください。

①母親	②父親	育児休業の取得状況(当てはまる番号1つに○)
1	1	働いていなかった →問25へ
2	2	取得した(取得中である) →問24-1へ
3	3	取得していない
↓		「3. 取得していない」と回答した方にうかがいます。
①母親	②父親	取得していない理由(当てはまる番号すべてに○)
1	1	職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった
2	2	仕事に忙しかった
3	3	(産休後に)仕事に早く復帰したかった
4	4	仕事に戻るのが難しかった
5	5	昇給・昇格などが遅れそうだった
6	6	収入減となり、経済的に苦しくなる
7	7	保育園などに預けることができた
8	8	配偶者が育児休業制度を利用した
9	9	配偶者が無職、祖父母などの祖父母にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった
10	10	子育てや家事に専念するため退職した
11	11	職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めなかった)
12	12	有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった
13	13	育児休業を取得できることを知らなかった
14	14	産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した
15	15	その他()
		その他()

問24-1 問24で「2. 取得した（取得中である）」と回答した方にうかがいます。
→該当しない方は問25へ

育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

※該当する方の親のみとし、ともに該当する場合はそれぞれについて記載してください。

①母親	②父親	育児休業取得後の職場復帰状況（当てはまる番号1つに○）
1	1	育児休業取得後、職場に復帰した →問24-2、問24-3へ
2	2	現在も育児休業中である →問24-6へ
3	3	育児休業中に離職した →問25へ

問24-2 問24-1で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。
育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

※年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合なども「1」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1」を選択してください。

※該当する方の親のみとし、ともに該当する場合はそれぞれについて記載してください。

①母親	②父親	育児休業取得について（当てはまる番号1つに○）
1	1	年度初めの入所に合わせたタイミングだった
2	2	それ以外だった

問24-3 問24-1で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。
育児休業からは、実際にお子さんが何歳何か月かのときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月かのときまで取りかかったですか。
口内へ数字でご記入ください。（記入例：1歳10か月まで）

※該当する方の親のみとし、ともに該当する場合はそれぞれについて記載してください。

実際の復帰時期		希望	
①母親	歳 月 日	歳 月 日	か月
②父親	歳 月 日	歳 月 日	か月

問24-4 お勤め先の制度内容にかかわらず、子育ての観点から、お子さんが何歳何か月まで育児休業を取得できるのの理想だと考えますか。

口内へ数字でご記入ください。（記入例：1歳10か月）

歳 月

問24-5 問24-3で実際の復帰と希望が異なる方にうかがいます。
希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

※該当する方の親のみとし、ともに該当する場合はそれぞれについて記載してください。

(1)「希望」より早く復帰した方

①母親	②父親	希望より早く職場復帰した理由（当てはまる番号すべてに○）
1	1	希望する保育所に入るため
2	2	配偶者や家族の希望があったため
3	3	経済的な理由で早く復帰する必要があるため
4	4	人事異動や業務の節目の時期に合わせるため
5	5	その他（ ）
		その他（ ）

(2)「希望」より遅く復帰した方

①母親	②父親	希望より遅く職場復帰した理由（当てはまる番号すべてに○）
1	1	希望する保育所に入らなかったため
2	2	自分や子どもなどの体調が悪くなかったため
3	3	配偶者や家族の希望があったため
4	4	職場の受け入れ態勢が整っていなかったため
5	5	子どもをみてる人がいなかったため
6	6	その他（ ）
		その他（ ）

問24-6 問24-1で「2. 現在も育児休業中である」と回答した方にうかがいます。
お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。又は、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

①母親	②父親	育児休業取得について（当てはまる番号1つに○）
1	1	1歳になるまで育児休業を取得したい
2	2	1歳になる前に復帰したい

12 子育て全般についてうかがいます

問25 下記的事実ごとに、A～Cのすべてについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。○について、既に対象となる時期を過ぎている場合は、対象だったら利用したいと思うかお答えください。

	A 知っている	B これまでにご利用したことがある	C 利用したい
①土曜講座（体験型妊婦教室） 妊婦さんとご家族を対象に、毎月1回土曜日に岡崎げんき館で体験型妊婦教室を実施します。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
②子育て応援すくすくメール 妊婦や3歳未満のお子さんの保護者を対象に、お子さんの成長に合わせて子育て支援情報をメール配信します。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
③産前産後ホームヘルプサービス 妊婦中や出産後間もない期間、日中家族からの支援が受けられない場合にヘルパー等を派遣します。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
④ブックスタート 生後4か月～1歳6か月未満の赤ちゃんに絵本の読み聞かせと絵本のプレゼントをします。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑤乳児期からの食育教室（離乳食教室） 初期（おおむね4～5か月）、後期（おおむね8～9か月）のお子さんと保護者を対象に、離乳食教室を開催します。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑥まちかど ほっと相談室（妊婦・乳児健康相談） 妊婦相談、体質相談、育児相談、産科相談、栄養相談などを行っています。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑦すくすくテレホン 子どもの生活習慣や子育て、発達・育児相談など。来所相談、手紙・FAX相談も行っています。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑧初めてママのためのひろば 初めて育児を終結するママとおさんが集い、親子で遊んだり、ママ友作りをしたり、情報交換したりする場です。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑨子育て広場 保育園の園庭や保育室の一部を提供し、親子の子育てを支援します。（市が20園で実施）	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑩子育て支援の会 市民の各学区の民生委員連盟が中心となり、学区の子育て中のお母さんたちの支援を行っています。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑪わいわい子育て講座 0歳から就学前の乳幼児と保護者を対象に、市民センターでいろいろな遊びの体験・学習を行っています。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑫子育てガイドブックはじめのいつぽ 妊婦期と0～3歳くらいまでのお子さんがいる家庭を対象に、行政手続きや子育て支援サービスなどの情報を一冊にまとめて紹介しています。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ

15

問26 岡崎市における以下のような分野について満足していますか。
「満足度」を5点満点で評価し、それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満
①各種保育サービス*	5	4	3	2	1
②妊娠・出産・育児期の健康診断	5	4	3	2	1
③身近で安心な小児医療サービス	5	4	3	2	1
④子育て相談窓口や子育て支援情報の提供	5	4	3	2	1
⑤公園など、身近な子どもの遊び場	5	4	3	2	1
⑥企業・事業所などの子育て支援	5	4	3	2	1
⑦犯罪などが少ない、安心できる地域環境	5	4	3	2	1
⑧総合的にみた子育てのしやすさ	5	4	3	2	1

*「各種保育サービス」…通園保育、延長保育、一時保育など

16

問27 子どもを安心して産み育てられる環境のために、市に対してどのような施策を期待しますか。
次の中から当てはまる番号に5つまで○をつけてください。

1. 妊産婦や乳幼児の健康診査、保健指導などの母子保健体制の整備
2. 夜間や休日における小児科や医療体制の整備
3. 夜間保育、一時保育などの子どもを預けられる保育サービスの充実
4. 保育士の処遇改善による幼児教育・保育の質の向上
5. 幼児施設から英語やプログラミングなど特別な教育を提供する環境（保育料には別に費用負担あり）
6. 子育てに関する相談・情報・手続などの窓口の一本化
7. 地域における子育てサークルなどの自主活動への支援
8. 家事や育児への男女共同参加意識の啓発
9. 育児休職制度の普及や労働時間短縮など、企業における子育て支援の充実
10. 子育てにかかると経済的な負担の奨励
11. 子どもの成長や家族人数に合わせた住環境の整備
12. 全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実
13. 乳幼児連れでも講演会やイベントに参加しやすいように会場の保育機能の整備
14. ベビーベッドの設置やベビーカーを押して歩きやすい歩道など、施設や道路の整備
15. 児童虐待を防止するための体制の整備
16. いじめや非行防止など、子どもが健全に育つための対策の充実
17. 特になし
18. その他（ ）

問28 最後に、教育・保育環境の充実など、子育ての環境や支援に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力、ありがとうございます。
同封の封筒（切手不要）に入れ、ポストに投函いただきます。
ますようお願いいたします。

2. 小学生児童用調査票

岡崎市の子ども・子育てに関するアンケート調査

皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
岡崎市では、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）に基づき、平成27年に岡崎市子ども・子育て支援事業計画「おかざきっ子 育ちプラン」を策定し、本市の実情に即した子育て環境の整備を進めてまいりました。来年度（2019）で計画期間の終了を迎えるため、次の5年間（2020-2024）を計画期間とする新たな計画を策定する必要があります。

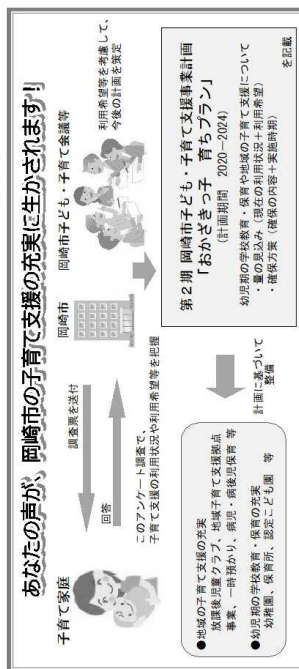
本調査は、この計画で確保を図るべき子育て支援の「量の見込み」を算出し、市民の皆様の子育てに関する現状やご要望・ご意見などを把握することを目的として、小学生のお子さんのいるご家庭のうち、無作為に3,000世帯を選び、ご協力をお願いするものです。

なお、ここで回答していただいた内容は、施設や事業の具体的な利用の可否を確認・決定するものではありません。将来の利用希望を把握していただけて構いません。

ご多忙のこととは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月

岡崎市長 内田 康宏



ご記入に当たってのお願い

- アンケートには、お子さんの保護者の方がご記入ください。
- 特にことわりのある調査以外は、封筒の宛名のお子さんについてご記入ください。
- 時間は24時間制（例：09時、18時など）で、数字は1つの口に1字でご記入ください。
- ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて11月8日（木）までにポストに投函してください。
- この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

＜問い合わせ先＞岡崎市子ども育成課

電話：0564-23-6820 FAX: 0564-23-6833
月～金曜日 8時30分～17時15分

【子育て支援施設の概要】

小学生がいる家庭向けの主な子育て支援サービスには、次のようなものがあります。

○放課後児童クラブ

仕事などにより、昼間保護者が家庭にいない小学生を対象に、遊びと生活の場を与える放課後の居場所です。一定の資格を有する支援員が配置されており、おやつ・読書・読書の時間を設けるなど生活習慣の指導を受けられます。

市内には45か所の児童育成センターと9か所の民間児童クラブがあります。
事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

○学区こどもの家

小学生の自由な遊び場、保護者の就労状況にかかわらず、利用することができます。
原則として、いったん席を空けてから利用する施設ですが、お子さんの下校時に家庭に誰もいない場合は、許可を得た上で、学校から学区こどもの家に直接行くことが可能となる場合があります。
遊びの見守りをする指導員がいますが、おやつ・読書や生活習慣の指導はありません。
市内に43か所あり、利用料は無料です。

○ファミリー・サポート・センター

子育てのお手伝いをしたいかた（援助会員）と子育ての手助けをしてほしいかた（依頼会員）を会員として組織化し、相互援助活動の紹介を行っています。
利用に当たっては、事前に会員として登録が必要です。
登録は無料ですが、依頼をする場合は、援助会員への報酬として1時間当たり600～800円（曜日や時間帯による）をご負担いただきます。

○子育て短期支援事業（ショートステイ）

保護者による養育が一時的に困難になった場合に、1週間以内（宿泊を伴う）を原則として児童養護施設等で児童の養育・保護を行います。

○岡崎げんき館病後期一時託児事業

病気の回復期で、小学校等での集団生活が困難なお子さんを、保護者が就労等の理由で家庭での育児が困難な場合にお預かりします。

小学校3年生までが対象で、平日8時～16時までとなります。

利用に当たっては、日額2,000円の利用料がかかります。利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

1 お住まいの地域についてうかがいます

問1 お住まいの地域の小学校区名を記入してください。わからない場合は、お住まいの町名を記入ください。

小学校区

→ わからない場合は、お住まいの町名

町・丁目

問2 岡崎市に住んで何年になりますか。
答えの番号1つに○をつけてください。
※旧額田町を含め、回答される保護者の方の年数でお答えください。

1. 1年未満

2. 1～2年未満

3. 2～5年未満

4. 5～10年未満

5. 10～20年未満

6. 20年以上

2 お子さんご家族の状況についてうかがいます

問3 宛名のお子さんの生年月月を記入ください。口内に数字でご記入ください。

平成年月生まれ

問4 おさんは何人いらっしゃいますか。
宛名のお子さんを含めた人数を口内に数字でご記入ください。

お子さんの数人

問5 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。
お子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 母親

2. 父親

3. その他（）

問6 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 配偶者がいる

2. 配偶者がいない

3 子どもの育ちをめぐり環境についてうかがいます

問7 おさんの子育て（教育を含む）を主にやっているのはどなたですか。
お子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 父母ともに

2. 主に母親

3. 主に父親

4. 主に祖父母

5. その他（）

問8 日頃、おさんをみてもらえる親族・知人はいいますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 日常的に祖父母などの親族にみてもらえる

2. 緊急時又は用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる

3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる

4. 緊急時又は用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる

5. いずれもない

問8-1 問8で「1」～「4」に○をつけた方にうかがいます。
おさんをみてもらっている状況についてお答えください。
①祖父母などの親族、②友人・知人それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

①祖父母など②友人・知人		お子さんを見てもらっている状況（当てはまる番号すべてに○）				
1	1	身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもを見てもらえる				
2	2	身体的負担が大きく心配である				
3	3	時間的制約や精神的な負担が大きく心配である				
4	4	自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい				
5	5	子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるが、少し不安がある				
6						その他（ ）
その他（ ）						

4 お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます

お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む）をうかがいます。

問9から問11まで共通

- ・「フルタイム」＝1週5日程度・1日8時間程度の就労を目安にご判断ください。
- ・「パート・アルバイトなど」＝フルタイム以外の就労をいいます。
- ・父子家庭の場合の「母親」の欄、母子家庭の場合の「父親」の欄の記入は不要です。

問9 お子さんの保護者の現在の就労状況について、①母親、②父親のそれぞれで当てはまる番号1つに○をつけてください。

①母親	②父親	就労状況（当てはまる番号1つに○）
1	1	フルタイムで働いている
2	2	フルタイムで働いているが、産休・育休・介護休業中である
3	3	パート・アルバイトなどで働いている
4	4	パート・アルバイトなどで働いているが、産休・育休・介護休業中である
5	5	以前は働いていたが、現在は働いていない
6	6	これまで働いたことがない

問9-1 問9で「1」～「4」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。

1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（就労時間を含む）」を①母親、②父親についてそれぞれ□内に数字でお答えください。（記入例：[5]日、[0]8時間）

就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

	1週当たりの就労日数	1日当たりの就労時間
① 母親	□ □ 日	□ □ 時間
② 父親	□ □ 日	□ □ 時間

問10 問9で「3」「4」（パート・アルバイトなどで就労している）に○をつけた方にうかがいます。当てはまらない方は、問12へお進みください。

フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

①母親	②父親	フルタイムへの転換希望（当てはまる番号1つに○）
1	1	フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
2	2	フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3	3	パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望
4	4	パート・アルバイトなどをやめて子育てや家事に専念したい

問11 問9で「5」「6」（就労していない）に○をつけた方にうかがいます。当てはまらない方は、問12へお進みください。

就労したいという希望はありますか。

当てはまる番号・記号それぞれ1つに○をつけ、□内に数字で記入ください。

（記入例：[5]日、[0]8時間）

(1) 母親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
□ □ 歳になっところ的就労したい

2. 1年より先、一番下の子たちが
□ □ 歳になっところ的就労したい

3. すぐにも、又は1年以内に就労したい
→希望する就労形態
ア. フルタイム
イ. パートタイム、アルバイトなど
→1週当たり □ □ 日/1日当たり □ □ 時間

(2) 父親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
□ □ 歳になっところ的就労したい

2. 1年より先、一番下の子たちが
□ □ 歳になっところ的就労したい

3. すぐにも、又は1年以内に就労したい
→希望する就労形態
ア. フルタイム
イ. パートタイム、アルバイトなど
→1週当たり □ □ 日/1日当たり □ □ 時間

5 子育て支援サービスの認知度についてうかがいます

問12 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。①～⑧の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。
なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

	A 知っている	B これまでに利用 したことがある	C 今後利用したい
①保健所の情報・相談事業	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
②相談機関（ハートピア・家庭児童相談室）	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
③教育相談センター・教育相談室	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
④運動会・体育祭などの開校（子ども会・クラブ活動）	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑤学級が主催する活動（講演会、PTA活動）	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑥学区こどもの家*	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑦ファミリー・サポート・センター*	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑧子育て短期支援事業（ショートステイ）*	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ

※「学区こどもの家」「ファミリー・サポート・センター」「子育て短期支援事業」について、詳しくは表紙裏面をご覧ください。

問13 問12のBで「はい」に○をつけたものについて、利用した際の利用満足度をお答えください。い。「満足度」を5点満点で評価し、それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

	満足度	満足度		
		満足	まあ満足	やや不満
①保健所の情報・相談事業	5	4	3	2
②相談機関（ハートピア・家庭児童相談室）	5	4	3	2
③教育相談センター・教育相談室	5	4	3	2
④運動会・体育祭などの開校（子ども会・クラブ活動）	5	4	3	2
⑤学級が主催する活動（講演会、PTA活動）	5	4	3	2
⑥学区こどもの家	5	4	3	2
⑦ファミリー・サポート・センター	5	4	3	2
⑧子育て短期支援事業（ショートステイ）	5	4	3	2

6 お子さんの病気の対応についてうかがいます

問14 この1年間に、お子さんが病気やケガで学校を休んだことはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. あった	⇒問14-1へ	2. なかった	⇒問15へ
--------	---------	---------	-------

問14-1 この1年間に行った対処方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数も口内に数字でご記入ください（半日程度の場合は1日とカウントしてください）。

1年間の対処方法		日数
ア. 母親が休んだ		
イ. 父親が休んだ		
ウ.（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった		
エ. 母親又は父親のうち就労していない方が子どもをみた		
オ. ベビーシッターを利用した		
カ. 病後期一時託児事業を利用した*		
キ. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた		
ク. その他（ ）		

※「病後期一時託児事業」について、詳しくは表紙裏面をご覧ください。

問14-2 問14-1で「ア」「イ」のいずれかに回答した方にうかがいます。その際、「できれば病後期一時託児事業を利用したい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、日数についても口内に数字でご記入ください。

1. 病後期一時託児事業を利用したい	⇒			日
2. 利用したいとは思わない（理由： ）				

7 お子さんの不定期の預かり事業の利用についてうかがいます

問15 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）も口内に数字でご記入ください。

利用している事業・日数（年間）	
1. ファミリー・サポート・センター	
2. その他（ ）	
3. 利用していない	

問16 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか、利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数を記入してください（利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を口内に数字で記入ください。）
なお、事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

1. 利用したい	計	日
ア、私用（賞物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の悪い事など）、リフレッシュ目的		日
イ、結婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など		日
ウ、不定期の就労		日
エ、その他（ ）		日
2. 利用する必要はない		

問17 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらなければならぬことはありましたか（預け先がみつからなかった場合も含む）。あった場合は、この1年間の対応方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数も口内に数字で記入ください。

1年間の対応方法		日数
1. あった	ア、（同居者を含む）親族・知人にみてもらった	日
	イ、子荷て短期支援事業（ショートステイ）を利用した	日
	ウ、イ以外の保育事業（ベビーシッターなど）を利用した	日
	エ、仕方がなく子どもを同行させた	日
	オ、仕方なく子どもだけで留守番させた	日
	カ、その他（ ）	日
2. なかった		

8 お子さんの放課後の過ごし方についてうかがいます

問18 お子さんについて、現在、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、選んだり日数を数字で記入ください。また、放課後の過ごし方の希望として、小学校低学年（1～3年生）の場合と小学校高学年（4～6年生）の場合について、それぞれ希望する選んだり日数を数字で記入ください。
また、「5. 放課後児童クラブ（学童保育）」及び「6. 学区こどもの家」の場合には、利用を希望する時間も口内に数字で記入ください。（記入例：週6日くらい、118時間まで）

	現在の過ごし方		希望の過ごし方	
	週	日くらい	低学年(1～3年生)	高学年(4～6年生)
1. 自宅	週	日くらい	週	日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週	日くらい	週	日くらい
3. 習い事	週	日くらい	週	日くらい
4. 部活動	週	日くらい	週	日くらい
5. 放課後児童クラブ* (学童保育) ⇒ 下校時から	週	日くらい	週	日くらい
6. 学区こどもの家*	週	日くらい	時まで	時まで
7. プレリ・サマー・クラブ	週	日くらい	時まで	時まで
8. その他（公園、児童館、公民館など）	週	日くらい	週	日くらい

*「放課後児童クラブ」、「学区こどもの家」について、詳しくは取扱説明書をご覧ください。

問19 すべての方にうかがいます。
小学生の子どもが家で1人又は1人で過ごすことに不安を感じますか。低学年、高学年について、それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。
また、不安を感じる場合は、留守番させるとどれくらいの期間から感じますか、口内に数字で記入ください。（記入例：102時間以上）

	低学年(1～3年生)		高学年(4～6年生)	
	毎週以上	毎週以上	時間以上	時間以上
1. 感じる				
2. 感じない				

問20 すべての方にうかがいます。
お子さんについて、土曜日、祝日、長期休暇（夏休み・冬休みなど）に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。
（1）から（3）のそれぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また、利用したい時間帯を、口内に数字で記入ください。（記入例：□7時から□18時まで）
なお、事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

（1）土曜日	
1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	⇒ 利用したい時間帯
2. 高学年（4～6年生）の間は利用したい	□□ 時から □□ 時まで
3. 全学年（1～6年生）利用したい	
4. 利用する必要はない	
（2）祝日	
1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	⇒ 利用したい時間帯
2. 高学年（4～6年生）の間は利用したい	□□ 時から □□ 時まで
3. 全学年（1～6年生）利用したい	
4. 利用する必要はない	
（3）長期休暇（夏休み・冬休みなど）	
1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	⇒ 利用したい時間帯
2. 高学年（4～6年生）の間は利用したい	□□ 時から □□ 時まで
3. 全学年（1～6年生）利用したい	
4. 利用する必要はない	

問21 問18の現在の過ごし方で「5. 放課後児童クラブ」に○をつけた方にうかがいます。
放課後児童クラブを利用する理由として、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 安心して預けられるから	
2. 家で子どもだけできかないから	
3. おやつを提供してもらえるから	
4. 生活習慣を指導してもらえるから	
5. 友だちが利用しているから	
6. その他（	）

問21-1 問18で「5. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方、又は問20で「利用したい」と答えた方にうかがいます。
お住まいの学区の放課後児童クラブが利用できない場合、他の学区の放課後児童クラブを利用したいと思いませんか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

	平日の場合	土曜・祝日・長期休暇の場合
1. 近隣学区であれば利用したい	1	1
2. 距離にかかわらず利用したい	2	2
3. 他の学区ならば利用しない	3	3

問22 問18の現在の過ごし方で「6. 学区こどもの家」に○をつけた方にうかがいます。
学区こどもの家を利用する理由として、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 学区こどもの家に通じているから	
2. 本当は放課後児童クラブを利用したいが、学区内に放課後児童クラブがないから	
3. 本当は放課後児童クラブを利用したいが、定員超過で利用できなかったから	
4. 無料で利用できるから	
5. 友だちが利用しているから	
6. その他（	）

問22-1 問18で「6. 学区こどもの家」に○をつけた方にうかがいます。
お子さんが学区こどもの家を利用するに当たり、こどもの家の機能として望むものを、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 地域との交流など連絡内容を充実してほしい	2. 行事を豊やしてほしい
3. 指導員を増やしてほしい	4. 学校から監護こどもの家へ下校したい
5. 短遊をやらせてほしい	6. 遊具を増やしてほしい
7. 造形図書を大きくしてほしい	8. 空調設備をほしい
9. 現状のままで満足	

9 子育て全般についてうかがいます

問23 岡崎市における以下のような分野について満足していますか。
「満足度」を5点満点で評価し、それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満
①各種教育サービス	5	4	3	2	1
②学校などでの健康診断	5	4	3	2	1
③身近で安心な小児医療サービス	5	4	3	2	1
④子育て相談窓口や子育て支援情報の提供	5	4	3	2	1
⑤公園など、身近な子どもの遊び場	5	4	3	2	1
⑥企業・事業所などの子育て支援	5	4	3	2	1
⑦犯罪などが少ない、安心できる地域環境	5	4	3	2	1
⑧総合的にみた子育てのしやすさ	5	4	3	2	1

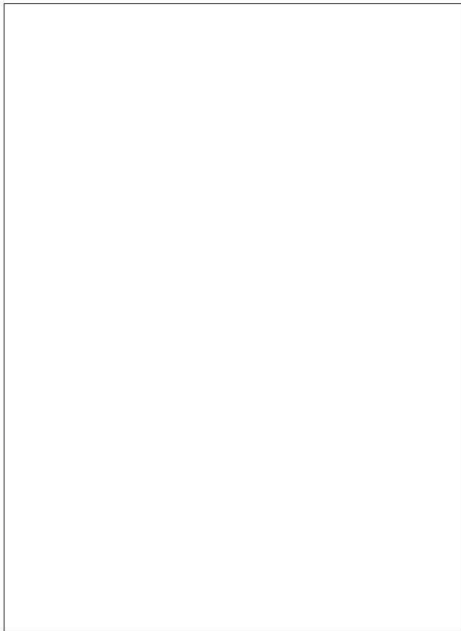
11

問24 子どもを安心して産み育てられる環境のために、市にどのような施策を期待しますか。
次の中から当てはまる番号に5つまで○をつけてください。

1. 妊産婦や乳幼児の健康診査、保健指導などの母子保健体制の整備
2. 夜間や休日における小児科や医療体制の整備
3. 夜間保育、一時保育などの子どもを預けられる保育サービスの充実
4. 保育士の処遇改善による幼児教育・保育の質の向上
5. 幼児期から英語やプログラミングなど特別な教育を提供する環境（保育料とは別に費用負担あり）
6. 子育てに関する相談・情報・手続などの窓口の一本化
7. 地域における子育てサークルなどの自主活動への支援
8. 家事や育児への男女共同参加意識の啓発
9. 育児休業制度の普及や労働時間短縮など、企業における子育て支援の充実
10. 子育てにかかる経済的な負担の軽減
11. 子どもの成長や家族人数に見合った仕環境の整備
12. 全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実
13. 乳幼児連れでも講演会やイベントに参加しやすいように会場の保育機能の整備
14. ベビーベッドの設置やベビーカーを押して歩きやすい歩道など、施設や道路の整備
15. 児童虐待を防止するための体制の整備
16. いじめや非行防止など、子どもが健全に育つための対策の充実
17. 特になし
18. その他（ ）

12

問25 最後に、教育・保育環境の充実など、子育ての環境や支園に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。



ご協力、ありがとうございました。
同封の封筒（切手不要）に入れ、ポストに投函いただきますようお願いいたします。

3. 保育園・幼稚園・認定こども園職員用調査票

国崎市の子ども・子育てに関するアンケート調査

学校には、日頃から市政に協力してご理解とご協力をいただいております。

岡崎市では、子ども子育て支援法(平成24年法律第65号)に基づき、平成27年に岡崎市子ども・子育て支援事業計画(433万3,333円)を策定し、本市の実情に基づいた子育て支援の基盤を進めてまいりました。来年度(2020～2024)を計画期間とし、次の5年間で計画期間とする新計画と置き換える必要がまいります。

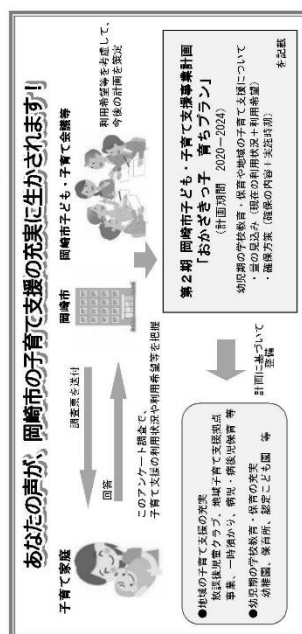
本調査は、子育て支援現場の実態やご要望、ご意見等を把握することを目的として、本市の保育園・幼稚園・認定こども園職員の皆様にご協力をお願いするものです。

なお、ご回答いただいた内容は、本市の子ども・子育て施策の検討に利用させていただきます。回答者個人が特定されたり、他の目的に利用されたりすることは一切ございません。

ご多忙のことは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月

岡崎市長 内田 康宏



ご記入に当たってのお願い

- ご記入いただいたアンケートは、所定の方法による回収にご協力ください。
この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

＜問い合わせ先＞岡崎市こと書部こと書養成講座

電話：0564-23-6820 FAX：0564-23-6833
月～金曜日 8時30分～17時15分

11 あなたご自身についてうかがいます

問1 あなたの勤務地は次のうちのどれですか。
 答えの番号1つに○をつけてください。

1. 公立の保育園 2. 私立の保育園 3. 私立の幼稚園 4. 認定こども園

問2 保育園・幼稚園・認定こども園での保育経験年数は次のうちどれですか。
 答えの番号1つに○をつけてください。

1. 1~2年未満	2. 2~5年未満	3. 5~10年未満
4. 10~20年未満	5. 20年以上	

問3 現在の年齢は、次のうちどれですか。
 答えの番号1つに○をつけてください。

1. 20代	2. 30代	3. 40代
4. 50代	5. 60代	

問4 現在、幼稚園教諭免許及び保育士資格の両方を保有していますか。(今年度中に取得予定の場合は、「保有している」に○をつけてください。)
 答えの番号1つに○をつけてください。

1. 両方保有している
2. 幼稚園教諭のみ保有している
3. 保育士資格のみ保有している

※国は、幼稚園教諭免許・保育士資格の併有を促進するため、平成27年4月から5年間の時限措置として、其等選考を有する幼稚園教諭の保育士資格取得について、関係科目・試験科目を軽減する特例を設けています。

2 仕事や職場の環境についてうかがいます

問5 保育園・幼稚園・認定こども園の仕事をやりがいや充実感を持っていますか。
 答えの番号1つに○をつけ、具体的な内容をご記入ください。

1. 持っている
2. やや持っている
3. あまり持っていない
4. 持っていない
5. わからない

具体的な内容（「5. わからない」と回答した方は除く）

「アゾ」の成長を間近に見ることが出来る」「下ども相手以外の仕事が多い」など
口耳伝えていることをご記入ください。

問6 現在の仕事の満足度についてうかがいます。
それぞれ項目について、答えの番号1つに○をつけてください。

項 目	満足	やや満足	やや不満	不満
1. 賃金	5	4	3	2
2. 労働時間・休みなどの勤務条件	5	4	3	2
3. 職員の勤務状況	5	4	3	2
4. 研修や教育訓練・能力開発のあり方	5	4	3	2
5. 職場の人間関係・コミュニケーション	5	4	3	2
6. 職場生活全体	5	4	3	2
7. 育児や子育てに対する理解や協力体制	5	4	3	2

問7 あなたに任された現在の仕事量は増えていますか。それとも軽減されていますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

1. 多いと思う	2. どちらかといえば多いと思う
3. 適量だと思う	4. どちらかといえば少ないと思う
5. 少ないと思う	6. わからない

問8 ここ数年の間で、あなたの勤務負担は増えていますか。それとも軽減されていますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

1. 増している	2. 殆ど変化はない	3. 軽減されている
----------	------------	------------

問8-1 問8で「1. 増えている」に○をつけた方にうかがいます。
負担が増してきた主な原因は何だと思えますか。
当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 利用者数の増加や利用時間の長時間化	2. 研修や会議などの増加
3. 保護者への対応の多様化	4. 特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加
5. 保育士・教師などの少なさ	6. 指導・保育記録作成などの事務の増加
7. 近隣住民対応（交通渋滞や騒音対策など）の増加	
8. その他（	
9. わからない	

問9 労働条件・仕事の負担に関して以下のような悩み・不満などはありませんか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 賃金が少ない	2. 身体上の負担が大きい
3. 残業が多いなど、時間的に余裕がない	4. 人手が足りず、一人あたりの仕事量が多い
5. 休日出勤がある	6. 休日がとりにくい・とれない
7. 有給休暇がとりにくい	8. 体調が悪くても休めない
9. 特別なケアが必要など、ものへの負担が大きい	
10. 職場内の人間関係が難しい	11. 保護者との人間関係が難しい
12. 上司からのセクハラやパワハラがある	13. 自分の教育・保育に自信がない
14. 家庭生活と仕事との両立が難しい	15. 園などの理念や運営方針が合わない
16. 保護者からの苦情あるいは対応困難な注文など	
17. その他（	

問10 今の職場・施設について、改善が必要だと思う箇所や不足していると思うことは何ですか。
当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 教室・保育室や遊ぶく室の改修	2. トイレの改修
3. 園内遊戯室の改修	4. おもちゃや絵本等の教材の不足
5. 園庭の拡張	6. 園庭の遊具の改修
7. 調理室の改修	8. 調理設備の不足
9. 給食調理場の整備	10. 子どもへの安全対策の不足（施設や飛び出し防止等）
11. その他（	

問11 今の職場・施設をやめる、あるいは、保育園・幼稚園・認定こども園の仕事からの転職を
考えることはありませんか。
答えの番号1つに○をつけてください。

1. よくある	2. ある	3. だまにある	4. 殆どない
---------	-------	----------	---------

問12 自分の知識や専門性を高めるため、研修などへの参加意向はありますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

1. ある	2. ない	3. わからない
-------	-------	----------

問12-1 問12で「1. ある」に○をつけた方にうかがいます。
保育や幼児教育に関する研修では、どのような内容を希望しますか。
当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 医療・保健	2. 救命救急	3. 安全管理
4. 小児保健	5. 衛生管理	6. 発達心理学
7. 食育	8. プレーン対応	9. アレルギー対応
10. コミュニケーション能力	11. 保護者対応の研修	12. 一般教養
13. その他（		

4 ワーク・ライフ・バランスについてうかがいます

問15 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）のバランスはとれていますか。
 答えの番号1つに○をつけてください。

1. どれている
2. まあまあとれている
3. あまりとれていない
4. どれていない
- 図16 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）は両方が充実して
答える番号1つに○をつけてください。
1. 充実している
2. まあまあ充実している

[illegible]

問17 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）は互いに良い影響を及ぼしていますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

同18 あなたは困ったとき、誰に相談しますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

4. 友人
5. その他（ ）
-
- 問19 最後、仕上の要望や提案、保育者として日頃感じていることなどがございましたら、ご自由にご記入ください。
-

ご協力、ありがとうございました。

4. 事業所用調査票

岡崎市の子ども・子育てに関するアンケート調査

皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

岡崎市では、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）に基づき、平成27年に岡崎市子ども・

子ども子育て支援事業計画「わかさきっ子 育ちプラン」を策定し、本市の実情に即した子育て環境の整備を進めてまいりました。来年度(2019)で計画期間の終了を迎えるため、次の5年間(2020-2024)を計画期間とする新たな計画を策定する必要があります。

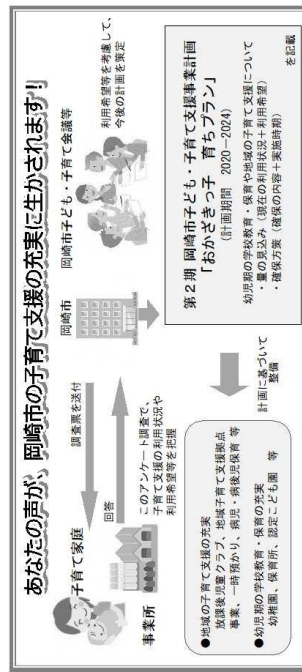
本調査は、市民の皆様の子育てに関する生活実態や事業所の皆様に対する子育て支援の取り組み状況等を把握することを目的として、本市内の事業所の皆様にご協力をお願いするものです。

なお、ご回答いただいた内容は、本市の子ども・子育て施策の検討に利用させていただきます。他の目的に利用することは一切ございません。

ご多忙のこととは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいようお願い申し上げます。

平成30年10月

藤田 敏子



ご記入に当たってのお願い

※企業（事業主）という表記の場合は、事業所単位でなく、会社全体の状況をご回答ください。

●ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて11月8日（木）までにポストに投函してください。

●この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

く問い合わせ先>岡崎市こども部にとま育成課

電話：0564-23-6820 FAX：0564-23-6833

月～金曜日 8時30分～17時15分

1 貴事業所についてうかがいます

問1 ご記入いただく方の担当部署をご記入ください。

() : 金明昌

問2 貴事業所の概要についてお答えください。

興事業所の性格 (当てはまるものに○)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="585 380 686 642"> 1. 本社 2. 支社 3. その他 () </td> <td data-bbox="686 380 932 642"> 9. 飲食店・宿泊業 10. 医療・福祉 (社会福祉法人を含む) 11. 教育・学習支援業 (フィットネス クラブ、教養講座を含む) 12. 複合サービス業 (郵便局や、 農協などの協同組合を含む) 13. サービス業 14. その他 () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="585 642 686 983"> 1. 建設業 2. 製造業 3. 電気・ガス・熱供給・ 水道業 4. 情報通信業 5. 運輸業 6. 卸売・小売業 7. 金融・保険業 8. 不動産業 </td> <td data-bbox="686 642 932 983"> 全社人数 興事業所 (支社) 人数 </td> </tr> </table>	1. 本社 2. 支社 3. その他 ()	9. 飲食店・宿泊業 10. 医療・福祉 (社会福祉法人を含む) 11. 教育・学習支援業 (フィットネス クラブ、教養講座を含む) 12. 複合サービス業 (郵便局や、 農協などの協同組合を含む) 13. サービス業 14. その他 ()	1. 建設業 2. 製造業 3. 電気・ガス・熱供給・ 水道業 4. 情報通信業 5. 運輸業 6. 卸売・小売業 7. 金融・保険業 8. 不動産業	全社人数 興事業所 (支社) 人数
1. 本社 2. 支社 3. その他 ()	9. 飲食店・宿泊業 10. 医療・福祉 (社会福祉法人を含む) 11. 教育・学習支援業 (フィットネス クラブ、教養講座を含む) 12. 複合サービス業 (郵便局や、 農協などの協同組合を含む) 13. サービス業 14. その他 ()				
1. 建設業 2. 製造業 3. 電気・ガス・熱供給・ 水道業 4. 情報通信業 5. 運輸業 6. 卸売・小売業 7. 金融・保険業 8. 不動産業	全社人数 興事業所 (支社) 人数				
企業の責務 (当てはまるものに○)	従業員数 (常用労働者の人数)				

問3 貴事業所の従業員の状況についてお答えください。

男女別 従業員数	男性従業員数		人
	うち、配偶者がいる者（既婚者）		人
		うち、子どもがいる者	人
	女性従業員数		人
	うち、配偶者がいる者（既婚者）		人
		うち、子どもがいる者	人

問4 貴事業所における勤務の状況についてお答えください。

平均的な従業員の 労働時間	1. 週40時間程度
	2. 週40時間以上 (⇒ 週 時間ほど)
	3. その他 ()
休日勤務の有無	1. ある (⇒ 月 回程度)
	2. ない
夜間勤務の有無	1. ある (⇒ 月 回程度)
	2. ない
上記勤務状況に男女の差	1. ある 2. ない

2 貴事業所の管理職の状況についてうかがいます

問5 貴事業所における管理職について、男女別に人数をご記入ください。
(数字でご記入ください。)

	男性	女性
管理職内訳	人	人

問6 現在、指導的地位にいる女性の割合を増やすため「ポジティブ・アクション[※]」を国が推
進していますが、このような取り組みをご存じですか。また、貴事業所ではこのような取
り組みを行っていますか。
答える番号1つに○をつけてください。

※「ポジティブ・アクション」とは、固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に
差が生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組をい
います。

1. 知っていて、実際に取り組んでいる
2. 知っていて、女性の管理職登用にに向けてメンター制度などを積極的に取り組んでいる
3. 知っていたが、取り組み予定はない
4. 知らなかったが、今後は取り組みたい
5. 知らなかったし、今後も取り組み予定はない
6. その他 ()

問7 一般的な傾向として、女性管理職の登用が進まないのは、どのような理由からだと思いますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 必要知識や経験、判断力などを有する女性が少ないから
2. 将来、管理職になる人材はいるが、今のところ勤務年数を満たしていないから
3. 役職に就く前に退職する女性が多いから
4. 出張や転勤など時間外労働が多く、家庭を持つ女性には困難だから
5. お客様や取引先などが女性管理職をいやがるから
6. 女性自身が、管理職になることを希望しないから
7. 上司、同僚、部下となる男性従業員が、女性管理職を希望しないから
8. 上司、同僚、部下となる女性従業員が、女性管理職を希望しないから
9. その他 ()
10. わからない

問8 101人以上の従業員を雇用する企業は、次世代育成支援対策推進法に基づき、仕事と子育て
の両立を図るための「一般事業主行動計画」を策定して都道府県労働局に届出、公表、
従業員への周知が義務づけられています（100人以下の中小企業は努力義務）。
このような中、貴事業所の状況について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 従業員が101人以上あり、一般事業主行動計画を策定し目標に沿って実施している
2. 従業員が101人以上あり、一般事業主行動計画を策定しているが具体的に実施していない
3. 従業員が101人以上いるが、一般事業主行動計画を策定していない
4. 従業員が100人以下であるが、一般事業主行動計画を策定し目標に沿って実施している
5. 従業員が100人以下であり、一般事業主行動計画を策定しているが具体的に実施していない
6. 従業員が100人以下であり、一般事業主行動計画を策定していない
7. 他部署が対応しているので、よくわからない
8. その他 ()

3 貴事業所の退職・離職・再雇用についてうかがいます

問9 過去3年間に退職した女性従業員のうち、結婚や出産を理由に退職した従業員はどの程度を占めますか。

それぞれ数字でご記入ください。

結婚の場合	退勤した女性従業員のうち、結婚を理由に退職した従業員は おおよそ（ ）割
出産の場合	退勤した女性従業員のうち、出産を理由に退職した従業員は おおよそ（ ）割

問10 過去3年間に、結婚や妊娠・出産などで退職した女性を再雇用したことがありますか。
 答えの番号1つに○をつけてください。

1. ある
2. ない

問11 結婚や妊娠・出産などによりキャリアブランクのある人材の雇用について、貴事業所ではどのような考えですか。

1. キャリアプランクのある人でも積極的に採用している
2. キャリアプランクは関係なく、本人の能力に合った採用を行っている
3. 近年、キャリアプランクのある人の採用は行っていない
4. OJTや研修等を行い、早く職場になじめるよう支援している
5. 就労前の面談や業務に関する情報提供を行っている
6. 短時間勤務制度やフレックスタイム制度を導入し、働きやすい体制づくりをしている
7. その他（
8. 特にない

4 仕事や職場の環境についてうかがいます

問12 企業の子育て支援制度について、現在実施されているものと、今後実施されるもの、未実施・未検討の支援策についてお答えください。

サービス	現在実施中	今後実施を 検討	未実施で 未検討
1. 家族手当の支給	1	2	3
2. 出産・入学などの祝い金	1	2	3
3. 育児休業中の所得補填	1	2	3
4. 住宅手当の割増し	1	2	3
5. 保育所費用の補助（企業内保育施設を除く）	1	2	3
6. ベビーシッター費用の補助	1	2	3
7. 教育資金の貸付け	1	2	3
8. 世帯用住宅への優先入居	1	2	3
9. 企業内保育施設	1	2	3
10. 子育て支援メニューの周知・情報提供	1	2	3
11. 法の規定を上回る育児休業	1	2	3
12. 配偶者出産休暇など独自の育児参加休暇制度	1	2	3
13. 産前産後休暇（妊娠中）	1	2	3
14. つわり休暇（妊娠中）	1	2	3
15. 短時間勤務制度などの実施	1	2	3
16. 所定外労働の免除	1	2	3
17. 夜間勤務の免除	1	2	3
18. 休日勤務の免除	1	2	3
19. 転勤の免除	1	2	3
20. 職種の変更	1	2	3
21. 在宅勤務制度	1	2	3
22. 育児休業後の職場復帰への支援	1	2	3
23. 育児による退職者の再雇用制度	1	2	3
24. その他（ ）	1	2	

問12-1 問12、「21.在宅勤務制度」で「1 現在実施中」又は「2 今後実施を検討」に○をつけた方にうかがいます。
子育て支援を目的とする在宅勤務制度について、貴事業所ではどのようにお考えですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. オフィス・スペースなどコスト削減の観点から、積極的に取り入れたい
2. 有能な人材をつなぎとめるため、積極的に取り入れたい
3. 従業員からの希望があれば積極的に対応したい
4. すでに導入している
5. 導入するつもりはない
6. その他（ ）

問13 育児休業制度についてうかがいます。貴事業所では、従業員の育児休業の取得状況はどうですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜育児休業取得者＞

	0人	1～5人	6～9人	10～19人	20人以上
男性	1	2	3	4	5
女性	1	2	3	4	5

問14 育児・介護休業法では「3歳までの子を養育する労働者について、短時間勤務制度（1日6時間）を設けることを事業主の義務」とすることや「子の看護休暇制度を拡充」が記載されており、平成29年10月の改正では、「育児休業期間の延長」や「育児目的休暇制度の努力義務の創設」が示されました。
貴事業所では、以下(1)～(3)の利用（進捗）状況はどうですか。
当てはまる番号それぞれ1つに○をつけてください。

※育児休業・介護休業に基いて取得することのできる休業制度
育児休業・介護休業中に育児をする、育児を目的とした休暇の取得

- (1) 短時間勤務制度
1. 男女ともによく利用している
2. 女性は利用しているが、男性は利用していない
3. 男女ともほとんど利用していない
4. その他（ ）
- (2) 子の看護休暇
1. 男女ともによく利用している
2. 女性は利用しているが、男性は利用していない
3. 男女ともほとんど利用していない
4. その他（ ）
- (3) 育児目的休暇制度
1. 男女ともによく利用している
2. 女性は利用しているが、男性は利用していない
3. 男女ともほとんど利用していない
4. その他（ ）

問15 企業では、育児休業から職場復帰する従業員に対し、復帰支援として取り組まれていることはありますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 育児休業中の事業状況や企業情報の提供
2. 職場復帰前の面談や講習などの実施
3. 育児休業からの復帰者を受け入れる側の意識づくり
4. 育児休業者のキャリア形成・継続に向けた面談や支援
5. 従業員に対する育児休業制度への理解の促進
6. 職場復帰後における面談や講習などの実施
7. 特にないものもない
8. その他（ ）

問16 育児休業を終えて職場に復帰した従業員の賃金の取り扱いについて、就業規則などではどのように規定されていますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

1. 休業前の賃金、又はそれ以上の額を保障する
2. 休業前の額を下回ることもある
3. その他（ ）
4. 規定はない

問17 育児休業を終えて職場に復帰した従業員の配置について、就業規則などではどのように規定されていますか。
答えの番号1つに○をつけてください。

1. 原則として原職に復帰する
2. 本人の希望を考慮し、人事労務管理部署が決定する
3. 企業の人事労務管理規則などにより決定する
4. その他（ ）
5. 規定はない

5 子育て支援についてうかがいます

問18 貴事業所では、ここ5年間に子育て育児休業や育児休業を取得する人は増えていますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 増えてきている | 2. 少し増えている |
| 3. あまり変わらない | 4. 取得する人はほとんどいない |
| 5. 取得を原則として認めていない | |

問19 男性が育児休業や育児休業を取得することについて、貴事業所ではどのようにお考えですか。
答える番号1つに○をつけてください。

- | |
|-----------------------|
| 1. 男性も積極的に取得すべき |
| 2. 男性は、できるだけ取得しないでほしい |
| 3. 原則として男性の取得は認めない |
| 4. その他 () |

問20 従業員の子育て支援について、貴事業所ではどのようにお考えですか。
答える番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 企業の社会的責任として | 2. 従業員の福利厚生として |
| 3. 有能な人材を確保するため | 4. 企業のイメージアップのため |
| 5. 企業が従業員の子育てを支援する必要はない | |
| 6. その他 () | |

問21 貴事業所では、育児・介護休業制度を定着させるために特に必要だと思われることはなんですか。
当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 休業中の代替要員の確保 | 2. 制度を利用しやすい雰囲気づくり |
| 3. 休業中の賃金補償 | 4. 復職時の受け入れ体制 |
| 5. 代替要員の教育訓練コストへの支援 | 6. 利用者・非利用者間の不公平感の是正 |
| 7. 休業者の能力低下に対する訓練コストへの支援 | |
| 8. その他 () | |

問22 企業が子育て支援を進めるにあたって、何が問題になるとお考えですか。
答える番号1つに○をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 経営意識が低く、社員の子育てを支援する余裕がない |
| 2. 従業員が何を求めているのかわからない |
| 3. 子どもがいる社員を優遇することに反感がある |
| 4. 従業員数が少ないので、支援メニューがそろえられない |
| 5. その他 () |

8

6 ワーク・ライフ・バランスの推進についてうかがいます

問23 従業員の働き方の見直しについて、企業ではどんなことを実施していますか。
それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

項 目	現在実施中	今後 実施を検討	未実施で 未検討
1. ノー残業デーやノー残業ワークの導入・拡充	1	2	3
2. フレックスタイム制や変形労働時間制の活用	1	2	3
3. 年次有給休暇の取得促進	1	2	3
4. 短時間労働勤務や隔日勤務の導入	1	2	3
5. 在宅勤務制度の導入	1	2	3
6. 職場優先の意識などの是正のための取り組み	1	2	3
7. ワーク・ライフ・バランス*研修制度	1	2	3
8. その他 ()	1	2	

*「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」…仕事と生活を両立した個人の生活の両方について、どちらかが犠牲になることなく、それぞれをバランスよく充実させていくという考え方

問24 ワーク・ライフ・バランスの推進について、企業における取り組みをどのように思いますか。
答える番号1つに○をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 必要であり、企業としても推進している |
| 2. どちらかという必要であり、今後支援策も含め検討される予定 |
| 3. 必要と思うが、現実的に難しい |
| 4. 個人の問題であり、あまり必要とは思わない |
| 5. 必要性を感じない |
| 6. その他 () |

問24-1 問24で「1」～「3」に○をつけた方にうかがいます。
ワーク・ライフ・バランスの推進が必要と考えられる理由は何ですか。
当てはまる番号2つまでに○をつけてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 優秀な人材の確保 |
| 2. 従業員の離職率の低下や有能な人員の維持 |
| 3. 離職や病気休暇などによる人件費、募集コストなど経費軽減 |
| 4. 企業イメージの改善や企業PR |
| 5. 従業員のモチベーションの向上・維持 |
| 6. 作業効率の改善 |
| 7. その他 () |

9

問25 ワーク・ライフ・バランスの推進において障がいとなりそうなこと、障がいとなっていることについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 人件費の増加
2. 労働時間の減少による生産性の低下
3. 従業員のモラルの低下
4. 知識集約性の悪化（上司・同僚などの事務量増加による負担の増大）
5. 育児休業などによる代替要員の確保が難しい
6. 業務の引き継ぎ難さや業務分担の変更が難しい
7. 他の従業員への気兼ねから利用が進まない
8. その他（ ）

問26 仕事と家庭の両立について、自治体が特に重点を置いて取り組むべきだと思うことはどのようなことですか。

当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 広報紙やパンフレットなどで子育て支援事業の必要性について啓発する
2. 仕事と家庭の両立支援に関する情報提供を充実する
3. 仕事と家庭の両立支援に取り組む事業所などに対する、国や自治体が行う支援策を充実させる
4. 保育所、放課後児童クラブなどの保育環境を整備する
5. 事業所などの子育て支援の推進者や企業・労働者のための情報提供、相談機能を充実させる
6. 男女共同参画や子育て支援に向けた雇用・労働条件確保のために、指導的役割を強化させる
7. その他（ ）

問27 最後に、仕事と家庭の両立が図りやすい社会づくりに関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力、ありがとうございます。
同封の封筒（切手不要）に入れ、ポストに投函いただきます。
ますようお願いいたします。